



調査資料第二十一輯

朝鮮の言論と世相

朝鮮總督府

秘

極秘

注意

印を附したる記事は當局にて治安を妨害する虞あるものと認め後置領布の禁止並差押の處分を爲したるものなり

305  
11

調査資料第二十一輯

朝鮮の言論と世相

朝鮮總督府官房文書課

内閣文庫
七〇三〇七号
和書
冊

### 序

朝鮮の實相を理解する參考資料として、朝鮮人が朝鮮文で發表し、又は發表せむとしたものを蒐め、之を「朝鮮の言論と世相」と名けて印刷に附することとした。蒐集の範圍は新聞、雜誌乃至各種の印刷物に亘つて居り、内容は主として現實の生活に直面したものに對する記事論評を以てした。之等の記事、論評には可なり事實と相違したものがあり、或は之を誤り、中には故意に事實を曲解したものと少なからずあるが、敢て之を是正し反駁することをしなかつた。翻譯は一人の手になつたのでないから、時に生硬な字句や、行文に平易を缺く點もあるが、判讀し得ないやうなものではないから、意味を解するには差支がない。

朝鮮總督府官房文書課調査係

# 朝鮮の言論と世相

## 目次

緒論 言論機關と思想の推移	一
第一編 施政評論	三
一、施政問題	三
イ、政策の強行	三
ロ、如何にせむか	五
ハ、鐵道の擴張と吾人の生活	七
ニ、朝鮮と東亞、宇垣總督の聲明書	一〇
二、産米問題	三三
イ、日本の人口問題と朝鮮の産米政策	三三
ロ、産米計畫を中心とする朝鮮農政の大綱	三五
ハ、産米増收と粟飯	八〇
ニ、朝鮮米増産と東拓移民	八二

三、教育問題

..... 八四

イ、私校改善に對して..... 八四

ロ、朝鮮人にして朝鮮語を忘却..... 八五

ハ、實行に徹底せよ..... 八六

ニ、蠶絲教育方針..... 八九

ホ、普校財政と朝鮮人校長..... 九〇

ヘ、日本人教育者の排鮮運動..... 九二

四、水利組合問題

..... 九三

イ、水利組合と組合員の利益..... 九三

ロ、水利事業と反對の理由..... 九六

ハ、水利組合の紛争..... 一〇〇

五、移住問題

..... 一〇一

イ、流浪群激増と爲政者の責任..... 一〇一

ロ、日本の移民獎勵問題..... 一〇一

ハ、三菱水電起工と朝鮮同胞の窮境..... 一〇五

六、蠶繭問題

..... 一〇六

イ、蠶繭特賣制度に就て..... 一〇六

七、警察問題

..... 一〇七

イ、學生處分..... 一〇七

ロ、警務局の唐僞..... 一〇七

ハ、河東警察署の横暴..... 一〇九

ニ、警察に對して一言なかるべからず..... 一一九

ホ、國境巡查の非行..... 一二二

八、在外鮮人問題

..... 一二三

イ、在滿同胞の拘束を目的..... 一二三

ロ、忍ぶことの出來ぬ滿洲朝鮮人問題..... 一二六

九、土地買収問題

..... 一二九

一〇、東拓問題

..... 一三三

一一、産業問題

..... 一三三

一二、勞働問題

..... 一三五



一三、自治問題……………一三〇

一四、其 他……………一四〇

    イ、地主懇談會……………一四〇

    ロ、統營事件……………一四一

第二編 社會運動……………一四二

一、社會運動の過去及將來……………一四二

    イ、朝鮮社會運動の推移……………一四三

    ロ、世界大勢と朝鮮人の進路……………一六〇

二、思想運動……………一七一

    イ、思想と壓迫……………一七一

    ロ、A B C 對話……………一七四

    ハ、朝鮮と政治問題……………一七六

    ニ、廻轉期の運動線……………一七八

    ホ、朝鮮と露國との政治的關係……………一八二

    ヘ、吾人の運動の方向……………一八四

ト、革新と團結……………一八六

チ、先驅者の冤訴……………一九二

三、直接運動……………一九四

    イ、〇〇宣言計劃發見……………一九四

    ロ、時局動搖の一考察……………一九六

    ハ、敦化門前で萬歳高唱……………二〇一

    ニ、動搖の空氣……………二〇四

    ホ、統營事件に對して……………二〇七

四、闘争運動……………二〇九

    イ、天安青年よ團結せよ……………二〇九

    ロ、朝鮮民興會……………二二二

    ハ、咸南記者大會所感……………二二四

    ニ、聲明書……………二二六

    ホ、地主に警告發送……………二二九

五、少年運動……………二三三

目次……………五

イ、少年運動に關する私見……………三三

ロ、少年少女へ……………三三

六、民族運動……………三九

イ、韓人青年會創立……………三九

ロ、義務金徴收錢票發行……………三一

ハ、民族的統一機關……………三一

七、文藝運動……………三四

イ、通俗文學の建設……………三四

ロ、愛國文學に就て……………三五

八、朝鮮女性運動……………三七

九、第三インターの影響……………三九

第三編 朝鮮の世相……………三四

一、科學的精神と朝鮮人の將來……………三四

二、生活苦……………三四

イ、本當に生きることが出來ぬか……………三四

ロ、野有餓殍……………四八

ハ、生活は遂に死巷へ……………五一

ニ、天寒白屋貧……………五一

ホ、就學難と就職難……………五三

ヘ、肝を出して喰へる人等……………五四

ト、粟輸入を見て……………五六

チ、食糧輸出入と生活難……………五七

リ、學びの同志に……………六一

三、流離民……………六四

イ、間島移住同胞……………六四

ロ、窮民の行く所……………六七

ハ、放逐さるゝ民衆……………七〇

ニ、権域を離れる窮民……………七一

ホ、離れるな……………七三

ヘ、渡航證の販賣……………七四

目次……………七





ト、渡日者……………二七五

チ、行く者よ……………二七六

四、受難群……………二七八

イ、弱き者よ汝の名は白衣族……………二七八

ロ、支那輯安縣の慘事……………二七九

五、都市の相……………二八三

イ、殘忍なる社會相……………二八三

ロ、華麗なる京城と天真人の血涙……………二八四

ハ、ムロ住ひの三千同胞(穴居者)……………二八六

六、農村の現状……………二八六

イ、慘憺たる金堤農村……………二八七

ロ、朝鮮人農村破滅……………二九〇

ハ、農村民の離散に對して……………二九二

七、日本人農民(朝鮮の日本人農業)……………二九二

八、經濟相……………三〇〇

イ、經濟破滅の原因……………三〇四

ロ、事業難の原因と對策……………三〇六

ハ、細民の金融……………三〇八

ニ、運命の破滅……………三二〇

ホ、朝鮮人の農業地所有狀態……………三二二

九、種々相……………三二五

イ、密偵業……………三二五

ロ、世渡り術……………三二六

ハ、春日漫談……………三二九

ニ、義憤青年……………三三一

ホ、幹部と云ふ人……………三三一

ヘ、社會葬……………三三三

ト、貴族の末路……………三三五

チ、平穩無事の裏面……………三三五

第四編 哀怨の曲……………三三八

目次……………三三八



一、覺 聲……………三六

イ、濁浪中の朝鮮……………三六

ロ、痛哭の中から……………三九

ハ、春來不似春……………三九

ニ、現實と反省……………四〇

ホ、價值行動と果斷性……………四一

ヘ、強く闘へ……………四一

ト、宣言……………四二

チ、出て行く勿れ……………四二

二、哀 語……………四三

イ、獨立門汝は去るか……………四三

ロ、光化門を見送りつゝ……………四四

ハ、我が史を人が修むるの哀……………四四

ニ、朝生夕死を永遠に……………四五

ホ、仁旺山は依然たるに……………四五

ヘ、神洲の亡びたるを歎きつゝ……………三五

ト、悲哀と感激……………三五

チ、昇遐の發表と普校の涙……………三五

リ、末 世……………三六

三、願 他……………三六

イ、中國の國權回復運動……………三六

ロ、中國罷業と東亞の大局……………三六

ハ、中國の騒動を見て……………三七

ニ、日中提携説と東亞の政局……………三七

ホ、日中は親善し得るか……………三七

ヘ、濠洲の黃禍論……………三七

ト、異族の治下で呻吟する大印度……………三七

チ、猶太人の運動記事を見て……………三七

リ、日本は覺醒するのか……………三七

四、排 他……………三八



目次

一、辯護士協會奮起……………三八一

二、河東在留日人の妄動……………三八二

三、水庫(排他小説)……………三八五

四、朴爺の話(排他小説)……………三九二

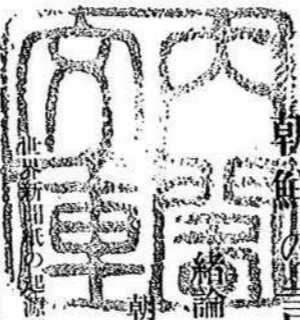
# 朝鮮の言論と世相

## 言論機關と思想の推移

### 朝鮮新聞社論 (朝鮮日報昭和二、二)

#### 一 官報本位の新聞 甲午以前の朝鮮新聞

朝鮮新聞の起源が皆官報にあつたのは史實が證明する所である。昨秋本社新築落成記念の時に崔六堂氏が之を叙述した「開元雜報」が唐明皇の時代(西曆七一三—四二)に發行されたのが世界史上報知の嚆矢であつた。其後「邸報」或は「京報」の名稱で各地の藩鎮が詔令章奏等を傳抄して自分の處に速報したのが其一種であつて「朝報、新聞、新報」の名稱が宋代を通じて各種書籍に現はれて居り支那にありての新聞の歴史は其由來が頗る久しきものである。西洋にあつては羅馬時代の官報の發行を以て濫觴とせる新聞が十六世紀以後に至りて漸々繁盛になつたと云つて居る。朝鮮の報紙も官報より始まり支那の印紙の様な「寄別」と云ふ者が之であつて、高宗帝二十年癸未十月一日に博文局の新設と一緒に刊行された「漢城旬報」は近代式新聞の代表的のものである。宣宗朝十一年戊寅(西曆一、五七八)に遊手輩が政府の許可を得て「朝鮮」を刊行して生活して居つたが、刊行數月後天子に探聞せられて遠く流されたと云ふ。



此れが朝鮮報知發行の嚆矢と云へる。併し之は一時的であつて中斷されてから累百年間繼續がなかつたので今は文献を得難く博文局の設置と一緒に生れた漢城旬報を以て其代表的のものと云へる。漢城旬報は名稱と同じく十日に一回つゞ刊行し内國記事より勅諭と議政府以下各部及衙門監司監理其他軍民長官等の狀啓と「裸誌項聞」等の名目又は京郷雜報を載せ「市直探報」と云ふ名目にて日常生活に需用される市場物價を報し「各國近事」で東西各部洲と内外諸國の消息を掲載した。勿論純漢文であつて重要な記事は大部が評論體であつた。それで漢城旬報の創刊辭見た様な「旬報序」の如きは儒家經傳の序文を讀む如く典嚴莊重な文章であつた。今其概畧を紹介せば「夏禹の制度周公の官制も、其の國都及國都に近き國以外には知らなかつた。それは山と河とか遠く隔たり、且文字も相異なる爲めであつた。然るに今は文化漸次開け智識日に進歩して汽船汽車を以て世界を一週することが出来、電線を以て四方八方の國々と聯絡することが出来るやうになつた」古今時代の變遷と時局の現勢を叙述し報道機關の必要なことを言ひ「朝廷開局設官廣譯外報並載内事頒示國中」と云つて政府より創設する官報式の官報本位である報紙要領を詳に説明し「以燭察鏡考すべく而して褒貶勸懲の義必ずしも常に其間に行はれるものにあらず」と云ふて所謂社會の鏡と云ふ報道本位の新聞であるのみでなく勸善懲惡に重を置た本旨を知る様になつて來た。高宗帝甲子踐祚以來、近き朝鮮史の序幕が始つた前後の事情は、茲に論述する必要があるが、同十三年丙子に日朝修好條約が成立して始めて開國進取の國策が形式上ではあるが決定され、同

十八年辛巳に朴定陽、趙秉稷、魚允中、洪英植等有爲な人物をして日本に遊覽せしめ、十九年壬午には統理機務衙門が設立され、日本人堀本禮造の別技軍訓練と士官生徒の養成があつて軍政の改革をする一方、所謂壬午軍亂と云ふのがあつて吳長慶の領率せる清兵の朝鮮駐屯があつた。此年より元山の開港と朝美條約の締結並に統理交涉通商衙門の設立があつて、ともかくにも外國文物の輸入に努力した現狀で二十年癸未には朝英、朝德條約の成立並に仁川の開港と一緒に機器局、典圖局、博文局等の設立があつて泰西文物の輸入に銳意した様な觀があつた。概ね當時には其の前年である壬午軍亂後を受け政界には守舊黨、獨立黨の對立があつて獨立黨の日本勢力の利用は頗る露骨的に現はれた時であるが、井上角五郎が日本の一要人として博文局に招聘され漢城旬報創刊の事務を掌握する様になつた。近代朝鮮新聞の開創立の功勞が日本人にまわされたと云ふのも奇蹟なことである。

## 二 紙面を通じて見た當時の時代相

官報本位であつた當時の新聞は嚴格な意味から見て現代式新聞と云ふよりも寧ろ官報本位雜誌と見た方がよからう。それで紙面を通じ現はれる當時の時代相も、今日之を見れば頗る興味が多い。其第一面に現はれたのを始として一部つゞ紹介すれば、癸未八月二十八日に協辦交涉通商事務穆麟徳が勅命に依り上海に赴き汽船一艘を買ひ來る云々の事實を掲載し、辛巳秋領選使金允植、從事官尹泰峻、學徒工匠等を率ひて中國天津に行つて機器學(兵器學)を學習し、卒業しやうとしたが壬午軍亂の急報があつて急に歸國

した顛末なり「百般の制度未だ準備創設中にあるから其の効果を急に收むと云ふことは望み難いことである」と庶政改革の功績が遅々たるを慨歎した如きも多少の感慨を興さしめる。「市直探報」に「立憲條に帽絹一尺價五兩五分、甲紗一尺五兩、白木屨」に上木每兩五尺、中木每兩七尺、常木每兩九尺「米廩」に上米一升（火印）五錢五分、中米一升五錢、下米一升四錢九分云々の如きものは今昔物價變動史から見ると興味が多い。英國の各大學にて「漢學一科」を設立すると云ふ消息を紹介し、「漢學の西行は天が特に斯文を以て全地球の文化を啓かしめんか爲めなり」と「斯道」の發展の爲に喜んだ形跡もあり、理春方面の「露人」等が「招撫該處附近高麗人民既有百餘家」と云ふて朝鮮人北方移住の状態が既に尋常でないのを見せ、「安南事起源」と云ふ題目の下に清咸豐八年以來佛國人の安南侵畧の顛末を叙述して佛國橫暴の憎むべき處を斷言し、「日本瑣聞」の題下には「日本參議伊藤博文が歐洲より歸來した事實を掲げ「曩に日本皇帝は特に勅令を全國臣民に下し庚寅の年に至つて君民同治の政治を行ふことを期した」と云々の説明を附して憲法發布國會設立を準備せる明治十六年當時の日本の事情を紹介したのが、今日吾々が見て實に心を刺戟させる所がある。「緬甸亦亞細亞南邊之一國也」とか「安南國亦東洋之一國也」とか色違ふ國等の位置と同情が全く異なつた當時にあつては初等萬國誌理の内容と同じ様な程度の説明まで附し、「地球全圖」と云ふて東西兩半球に分け描いた木版刷の挿書まで載せたものやら「地球の體圓如橙」として天圓地方の傳統的觀念を壞つて滔々數千言の辨證文を書き「論五洲洋」と云ふ題目の下に五洋六洲の分布せる大勢を詳に註釋した

如きも苦心した跡が明かに見える。要するに官報を本位とした當時の新聞は文化的には全然幼稚な機關であると云ふ觀があつたのである。茲に尙當時の記事を種々紹介すれば、中國福州一境に於て南洋火山爆發の情況を眺めた感想を紹介して「靜夜六時に遙に見ると紅い光燐に衝く、此の如くすること三夜に及ぶ、觀るもの驚かざるものなく、これ何の兆かと疑ふて占者に卜した」と火山の智識のなかつた當時の士女等が此の想外の怪現象に接して之が燭天の祥光と速斷し、陰陽家の解説を期待したのも興味深いものである。同年十月六日「議政府革記」にて「賊等は大胆にも明を待つて發砲しつゝ晝夜を分たずして到る處に於て劫掠を恣にして少しも忌憚する所ない」と日々甚しくなる匪賊に因て旅行が阻絶されたのと公納が遲滞されたのを慨嘆したのもある。經畧史魚允中の啓狀「關北は必戰の地なれば銃砲彈藥を可成澤山備ふべし」とて北方軍備の充實を唱へて「新兵二百五十人を募集して長い間操練し居るから此れに支給すべき軍費を要すると」督促したものやら、平安兵馬節度使李鐘健狀啓として「寧邊府軍兵を募集して四月間操練し居たと」日本兵備の完全なのを見て「毎年守兵を増し屯田兵として一地に長く駐在し操練に虚日ない状態に遠隔あると」朝鮮兵備の疎虞せるを慨嘆したるは開國進化して國力の發揚を急かしく思つた獨立黨先輩達の憂慮せし所と見える。況んや英佛列國が緬甸安南より中國の領土を窺て、數年來濟州島の南方巨文島の占領を持つて朝鮮國際史上一大危機を招かうとするに逢ひ、西勢東漸の情況をくれぐれも報道しつゝ新興の日本政治改善と武備刷新の實情を紹介するに怠らなかつたのを見たら、當時の

時代相が如何であつたかを見るに足る。終に當時米國の駐劄朝鮮全權公使「福徳氏」が最初西洋に往く朝鮮使節は其の本國に紹介する文學を譯載したのが興味を惹起するに足る「實に該國人の洋行の嚆矢にして凡そ政治の得失貿易の盛衰をよく説明して、國際交通の有益なること及富強の方法を知らしめ、全朝鮮をして文化の階級に躋るやう周旋成り度し」と米國が日本を世界に紹介して鎖國の陋習を棄る様になつた如く、朝鮮を世界に紹介するのも米國の責任として、朝鮮を國際的一小兒の如く取扱ひながら指、導啓發した態度も興味がある。次に「農桑の利鑛山の豊富、吾美國中最も豊富なる省に似て居り、而も全國人口は實に一千五百萬を超えるが故に外國品を使用する數量も少なくない筈であると」と通商交易及利權啓發の利益の爲、決して朝鮮を等閑にしてはならないことを力説し「我政府は使節を厚く優待して歐米列國の如く決して疎略にせざるやう」と丁寧な依託したのは自然と今昔無限の感慨に堪へない所もある。兎に角内政にありて農桑鑛山等産業の啓發と人口統戸等民政の改新を圖り、外部に於ては支那安南緬甸印度等の危急な狀況と、西洋列國兵備の成立されたのを指摘し、新興日本の國情の變遷したるのを例證として、國家人民の運命をして危殆を未然に防止しやうとする苦心の跡が處々に現はれるのであつた。之は紙面を通して見た當時時代相の大観である。今其紙面に現はれた官職及人員の氏名を一瞥しても當時の事情を彷彿たらしむる所がある。

統理軍國事務衙門

督辦掌內司及諸司事務 閔 台 鎬

督辦利用軍務 金 炳 始

此外農、商、工典選等の督辦として趙寧夏、鄭凡朝、金有淵、等があり尹泰峻、金允植、朴定陽、韓圭稷、魚允中、等の協辦があつた

統理交涉通商事務衙門

督辦諸司事務 閔泳穆、協辦掌文司事務金宏集、次に穆麟德、閔泳翊、金玉均、洪英植、金曠植等名字

がある。尤も當時國情を表示されたのは「國內各稅務司」の各國人配置状態である。即ち

京城

稅務司 澳國人 夏 士

幫 辦 米國人 麥 信 士

英語教習 英國人 奚 來 百 士

幫 辦 德國人 安 壽

同 中國人 吳 仲 賢

仁 川 機器司 俄國人 裴 巨 富 識

緒論 言論機關と思想の推移

幫 辦 法國人 羅布退

驗 貨 意國人 富理安來

釜 山

理船廳 荷國人 蒲時羅是

元 山

指泊所 丹國人 巨甫退

右の外日本人にて在職した者を除外し凡そ十六ヶ國三十餘人の在職者が列名された。

三 民権思想鼓吹時代Ⅱ甲午以後の朝鮮新聞

毎月三回づゝ発行した漢城旬報は後に漢城周報と改題されて、前後百餘號に達する迄發行したと思はれる。然し高宗帝二十五年戊子に博文局を廢し同報も廢刊した。そして朝鮮で更に新聞と云ふのを見る事が出来なくなつた。其れから六七年経て建陽光武時代に及びて新聞が續出される様になつた。此れを甲午以後の朝鮮新聞を以て朝鮮近代新聞發達史上の第二期と見ることが出来る。高宗帝十三年丙子より始つた開國進取の氣勢が同二十一年甲申改革黨運動の失敗に依て一大頓挫をなし、當時朝鮮の朝野には反動の氣分が充満された。そして同三十年癸巳には洪鍾宇が金玉均を誘引して上海に於て暗殺すると云ふ變事迄もあつたし、固陋な弊習と廢敗した政治は殆ど止る所がなかつた。而して其の年冬期より始つて

東學黨の事變は民衆革命的暴動となつて、日清戰爭迄見る様になつた。官制が改革されて形式上ではあるが宮中府中の別が出来。光緒の年號がなくなつて、開國紀元となつた。朝日攻守同盟成立するや太廟では朝鮮獨立國山祭が舉行された。然して内閣の制度新設され、金宏集の内閣が始めて組織された。同三十二年乙未には日清馬關條約が成立し、朝鮮獨立は國際的に承認される第一段に入つた。併し走馬燈の如く變る朝鮮政局は、實に變幻して測る所を知らざる状態で、八月二十日所謂乙未事變あり、翌年建陽元年丙申には國母の爲に復讐するを聲言した義兵が蜂起して、内閣總理大臣金宏集等は慘刑を受けた、所謂俄館播遷以來宮廷中心の當時の政局は、實に困難と暗濛を極めた。此の時に當つて新進有爲な人士達は團合して獨立協會を組織し、以て萬民共同の改革政治を實行せむと運動した。丙子修好條約以來の甲申の改革運動を第一期とすれば東學亂、日清戰役の後建陽光武の運動は其の第二期に於て新聞史上より見ても自然同一時期に入るものである。當時の時代意識を代表したとも云へる獨立協議會の本旨は、内には民権を伸張して君主專制の弊を牽制し、以て君民共治の實を現はさむとし、外には強隣の干渉を防止し自主獨立の實を確固ならしめ、以て國民の一大危機を救はうとしたのである。此の時代に輩出した各種新聞は朦朧とした一元的であつて二重性を持つた國民意識と時代思潮を代表したものと見られる。其の時に際し「獨立新聞」が生れ、次に皇城新聞、帝國新聞が生れ、別に日本人の機關として漢城新聞が出で、各々其の特色を發揮しやうと努めて居つた。此の點から見て當時の新聞は既に官報本位の形式から離れて、民衆公器とし

て指導並報導機關たる面目が現はれたのは勿論であるが、報導よりも指導に重きを置き、對内的には自由民権の思想を鼓吹したけれども、刻一刻國際的危機に陥る國家の運命を目の前に見ながら、其の人達は畢竟民族意識を宣揚するに努めたのがその特色である。嚴格に言へば民族意識を明白に宣揚したと見るよりは、寧ろ漠然たる愛國思想を鼓吹するに努力したのだ。「獨立新聞」の如きは純國文でなつた朝鮮新聞の嚆矢で、直接に對外的民族思想を鼓吹したと見るよりも、寧ろ赤裸な民族思想の鼓吹機關の如き感があつた。其の創刊した時日は建陽元年四月七日であつて民間新聞の元祖となり、其れが當時唯一の民衆的政治團體たる獨立協會の機關紙であつた事は誰しも知る所である。皇城新聞の創刊は光武二年三月八日、獨立新聞より約十一ヶ月の後であり帝國新聞の創刊は光武二年八月八日、皇城より五ヶ月後であつた、此の獨立新聞は最初隔日刊より日刊へ、皇城、帝國は日刊で、皇城新聞が國漢文、帝國新聞が純國文であつた。皇城、帝國の論調は大同小異で獨立新聞の新人的見識と匡救的熱情の紙面に溢れるものに比し多少遜色があつた。皆中型の四百新聞で平版印刷であつた。兎に角其の體裁及内容が漸々新聞らしい新聞となつて來たと云へる。漢城新報の創刊時日は建陽元年四月二十二日で此の時期の新聞の一番終りに生れた所である日本人の經營で特書すべき所も少なかつた。要するに二重性であつて一元的である當時の意識を表現した各個新聞等は、其の日時の推移と國歩の艱難が加速的となつて往々に隨つて、漸々反撥的民族愛を激成する様になつたが、其は寧ろ此の時期末年のことであつて建陽光武五、六年の間では却て自由權思

想の鼓吹時代と見るが妥當なのである。嗚呼今日に當て當時の事を叙述する多少の感慨なきを得ない。

#### 四 紙面に現はれた時代意識——獨立新聞の創刊當時

第二期新聞の代表的なものとして先づ「獨立新聞」を擧げる。「獨立新聞」と皇城、帝國の三新聞は皆其の當時の代表的新聞であるが、其の創刊時日が早かつた點から見ても其の紙面に溢れる熱情と、一步進むた見識は「독립신문」を以て一番とするのが公平である。今「獨立新聞」創刊號第一頁に現はれた社告を見るに「獨立新聞は本國と外國の事情を詳に記録すべく、政府内と民間の消息を悉く報告し、政治上並農商、醫術上のことを多少宛毎日記録す」と告げて編輯上の方策と併せて其の主旨まで表明したのである。本國、外國、政府、民間を列擧して其の分界と事情を明に知らせうとした點から、朦朧ながら國民的意識と幼稚な民権思想の擴つた處から、民族的又は民衆的に覺醒しなければならぬことを唱へた精神があつたのを見る事が出来る。尤も其の根源に合して居る時代の悞腦煩悶が自ら晏如たり得なかつた點も見る事が出来る。「獨立新聞」の創刊より幾らか遅れて生れた獨立協會には李商在、李采淵、尹致吳等諸氏が居つたのであるから「獨立新聞」が一人の力で成り立つたとは云はれないが、甲申獨立運動が失敗してから萬死一生の苦心で米國迄亡命したが、日清戰役、祖國の運命が刻一刻危くなるのを見棄る譯にはならないので、今度は合衆國の一市民として韓國政府の一顧問となり、俄に下つて來る慘禍の鐵槌を防止しながら、獨立協會の創設者となり、又は獨立新聞の創設者主筆となつた徐載弼氏の如きは事實上主人公でない



とは云はれない。今其の刳刑辭である第一號の論説を紹介するに、

「我國が獨立新聞を今日初めて刳刑するに當り、朝鮮内に居る内外國人民に我が主義を豫め論じて知らせるのである」と内外國人に知らせやうとする所を吾人は尋常に看逃がされない。日清戦争が終を告げて滿清の勢力は大部分放逐されたが、前門の虎を逐つて後門から狼を迎へた當時の國情は、既に日本の勢力あり露西亞の勢力が擴て居た時であつて、朝鮮先覺者の一舉一動は實に穩かな海ではなかつた。

「我等は先づ何處にも偏せず、何黨にも關係なく、上下貴賤を區別せず、悉く朝鮮人及朝鮮のみの爲に公平に人民に告ぐ」とあつた偏不偏、黨にも關係ないと云ふのは、言論機關として恒茶飯の言葉と云ふべきも、所謂親日、親露、或は親清の黨、百鬼夜行の觀がある宮廷中心の各種陰謀に對し、自分等は唯獨立獨行を以て危難中より戰ふべきを宣言したのである。之は即獨立協會の創立された精神である上下貴賤を分たないのは、閥族打破萬民平等で、共に國家民族の危急な状態から脱しやうとする至情より出たので、悉く朝鮮人及朝鮮のみの爲に公平に人民に論すべしと云ふたのは、古人所謂「傷時忿俗憂憤感發」と云ふた言葉の如く、言に溢れる愁嘆と熱情が今日も尙紙面に表はれて居る。

「我等が京城の住民のみの爲でなく朝鮮全國人民の爲に何事でも代言するし、又政府で爲される仕事を人民に傳へ、人民の情勢を政府に傳へるのであるから、若人民が政府のことを詳しく知り、政府が人民のことを詳しく知つたなら、互に有益なことで不平と疑ひがなくなるのである」と言つて居る。政府

の動靜に關し特に敬語を使つたのは官尊民卑の思想と云ふべきも、當時萬機を獨裁する君主陛下を尊奉して新時代を開拓しやうとする其の人達は皆當然なことである。況して政府のする仕事と人民の情勢を互に知り、疑ふ様なことなくすべしと云つたのは、即ち政府は政府、人民は人民で干渉と連絡がなく、彼是所謂泰脊越視する中に、國家民族の運命は刻一刻危機にのみ陥る其の時にあつて、君民同治の新政を以て時代を挽回し萬、民を救ふとする誠意が飛躍する様に見ゆる。

「我等が此の新聞を發刊するのが營利を目的とするのでないから、代價を廉くし、皆諺文で書たのは男女上下貴賤が全部知る様にする爲であつて、句節を隔て、書いたのは見易い様にしたのである。我等は公平を旨とするから、政府の官吏と雖悪い事があれば直ぐ論すべく、貪官汚吏を見つければ其の人の行蹟を發表すべく、一私人でも無法なことをする人は我々が糾弾して新聞に説明する」とある。之は説明しなくとも新興的氣分あり、先覺者の悲哀もあり、悲壯沈痛な闘志が流れて居るのが見ゆる。

「我等は大君主陛下と朝鮮政府と朝鮮人民の爲に働くものであるから偏黨のある議論とか片一方のみを考へる論説は我新聞にはない筈である」と大君主陛下と朝鮮政府をちやんと擧げて言ふた處に王室を中心に政府を督勵して、萬民と一緒に陳莽を開拓しやうとする當時の經綸を見ると同時に、大君主及政府が如何に人民を壓迫し新興勢力を蛇蝎の如く見るまで理解がなく、隨て新興志士等の苦痛と煩悶が如何であつたかを見ることが出来る。此は確に先覺者等の超越の煩悶であつて、孤獨な悲哀であつた。四

頁の新聞である獨立新聞は、第四面を提供して英字報となした。夫を説明するに「英文を以て記録したのは、外國人民が朝鮮事情を詳しく知らぬから、朝鮮を誤解されてはならないと思ふて、本當の事情を知らしめる爲である」とあつた。

東學亂、日清戦争、馬關條約、乙未事變、露公館播遷、親日黨、親露黨、宮廷中心の陰謀、夫から滅亡の威嚇！恐怖！此の事情と言論は涙なく讀むことは出来なかつた。其は寧ろ沈痛な熱情に燃ゆる悲鳴を揚げたと言はうか？或は壯烈な雄々しき救の闘争を宣言したと言はうか？其の末端を更に紹介すると「然れば此の新聞は朝鮮のみの爲だと云ふ事を知るに足る。此の新聞に依つて内外男女上下貴賤が、皆朝鮮を解する、それは恰も突風荒波に覆没の禍が近寄つて來る難破船に坐て、上下貴賤が共に命を救ふとする途を探す様な至難と悲痛とがあつたのを聯想させるのではないか？」

「我等は外國事情も朝鮮人民の爲に折々記録するから、之に由て外國へ行くとも外國事情も知るべし」と沈痛の悲哀の中に居り乍ら、繁榮と進歩とを傳ふる外國の情況を憧憬する一部識者先覺者等の腦の中が歴々として見へる。又「今まだ初の内であるから我主義のみ世に告げる。我新聞を讀むたら朝鮮人民の見識が進歩すべきを信する」と言つたのは當時一片の新聞が如何に重大な意義と使命とを持つて國家人民の危急な中より現はれたかを知るに足る。況して第二社説より朝鮮文を尊重すべきこと、朝鮮文出版物によつて上下貴賤男女老幼を問はず進歩發展の途へ一緒に進まなければ、斯様危急な時代の形勢を挽回する

ことは出来ない」と云ふことを力説したのは、今日我等をして自然と涙の流れるのを禁じ得ざらしめる。

朝鮮の衰亡史上に於て新聞を通じて見る此の事情があるのは確に一異彩と言ふても過言でないのである。皇城新聞は光武二年三月八日を以て發行認可され同九月五日創刊されたので、獨立新聞より二十八月月約二年半の後である。前回に十一月後としたのは誤記で皇城、帝國兩新聞と前後相踵いて「毎日申報」が純國文にて發行されたことになつた。

#### 五 皇城新聞と帝國新聞 II 民権思想より民族思想

建陽元年より發行した獨立新聞は翌年光武元年より同二年戊戌秋期まで約二ケ年の開始と獨舞臺で、同時期新聞の先頭であり、其の創刊號より始めた熱情的匡救的の論調は、自然と獨特な時代意識を表現した所が見られる。併し皇城帝國が生れ「毎日新聞」が生れるに及びて、當時漢城には五種の新聞が同時に刊行されて言論から見ても繁雜な觀があつた。獨立新聞創刊號雜報欄に依れば、建陽元年丙申當時、露皇ニコライ二世戴冠式を祝賀する爲、故忠正公閔泳煥氏と隨員尹致昊氏、金得年諸氏が聖維得堡に行つたのを掲載した。獨立新聞は其の有力な創立者の一人である徐載弼氏の主宰の下に刊行され、徐氏は當時既に米國の一市民であるから朝鮮政府では外臣の待遇を受け治外法權を享けて居るから、一身の安全が保障されるのだから其の名義で發行された言論は自ら憚る所尠い、隨て獨立新聞が他と違ふ新人的見識のみ持つ丈でなく、匡救的熱情が障礙なく表現された譯である。然し當時の朝鮮局政は平坦で

なく、種々の波瀾が宮廷の陰謀を中心として起る様になつて居つたのである。

閔泳煥氏の露都行の時には同一の意味を以て、日本からは山縣有朋が、清國からは李鴻章が行つた、斯様な陰險老翁なもの等が戴冠式祝賀を裝つて遠く裡波得堡まで行くには何か秘密があつた。李鴻章の手腕であつたが、露、獨、佛三國をして遼東半島を清國に還附せよと云ふ、世間で所謂三國干渉と云ふ大事件が起つて、日本は日清戦争の大收穫を失ひ、露國の南下政策は露骨化して、小さい漢城の政局には親露黨の勢力漸次跋扈する時期になつた。「ウエーベル」公使の後を繼いで漢城に駐劄する様になつた。「スビオ」露國公使は、斯る陰謀と横暴の張本人の様になつた、此の時に當て民権思想の鼓吹者で、同時に愛國思想民族思想の先驅者である獨立新聞は、斷然「スビオ」を中心とした露國の對韓政策を痛撃する所があつた。此は勿論無事に過す譯にはいかなかつた。宮中陰謀の張本人である「スビオ」は、暗に獨立新聞の刊行を妨害しやうとし、同時に其の責任者である徐載弼氏に對して徹底に排斥運動をなし始めた。徐にして若し甲申當時の朝鮮人であつた一徐氏であつたなら、其の運命は想像するにも及ばない。が併し此の當ひ徐氏は既に合衆國一市民であつたから「スビオ」は韓國政府をして徐氏顧問の職を解き、同時に米國に放逐した。此は光武元年冬より翌年春までのことであつたと思ふ。徐氏を失つた獨立新聞は自ら前日の特質を維持し難くなつた。此の時獨立新聞は培材學堂の創設者である、米國人「アベンチャラ」氏を發行人として尹致吳氏の主筆にて發行を繼續した。然し光武二年戊戌當時には韓國政情

自ら平靜を壞す時であつた。獨立協會の活動は方に白熱化し、君民同治の聲高く肅清宮禁の要求は宮廷中心の陰謀家達の憎惡の標的となつた。大韓青年、愛國會の名義を以て始めた東宮攝政、庶務革進計畫は、所謂戊戌獄事と云ふ尋常ならざる波瀾を起し、此の前後に生れた宮廷陰謀の私生兒たる樞負商團體である皇國協會と、獨立協會の對立は、益々一般人心を混亂させた。各種新聞が前後して簇出したのも斯様な事態に策應する所があつたのである。數種の新聞の隱顯消長が即ち近世朝鮮の政治的動勢及其の消長を表象する様になつたのは興味多いことである。凡そ此の時期より光武八、九年日露戦役の始終と保護條約成立前後の時期までを第二期の末年と見るが妥當である。

#### 六 當時の各種新聞、其の紙面より見た種々相

米國の一市民徐載弼氏が去つた後「アベンチャラ」氏の名義をかりて獨立新聞は發行はしたが、此れだけでは時代の要求に應ずることは出来ないで、茲に皇城が生れて來たのである。

南宮權、柳瑾外諸氏を中心に皇城新聞が發行された。其の壽命の長い點から、其の言論の莊重な所から見ても、兩新聞が後年の代表的地位にあつたのである。柳瑾氏の漢學的筆致と李承晚氏の新人的見識が併せて其の特色を發揮した皇城は、後に張志淵、申采浩、朴殷植諸氏の一代の巨擘を迎へて、常に典麗或は嶄新な筆致を持續する様になつたのであるが、之は後に更に論ずる。當時各種新聞に現はれた社會相及時代相を一瞥するに、獨立新聞社説欄と別報雜報等には獨立と君臣共治の法に關して常に鼓吹して止まな

つた所があるが、當時大西洋の小島である「キユーバ」人民の獨立運動とか、比律賓人の獨立戦争、同じく其の指揮者であつた「アギナルド」將軍の活躍の消息等を紹介し、又一方では獨立協會の運動と政府との抗争、折衝の状況を報道した如きは、其の目標のある所を自然と明瞭ならしめた観がある。今其の記事を例示すると、

「此れが獨立か」と云ふ題目の下に、當時有名無實であつた庶政が革新されない點を痛論した。政府の大臣、陸軍將官、在野紳士等十餘名を逮捕した戊戌獄事を擧げて、畢には外國干渉が來るべきを豫斷し所謂「便民利國」の法治主義の政治を一日も早く實現すべきを主張し、或は「下議院は急でない」と云ふ問題の下に、下院設置國會開會の如きは必ずしも時局匡救の最急な良策でないのを論述し、「政權を握るべき人は一人なりとも何萬名なりとも智識と學問が備はつたのでなければ不可」と唱へ、文化の啓發が時下の急務であるのを斷言し「無識なる世界には君主國が却て民主國より堅固であることは古今の史實歐美各國の情況を見ても判かる」と例證した如きは、當時の主張が決して急激に流れてなかつたのである。一世の非難を受けた趙秉式が參政となつたのに就て、躍起せる獨立協會の糾弾と同じく、反對の先陣を引受た様な如きも特に現はれて居る。要するに獨立新聞は光武二年以後に於て、苦難中に陥り皇國協會の發生獨立協會瓦解に因て遠からず廢刊される悲運に逢ふ様になつて、皇城、帝國、時代とも云はれる様になつた。世宗大王に於かせられて別に一種の文字を創造され愚夫愚婦をして開明しない者は

ない様になされた此れ國文なり」と國漢文並用の趣意を宣佈し「大皇帝陛下におかせられては甲午中興之會に際り自主獨立の基礎」云々と論じ「特に箕聖の遺傳された文字と先王の創造された文字を並行させた」と云ふ由來まで解説して國文尊重の必要を力説したのが、獨立新聞創刊號のそれと對照して聊か謹慎の意味も見ゆる。併し第二號社説にて「臬自循輩、結繩遂疑」と古昔の語から始めて「所以通達民隱宣導政事以佐一代太平之治」として新聞發行の趣意ある所を述べ「隱寓子奪之旨儼操筆削之權公是公非有勸懲之意何舉持月擔且之評」として四六文式の賦が其の儘出た。又或は第十四號に「陽秋古燈、偶閱萬國公報、至高麗稱帝之說、自不覺噤然一笑而廢書也」と高麗中葉以前皇帝の尊號と天授峻豊、建元と門下侍中平章事吏部尙書等天子の法度を使用するに對した支那人の曲筆を辯駁した如きも、依然純漢文である丈却つて今昔の感を深からしめる。夫れ政は正也、徳は得也」流の徳治主義的政治革新論を主張した處は儒者の面目其の儘の發現と云ふべきものである。

帝國新聞の初期には其の論調及記事、獨立新聞と相似て居つたが、一つの逸話は同紙の主筆李承晩氏が獨立協會事件で入獄後荆門生活をしながら依然と主筆の任務を持つて居つた事である。同氏の獄中生活中には多少逸話がある「獨立精神」と云ふ著書があるのを知つて居る者は多いが、兎に角獄中に在りながら評論を主宰したと云ふのが一奇聞である。只初期の帝國新聞は其の材料が頗る缺乏したのが遺憾である獨立協會の運動と其の言論と屋外集會を以て一種の示威運動を繼續したことが、其の敵對團體

であつた皇國協會との衝突の顛末、萬民共同會の運動及其の言論の如きは此の時期の紙面に現はれて居る時代的特徴であると同時に歴史的主要な材料を造るものであるが、夫よりも尙所謂戊戌獄の禍因を醸した大韓青年會愛國會の敬白書は或意味に於て此の時代を通じて生れた斯る事件の一縮圖とも見られる。現今我大韓帝國の諸制度が一新の機會に出逢つてから久しいのに、今日尙昔の陳るい風俗が其の儘残つて居つて進歩の希望が全くないのである。哀しいかな彼の狡猾者流が内外結託して我聖祖の公道を妨ぐるのであつて、政府の章程法律は行はれず人民の生命財産を保全し難く、今日に及むては國家の滅亡頃刻にあり、風朝雨夕志士の憂慮と涙豊なからむや」と云ふ慷慨の文字を始め、高宗帝踐祚以來三十五年間の事情を略述し「輔弼する臣に其人なく内治外交を親ら執らる」と其の君主專制の不可な事由を婉曲に叙述した。更に「壬申、壬午、甲申以來の艱難を重ねて過された後、憂慮の結果恐怖心を増される様になり、聖念深く且懇切にあらせらる」と其の懷疑的態度と反動的專制が如何であつたかを指摘し、「小人奸邪の輩が機會を窺つて仕へ聖明を蔽ふて疑惑なされること日々に甚しく中興の業日々に崩れる」と宮廷中心の陰謀と其の張本人たる徒輩を指斥し「臣民の分義に於て豈憂慮なからむや」と云つて居る。「今玉體を攝養され寶算益々増されるを祝頌せむとすれば、大權を皇太子殿下をして代理させ給ひ、皇室の根本を堅固になさるべし」と其の弊政の根本的革新を斷行する方針を示し「朝臣を肅清し章程を遵行なされて全國の耳目を一新せむとするは人民の共に願ふ所である」と人民の離反尋常ならざりしと、

政事の革新は遅延すべからざることが論斷されて居る。甲申の運動が失敗し、東學黨の亂が鎮り、日清戰役が終を告げ、大韓光武の日月は照されたが獨立協會は敗亡となり、裸負商の跋扈は心の儘に任せ、頑冥悖戾の徒輩の陰謀は絶へることなく、利權の讓與は泰西列國の豎端を開き皇宮保護を爲すと稱して外人巡檢隊三十人は上海より突然漢城の政局に現はれる等、所謂變邪百出、天下騷亂の際にあつて騷亂を悲しみ、暴戾に心の安定を失つた人の計畫は、畢竟老大な獄事のみを起して、流血の慘狀が先覺者の身上に落した事等、單なる當時の敬白書一枚を見ても其の真相を窺知されるのである。

漢城新報と毎日申報とは特書すべき處少く、前三者を以て此の時期の代表的ものと云ふのは前述の通である。建陽元年三國干渉は極東政局に更に日露兩國の險惡な對峙を加へる事になつて、アレキセルが來、クロバトキンが來て、龍岩浦及馬山港には雙鷲の裝飾をした「スラブ」人の軍馬が出没する様になり、北清事變が起つて、日英同盟が成立し、仁川港外蕪々の砲聲は韓國二十萬蒼生をして徒に浮動する恐怖の裏にかしめた。因て鴨綠、豆滿、兩江の沿邊には「コサツク」の騎兵、「大和」人の長劍、驚心駭魄の大慘劇等を置演出されて「ポーツマウス」の條約が成立してから、韓國は被保護國となり、君民上下天日暗澹たる愁雲の中に沈むた。

嗚呼是に於て亦朝鮮新聞の上に別個の時期を造る様になつたのである。

## 第一編 施政評論

### 一、施政問題

#### 政策の強行

(東亞日報大正十四年九月十一日附)

「國家は正義を行ふものである」と云ふ言葉がある。併し在來の國家及現下の國家は正義を行ふと云ふよりも、或る側から見ると不正義を行ふ方がうんと多いかも知れぬ。併しそんな國家を人類が維持して來、持續して行くのは、國家が政治を行ふことが出来るものであり、又不完全ながらも正義を行ふと云ふ理由に原因するものである。もし國家が正義を行はないと云ふ觀念を一般國民が持つ様になると、一時は在來の既成権力で之を統禦して行けるかも知れぬが、少ともそんな國家は晩かれ早かれ滅亡を免かされる事が出来ずして、しまひには新しい支配者と、新しい組織が起らなければ、やまないものであつて、之が即ち人類の意思を無視した爲めに受くる政治の革命である。

そうして人民は多大の犠牲を捧げる革命をしてでも國家をして正義を行はしめ、その組織を通じて自分等の生活を圖つて行くのである。

ではその所謂正義と云ふものは何か。正義自體に對する説明は色々の見解があるが、しかし吾人は國

家が行ひ、行はざるへからざる正義は「正義は協調にあり」との言を引用しやうと思ふ。萬民が善良な生活を追求して行く途程に於ては社會的奉仕と共働する協調にありと言はざるを得ない。勿論消極的方面から見ると個人と個人間の争議を協調させるのもあるけれども、積極的意義に於て國家は國民をして共働協助して夫々其職能を實行させる事が出来る様に努力し劃策しなければいけないのである。人民の生活と其の生活條件とを洞察して最善の協働を行ひ最善の職能を發揮する様にその機會を與へ能力を助長させる事が國家の正義である。

もし國家にして斯くの如き義務を實行し得ないとすれば、それは實に政治的罪惡である。人民の怨恨であり呪詛の標的となるものである。況んや國家にして斯る積極的方面の正義はさておき、塗炭に呻吟して居る現像一つを見て取つて善處し得ないとすると、國家としての存立の意義が何處にありと言へやうか。

故に國政を料理する者は恒に人民の實際生活に理解があり、その國民の思想的趨勢に對して洞察があり、それに立脚した理想がないといけない。

そうしてこそ初めて人民の現實生活を土臺とした政策が案出せられる可能性もあり得るのである。斯く人民の實生活上に樹立した政策であつて初めてそれが正當な目的を實現する事も出来るのである。さて現下朝鮮に於て實行せられて居る政策の如く、一般民衆の實際生活には何等の交渉もない政策で

あつて、専ら自分等の自意擅斷を以て自分等が勝手に製作した劃策をそのまま施行して居るのである。それだからそれが果して國家の本來の意義に照らして政治と云ふ事が出来るか、又人類の正義感に照らして存在上の價値があるか。一步を譲つて歴史的見地から又見ても維持せられる可能性があるか。吾人は天下の識者具眼者に再び問はむとするのである。

實地の一般民衆生活には全然くらく、ら自分等の立場と利害のみに渾醉して、權力を濫用して糊塗と高壓を能事として居る。故に一般民衆を害ひ自己を捉ふ妄動に非ずして何ぞ。政治の要意は一般民衆の實際生活を理解してその傾向と趨勢に順應して行くのにあると云ふ事を一言すると同時に、現下の朝鮮の様なそれとは全然没交渉で自己の固執と狹量とで一貫するの政治は、只罪を作るのみであると言はざるを得ない。

口、如何にせんか？ (時代日報大正十五年三月十日附)

誠恐ろしい事である

朝鮮が第二の琉球となると云ふことは先きに評論したことがある。それは決して萬一を憂慮する警戒的の抽象論ではない。明白なる現實的の必然且つ既定の事實で、唯若干の猶豫期間があるのみである。しかし最近の政策から見ると、其の猶豫期間が遠くても五年乃至十年に過ぎぬことを充分推測すること

が出来ぬ。此んな暗黒面を發見して毎日絶叫するのは随分苦痛ではあるが、吾人の現状は實際悲劇と慘状のみである。此れを考ふると焦燥と恐怖の生的衝動を禁ずることは出来ぬ。見よ愛蘭には愛蘭人が住み、印度には印度人が住んで居る。しかるに愛蘭よりも印度よりも年代としては甚だ淺少の琉球には琉球人が住み得ず、それよりも、もつと淺少の朝鮮人が住ぶことが出来ぬのである。此のやうに急性的に生活が破滅するのを見ながら唯焦悶の涙のみ流して居るのは口では云へぬ人間社會の大悲劇である。

## 二

朝鮮で朝鮮人として住ぶことは出来ぬ。軍事と警察の方面から自由と權利を悉皆剝奪せられたことは今更贅説の必要はないが、最近になつて財政や經濟の方面から見れば一層慘酷のものである。總督府の豫算面が毎年増加するのと、此のやうに増加する反面で、朝鮮人の事業と生活が共に破滅することは勿論である。數日前確定した地方費の豫算面にも、總督府の豫算と同じく毎年増加するのである。今年には昨年より一百七十萬の巨額の増加であつた。此れは行政又は財政を大整理、大緊縮したと云ふ昨今兩年の事である。此れのみでなく明年度からは所得税、地稅、酒稅等で七百萬圓の税金が増加すること、既に確定した模様である。亦來明年になつたら今傳ふる七、八百萬圓税金のみに増加に止まらないことと思はれる。昨今兩年度の遞増が毎年二千萬圓以上になるのであるから此れと同比率のみの増加とするも來明年度には總督府豫算が今年よりも四千萬圓以上が増加するのであるから前記の七、八百萬圓と

云ふのは其内の一部に過ぎぬのである。

## 三

要するに朝鮮人の生活と事業は毎年退縮する。そうして破滅者の數は幾何學的級數で増加するのである。それは幾何學的級數で年々破滅して行く朝鮮人の生活費中から徴收するからである。即ち總督府の收入が増加すると反比例に朝鮮人の事業と生活が破滅するのである。それが財政問題のみなれば堪耐も出来るが、經濟問題や金融問題に至つても同様である。しかし結論は簡單明瞭である。亦それを知らぬものはないのであるから、今此の結論を求むる必要もないのである。即朝鮮で朝鮮人が住むことは出来ぬと云ふ一言で、朝鮮の財政と經財と金融と産業を總括して其の頭緒と結論を明白に説明するものである。先に朝鮮銀行を論じたことがあるが、今、日本議會で問題となつて居る關稅案が決定せば、何れも直接或は間接に朝鮮人の生活を一層破壊しないものはない。其の中にも米の關稅引上に因つて其の暴騰暴落する不自然なる資本主義的商品市場の法則は、消費省たる朝鮮の無産群衆をして餘儀なく其の生活を全的に破壊して了ふことになるのである。吾人の運命と云ふものは元來そんなことに定つては居るが此様に加速度に進み行くことは誠に恐ろしい事である。此れを如何にしたらよいか？

## ハ、鐵道の擴張と吾人の生活

(時代日報大正十五年五月十二日付)



朝鮮の政治當局者が産業第一主義と並行して、重要視し焦眉の急務とする所は、朝鮮の鐵道線路の擴張である。それは故下岡氏の提案で、産業が發達せず今後開拓すべき天典の地が多い朝鮮に、鐵道線の擴張を計畫することは、現代式の政治であると云ふので、交通機關の完備を口實に機械文明物質文明を高潮せしめ、そうして未だに封建的狀態である地方に、資本主義文明を熾んにして、生産上大量の資本を要求せしめ、其結果は必然の勢として小資本をして没落の運命に至らしむるのである。此れが過去の官僚政治、封建式の政治から町人改化したことを諷するものである。そは日本の政界が歐戰以後急激に變じて政治の經濟化を叫び、資本政治が高潮するに隨ひ、朝鮮の政治にもそれだけ新しい現象が表はれることになつたからである。

## 二

於此、朝鮮を政治的に支配するよりも、經濟的方面に重きを置くことが利益の多大なることを看破し、其結果國境線を始めとし、平和線、東海線、臨港線、等朝鮮の一間に鐵道網を配置せんと一層努力することになつたのである。

鐵道線を擴張すと云ふことは、交通機關の整備を諷するものであるから、皮相的では文明化し、時代化すと云つても、現今朝鮮の事情は特殊のものであつて、それが整備せば整備するほど、朝鮮人の生活は其破滅が急激である。交通機關が不備で其の惠澤を蒙らぬ所ほど、生命を持續し得る程度の生活を保障

することが出来る。それは交通機關が整備するに隨つて、産業の發達を促進し、隨つて外來の資本が大量的に輸入することになるのであるから、資本の背景がなく、政治的同一の立場でない朝鮮人は、それと競争することが出来ず漸次没落して無産者となる。此れは理論上からのみでなく、實地の事實がそれを明白に證明して居るのであるから、交通機關が完備し市街が繁榮すと云ふ都會地、或は市場ほど朝鮮人の生活は時々刻々破滅に傾いて居るのでないか。

## 三

鐵道線の擴張は必ずしも經濟問題にのみ關聯したものでない。政治上、軍治上、當然其完備を要求するのである。國境線の如きは鴨綠江上流の木材の採伐運搬等重要なる經濟的事情もあるけれど、それよりも時急の問題は國防にあるやうである。此のやうに種々の意味で朝鮮總督府はそこに一層注力するのは理由もあり當然であるが、日本の實業家の前衛部隊と異なるなき鐵道協會が、多大の興味をもつて態々朝鮮まで踏査をし、宣傳講演までして廻る理由は何處にあるか。それに因つても朝鮮の鐵道網計畫は彼等資本間と或る關係があると云ふことが分る。それが資本主義文明の特徴とする所で、道德宗教、教育等總てのものが經濟化する形勢で、政治的の構造も經濟化することを如實に證明して居るものである。

## 四

それであるから鐵道線の擴張は機械文明を高潮し、機械文明が高潮すると云ふことは資本主義がそれ

だけ高潮するのであるから、そこに商業其他あらゆる企業に自由競争が起り、大量の資本を入れて大量の生産をなす者が必ず勝利し、小資本は競争に負け、漸次没落するのが實際である。であるから今日の如き資本主義時代では、殖民地を置いて異民族を征服することは、政治的に國土の廣大、國威の遠播に止るのみでなく、生産物は少く原料は多い未開地方を要求するのである。それは自家の生産物を幾計でも供給することの出来る市場の擴張が一大原因とするからである。今朝鮮で朝鮮總督府が鐵道線の擴張に注力することになったのは、町人政治化したことを諷するもので、進歩した政治であるが、進歩した政治の支配を受ける朝鮮人の生活は、それと比例して破滅を促すことになるのである。其の惠澤を蒙るものは果して誰れであるか。

甲

## 二、朝鮮と東亞

(朝鮮日報昭和二年五月二十日付)

## 宇垣總督の聲明書

宇垣陸軍大將が、朝鮮代理總督として日本から就任するに臨み一個の聲明書を發した。

之は頗る舊臭い事で、いつも大官の進退する時には發表するものであるから、問題にする必要もなく、まして齋藤氏と宇垣氏との間に何等政治的のちがつた立脚點が無いから、之を評說するのは無用であるけれども、最近沈滞して居る所へ變動の氣分を多く持つて居る朝鮮統治の首腦者として、その聲明書は全然不問に附すべきではない。東亞の情勢に鑑み二千萬同胞の福利を増進し生活の安定を謀り」云

々「適當なる國策の遂行に猛進するの時」なることを説いた。

之は昔から口癖になつて居る文句で、又「東亞の情勢」も陳腐な常套語だ。併し其の陳腐の中にも目下は中々昔の通りにやつて行けない處があり、其の將來の變動は自ら昔日の保守的の見地を以て「獨斷」すべきものじやない。之に對して、單に「適當な國策」を遂行する爲に猛進すべきを言つたに止まり、何等明白な表示が無いのは、依然糊を含むた口元で當面を誤魔化さうとする、現代式政治家の常態たるや明かである。

「至誠と熱情とを以て二千萬の同胞に接して、其の心理と感情と慣習とを速に理解して、公正にして合理的の要求であれば出来る丈達成させること」と言つた。

兩民族の軋轢と葛藤は「心理、感情、慣習」等單純な處から來て居ることは否認する事が出来ない。随つて之に對して社交的周密を以て、兩民族の軋轢及葛藤を輕減、又は解除しやうと言ふのは一理ある企劃だ。

が併しながら權力、金力、智力の優越を以て、計畫的組織的の國民的大進出の下に、その生存の利害が互に兩立し得ないのであるから、感情や慣習位ではどうすることも出来ない問題だ。

之を概括的に見ると、土地、山林、鑛物、水産、交通、運輸及一般の商工業各種の産業及移民教育、就職、作業、研鑽、利用等各般の問題を合して、兩立する事が出来ず篩ひ落されなければならぬ冷酷な

る立場にあるのにこの程度迄の「至誠と熱情」を持つことが出来るかは、宇垣氏としても率爾に断定することが出来ないものだ。

「朝鮮の統治なるものは、帝國の存立と二千萬同胞の休戚とに關係する重大事だ」と言つた。

實際そうなのだ。だから「獨斷と空想を以て輕々に片附けべきものでない」のだ。

だから軍備を増設し、交通網を完備し、産業的支配を益々嚴固にし、日本化本位の教育を何處迄も盛にし、合理的で且組織的なる支配の根盤を固めやうとするのは、實に恐怖するに足る深謀遠慮から出て來て居るのである。

此様な日本人本位の政策は、朝鮮人の生存を加速的に脅威するもので、彼等が云つた「安定」と「福利」と「一體」が全然「獨斷」と「空想」との幻影に歸して了ふ事を「速かに理解」しなければならぬ。

## 二、産業問題

### イ、日本の人口問題と朝鮮の産米政策に就て

〔朝鮮の光〕昭和二年四月號所載

金 東 嶽

#### 一、緒言

所謂人口問題なるものは、或る一個の民族が人口の遞減に因り、衰亡状態に陥る場合にもいはれるで

あらうが、現代のそれはこれと反對で、人口の繁殖力が漸増或は激増すると同時に、その社會の生産機能で増加される人口即ち過剰人口——これを能く吸収し得られぬ場合に、始めてこれに對する態度問題が論起されるのが即ち現代的意味の人口問題である。かゝる現状即ち過剰人口問題——これは現代社會生活の必然的に生ずるところの一社會問題となつた。現下世界を通じて所謂文明、即ち資本文明の極致せるところには何者を問はず、齊しくかゝる症候に因り呻吟してゐる。こゝにその例を擧ぐれば、英佛の如き人口の繁殖力が漸次減下する状態にある處に於ても、この問題に因り苦悶してをることを我々は見てゐる。これ即ち現代の文明の極致により生ずるところの必然なる過程である。これは要するに人口の自然増加そのものが過剰人口を産するのでなく、その社會の生産機能がすでにその自體の拘束と矛盾に因りて、より以上の發展を遂げながら起るのである。しかる故に過剰人口問題の原因をその社會の生産機能の沈滞から求むることなく、過剰人口の存在を絶對的のものとして論起されるから、所謂人口問題なるものが成立するのである。現下の日本に於てだん／＼自熱的に進展されてゐる人口問題も亦かゝる在內的の原因に基由せるところが多いといはれるであらう。以下日本の人口問題に關する論議の根據と、これに對する態度問題を擧げて見よう。

#### 二、人口増加の趨勢と問題の論據

明治維新以後日本人口の自然的増加の趨勢は實に非常なる發展を示してゐる。明治初年の日本の人口

は、三千に過ぎなかつたのが大正十四年の國勢調査に依れば、これが五千九百九十餘萬となり、即ち倍數に近き數字を示すこととなつた。尙ほ昨今の形勢は從來の記録を破つて、毎年の増加率が一躍八十萬といふ數字を擧示してゐる。今明治七年より大正十二年までの出生及死亡率と、出生過率の比例を見れば次の如くである。

年次	出生率	死亡率	出生過率
明治七年—十一年	三三・五	二四・四	六・九
同十二年—十六年	三五・三	二八・三	六・九
同十七年—二十一年	三九・四	二九・九	六・九
同二十二年—二十六年	三九・四	三〇・三	七・五
同二十七年—三十一年	三九・三	三〇・五	七・七
同三十二年—三十六年	三九・二	三〇・五	七・七
同三十七年—四十一年	三九・二	三〇・五	七・七
同四十二年—大正二年	三九・二	三〇・五	七・七
大正三年—七年	三九・二	三〇・五	七・七
同八年—十二年	三九・二	三〇・五	七・七

(これは諸答答二氏の論文、我國人口論の根本問題「中より取るものなり」)

以上示した數字で日本人口の自然増加の趨勢を能く窺察し得るであらうが、過剰人口問題が最も緊張味を齎らすこととなつたのは最近に屬することである。然らば所謂この人口問題が今日の如く緊張せる

形勢を齎すこととなつた原因は何んであるか。元來日本の人口問題は只今始まつたのではない。明治年間のその問題は、過剰人口の處置を意味する人口問題といふよりは、局限された島國に於て將來増加さるべき人口を如何にすべきか、又は大和民族の發展を如何にすべきか、といふ帝國主義的意味そのものが貫されたる國策といふべきものである。最近の人口問題は從來米國及濠洲等の各地にて實施される排日法案に因り對外移民の途が斷絶され、一方人口の自然増加率が驚くべき程の形勢で激増するので、人口問題に對する態度が非常なる緊張味を示すこととなつたのである。而して人口問題に關する論議の根據は何んであるか？その主要なるものを見れば次の如く分類して述べることを得るのである。

一、出生率の激増

一、人口の密度問題

一、耕地面積と人口の比例

一、食糧品生産の現狀と人口の比例

等である。これに對して上田貞次郎氏の論文の一節を擧げて見よう、「大正十四年統計局出版の列國々勢要覽に依れば我國内地の人口五千五百九十六萬人は、その面積三十八萬七千方程に對して一方平均百四十四人に當るので、朝鮮及臺灣を加へて平均するにしても、一方平均の密度は百四十四人となるのである。これを「白」の二百四十五人、「蘭」の二百十八人、「英」の百五十人に比すれば未だ幾分か餘地がある

が、併しこれ等諸國の平坦なる地形と、我國の山岳重疊たるそれに對比せば、彼此の差は極めて少ないといはれるであらう」といつてゐる。(これは上田貞次郎氏の論文「我國の人口及食糧問題」に依るものなり)これ即ち激増する人口と、人口の密度關係を論じたる根據といはれるであらう。しかしてこの論議は更に耕地面積と人口の比で連絡せしめ、進んでは食糧品生産の現狀を擧げて、過剰人口の存在を結論することとなるのである。今その耕地面積と人口の關係を示せば次の如くである。

一平方キロメートルに當る人口數

日	本	英	獨逸	佛蘭	西	西	六人
自	義	三	佛	蘭	西	西	二人
和	蘭	三	牙	牙	牙	牙	二人
英	蘭	三	獨	逸	逸	逸	二人

これから見れば理論はごうでも耕地對人口の比は、日本が最も高度を示してゐることは事實である。だから人口問題を論ずる日本の政治家や一部の學者等は、かゝる數字を擧げて更に收穫遞減法を説き、その結論は即ち日本の現狀で、より以上人口を收容すべき餘地がないと力説するのである。次に食糧の生産及消費状態を見れば、日本人の總數は五千九百九十六萬人(大正十四年の國勢調査に依る)米の生産額は五千八百萬石、一人平均消費高は一石一斗五升弱であるさうだ。これに對して又或る論家の一例を擧げて見よう。

「猪谷善一氏の論文「朝鮮米の效用」中の一節「米の供給不足は、如何にすれば補充されるかといへば、殖民地及外米の輸入に依ることは勿論である。最近の狀態は一ヶ年の消費總額六千四百萬石に對して、内地産五千八百萬石、朝鮮米三百五十萬石、臺灣米百萬石、外國米百五十萬石なりと稱する。その中でも朝鮮米はその品質が最も日本米に近く、日本人の特殊趣味に適するのみならず、その耕作の方法が極めて幼稚で反當りの生産は内地の半分に相用するので今後改善の餘地が多い。(中略)しかし日本米はすでに集約耕作の極度に達したので、より以上増收の餘地がない。だから我々は技術上の改良よりも經濟上の改良に注意せねばならぬ」と述べてゐる。

これが即ち現下日本の食糧生産及消費状態を根據として論議されるところの人口問題の要旨である。然らばこの人口問題に對する態度、即ちその對策は何んであるか。次にその對策論の諸説を記述せんとするのである。

三、人口問題に對する對策論の諸説

現下日本の人口問題が以上列擧した諸理由に立脚せるものであることは勿論であるが、これに對する態度は區々で一々論擧し難いのである。しかしその概要を述べれば即ち以下の三種に分類し得る。一、移民奨励論、二、産業立國論、三、人口調節論等である。先づ移民奨励論に對し一考を試みて見よう。元來移民奨励論は政客流の人等と資本階級に依り絶えず唱導され、又實行される事實であるが、最近

に至つて人口の繁殖率が増加し、對外移民の途が斷絶されるに至り、この問題は一層激烈なる態度を示すことゝなつた。これは即ち以上論及したる人口問題の諸論據の點がこれ等論者をして合理的論據と道徳的勇氣を附加するやうにしたからである。移民獎勵問題に對しては過般五十二議會中に、或る代議士が朝鮮統治當局者に對し、朝鮮人移民論を提唱して應答するところあつたのを吾人は記憶してをるのであるが、所謂移民論の内面には二源の主張がある。即ち對外策と對内策がそれである。對外策なるものは實際的協調に依り海外移民の途を取らんとすることであり、對内策なるものは即ち殖民地の開拓と同時に過剰人口の移植を意味するのであるが、この兩者は何れも帝國主義的政策たることは勿論である。これに對する上田貞次郎氏の語に依れば「前略——かくの如く繁殖力が旺盛なる民族を一孤島内に制限して、海外移住の途を與へないのは唯不合理であるのみならず、世界に對して危険なることゝもいふべきものである。何故かといへば大國民が狭小なる領土内に群集して、生活資料の不足に窮迫する状態となれば、内政上に於ても外交上に於ても、永久の安泰は誰も保證し得られないことであるからだ。(中略)故に日本の人口問題は日本ばかりの問題でなく、世界文明國が協力して解決すべき國際的大問題である」といつてゐる。この語は即ち生存權の主張で、國際的協調に依り海外移民の途を取るとの意味であるらしい。しかして所謂産業立國なるものは何んであるか、これに對する上田貞次郎氏論文の中の一節を擧げて見よう。

「前略——戦争といふものは勝負を問はず悲惨なるものであることは近來歐洲諸國の經驗に依りて誰も明かに知つてゐるところであるが、戦争に依り領土を擴張せんと夢想する人は今日我が日本には一人もないであらう。こゝで海外移民を熱心に唱導する人が多くなつたのである。しかしその語に重きを置くことは出来ない。それは人種風俗が非常に異なる外國に移住する者、及びその子孫の状態は決して幸福なりと考へられないからである。現在海外に於ける日本人は、亞細亞殊に滿洲に二十七萬、北米に十三萬、布哇に十一萬、ブラジルに三萬四千であるが、日本の勢力範圍内にある滿洲は別問題として、カルボニアや加奈陀や布哇に於ては、齊しく種々の差別待遇を受けてゐる。のみならず精神的に二重の國籍をもつてゐることはそれ以上不幸である。(中略)——その代りに我國内に於て多大の人口を維持するやうに、外國の低廉なる原料と食糧を充分に分配し、又我國へ製品に對して門戸開放をすべきことである。我々は人力を外國に送つて天然の資源を利用する代りに、外國の天然力を商品として取り入れ、人力を加へるべきことである。かくの如くして職業が多くなれば、人口の多いのを憂慮する必要がない。」といつてゐる。

これが即ち商工業の海外發展で人口問題の解決策を論じたものである。即ち産業立國論の要旨といふべきだ。これにも亦二種の區分がある。即ちその一は以上紹介したる商工業の發展論であり、その一は對内産業振興、特に殖民地の開拓或は利用論である。現下朝鮮に於ける産業第一主義や、産米計劃の如きものは、即ち日本の産業政策、或はその方針に依り附隨實行されるものといはれるであらう。これに對する猪谷善一氏の論文「朝鮮米の效用」の一節を擧げて以上の説を例證せんとする。

「東洋に於ける平和維持の爲に併合されたと稱する朝鮮が、殖民地として日本に貢献してゐるのは著しい事實である。(中略)——生産政策上原料特に農産物の供給地として發展されたのである。又大正九年に至り内鮮共通の關稅制度施行に伴つて、内地の工業は朝鮮内に於ても關稅の障壁なしに外國品の競争を免れ、安全なる製品販路を獲得することゝなつたのである。しかして又朝鮮は生活程度が低劣なる爲に勞賃が低廉であり、官憲の壓迫がある爲に勞働運動の反抗がない好個の投資的工業地である。(中略)——かくして原料の供給地、製品販路、資本投下の殖民地要件に充ちてゐる朝鮮が、第一の條件に對し如何なる實績を擧げ又は擧げ得るであらうか」といつてゐる。

これは即ち殖民地の開拓及利用を力説したのである、以上の諸説を一言で蔽へば、對外的には商工業の發展を、對内的には産業の振興、特に殖民地の開拓及利用の積極的實行を意味したものである。

次は人口調節論である。所謂人口調節論なるものは、人口論の元祖マルクス亦これを唱導したところであり、近頃にはサンガー夫人に依り提唱されたところであるが、併し人口の人為的調節なるものは即ち資本主義の末期に於ける一個の變態的症狀といふべきものである。これに鈴木文治の語を擧げて見よう。

「我國に於てもだん／＼人口問題が政治上の一項目となつて取扱はれてゐるのは事實である。毎年五拾萬づつ増加してゐたのが六十萬となり七十萬となつたが我が國の政治家等は大部分が政争に血眼となつて眞に國家百年の大計は等閑に附してゐる。(中略)——私は我國に於ける幾多の社會問題の根底は、人口

過剰問題が相當に深甚なる理由をもつてゐることを看取せざるを得ない。然るにいろ／＼論議される解決策で、適確なる効果を期し難いたとへば國家は國力の充實、人心の安定、優種の保存、國際平和の立場から合理的なる人口調節問題に對し、當然積極的經綸を行ふべきものであると主張せんとする」といつてゐる。

これは多少漠然たる感がないではないが、吾人の解釋から見れば、即ち他の解決策が効果を奏せざる場合には、人口の調節を積極的に實行すべきことであるとの論法であるらしい。これに對する可否はさておいて、これに對するもう一説を擧げて見よう。猪谷善一氏はかくの如くいつてゐる。

「倍加する我が人口の増加は朝野の視聽を引くことゝなつた。(中略)——曾て人口の増加を以て國家の干城といつて祝福するが如き軍國主義的論調はすでに消滅したのであるが、人口増加の對策として移民政策を奨励するには諸説が一致してゐる。移民論者は國際協調の精神に依り、人口の密度が大なる國民は少い國土に移住すべきことを主張してゐるが、大部分が弱小國に向つて施行するのを主張する帝國主義的移民政策に過ぎない。(中略)——故に余は我が人口の數量的變革を期する前に、品質的改革の急務を高調せんとする。その改革は次の三點により必要である」。

といつて第一は結婚率の低下を主張し、第二は出生率の減下を策したのであり、第三は衛生の設備に完全を期し、以て死亡率の上昇的曲線を低下して質的改善を圖ることである。これ亦鈴木文治氏の

優種保存云々と相似の論法である。要するに一種の人口調節であると見る外はない。

以上に舉論したのが即ち日本の人口問題に對する主要なる對策論であると思ふ。勿論一部の學者中には、その根本論を擧げて正確なる批評を下した人もないではないが、筆者は以上で日本の人口問題——過剰人口の絶對論——の源流とその對策の概要を紹介したのである。以下これに對する批評を擧げて所謂人口問題の正體を明にすると同時に、朝鮮の産米増殖計畫なるものが如何なるものであるかを述べんとする。

#### 四、産米増殖計畫の根本問題

朝鮮總督府發行の「朝鮮産米増殖計畫要綱」第一章には、朝鮮の産米増殖を必要とする所以を、次の如く述べてゐる。

「内地に於ける米の消費は年額六千五百萬石であるが、國內の生産高は約五千八百萬石の産出に過ぎず、年々この不足額を内地以外帝國の版圖及外國の供給を仰ぐ現狀であり、内地の人口は年々約七十萬の増加を見るのみならず、國民生活の向上と共に一人當米の消費量も亦漸次増加すべきことは必至の勢であるから、現狀を以て推移するとせば、將來米の供給は尙ほ不足を起來すべき筈であるので、今米穀の増收計畫を樹て、帝國食糧問題の解決に資するのは、眞に國策上喫緊なる要務であると信するのみならず、外米の輸入はこれを最近の統計に見れば、年々三百萬石内外で尙ほ大正十四年には約五百萬石、

價格約一億二千萬圓の巨額に達して、我國輸入貿易中重要な地位を占めてゐる現狀であるから、帝國版圖内に於ける産米の増加を圖り、以て外米輸入防遏を盡するは國際貸借決済上至重なる影響があるべきことは亦論を俟ざるところである。更にこれを朝鮮の立場から見ても内地に於けるが如く、米及雜穀は住民の常食物であつて、將來に於ける人口の増加と生活の向上に伴ひ、鮮内に於ける米の消費量も漸増すべきことは疑ひなきところであるから、この對策として産米の増加を企圖する必要があるのは勿論、農家の主要作物たる米の増收を圖るは、現にその經濟狀態が極めて貧弱なる朝鮮の農民を匡救する捷徑であると同時に、朝鮮に於ける農民の數は全人口の約八割を占めてゐる狀態であつて、農家經濟の向上と農民生活の安定を期するは即ち朝鮮全體の經濟力の伸張を圖る所以で、朝鮮の産業開發に寄與するところ大なるのみならず、延いては朝鮮統治上に貢獻するところ亦少からざるべきものである。

しかして朝鮮の氣候と地質は到處米作に最も適當であるのみならず、耕地に在りては改良擴張の餘地が多く、現在水田の總面積は百五十五萬町歩であるが、比較的安んずる灌漑設備を有するものは僅か三十九萬町歩に過ぎず、耕種法に在りては從來所謂掠奪農法が行はれたので土地が甚だ瘠薄となり、現在の反當收量は九斗三升に過ぎない。しかし耕種法の改良を實行すれば收量の倍加を見得ることである。これが即ち朝鮮の産米増殖を必要とする根本問題であり又その可能性のあるところを述べた要旨である。



これで産米増殖計画なるものが如何なるものであるかを窺ひ知ることが出来るであらうが、以下その計画の内容に對して概要のみを摘記せんとする。

## 五、産米増殖計画の内容

所謂産米増殖なるものを廣義的に解釋せば、從來の産業政策もこれ亦一種の産米増殖の政策に過ぎないものであるといへるであらうが、現下の所謂産米策は從來のそのものと互にその根本的意義を異にするところがある。從來の是等政策はその主眼が大概技術的改良であつたのに反して、現下のそれは更に一歩進んで經濟的経略とまで躍進したのが即ちそれであるといへるであらう。更にいへば從來主としたる品種の改良と、耕種法の改良等即ち中農本位の政策が、今に至つては大規模の灌漑施設と耕地の整理等、即ち大企業家本位の政策となつて、その武歩を進むることとなつたのである。これは要するに現代の資本主義が金融資本の過程に推移されるに従つて、必然的に起るべきところの過程といへるであらうが、かかる政策が朝鮮の農村に對し、果して如何なる影響を與へるべきものであるか、これに對しては吾人の一考を要するところである。しかしこれは後論に任かして、先づこの計画の内容を擧げて見やう。

(一)土地改良 これは大正十五年以降十二箇年(完成十四箇年)を期して三十五萬町歩(内譯は灌漑改善十八萬五千町歩、地目變換九萬町歩、開墾千拓七萬五千町歩)の土地改良を施し、これに要する資金はその總額三億三百二十五萬圓でその構成する方法は企業者の調達豫定額三千九百四十八萬圓と政府

の助補金六千五百萬圓と一億九千八百六十九萬六千圓の低利資金を以て充當せしめ、低資の調達はその半分即ち九千九百三十四萬八千圓は大藏省預金部から殘餘の半分は東拓及殖銀の社債を以て充當する計畫である。

(二)農事改良 これは専ら施肥の獎勵を主とするもので内譯は二種に分けてゐる。その一は即ち本計畫施行以前にすでに灌漑の設備が完全なる水田三十九萬町歩と、土地改良を施すべき三十五萬町歩、合計七十四萬町歩に對し、販賣肥料の資金として三千七百萬圓の供給をすることであり、その一は前記七十四萬町歩に對し自給肥料と、その他農業上必要な資金として三百萬圓の供給をすること等である。これ即ち産米増殖計畫なるもの、骨子である、かゝる計畫の下に十四箇年を費して完成となるときは、約八百二十萬石の米の増收を得る豫定である。しかして八百二十萬石の増收は次の如き計算を以て成立されたのである。

(一)三十五萬町歩の土地改良に依り約二百八十四萬石

(二)土地改良地域に對し施肥及耕種法の改良に依り百九十二萬石

(三)土地改良を施行せざる百三十九萬町歩に對し耕種法改良に依り約三百四十四萬石

(以上資金構成及用途年次別内譯は略す)

## 六、土地改良事業と實際問題

以上に示した内容で見れば、三十五萬町歩の土地を改良するに因り、得るところの收穫は二百八十萬石である。これを總増收豫想高八百廿萬石に對比すれば僅かに三割四分に過ぎないのである。然るにこれに費す經費は三億餘圓を計上してゐる。これを八百廿萬石増收計畫の總經費三億五千餘圓に對比すれば實に八割五分以上を示すとゝなる。更にいへば八百廿萬石の増收計畫の總經費三億五千餘圓の八割五分が三十五萬町歩の土地改良資金に獨占されてしまふのである。これは即ち企業家がそれ程獨占するを意味するのである。然るに所謂企業家の調達すべき程度を見れば、三千八百萬圓即ち政府補助金六千五百萬圓の六割に過ぎない。これが計畫そのものゝ爲に絶対必要なるものであるといふかも知れない、が本計畫が徹頭徹尾少數の企業家本位に偏したるものであるといはざるを得ない。故に猪谷善一氏の論文「朝鮮米の效用」中次の如き一節は本計畫の缺陷と裏面の一部を如實に述べたものであるといはれるであらう。

「前略——産業第一主義で産米増殖計畫を樹てたものは故下岡政務總監であつた——中略——その計畫施行の技術上に在りて、又は分配に及ぶところの悪影響に對して必ずしも樂觀し難い——中略——分配上弊害の第一はこの計畫に依り大地主は厚く小地主は薄く保護されることである。先づ土地改良に對していへば、その施行は必ず水利組合を主とするであらう。水利組合は大正九年の大地段(大面積)改良補助規則に依り、既成水田の灌漑改善は二割以内、地目變換は二割五分以内開墾干拓(番)は三割以内の補助金を交付し、又今度の低利資金の供給を受けることゝなつた。しかし長期の計算を必要とする土地事

業である程、事業開始後直ちに利益を擧げられないことであり、土地改良に依りて増收されるものは組合費を報償するにも足らぬ場合が多いであらう。然るに組合の經費は大小地主が同等であるから負擔力が貧弱で、長期の計算に堪耐することの出来ない小地主に對しては水利組合が一個の稅務省である。——中略——又農事改良に對しても、その低利資金の利率は大地主には低く小地主には高い。大概大口資金に對しては東拓や殖銀が大地主に直接調達をするが、小口資金は金融組合をしてこれを行はしめるのである。さうして貸付利率は後者が集金手續の複雑である程、前者よりは高率を要することゝなるのである。

かくの如くして内地の食糧問題解決の美辭の下に運用される低利資金は、結局大地主の利用するところとなり、時には破産に傾く大地主が生ずる現象を呈すべきであり、小地主は輕視又は無視されて終末には土地を投賣して小作人化する外他に途があるまい。——中略——又技術上にも若干の問題がある。水利組合の如きものは餘り大規模に逸してはいけない。何故に土俗に立脚して部落を利用しないかといふのは余の持論であるが、當局は一水利組合中に部落的土地改良契を多數に設置して連絡を取らしめるべきであり、又肥料政策に在りても大豆粕、硫酸アムモニア等販賣肥料に餘り注力して農家の生産し得る厩肥を比較的輕視するとの非難がある。——下略——以上猪谷善一氏の所論に對し、吾人はそれを無條件に是認するではないが、何しろ朝鮮の産米政策なるものは餘りに企業者本位に偏したのであり、從つて小地主、小農民の利害を無視する場が多いのは事實である。吾人は今更に黃海道に於ける安寧水

利組合の例を擧げて述べんとする。安寧水利組合の事業の内容を見れば、それは結局蘆田三千餘町歩の起墾をする爲に設立されたものであるらしい。これが爲に犠牲となる既成の田畠は千餘町歩（貯水池に編入される直接被害地）に達した。又將來貯水池に因りその流域一帯が何等かの對策がない限りは、又復被害を免れ難きことは今から想像するに足るところである。しかもざれば數千町歩の熟田（既成田）は三千餘町歩の蘆田に因り荒廢に歸し、數千戸に近きその地方住民の生活は、蘆田の所有者たる企業者數人に因り全然その根據を失ふこととなるのである。元來現代の事業なるものは企業者を中心とし、又企業者の利益打算に依り決定されるものであること所謂資本主義の常道といへるであらうが、これに因り生ずるところの凡ゆる社會的影響は實に甚大なるところである。然らばどうして誠意あり又は責任ある政策といへるであらうか。故に安寧水利組合の一例から見ても、又は事業費の例から見ても、現下の所謂土地改良事業なるものは只管大規模を飾つて、企業家の地位利益のみを主として實際を輕視するのみならず、一般民衆生活に及ぼすところの不好なる影響は毫も考慮をしないのが事實である。この一例としては安寧水利組合貯水池區域内の住民に對して、當局は何らの對策がないことである。然らば所謂「朝鮮農民の匡救」なる語は實際にありて美の假面に過ぎないものであることは疑ふべき餘地もない。

#### 七、産米増殖と朝鮮農村

朝鮮の産米政策は猪谷氏の指摘したところの如く、大地主に厚く小地主に薄く保護することは、實際

事情に照して瞭然たる事實である。然らばその結果は如何になるであらうか。これは殊更いふまでもなく小地主の没落といふ結果を促進せしめるであらう。

現下朝鮮に於て、所謂土地兼併なる事實は、最も著しく進行しつつある現状である。これは現代資本主義の必然な歸趨であつて、こゝにその數字を擧げて例證しなくとも、世間の是認するところである。尙ほ今後土地改良の如き大規模の土地經營が實行されるればされる程、風前の燈火の如き小地主の運命は、加速度的に没落され、従つて農村疲弊の實狀は、猶一層深化されるべきである。元來産業が開けてゐないところ、所謂資本主義的施設が、産業それ自體の爲に極めて必要であることは、吾人も知らないところではない。しかし現下朝鮮農村の疲弊の原因を見るに、勿論一二問題に止まるところではないといへるであらうが、何よりも主要なる原因は、未だ封建時代の領域を脱してゐない朝鮮の農村が、急激なる資本主義的發展力に因りして、その自給經濟の地位を維持し得ず、従つて農村の中堅である中農階級の没落が、だん／＼増加する反面に、所謂土地兼併の事實が促進されるのみならず、地主階級の搾取もこれ亦益々甚酷となるにより、農村疲弊の度は漸次深化されることといへるであらう。故に朝鮮の農村に於て、土地兼併といふ事實はこれ亦一種の必然的といへるであらうが、一大毒素といはざるを得ない。而して産米政策なるものは以上述べたるが如く、企業者本位に偏するところ多く、中農以下の階級に重きを置かないのは事實である。しからは朝鮮農村に對し、不好なる影響なきを保證し得るであらうか？況んや企業者なるもの

が即ち資本閥である以上、資力もなく又資本の背景もなきものに於てをや。故に産米政策なるものが、勿論朝鮮の富を能く増殖し得るであらうが、朝鮮人の富の増進は期し得られないとであり、又階級的富の増進を促進するには足るであらうが、普遍的實益には薄弱なるものであると吾人は信ずるところである。

#### 八、食糧問題の實際とその意義

朝鮮の産米政策の根本意義が、日本内地の食糧問題を解決するにあることは、すでに前述したところであるが、所謂食糧問題なるものが、必ずしも米の生産自足に限る問題でなく、又人口對生産力の比から出發する問題だとすれば、人口問題乃至食糧問題それ自體に對して、又はその對策たる朝鮮の産米政策に對して、もう少しその内容を索考すべき必要があるものと思ふ。

元來人口問題なる——過剰人口問題——はすでに概述したところの如く、過剰人口の存在を前提とするに於て始めて成立する問題である。これはマルクスの唱導した、所謂人口論がその代表的であるといへるであらう。しかしマルクスの人口論はその後多數の學者に依りて訂正されたのみならず、今に至つては殆んどその價値を失つてしまつた。然るに今日に至つても尙ほその根據とする、又はそれと類似なる觀念的の人口論に立脚せる人口問題が往々論議されて、世間の視聽を刺戟するのみならず、帝國主義の追隨者に道德的勇力を附加する傾向がある。その是非は後論するであらうが、スベンサーのいつてゐるところの「個體の發達は生殖力を減少せしめる」との事實は現に吾人の目睹するところである。文明の進歩した英

佛の例がそれであるといへるであらう。人類は漸次繁殖さるゝのがその生殖的原則といはれるけれど、それが決して絶對的のものではない。故に一時的又は偶發的の現状をそのままに前提として人口問題を述べんとするのは妥當とはいへない。而して人間と食物の關係にありても、マルクスの如きは人間の生殖と食物の生産は、絶對に平行出來ないものといつて、所謂幾何級數的増殖と算術級數的增加といふ原則を唱導したが、夫は實に人間の歴史的社會形態の下に於て、絶えず生産力を發展せしめる能力を否定したる論法である。これは煩論するまでもなく、マルクス以後只今までの社會の實狀がこれを證してゐるのではないか。従つて人間の生産技能は或る限度に局限されたのでなく、その生活上の要求又は必要に依り無限に發展し得ると同時に、スベンサーの述べたるが如く「人口は永久に生活資料以上に増加するので、人類の進化に伴つて人口は自ら生活資料と均衡を保つのである。これは勿論人間それ自體が生活資料と均衡を劃することとでなく、人間の社會的生活そのものが有機的作用に依り自ら均衡を保つたことを意味するのである。故に人口の繁殖と生活資料との關係は、決して絶對でなく相對的である。然るに現下日本に於ける人口増加の趨勢と産業との状態を見れば、上述したる例を脱するところがない。一例を擧ぐれば、明治二十二年に人口一萬以上居住する都會市の總人口は、六百二十一萬人であり、大正十四年のそれは一千五百六十萬で、同年間に増加された總人口數一千九百萬人に比すれば、約八割に近き人口が都市に吸収され、殘餘の二割といふ人口が農村に吸収されてゐる。然らば都市に吸収された人口は即ち直接食

糧生産に吸収されたものでなく、總て工業方面に吸収されたものといへるであらう。これは即ち國際貿易が發達した今日にありて、それ程人口の生活資料が農業以外の生産から提供されることをいふのである。然るに今日人口問題を論ずるのは、その反面に農業はより以上發展の餘地なきことを意味するのである。しかし現下日本の生産は果して絶頂に達したといへるであらうか？一般産業にありて未だ英佛の如き先進文明國に比しては發展の餘地がないのではない。又農業にありてもさうである、明治年代の農産の増加と、人口増殖の比例を見るに大概平行されて來た。現下日本人口五千八百萬に對する米の生産五千八百萬石は常に平行して來たる數字である。しかして米の消費問題に對して見れば、現在の消費量は總數六千五百萬石で、一人當一石一斗を要することゝなつてゐる。しかし人口總數五千八百萬の中には、一歳より十歳前後の幼年が約二千五百萬、六十歳以上の高齢者約五百萬、合計三千萬といふ多數ものが包含されてゐる。然らばかゝる老弱者まで合せて、一人當一石一斗なる食糧は決して不足するものでなく、反つて超過するところが多いので、壯年一人當消費高は一石二斗で足りべきである。この數字には直接食糧に消費されない、例へば製酒原料に消費するもの等を合算したのである。故に現狀に於ては、日本の人口問題はさ程切迫せる問題でないといへるのであり、又生産にありても、最早集約的耕作の極に達したので、より以上生産を得られないといつてゐるが、しかし専門家の指摘するところに依りても、現下日本の農業上の生産技能は決して極度に達してゐないらしい。故に現下の食糧問題は、食糧それ自體の切迫に因り論

起されるといふよりは、その第一義が食糧問題の將來の爲にするところであり、又一朝有事のときを豫備するのではないかと思ふ。往年歐洲大戰に當り、獨逸の前鑑は實にこの食糧問題、即ち食糧自足の必要を痛感せしめたところである。而してその第二義とするところは何んであるか。これは即ち所謂資本移出の必要から論起さるゝ産業政策である。從來蓄積經濟時代にありては、原料の吸取を主眼としたが、これが一度經濟的獨占の過程を踏むことゝなるに従つて、更に尙ほ積極的行動を取ることゝなるのである。これは資本主義發達に必要な過程なりといへるであらうが、現下朝鮮の土地改良事業に在りても亦その例から脱しないのである。即ち第一日本は金利が低く勞賃が高いのに反して、朝鮮は金利が高く勞賃が低いので、凡ゆる企業上極めて有利なところが多いから、日本の資本が朝鮮に移出するのは必ずの勢である。従つて朝鮮の土地改良事業は、その第一義が食糧問題の解決にあるといつても、主なる目的は日本資本の移出を必要とするにあるのである。これは特に看過し得られないところである。

〔附記〕本文は社會主義者の立場から朝鮮の産米計畫を論じたのである（譯者）

#### □ 産米計畫を中心とする朝鮮農政の大綱

（昭和二年中外日報）

（朝鮮人の利害關係一考）

産米増殖計畫といふ標語はすでに世人に熟知されたことである。しかし一部専門家の外にはこの計畫が如何なるものであるか解得するものがなく、のみならず解得せんとするものもないらしい。朝鮮の土地を利用し朝鮮に於てする一個の農事計畫を、朝鮮人が知らぬといふのはつかしいこと、いはざるを得ないが、かくの如く知らなくてもゆける程その計畫が、我々の間に等閑視される事情から特殊なる現狀であるといはざるを得ない。朝鮮人が知らぬ間に朝鮮に於て行はれる産米増殖計畫？これがどれ程冷笑すべき材料となるのか、又我々はこの計畫の内容を解得するとしても、その解得するを以て我々に何も有益となるのではない。しかしその内容が我々に物質的に〇〇を與へるのほさて置いて、精神的にまで絶望を與へるにしても我々は必ず解得せねばならぬことである。それはその計畫が朝鮮の地上に於て行はれることであり、我々が朝鮮人であるからである。しかしその計畫を云々せんとすればその計畫が説明して呉れるのを解得し得べき準備が必要であらう。更にいへば我々は先づ朝鮮農業の根幹たる農家の戸數や、耕地の狀況や主要産物産額やを知らねばならぬことであり、その次には所謂當局の農業政策を理解せねばならぬのであらう。然らば吾人は順序に従つて先づ前者から大略いつて見よう。

朝鮮の耕地は曩にも言つたところであるが、番百五十七萬町歩、田約二百八十四萬町歩、火田約十六萬町歩、合計四百五十七萬町歩で、これから産出される主要農産額は米約千五百萬石、麥類一千萬石、豆類六百萬石、粟五百五十六萬石、諸雜穀四百萬石、及びその外特殊農産物で、棉一億三千萬斤、麻類

五百五十萬貫、蠶繭十萬石である。

然るにかくの如き農産物はどんなに消費されるのか？その大部はこれ亦朝鮮内に於て消費されるといはれるであらうが、日本その他外國に輸移出となる額も毎年増加される趨勢を示してゐる。その大約を舉ぐれば、米五百萬石、大豆百五十六萬石、小麥十萬石の外、加工或は特殊産物で、繰棉一千二三百萬斤、果物九十萬圓、人蔘二百五十萬圓、煙草百三十萬圓、繭十萬石、生絲二百七十萬圓である。更に農産物の生産額と輸移出額を見れば左の如くてある。

年 度	一、農産物生産額		年 度	二、同輸移出額	
	生産額	指數		生産額	指數
明治四三年	三三、七三三	一〇〇	大正六年	七〇、七三三	二〇九
同 四四年	二五、二五四	七四	同 七年	一〇九、七三三	三二二
大正元年	四三、一〇七	一二八	同 八年	一〇九、三〇〇	三二〇
同 二年	五八、一五三	一七三	同 九年	一四三、七七一	四二七
同 三年	四八、八六六	一四六	同 十年	一四七、五五四	四三九
同 四年	四六、七六〇	一三七	同 十一年	一四七、七三七	四四〇
同 五年	五〇、二五五	一五二	同 十二年	一六六、七〇〇	四九四
大正十三年	一、二六六、〇三三	三、七三三			

年度	輸出額	指数	年度	輸出額	指数
明治四十四年	三、七六	100	大正七年	六、六六	七五
大正元年	一五、八四	三三	同八年	一四、六五	一三〇
同二年	一四、四六	三八	同九年	一四、〇四	九四
同三年	一七、〇五	三三	同十年	一五、三三	一三〇
同四年	一七、〇三	三〇	同十一年	一七、三三	一三三
同五年	一七、〇三	三三	同十二年	一六、三六	一三三
同六年	一七、三三	三三	同十三年	一六、五八	一三三

以上の数字に依れば、生産額は十五ヶ年間に五倍の増加を示し、輸移出額は十四ヶ年間に二倍増加されてゐる。これは農産物の数量でなく、物價で換算したのであるから、十四五ヶ年の間に、農産物の價格も騰貴されたのを考へねばならぬであらう。何しろ茲に於て讀者の注意を要することは、我々の農産物で輸移出されるものゝ内で、米の五百萬石なるものが全部日本に輸移出されるとの事實である。然るに前記の如き耕地から、前記の如き農産物を産出する農民は幾ら程あるのか？ 農家か八割以上である戸數でいへば、約二百七十萬戸になるのである。かくの如く全人口の八割以上が農業者であれば、我々には尙農事に對する所謂當局者の政策的施設に對しては深甚なる注意が必要である。農事に對する所謂當局の政策、これは論ずるにも甚だ困難なことである。しかし簡單に言へば一言で足りる。モウ少し委細にいへば朝鮮といふ國がどうして日本人の統治を受けることゝなつたのか、その

遠因を言はねばならぬことであり、従つて日本人の食糧問題がどれ程急迫してゐるのか、又は朝鮮農産物の中に食糧品作物の生産を、消費率で判定する近因を言はねばならぬであらう。しかし吾人は前者即ち政治的意味の遠因論は茲に於ては云々せぬ。たゞ後者即ち日本人の食糧問題と朝鮮産米の關係を、更にいへば現實に依る近因論のみを述べんとするのである。然らば何よりも先づ日本の産米額とその需給狀況をいふ必要がある。先づ昨年即ち大正十五年度の日本米實收高を見れば、作付反別三百十五萬八千四百三十六町四反歩（前年に比し四千五百九十八町七反歩増）實收高五千五百五十九萬一千二百九十石（前年に比し四百一十二萬二千四百九十四石減）て昨年は大凶作であつた。然らば日本人は毎年どれ程食糧を要するのか、更にいへば五千五百餘萬石なる米を以て食つて活きることが出来るのか、然らざれば足らぬのか？ 足らぬといへばどれ程足らないのか？ 茲に參考として本年度日本の米需給豫想を見れば、

△昨年度實收高	五千五百五十九萬石	△臺灣米移入豫想	三百萬石
△端境期繰越米	五百九十四萬石	合計	七千三百萬石
△朝鮮米移入豫想	五百五十萬石		
以上の供給高に對する需用高豫想は、日本内地消費六千八百六十五萬石（推定人口六千五百四十四萬人每人消費高一石一斗三升四合）			
輸移出豫想高	五十萬石	合計	六千九百十五萬石

であつて餘の八十八萬石は端境期に繰越となるべきものである。この端境期米の薄弱から生ずる危険を免れんとせば如何にしても外國米四百萬石は輸入せねばならぬことになつてゐる。これに因り日本政府ではすでに外米輸入の關稅を撤廢した事を附記して置く。

前記日本米生産高の需給狀況に依り、讀者は既に日本の食糧問題がどれ程急迫してゐるかを推想し得るであらう。しかしもう少し委細にいへば、昨年は凶作であつたからこれは例外として、最近五ヶ年の平均收穫高五千七百六十三萬石を比較せば、結局現狀でさへ見ても一千二百萬石は足らぬといわれるであらう。この不足に對する補充は朝鮮米五百五十萬石と、臺灣米三百萬石があるのみで、其の他約三百萬石は外國米の供給を受くる外他に途がないであらう。これから見ても日本の食糧問題と朝鮮米の關係が唇齒の間より尙密接であるのを知り得ることであり、従つて所謂朝鮮當局者の農業政策が那邊にあるのか、これは問はなくても解得するに足ることである。しかし吾人は議論が推想的になりやせんかと常に憂慮するものである。だから茲に當局者の所謂方針として表掲した處を列記し、以て上述したことを明にせんとするのである。然らば彼等の表掲した方針は何であるか。

一、食糧品の生産を増殖すること 二、輸入農産物に對して出來得る限り自給を圖ること 三、内地及隣接國に對し輸出すべき餘地のある産物は、改良増殖を圖ると同時に朝鮮内の消費を節約し、以て輸出額を増加するに重きを置くこと

吾人はこの三項を見れば第二項はさておいて一、三項の文面に依り「朝鮮に於て米の生産を多く増殖せしめ、そうして朝鮮に於ては多く消費せざるやうにし、出來得る限り日本に輸出されるやうにすること」であるとの意味を見ることが出来る。即ち當局の農業政策をいへば「日本の食料と工業原料を供給するのが朝鮮農業政策の根本方針である」といはざるを得ない。

## 二

所謂朝鮮當局者の農事政策なるものは上述したところであるが。しかし彼等は如何なる手段と方法を以てこの政策を遂行せんとするのか。産米増殖計畫なるものがこの政策の實現を期するに最重大なる手段であることは勿論である。だから産米増殖計畫は朝鮮農事政策の因であると同時に果となるべき至重なる事業である。毎年少くとも一千萬石以上の食糧が足らぬ日本の、唯一なる穀倉が朝鮮であると同時に、朝鮮農政上最も重大なる事業が産米の増殖であることは、贅言する必要もないところである。然らば日本人の生命を維持せんが爲に、日本人の手で樹てられたる所謂産米増殖計畫なるものは、如何なる内容を持つてゐるのか。

この計畫の内容を述べんとせば、先づ韓國時代より、この計畫が實施される以前(即ち大正十四年)までの朝鮮耕地の狀況と、所謂當局者の準備的施設を一瞥する必要がある。

朝鮮は古來より農業を以て産業の大宗とし、各種の産業的施設が悉く農業を以て基幹としたことは更



に云ふ必要もないのであるが、李朝初葉までも爲政者は水利灌漑に留意する所あつたので、その結果各道に堤堰や沢を修築し、一時は堤堰六千沢二萬を算したのである。しかし李朝中葉以降に至り政治が紊亂し、従つて水利施設は全く荒廢となり、應急的の設備に依りて僅かに灌漑し得るものが、番全面積の二割に過ぎず、その餘の八割以上は、天水の多寡に豊凶を委して來たのである。かくの如き現状を見た日本の爲政者等は、明治三十九年より當時韓國政府をして水利組合を獎勵するやうにしたが、成績を擧げる以前に時局は一變して、朝鮮といふ地域は完全に日本の支配を受けることとなつたのである。所謂總督府なるもの、設けられた以後の施設を略記すれば左の如くである。

一、土地調査の完成 從來より朝鮮には地籍制度がなく、土地所有權は極めて不確實なる状態にあつたので、明治四十二年より土地調査を開始して、八箇年の間に(大正六年に至り)全朝鮮の調査を完了したのである。しかし林野は土地調査の範圍外であつたから、大正八年より更にこれが調査に着手して大正十三年に完了したのである。

二、國有未墾地貸付及付與 干潟地河邊又は山麓は民有でない耕作すべき土地が多くあるが、未だ確實に調査されてゐないので、國有未墾地の面積は明確に知れないが、概測に依りて干潟地廿餘萬町歩、河邊荒蕪地三萬餘町歩であり、その外山麓傾斜地の面積は知れない。しかし當局はこの未墾地の利用法を發布した。そうして未墾地を一定の期間貸付し、事業成功の後には無償、或は有償にて貸付を受けたる

者に付與する途を開いたのである。かくの如き法令が發布されるや、間もなく利權に着目してゐる日本人の資本團は、朝鮮の未墾地占領を始めたのである。近日に至り朝鮮人も始めてこれを悟り、従つて各地に於てこれの貸付に對する紛争も起ることとなつたのであるが、今に至つては晩時の嘆を免れない。かくの如くして貸付したる面積は、大正十四年末までに十萬二千町歩に達してゐる。これが貸付を受けたる者は、殆どその全部が日本人であることは更にいふまでもないところである。然らば所謂貸付を受けたる者等は、その十萬二千町歩の未墾地を齊しく開拓したのか否かである。これは大正十四年末の統計に依れば事業を完了した面積は僅かに一萬一千町歩に過ぎない。

我々はこの數字を見るときに尙ほ「貸付」なる二字を以て即ち利權の二字を聯想することとなり、依てその利權が悉く誰かの手許に入つてしまふものであると考へる際、氣塞かれるのを禁し得ない。(貸付に對することは一少し具體的に論ずる必要があるが、後日更に論ずべき機會を待たんとするのである。)

## 三

三、堤堰と沢の修築 在來の主要なる水利灌漑の設備としては、堤堰と沢があるのみであつたが、その數は堤堰六千餘、沢二萬餘りであつた。しかしかくの如く多くの堤堰と沢は、殆ど全部が荒廢されて利用に不適となつたので、總督政治以來地方廳の調査設計と國庫補助と所謂蒙利者(朝鮮農民)の出役で、これが改修に努力した結果、大正八年までに修築されたのは、堤堰一千五百ヶ所、沢四百四十ヶ所

で、その灌漑の面積は五萬一千町歩に達した。然して大正八年以後は、この事業を全く地方廳の財源に依りて助成せしめることゝなつた。その面積は未詳であるが、相當多くなつたのは勿論であらう。

四、水利組合の設立及助成 韓國の末年に水利組合條例なるものを發布したが、當時は種々の事情に因りて見るべき成績はなかつたのである。だんく、日本人の農業移住者が多くなり、且つ大規模の農事經營者が増加されるに従つて、大正六年に至り現行の水利組合令なるものを發布した。しかし水利組合を設立するには、事業の調査設計の完備が必要であるのみならず、これに因りて多額の經費を要し、且つ相當なる技術者を雇入する等の困難なる事情が多くある。だから所謂當局の獎勵も無効となり、日本人等もこの事業に着手するものが少くなつたので、事業の物興は稍不振となつた。而して當局者はこれに對し各種の研究を重ねた結果、如何にしてもこの事業を物興せしむる爲め、大正八年四月に水利組合補助規定を制定して、事業の調査計畫を政府で施行すると同時に、工事費補助として事業費の一割五分以内を國庫より交付することゝなつた。かくの如く直接間接に補助する途が開かれることゝなるや、各地に水利事業が後を繼いで起り、大正十五年四月末までに七十七ヶ所の組合で、蒙利面積十一萬二千三百餘町多に達した。

然るに水利組合は未墾地等の貸付問題より以上の大問題となつてゐる。各地の水利組合の爭議は毎日絶えず吾人に朝鮮人と日本人との利害衝突を知らして呉れるのである。利害衝突！この點から見る水利組合の是非(可否)を述べんとせば實に限りないものである、しかし茲に於ては産米計畫の諒解のため参考となるべき輪廓のみを論ずるのであるから水利問題の細論は貸付問題と共に保留せんとする。

五、開墾事業補助 開墾干拓事業に對しては、水利組合に屬する灌漑設備の工事費に對し、前項の補助を爲し、且つ國有未墾地の貸付又は付與以外に、一般的助成の施設はなかつたが、大正八年の夏期甚たしい旱災があり、その中、京畿、黄海、平安南北の四道は最も悲惨だつたので、その地方の被害民を救済する一途として開墾事業を経営するものに對し、相當なる補助金を交付することにして、その旱害の救済期間たる大正八年十一月より翌九年六月までの間に、交付したる補助金の總額は約四十五萬圓である。この一の事實さへ見ても、所謂當局が口實さへあれば國庫費を支出して、開墾事業や水利事業に熱心に補助を與へんとする心事を窺ひ見ることが出来る。吾人の考としては、四十五萬圓といふ巨額を以て四道の窮民を直接に救済したならば、もう少し救済の効果があつたかも知れない。しかし所謂當局者の眼中にはかくの如くするのは單純なる消費の如く見ゆるのみならず、この機會に乗じて一錢でも日本人の企業者に利益を與へんとすることである。たゞ朝鮮人は日本人の受けたる利益の残滓や糟粕を受けるのみで、救済といふ馬鹿らしい語を聞くことになつたのである。實はその残滓や糟粕でも無償でなく、立派な勞力を搾取された後の代償である。

以上の各種の施設に依りて、所謂産米増殖計畫が實施される以前、即ち大正十四年度末までに灌漑設備

が完全になつた番の面積は(一)堤堰や沢に依るものが二十七萬餘町歩(二)水利組合に依るものが十一萬一千餘町歩(三)私人企業の新設工事に依るものが一萬二千餘町歩で合計三十九萬餘町歩(未完成の工事を含む)に達してゐる。しかし未だ番の全面積に比すれば二割五分に過ぎない状況である。

かくの如く飽なき努力によりて開拓さるゝ朝鮮の農地は、だん／＼良田沃土となつて行く次第である。しかし讀者よ？我々はこれが誰の手によりて、誰の爲になることであるかを更に深く考へねばならぬことである。

筆者は以上の如く、所謂當局の農事施設に就てはその大略を簡單に述べたのである。しかしこれ位の施設では、到底日本の食糧問題を解決し得ないことは、讀者に於ても推想し得るであらう。こゝに於て所謂當局も産米増殖は、農事の改良のみではその目的を達し得ないことを知得し、以て農事改良の基礎となるべき耕地の改善擴張を圖らねばならぬとの考慮をすることになつた。幸か不幸か、朝鮮には土地改良事業を經營すべき土地が充分あるので、彼等は今産米増殖計畫なるものを樹てることになつたのである。然らば朝鮮内には改良して番に利用すべき土地がどれ程あるのか。これに對して當局に於て調査した豫想面積は。

現在の番をして灌漑設備を改善し得る土地四十萬町歩、現在の地をして番に地目を變換し得る土地二十萬町歩、荒蕪地干渴地を開墾干拓して番になすべき土地二十萬町歩で合計八十萬町歩であるが、

この豫想面積推定の基礎は次の如くである。

一、灌漑改善 約四十萬町歩 現在の番百五十四萬五千町歩の中に灌漑の便ある三十三萬五千町歩を除き、殘餘の百二十一萬町歩の約三分の一を改善し得べきものと見たのであるが、往年土木課に於て實地を踏査した概測の結果は、十三箇大河流の流域内の連耕二百町歩以上で、改良上有望なりと認定されたものが二百九ヶ所、その總面積が二十二萬五千九百町歩になるから、前記流域の内にて二百町歩以下のものや、その流域以外にて改良すべきものを詳細に調査するならば、少くとも其の倍數即ち四十五萬町歩は能く改良し得るとの推測の下に於て、灌漑改善の豫想面積を前記の如く四十萬町歩としたのであると。

二、地目變換 約二十萬町歩 現在の田總面積約二百八十萬町歩の約百分の七を豫定したのであるが、これは日本に於て開墾助成法を制定した當時に、農商務省の調査した土地改良三十年計畫にも日本の開墾比率を田總面積の一割と計算したのであるから、茲に百分の七と計算したのは最安全を期するが爲である。

三、開墾干拓 約二十萬町歩 開墾し得る河邊荒蕪地は總計約七萬四千町歩であるが、當局は將來治水事業進行上防水工事の施設を要するので、この計畫には右工事に關係なく耕地に利用し得べきものが約三萬町歩であり、又沿岸干拓地の推定面積は精確なる數字をいふことは六ヶ敷のであるが、從來の

踏査又は概測に依りて比較的容易に工事を施行し得るものと認定されたのが約二十一萬町歩である。この二種を合して二十四萬町歩の中に約二十萬町歩のみをこの計畫に入れたのであると。

これに對する所謂當局の報告書の中から一節を原文のまゝで紹介すれば、

「惟ふに帝國の食糧政策の解決に資するが爲に、急速なる産米増殖の方途を策せんとせば前記に對し速に改良事業遂行の爲に一定の計畫を樹てる必要がある。しかし大正九年以降三十年を期して前記の改良事業を遂行する方針の下に、先づ向後十五ヶ年の間にその約二分の一に對し改良事業を完了し、一面耕種法の改良に對しても一層獎勵を加へ、以て九百萬石の産米増殖の計畫を樹立する……」

讀者は茲に引用した文句に依りてこの所謂産米増殖計畫なるもの、根本精神を知得するであらう。しかし當局は爾來着々事業の進捗を圖つてゐることは勿論である。しかし計畫の當初に企圖したる事業實行の機關がよく實現されぬのみならず、一方では金利が高く物價が昂騰したので事業費が多くなり、政府の助成は低率であつて企業者等は採算が困難となる等各種の障害により、實行以來大正十四年まで六ヶ年の間に成功豫定の面積は約九萬町歩に過ぎず、事業の進展が豫定の如くならないので、當局は速に對策を講究する必要を認め、更に從來計畫の一部を更新して低利資金の斡旋供給等更に凡ゆる獎勵實施の方針を定め、以て大正十五年以降その實行に着手することとなつたのである。これか即ち近日やがましくいはれる産米増殖計畫の始まりである。

## 四

然らば所謂大正十五年以降の産米増殖計畫なるものは如何なるものであるか。次に項目を分けて略述せんとする。

一、耕地改良擴張基本調査 朝鮮には既に述べたる如く、灌漑改善地目變換及開墾干拓を爲し得べき土地が非常に多く、近來米價の昂騰するに従つてこの事業に投資せんとする者(日本人)も多くなつてゐるが、かくの如き企業には先づ事業を經營すべき適地を捜査するに少からざる費用と努力を要するので、一般企業者の勇氣を沮喪することが多く、又假に事業を計畫する場合にも各事業の緩急と事業地の連絡がその宜しきを得ざれば、事業の經營上不利なる點が多くなるのであらうから、當局は彼等の便宜を圖るために、先づ朝鮮全土に亘り、山麓傾斜地、河邊荒蕪地、干潟地等で將來耕地に利用し得るものに對して、その所在面積及利用方法を調査して開墾地に對しても用水過不足の程度、用水源、及その利用方法を踏査して、その結果に依り事業の實行計畫を樹て、工費と收支等の概算を適示し、以てこれを一般に公表して企業者の促進を圖ることとした。さうして大正九年より大正十四年度までに調査したる面積は約八千平方里で、豫定面積の約六割に達してゐるから、その結果土地改良を施行すべき豫定面積約六十萬町歩を得たのである。

## 二、土地改良事業

(1) 施行面積 大正十五年度以降十二ヶ年の(完成十四ヶ年)間に改良擴張することに定められた面積は左の如くである。

灌漑改善	十八萬五千町歩	開墾干拓	七萬五千町歩
地目變換	九萬町歩	合計	三十五萬町歩

右の面積はすでに述べたところの土地を改良し得べき豫定面積八十萬町歩の内の土地改良完了地約九萬町歩を除き殘餘の約半を標準としたものである。

(2) 用水引用方法及河川水量

從來の用水の引用方法は大概(一)貯水池(二)河川引用(三)上記兩者の併用(四)揚水機(五)貯水池と揚水機の併用(六)河川引用と揚水機の併用等の六種であるが、多年山林の荒廢の結果河川も従つて荒廢されて流水量が甚だ足らず、又一方には洪水の危険と旱災の危険が多いので、自然流水を利用するのも困難となるから、大概は用水を貯水池に求むるか又は自然流水を利用して貯水池の設備をせねばならぬこととなつた。よつて所謂水利組合なるものはこの計畫中の重要事業となつたのである。

(3) 工事費とその算定の基礎

これに對し所謂當局者は明治四十二年より大正七年までの十ヶ年間に施行したる土地改良事業の

實際工事費の平均額を酌量することになつてゐるが、當局の平均額は灌漑事業(地目變換も同様である)一反歩に對し十五圓餘、開墾事業反當り二十五圓であつたが、物價騰貴に鑑み新に起工するか、又は計畫する事業の豫算は大略次の如く推定することとなつた。

灌漑改善	大地積のもの一反歩につき平均三十圓
同	小地積のもの一反歩につき平均三十五圓
地目變換	一反歩につき平均四十圓
開墾干拓	同 六十圓

しかし計畫着手の後に於ける財界の推移と物價券銀等の趨勢からして、前記の工事費を以ては到底所期の事業を遂行することが困難となつたので、當局は更に大正十二年に至り、工事費の約二割を増加したが、これ亦不足となるのであらうから、大正十五年度以降には次の如き標準によりて推定することとなつた。

灌漑改善	大地積 五十四圓	地目變換	七十六圓	(一反歩平均額)
同	小地積 六十三圓	開墾干拓	百二十二圓	

右の推定で本計畫に依り遂行すべき三十五萬町歩の土地改良工事費を計算して見れば次の如くである。

灌漑改善	一億二百六十五萬圓	地目變換	六千八百四十萬圓
開墾干拓	九千五百五十萬圓	合計	二億六千二百五十萬圓
五			

三、土地改良事業の補助

水利組合の補助に對することはすでに述べたのであるが、當局は又土地改良事業にも補助をせねばならぬとの考で、大正九年に土地改良事業補助規則を制定し、大正十年以降これを施行した。その大要を示せば次の如くである。

(1) 補助規則の概要

補助金は豫算の範囲内に於て、毎年度各補助すべき事業に對し交付するものである。但し豫算外國庫負擔契約をなすべきものは議會に於て承認さへすれば、その承認範圍内で後年度に屬せる工事に對しても補助するとの指令を交付し得ることとなつてゐる。その内容を細別せば、

- (A) 補助金額は新にする工事に投下すべき工事費に對して左の比例とす、
  - 現在番の灌漑設備改善には 二割以内
  - 現在田の地目變換には 二割五分以内
- 開墾又は水面の埋立干拓に依るものは 三割以内

(及特別なる事情ある場合にはこの制率以上でも補助し得るとの附則がある。)

- (B) 開墾干拓事業の一地區の施行面積が十町歩未満のときか、又は灌漑改善地目變換の各事業、又は他の土地改良事業と併合する場合に、一地區の施行面積が三十町歩以内となる場合には補助せず。
- (C) 一事業の工事費總額が五千圓未満のときも補助せず。
- (D) 同一事業地内の番でない土地の爲に使用すべき工事費は工事費の總額より控除するものとす同一事業中補助率を異にする數種の共通工事費に對する補助は各種類の面積及工事費に依り按分す
- (E) 補助金を交付すべき工事費は左の費用に對して朝鮮總督の査定に依る(一)測量及設計費(二)用地買収及報償金(三)工事材料費(四)勞銀(五)工事監督費(六)其他直接工事に要する費用。

(2) 補助率算定の基礎

これに對して所謂當局は工事費と工事年數の關係を基礎として決定したるものである。更にいへば工事竣成後收益不充なる期間の金利と對照するときには、

灌漑改善	工工期二ヶ年 終了後一ヶ年	合三ヶ年
地目變換	工工期二ヶ年 終了後一ヶ年半	合三ヶ年半
開墾干拓	工工期三ヶ年 終了後二ヶ年	合五ヶ年

前記年數に對する金利補助と匹敵するのである。然らばかくの如き補助率で本計畫の完成する

まで支出すべき補助金はどれ程になるのか？、全額六千五百七萬圓の巨額に達してゐる。これを内別せば左の如くてある。

灌漑改善 二千五十二萬圓 地目變換一千七百十萬圓

開墾干拓 二千七百四十五萬圓

以上略述したところによりて讀者はこの計畫がどれ程宏大なる「國家的事業」であるかを知得すべきである。又この事業の遂行に對して所謂當局が所謂企業者たる日本人の便宜を圖るが爲にどれ程苦心するかを明に知り得るであらう。

しかし、所謂當局は以上のみを以ては満足しない。總工費の二割以上乃至三割の補助金を現金で交付することゝし、其の上尙は一地區二百町歩を標準とし、大小の區別により事業の設計をすると共に、技術員を配置して工事を實地に指導監督することゝなつてゐる。（これに要する人件費八百四十四萬二千圓）又二億三千餘萬圓の莫大なる低利資金を供給して、土地改良事業實施機關の完成に至るまで盡力することゝなつてゐる。低利資金供給と實施機關に對してはもう少し詳細に述べる。

#### 四、低利資金供給

所謂當局は何の理由で工事費の補助をした上に尙ほ低利資金を供給せんとするのか。曰く「朝鮮の土地改良事業に對する政府の補助は日本内地に比し低率であるのに、金利は日本内地より高率である

から企業者の採算が困難であり、又土地改良を完了したる後でも從來の如く粗放なる耕作法では到底豫期の收穫を得難いので、金肥その他肥料増施等の農事改良施設上にも必要であるから、政府は低利資金を供給する計畫を樹てたのである」といつてゐる。理由はこれ位なれば解るであらうが、しかしその内容は左の如くである。

(1) 低利資金の金額及用途 總額二億三千八百六十九萬六千圓

内譯 土地改良事業 一億九千八百六十九萬六千圓 農事改良事業四千萬圓

右低利資金二億三千八百六十九萬六千圓は政府の預金部より半額を供給し、半額は東洋殖産會社又は朝鮮殖産銀行の社債に依りて調達することゝなり、大正十五年以降十四ヶ年の間に毎年平均一千七百萬圓づつ供給することゝなつてゐる。

#### (2) 低利資金融通方法及利率

土地改良事業に對する低利資金融通は總て東拓と殖産から調達することになつてゐるが、貸出の利率は大略年七厘四厘で、二十五ヶ年間に均等年賦（工事期間据置）にて償還することゝなつた。農事改良資金の融通は毎年償還以外は前者の如き條件である。詳細は別に述べる。

#### 五、土地改良事業實施機關

工事費の補助低利資金の融通技術員に依る指導獎勵の施設をなしたる上、尙ほ所謂當局はこの事業

實施のために特殊機關を設立することゝなつた。その理由を聞くに(一)朝鮮農家の民度が低く因循姑息で打算的でないこと(二)水利事業は危険だとして危懼すること(三)事業の中心となる人物が少いこと(四)有能なる技術者を得難いこと等四種を列挙してゐる。實に立派な理由といはれるであらう。初めより朝鮮人は眼中に置かぬこの計畫に對して、朝鮮の民度が低く打算に暗いだつて何の關係があるのか。水利組合を朝鮮人が危険視するのは當然なることであり、事業の中心人物を朝鮮人中より擇ばないで徒にないといふのは笑ふべきことであるが、技術員は所謂當局者が或る程度まで指導監督してゐるのではないか、何の爲に朝鮮人とは何らの關係もないこの計畫に朝鮮人を藉りて特殊機關を設置したのであらうか。これは純然當局乃至日本人の利權運動に過ぎないことである。俗談(世間の談話)に同知の宴會で死ぬものは〇〇のみであるといふてゐるが、日本人の爲に死ぬのは朝鮮人のみである。有口無言有情無色の憐れな朝鮮人は何等の苦情もいはれないけれども、彼等日本人には最も嫌な議會なるものがあるから、かくの如く馬鹿なことを只管いふのであらう。

しかして、その機關の目的とするところは「政府の保護によりて一般地主の代りに組織や統一ある大機關を以て工事の設計調査及資金の調達管旋事業維持管理者等首尾一貫してその任に當り、幾多小地主の小資本で大企業的利益を得て、政府の奨励の下にこの事業の促進を期せんとするものである」であらう。その機關としては大正十五年度より東拓に土地改良部が新設されたのであり、又朝鮮土地改良

會社なるものが設立されてゐる。

## 六

## 六、農事改良

農事の改良事業は二つの方面から見ることが出来る。一は水稻品種の改良であり、一は資金の供給である。第一品種の改良に就ては従來農家に於て栽培せる水稻はその種子が雜駁であるために、品質が不良(日本にて聲價がよくない)であつて、收穫量が少いから、これが改良のために國庫より地方費に補助して系統的に採種番を設置せしめ、以て優良種普及面積百萬町歩の水稻種子更新を行はんとするのである、其次の資金供給は肥料増施に關する資金の供給を意味するのである。特に自給肥料即ち糞肥堆肥の増産と販賣肥料の施用は従來奨励しつゝあるが、農家には元來資金がないから借金をするにしても高利を免れ難いので、容易に着手し得られぬから、農家に對しその資金を低利で調達することである。しかし我々はこれに對しても注意せねばならぬ必要がある。口では農家の爲に調達することといつても實際は官廳の類と看做すべき金融組合或は農會の手を経てその所謂低資の恩澤を蒙る朝鮮人は下級の農家でなく幾個の地主に過ぎないことを知らねばならぬであらう。我々はつまらない利害を論ずる必要はないがその内容を知らんとするのみである。

## (1) 販賣肥料資金供給



販賣肥料の施用は旱災の憂慮が少い安全なる畜に對して獎勵すべきものであるから、從來灌漑設備のある畜三十九萬町歩と、本計畫に依り土地改良をなすべきもの三十五萬町歩、合計七十四萬町歩に對して所要の資金を大正十五年度以降十四ヶ年の間に供給すべきものであるが、初年度の六百萬圓を初め爾後は毎年遞増して、最終十四ヶ年目には三千七百萬圓となるやうにしたのである。

(2) 自給肥料其の他農事改良資金

前記七十四萬町歩以外の稲作に施用する綠肥堆肥の増産と、一般稲作の増産上に必要なる農事改良の資金を、大正十五年度以降十四ヶ年の間に初年度は二十萬圓とし、爾後毎年遞増して最終年には供給額三百萬圓に達することとしたのである。

この外當局は自給肥料増産販賣肥料購入の斡旋をするため、これ以外に國庫より地方費に補助することとして、大正十五年度には二十萬圓を支出した。爾後十ヶ年間これを繼續する筈であると。

七、本計畫の效果

三億以上の莫大なる資金を以て、十四ヶ年といふ長久なる時日を期して、三十五萬町歩の土地を改良し、百萬町歩の種子の更新を行ひ、その他肥料にまで莫大なる費用を入れて、農事を改良せんとするこの計畫は實に彼等のいふてゐるが如く國家百年の大計であるといはれるであらう。然らば此事業が完成すればどれ程の效果を得るであらうか。所謂當局者は曰く「本計畫の三十五萬町歩改良工事業

成の結果は直接收穫量を増加することは勿論であり、その土地に對し耕種法を改良したる結果を合せば改良地域三十五萬町歩から約四百八十萬石の産米増加を見ることであらう。土地改良を行はない地域より耕種法の改良で約三百四十萬石の増産を得るであらうから、本計畫に依りて増産される米は約八百二十萬石に達する筈である。その中から約三百萬石は朝鮮内に於て消費されるとしても、約五百萬石の餘移出を増加させることが出来るから、現在の餘移出額約五百萬石を合せば、本計畫完成の曉は約一千萬石の朝鮮米を日本に供給し得るといつてゐる。

更に本計畫の施行に要する費用の總額と、完成後一ヶ年の生産増加額を比較せば左の如くである。

(1) 事業資金總額 三億五千六百九十九萬二千圓

内譯

土地改良事業資金三億三百二十五萬圓、土地改良に要する政府の人工費八百四十四萬二千圓農事

改良事業資金四千萬圓

(2) 生産増加額 一億九千六百八十萬圓(但玄米一石に付二十四圓とし八百二十萬石の代價)

この計算に依りて見れば、一ヶ年の生産増加額が投下資金の全部に相當するので二ヶ年目になれば投資金の全部に相當する生産を見得ることとなつてゐる。

以上で朝鮮農政の根本方策と所謂産米増殖計畫の内容は大概述べたのである。従つて讀者はこの題目

の下に如何なる結論を得るであらうか、筆者が讀者に代つていへば、

- 一、朝鮮は日本人の穀倉である。
- 二、日本は現在毎年一千萬石の食糧が足りない。
- 三、朝鮮に於ては努力の如何によりて、毎年約一千萬石の米を輸出するやうに増産すべき可能性がある。

四、所謂産米増殖といふ「國家的大事業」は所謂當局者の手に依りて樹立された。

これまで考へたときに、或者は如何なる方法を以てしても、朝鮮から毎年一千萬石の米を輸出することゝなれば、朝鮮農家も有利となるではないかといふであらう。

さうだ或る者の考が事實となるかも知れない、しかしこの場合の収益者は朝鮮人で構成されたる朝鮮農家でなく、日本人で構成されたる朝鮮農家たることを考へねばならぬことである。或者はどうして然るかと反問するかも知れない。

第一この計畫の樹立者が、當局者なる日本人であることは云ふまでもないが、この事業に従事する所謂企業家乃至技術者が全部日本人であり、工事に要する資本の全部が日本の政府乃至財閥の手から来るものである。だから、如何に考へてもこの計畫が完成された後に収益者となるべきものは日本人たることは疑ふべき餘地がない事實であるが、この計畫に依りて三十五萬町歩といふ土地が又日本人

の所有となるであらうから、朝鮮人は小作地まで奪るべきことを考へて、尙ほ氣絶するであらう。然らば結局日本人は朝鮮へ農地を利用して何もかも残さず悉く奪食するのではないか。

しかし、所謂當局者等はかくの如く辯明するであらう「三十五萬町歩の土地改良に依りてその土地の所有権は日本人のものになるといつても、一朝一夕に小作権を全部奪取するものではなく、又それ等の工事に依り朝鮮人の窮農乃至日雇労働者の働くべき仕事が生ずるから、それ丈の間接利益があり、又それのみならず農事改良費四千萬圓は肥料資金で朝鮮人にも供給するものであり、種子更新百萬町歩中には朝鮮人の關係も少くないから、朝鮮人にも少なからざる利益になることである」と。さうだ所謂當局者としてこれ位の辯明材料がなくてはならぬであらうか、しかし我々朝鮮人として考へれば「穀倉に火をつけて焼米を拾ふ格」じゃないか。

かくの如くして十四五ヶ年を経たる後には、日本人は朝鮮に於ても、日本内に於ても、腹が裂ける程食糧が豊富になるであらうが、その反面に朝鮮人は朝鮮内地に於ても、間島に於ても口に糊を付けるべきものもなくなつて終ふことゝなるであらう。この所謂産米計畫なるものが若も完成されたといへば、我々は九死一生の途もなくなるであらうから、讀者よ、我々はこの計畫に對し綿密なる注意をしなければならぬ。

x x x

附記 食糧問題は何時でも人口問題と正比例するのである。しかして日本の人口問題が朝鮮の農政に至大なる關係を及ぼすのは更にいふまでもないが、毎年約七八十萬の増加率を示す日本の人口問題と食糧問題に對しては、専門家でも軽く論斷し難いところである。終りに日本内にもまた未墾地が三百萬町歩で、その中起番の可能性があるものは八十一萬町歩もあるが、現在朝鮮に於てかくの如き土地改良事業の進行中であることを附記して讀者の參考に供する。(完)

ハ 産米増收と粟飯、草の庵の暮らし (東亞日報大正十四年七月十二日)

客年十一月米の出廻期から本年六月まで八ヶ月間の朝鮮米移出量及補給食輸入量は

- 鮮米移出石數 三、九七一、八〇三
- 滿洲粟輸入石數 一、三八〇、七六三
- 外國米輸入石數 五四八、〇六三

であつて、朝鮮人は自分が生産した良米四百萬石を日本人の食糧米として供給し、其の代りに粗質の滿洲粟、外國米百九十五萬石を輸入して居る。

當局者が言ふ所の所謂産業第一主義は、朝鮮人の産業の爲めにと云ふよりも、日本人の爲めに提唱して居るものであることは、吾人が知つて居る所であるが、産業としては怎麼産業を主要視するかと

云ふと、日本人の不足食糧に補充するに必要である産業であることも思ひ當り得るものである。

吾人は當局者が朝鮮に對して行つて居る、總有産業政策に對して、徒らに偏心的の惡感情で小口からそれを悪いと反對し度くて反對するものではない。斯かる政策が實行せられると實行せれる丈朝鮮人の生活には避け難い悲痛が伴つて來るのを何としやう。

産米増收計劃は日本人にも必要であり、朝鮮人にも必要な計劃である。然し朝鮮の産米が無限に増收せられることも六ツク敷いが、假令當局者が夢想して居る通り二千萬石も或はそれ以上も増收せられるとしても、それでよく日本人の不足食糧を補充し難い場合にあつては増收米は全部或はそれ以上日本に行かなければならぬこととなり、其の代りに朝鮮人は他から粗質の補給食糧を求めることとなり、朝鮮人の生活には何等の利益も無いであらう。

當局者が吾々に産米を増收せよと云ひつゝ、又一方には食用米の代りに滿洲粟の代用を奨励するのを見ると、又一層産米増收計劃の根本精神が何處にあるかを容易に推測されると同時に、所謂「新附民」なる和らかな稱號を喰付けて以て「其處に棲んで居る朝鮮人部落民は未だに原始的生活を脱し得ないで草根を常食とし粘土を代食とする」と快々として之を話すから、朝鮮人たる吾人は之を見聞する時にどうして心血が沸騰しないであらう、宿怨が新たににならないで居られやうか。

經濟文化の效果は消極的生産から積極的生産へ、單純消費へ、總じて富の増進を意味するものであ

る。斯くして生活の向上があるのである。

然らば朝鮮に於て新政治経済政策が布施せられて以來、朝鮮人の生産増加又は生活の向上があつたか。當局者が取る経済政策産業政策が朝鮮人の経済文化向上を助長するが爲めにせられた経済政策であつたとしても、固性的に朝鮮人が他人と均等な経済的生活力を持つて居らないとしても、今日の朝鮮人の経済状態生活の内容は、これとは等しくはならなかつたであらう。

朝鮮人が嗜好する米飯は人にやり粟飯で満足しやうとし、一棟の所有も失つて一間の貸家を求めやうとし、衣服も二着を準備するの餘裕が無くて、一着の廢衣で其の體を包む様になるまでに貧しく窮するに至つた。否、之れすら長らく維持せらるゝかゞ疑問である。畢竟は粟飯から草根生活に、貸家からテント生活に、廢衣から裸に迫る。此れ皆ごんな原因から生じて來るのかと云ふと、其の大部分の原因は朝鮮人の生活を無視する経済政策そのものが原因となつて生じて來る現象である。であるからして之を作り出した處の當局は支配の榮譽にのみ心酔するなく、大局に着眼して反省せよと云ふのだ。

## 二 朝鮮米増産と東拓移民

(朝鮮日報大正十五年五月二十三日)

朝鮮農民の手では産米増産は出来ぬか、毎年三千名宛の移民を増す理由が何處にあるか、流浪放逐 身勢崎嶇の朝鮮農民

所謂朝鮮米増殖事業と云ふ口實の下で、東洋殖産會社と總督府當局は已に妥協を了へて、今年から此れに對する具體的實行方針に入り、十四年間と云ふ長久の時日を前にせき、三億四千萬圓の産米事業費中四千萬の大資本を投じ、從來一年に日本から五百名宛東拓の手で入つて來た約六倍を増し、三千名を移民せしめて未墾地開拓と三十五萬町歩の地目變換、耕地整理に従事せしむることであるが、半島の沃土を出て行く白衣人の群は此新計劃が實行せられれば、従前に比して非常に増すであらうと傳へて居る。此新計劃を立て、莫大資本を政府から引出す東拓は、政府側に對しては毎年六十七八萬の人口にもなる日本人の増加率を緩和する爲めだとして大に愛國の誠意があるが如く秋波をおくり、總督府に對しては朝鮮産米増殖事業を有意義にする爲め此んな新計劃を建てるのであるとて當局者等の熱心を買ひ、難なく所謂計劃を建つることになつたのであるから、今後東拓の此れに對する活動は大に注目すべきである。

李芭は明廟當時乙巳の年功のないのに封勳せられた一代の權奸で、史筆が恐ろしくないと云へば、東國通鑑は見ないと云つた人物である。彼れは最初李晦齋が吹嘘した力で初めて顯職に出身したのであるが、乙巳後晦齋を退けて江界に遠竄せしめた。

李東岳は芭の孫で芭の後を繼いだものであるが、慶州府尹當時晦齋の玉山書院に行つて、碑石に芭の罪狀を刻記したのを見て碑を抱いて痛哭し、其書院や子孫のことを一生懸命に周旋したので、當時の人

も其の蓋愆に努めたことを登稱したとのことである。秦檜は南宋の賊臣である。其の遺骸が溷廁中で穢汚せられ、其化身が天罰を受けたと云ふことは野人の言に過ぎぬかも知れぬが、岳武穆の墓前にある鐵像は永く便尿惡臭の中に跪伏し、遺臭人物の代表となつたのである。檜の曾孫斬州通判鉅が金人の亂に子浚渾軍と共に死節して義烈侯を封じたことがある、此れも蓋愆と云ふものであるが、檜の愆は貫天の大罪である。子孫の節義位では蓋ふことが出来ぬは事實である。檜の裔孫で湯陰宰として政弊のあつた某が、岳武穆廟に參謁して嘔血即死したとのことである。此れが假令野乘にあるだけとは云ひながら、檜の餘孽が其の子孫に及ぼすのは當然である。罪惡が檜に過ぎた李某の子の近日の所爲に蓋愆ではない、彰愆である。却つて笑ふべきである。

### 三 教育問題

#### イ 私校改善に對して

成興一記者 (時代日報大正十五年五月二十四日付)

成興郡内には殆んど毎に私校がある。久しい歴史を持つて兒童の教育に貢獻すること少くないが、現在各面私立學校の校長大部分は教育に對する理解がない者であるから、校長の責任を全然盡すことが出来ぬ。又其名義校長の弊害が多い、學父兄が子弟教育に之の弊害を知りつゝ黙過するのは餘り無神經

である。郡當局では數年前から校長整理問題に對して屢々公文を發したとのことである。しかし今日まで何等の成績が現はれぬ。郡當局では人民の怨聲が藉々たる蠶繭共同販賣苗木配付のやうなものに酷毒に實行しながらも、吾人の後進を養成する教育に對しては全く等閑に付して了ふ。勿論今日の官廳と云ふものは吾人の幸福の爲めの機關でないことは何人も感ずる處である。それに囑望するのが却て愚かなことであるから、校長整理問題は學父兄の力で一日も速かに解決しなければならぬ。

#### □ 朝鮮人にして朝鮮語を忘却

(大正十五年五月三十日東亞日報)

○社會的に輿論を喚起しやう

○金泉公普校保護者會決議

慶北金泉公立普通學校保護者會では、去る二十八日午前十時から同校内に於て、定時總會を開き、順序に依り諸般事項を決議した上、保護者側から普通教育に對する三大問題を提案したので、場内の空氣は俄かに緊張したが、無事にその重大事項を決議した。即ちその重大案は、

- 一、學校長談話の件
- 二、學生毆打に關する件
- 三、朝鮮語普及の件

であるが、その中朝鮮語普及の件に就ては次の如く決議した。

「普通學校は朝鮮人を本位とする教育機關であるが、今日の普通學校は日語を専用し、以て朝鮮人をして朝鮮語を忘却せしめ、幼時より日本の精神を注入せんとするものである。だから我々は朝鮮人にして朝鮮語を忘れぬやう奨励する爲、朝鮮語時間を増加するやう、全朝鮮に社會的の輿論を喚起し、以て積極的運動を開始すること」を一致可決して、その進行方針は幹部會に一任することにした。(金泉發信)

#### ハ 實行に徹底せよ

(大正十五年六月一日東亞日報)

○兒童保護者會を見て

所謂朝鮮人の教育普及を標榜して施設された普通學校は、文化政治を假裝して、日本主義延長の同化機關として、天真爛漫なる發育期の兒童の腦に或る氣魂を注入せしめることは、吾人の周知するところであるが、朝鮮人に二重三重の過重なる地方税を課して、その大部分を日本人教育に充用し、朝鮮人教育には、僅か形式のみに過ぎないことは、赤裸々たる事實である。而して最近に至り家庭と學校との有機的連絡をとるとの口實を以て、兒童保護者會なるものを組織して、過重なる課税を負擔せしめるのである。即ち生活難に陥り毎月兒童の月謝金を支出するにも、極めて困難なる學父兄より、會費といふ名目を以て、月額十錢づつを徴収して、これを設備に充つるのが、各普通學校の學父兄なるものである。

る。

しかし歴史の推移に依つて、人間の思想と意識は發達向上するのが原則である。だから久しく統治者の奸矯なる術策になやまされて來た朝鮮人も必然的に覺醒することゝなつた。

去る五月二十八日當地金泉公立普通學校講堂にて、開催された保護者會の定期總會に於ては、會て見なかつた論戰が開始され、場内の空氣は非常に緊張し、論條は悉く民族的意識から出發した。その中にも青年保護者等の鋭敏且つ深遠なる意識的の論理には、幾ら彼等の忠僕となり、精神を喪失し、義憤心が枯れた者でも、良心の責責を感ずるであらう。從來より豫算編成、事業計畫等を校長の提案通り何らの異議なく黙過するのみであつたこの保護者會が、今回は開會の關頭より問題を起し、豫算案通過の際は場内の空氣が尙ほ一層緊張し、豫算の大部分を削除し、その過剰金を以て赤貧兒童の月謝金に補助することゝなつたのを見れば、民衆の意識傾向が如何であるかを能く推測し得るところである。

同總會に於て決定した事項を見るに、月謝金徴收の當局者たる郡廳の便宜を圖るが爲に、教育者である教員が兒童にこれを督促し尙ほ甚しきに至つては、滞納の兒童を毆打、或は處罰等の續行まで敢行して、兒童の向學上少からざる悪影響を及ぼすことを論議し、今後は郡當局が直接學父兄より徴収することになさしめ、若しも郡當局がこれに應ぜざれば、一齊に月謝金を不納することにした。又朝鮮語時間を増加せしむるが爲め、全朝鮮的に輿論を喚起し、以て積極的にこれが實現に努力することを議決し

た。  
 總督府令學制に依れば、普通學校教育に低級即ち一學年より四學年まで、每週四時間、高級即ち五學年より六學年まで、每週三時間の朝鮮語を教授することにして、都市や農村を問はず、目下これを實施しつつある。

然らば普校一學年から六學年までの兒童の年齢はどうか？、大概八歳より十四五歳に過ぎない少年である。かゝる天真爛漫なる少年等に對し、朝鮮人の天賦である朝鮮語を制限して、日本語を奨励する。その本意が那邊にあるであらうか？、これ即ち日本延長策、同化政策の露骨的表現である。

吾人は今般學父兄諸氏のとれる態度が、何れの方面に於ても朝鮮人としての最も適切なる覺醒だと思ふのである。鬭争なき社會は進歩し得ない。又抗争なき民族は發展し得ないのである。だから二重の高壓的環境に呻吟する我々は、益々明確なる意識を把持し、結束を堅固にして對抗せねば自民族自階級の解放を期し得ることが出来ないのみならず、我々の遠大なる目的を達し得られぬであらうから、凡ゆる情勢の客觀的條件は吾人の意識を決定すると同時に、吾人の行動は吾人の前途を決定すべきである。希くば學父兄諸氏は今回の決議を机上の廢物としてしまふことなく、飽くまで朝鮮人本位の教育實現を期して積極的に實踐に徹底するやう、吾人は熱望して止まざるところである。(金泉一記者)

**押**

二 螟蛉教育方針

(朝鮮日報大正十五年七月四日)

六月十日萬歲事件で起訴せられた學生は京城大學に入學を許さないことにした。各學校では爲めに脅威を受けて居るが不慮の困難と言ふべきである。

動搖して居る朝鮮の時局に於て、率直にその意思及誠情を表現する學生等の舉措を彼等の個人的責任から云爲するよりも、大勢の然らしめたものである事を察知する丈の見識及誠意が無ければならぬのである。

殊に妙齡の學生等をして自ら刑獄に飛び込ませしめるに至つたその心中を理解する丈の同情心が無くはならないのである。

斯かる大局を遠視する見識及心事を理解してやる同情心も無く、只専ら根絶的の苛酷な制裁を加へやうとするのは、群小俗官輩の目前一尺の拙劣淺薄であつて、少しも誠意が無い仕事だと、斷言するのである。

螟蛉教育方針

「日鮮融和」が京城大學設置の根本義であると、開校の劈頭に宣佈したのは當時朝鮮爲政の一首腦者であつた。

彼等は學そのものよりも、日鮮融和を促進させる政略的器具として利用しやうとする不純な動機から大學を設立したのである。

日本人に朝鮮人を吸収融解させやうとする卑劣な集團的利己心を満足させやうとするのが、所謂日鮮融和の原義である事を考へる時に、彼等の教育方針なるものが結局皆無骨漢の製造の爲め螟蛉教育そのものを意味して居る事を喋々するのは却つて馬鹿者である。

此の教育方針たるや、唾棄すべき醜なるものであると言ふべきである。

六月十日萬歳事件の意義、及それに依つて表現せられた朝鮮の時局は何回も述べた。兎に角郷土人が同族の自由幸福の爲めと云ふ信念を以て利害を顧みずしてやつたものであるとすると、現下の統治者から見て納るゝ事の出来ないものであつても、人としては有爲な素質を持つて居るものである。之に對して既に不起訴、起訴猶豫の處置を採り、更に學務行政的手段として、苦しめやうとするのは非常に失當である。況や、警務當局、司法當局で態々「寛大な處置」を以て、恩を賣つて居る上に獨り苛酷な處置を取て、世間非難の焦點の一株を背負ひ込むは、學務當局こそ實によい面の皮である。

要するに斯むな時毎に朝鮮統治當局の腹が小さくて、淺薄な處置が憤慨されるのである。

#### ホ 普校財政と朝鮮人校長

(昭和二年四月東亞日報社説)

今日我々の社會に於ける初等教育機關である普通學校なるものがどれ程の使命を盡し價値を發揮し得るといへば、これは吾人が本欄に於て屢指摘したるが如く、實に言語道斷なるものが甚だ多い。であるが、茲にはそれを更に論ずる必要はない。即ち用語や教材等の内容が不合理であり、不自然である道理を強行してゐるのは、既に屢々論評したからこれは略して、最近の普通學校の前途は財政上極めて憂慮すべき状態にある。この際、その應急的救済策として、普校々長に朝鮮人教員を充つる必要があるといふ理由を論じて、學務當局者と學校費關係者の注意を促さんとするのである。

最近の普通學校入學難に關聯して、普校増設問題が提唱される一方、或る地方に於ては現存の普通學校經營に財政的難關が多いのも、蔽ひ難い事實である。かゝる難問題を目前に控へながら、當局者は何故その救済策を講究しこれを斷行する誠意を持たないのか？この點に對する當局者の心事は理解し難いものである。當局者は相當なる國庫補助がなければならぬ理由も明かであるにも拘らず、それに對する誠意がないのは勿論であり、尙ほ一方に於ては反つて、普通學校の財政を困難ならしむる必要なき浪費をなしつつある。即ち現在の如く普通學校々長に日本人教員を採用せず、能率に在りて差異なく、遜色もない、朝鮮人教員を採用することにすれば、京城府でさへ、毎年普校教員俸給の約八分即ち二萬圓内外は節約されるであらう。假に全朝鮮普校の經常費を約一十萬圓とせば、教員の俸給は約六割に該當するであらうから、六百萬圓が普校教員の俸給となるのであらう。然るに全朝鮮の各普校々長に悉く



朝鮮人教員を使用すれば、その六百萬圓といふ教員俸給中より八分、即ち約四十八萬圓は節約し得るであらう。

若も吾人が概算的に表示したる、右の數字に多大な錯誤がないとすれば、日本人校長を採用し朝鮮人校長を採用せざるに因り、普通學校財政から浪費される金銭が、毎年四十八萬圓に達するのである。吾人に於て見るが如く別に差異のない、朝鮮人校長を採用して、この四十八萬圓を以つて更に普校擴張に利用すれば、今日絶叫される普通學校入學難が緩和されることは明白である。

かくの如き救済策があるが、しかし當局者はこの方針を取らず、今日の普校入學難と財政難等をそのまま捨て置いて、他のくだらない辯明さへしてゐる。我々はその理由を當局者に對し質すと同時に學校費關係者等のこれに對する正確なる意見の披露を見たい。

#### へ 日本人教育者の排鮮運動

(中外日報昭和二年四月十三日)

去る三月中全南莞島郡尋常小學校組合評議會では、在來同校高等科に日鮮人兒童が共學して居たのに、新年度からは朝鮮人兒童を全部除外することに決議した。本案を提出した理由は、朝鮮人兒童に在つては歴史教授上支障が起き、思想が不穩で、日本兒童に悪影響を及ぼす憂慮があるとのことだと。亦此の絶對主張者は同校々長であつて、此が決議の形式も管理者及評議員多數が、自己の本意でなく、餘

り見合せがないので、ボンヤリ坐つて居る中に、同校々長が熱烈に主張して單獨的に形式上決議したることである。日本人學校で日本人教育者が朝鮮人兒童を教ゆることが出来ぬと云ふ事は確實に日鮮融和の可能性がないと云ふことを明かに自白したものである。此れを一種奇怪のことだと非難するのは誤解である。寧ろ根本的當然の事であると思はなければならぬ。然らば少數個人の朝鮮人兒童を多數日本人兒童の中に入れて陶冶せしめて見ても不能であるのに、況や少數日本人教員が多數朝鮮人兒童を指導して、何等効果を得ることが出来やうか？

今日の爲政者は朝鮮人に對してどうかすると、不逞鮮人だの、排日者だのと、蛇蝎視するのである。しかし多年間直接實驗に經驗を重ねた、日本人教育者でも之を切實に自覺して、排鮮運動を斷じた以上仕方はないのである。日鮮融和が速成しないと嘆息發狂せる諸君は、此處に一度一層冷静に反思して見る必要はないであらうか。余は之を主張する莞島尋常小學校々長森君の正直なる人格と、明哲なる理論を反つて稱讃するものである。

#### 四 水利組合問題

##### イ 水利組合と組合員の利益

(昭和元年十二月六日東亞日報)

富平水利組合員中、三十餘人が一昨夜市内食道園に會合し、水利組合費問題を討議したと云つてゐる。これは一千百餘人(大地主及自作農)に對する問題である。

その討議の題目は「組合費が収益より多い」と云ふのである。その中には今年全收穫五十圓で、組合費五百五十圓を負担したとの奇現象もある。これは例外と雖も地主半作二百石で、今年の負擔四千圓であることは最も普通なる種類の一と其組合員は云つてゐる。其の地主の言の如く地主は他に財産ある爲に、其の組合費を負担しても生活し得られるが、小作人に於て此の組合費の三割(?)を負担することになれば、殆んど收穫の大部分を失ふだらう。これは只富平水利組合のみに限らず、全土七十七個所の水利組合が大概大同小異なる状態で、即ち組合員の負擔過重、従つて來たる自作農と小作人の生活を脅威する状態にあることは、各地に於て頻々に勃發する水利組合争議の事實を見ても解るべきことである。これは只組合員の無理解に基因し、時間の経過に従つてやがて解決すべき性質のものであらうと信ずるのである。實に數百萬農民の生活の基礎たる重大問題と云はねばならぬ。

産業増殖は好いことであり、水利組合も好いことである。誰もこれに對し反對する人はない。但し問題となるのはその方法である。灌漑の設備は農業の基礎である。天恵にのみ専依せる危険を脱し、人力を以て早雨に對抗し、收穫の安全を保障せんとするのが水利組合の事業である以上、またその事業が巨大なる費用を拂はねばならぬことは勿論である。萬一この「多少の犠牲」を拂ふとして不平を懐くと云

へば、それは不平を懐く者の誤りであらうが、若しその犠牲が生活の基礎を動搖する場合に於て問題となるのである。將來の爲に現在の一部を犠牲にするは、智慧と云はれるけれども、それが爲に現在の全部を犠牲にするのは愚であり、犠牲せしめるのは暴政である。如何に百年の大計と雖も一個人の生活の基礎を破壊する権利はなからう。

當局は如何なる調査を基礎とするのであるか、これはいざ知らざれども、現在の水利組合制度を見るに、組合員が大資本を擁し、數十年後の利益の爲に、數十年間の損害を堪へ忍び得る餘力のある者であれば、堪へ得る筈であらうが、小地主や、自作農にして僅にその年の所得を以てその年の生活をする者に於ては、到底現在の負擔に堪へ得ずして、蒙利期に至る前に破産して了ふだらう。これは只理論のみにあらず、既に水利組合地帯の激甚なる土地兼併がこれを實證するのである。

然らば好事業となるべき水利組合が悪事業となる缺陷は何れにあるか、それは(一)その計畫が餘りに急進的で住民の富力の程度を無視すること(二)請負業者に對する當局の設計と監督が不充分で不當なる利益を與へること(三)金利(九分五厘)が高利なること(四)組合費配定率が不公平なること(五)償還年限が短縮なること(二十五年間は此等性質事業に於ては甚だ短期である)等と見える。

これから今回の富平水利組合事件の如き事件は府生塵出するだらう。これに對し當局は事件の悪化せる後に於て始めて蒼慌となり、警察に解決を専頼する愚を反覆せざらんことを希ふのである。

## □ 水利組合事業に反對の理由

(昭和二年一月廿五日中外日報)

咸南安邊郡衛益面に於ては、地主有志數拾人と郡及面の當局者が會合して、衛益水利組合創立に關する協議を爲せる際、同面に於ける地主三百餘名が同會議場に殺到して、激烈なる反對を試みたる結果、準備委員の大多數は辭任書を提出し、出席した郡守は此の顛末を道廳へ報告する事に約束したので、同會は結局解散されたと云つてゐる。

安邊は所謂安鶴水利問題で非常に論議された處である。しかし安鶴水利もその實情を聞けば、世間に問題となつてゐるが如く不成績のやうではないらしい。又同郡には現在灌漑施設の改善を要する地面と、地目を變換すべき見込ある土地が略六千町歩の廣大なる面積を占めてゐる。その中五千町歩の地面は舊京元間道路に沿ひ衛益、文山の兩面に跨つてゐる。

今回問題となつた衛益水利組合は、衛益平野の略二千町歩を蒙利區域にする大規模のものであつて、同水利工事が竣工さるときは、現在天然水を以て雨順風調により若干の收穫を得る同區域内の水田は一變して旱災知らずに耕作すべき沃土となることであり、又現在大豆や粟類を播種して僅少の收穫しかない畑地は直ちに地目變換に依り、多大なる収入が増加さるゝであらう。同地區域内生産の絶對量を増加すべきはいふまでもなく、各個人の立場から見ても、その大部分が利益を享受するであらう。

以上の如くなれば、所謂衛益水利組合を發起するに對し、公私共反對する理由はなからう。が、しかし實地に利害關係を有する同區域内の地主の大多數が、これに反對する事情を見れば相當に反對すべき理由が伏在してゐる。これはたゞ衛益水利組合に限れるものでなく、各地の水利組合に於ても同様の現象を發見し得べきである。

これは決して等閑視すべき問題ではない。尙ほ所謂産米増殖計畫の實施で當局に於ても水利事業を積極的に奨励する事情に鑑み、萬一水利事業の施設に反對する理由があるとすれば、其の理由を闡明するのが目下の急務であらう。吾人の見聞するところに依れば、水利組合反對の理由は大略左の如くである。

一、同一組合の區域内に於ても、各個人の利害關係が同一でないと同時に、その中不利なる立場に在る一部の地主が反對の聲を擧げるのである。その事情の如何に依つては、全體の利益の爲に、或一部の犠牲を拂ふのも亦已むを得ざる場合もあらうが、かかる場合に於ても、彼等不利なる立場にある、地主をして怨嗟の聲を發せしめざるための方策を講せざりしは、組合當事者や監督官廳の責任であると云はねばならぬ。

二、大體に於ては有利なる水利事業であるが、その施工方法の適せざる爲に堤防の壞損等意外の災難を蒙り、地主の負擔が激増さるゝ結果地主は困難境にるのであるから、これが怨聲や紛糾の原因となる

のである。こはたゞに現實の關係者をして不平を抱かせるのみでなく、他の新規事業に對しても少なからざる影響を及ぼすのである。これ又監督官廳の充分なる注意を要すべきものである。

以上二種の原因は當局者の綿密なる注意と監督に依り、又は組合當事者の公正なる用意と、誠意ある努力に依り除去すべきものである。

三、水利事業に反對する第三の理由は、反對する地主の立場から見ても氣絶（喪心すること）すべきことであり、社會から見ても重大なる意味があるものである。即ち水利事業はその蒙利區域内に於ける、比較的貧弱なる地主をして、その所有土地を賣却せしめる結果に到達するからである。水利事業にかゝる結果を招來する原因は、頗る單純ではないか？、これを大別すれば、一は經濟關係に依る原因であり、一は組合當事者の不公平なる處理に因る原因である。

經濟關係に依る原因とは何を意味するのであるか、從來より施設された水利組合の大部分は、常に日本人地主の主唱に依り成立されたものであり、従つてその組合の幹事は大概日本人である。朝鮮人は土地を賣るので、富力の弱いものであり、日本人は土地を買ふものであつて、富力の優越なるものである。而して土地を賣るものは、大概自分の所有土地中より比較的不良なる土地を先きに賣却するのであるが、朝鮮に於て不良なる土地と云ふのは、地味の粗劣なるものと、水源の不足なるものとを意味するのである。地味の粗劣とは水源の足りないのが、一の原因となるのである。故に同一なる組合の蒙利區

域内に於ても、日本人の所有土地は、比較的水利組合の必要を切實に感じられるが、朝鮮人の所有土地は、左程必要を感ぜざる場合が多い。従つて水利事業に因り受ける惠澤が、彼此間（日本人朝鮮人間）に異なる點あるにも拘らず、水利事業に對する負擔は、それと比例しない場合が少くない。かゝる關係に因り發生する不平は、その原因が主として組合當事者の不公平なる處理に依り生ずるのであつて、甚だしさに至つては蒙利區域内に於て、各區の利害關係が均一せがるにも拘らず、組合費負擔を均一制にするので、その結果が朝鮮人地主にさへ、莫大なる損害を與へることである。これは彼等既成組合の當事者が如何に否定せんとしても、否定し得ざる事實となつてゐることである。又水利組合の總ての計畫が、若し十年乃至三十年といふ、比較的悠久なる期間に互り計算する場合に於て、蒙利區域内に於ける一般の地主が、確かに利益を受け得るとしても、經濟力の貧弱なる朝鮮人地主は、水利事業の有利なる効果を見る前に於て、組合費の負擔に堪へずして、折角所有したる土地を不利なる條件の下に、賣渡さねばならぬことになるのである。故にその結果は終に土地兼併といふ有難くない現象に現はれて了ふといふ實例はいくらもあることである。

これは餘裕のある者から見れば愚なるといへることであり、冷靜な第三者から見れば大勢の所趨であるから、己むを得ないことであると言へるのであるが、實際に於てその憐れな場合に陥つてゐる當事者としては、實に爽心に堪へないことである。

種牝鶏を殺して食べるのが不経済であることは知つてゐながらも、場合に依つては種牝鶏の眞味を味はねばならぬときがあり、果樹を新にすることが不経済であることを充分に知つてゐながらも、果樹を炭の代りに使用せねばならぬ場合もあるのである。現下の一般朝鮮人は不幸にもかくの如く餘裕のない立場に陥つてゐる。これは否定し得られぬ事實である。従つて餘裕ある傍觀者が何と言つても水利組合なるものが如何に有利なる事業としても我々はこれに反対せねばならぬ場合に立脚してゐる。

水利事業は日本の食糧問題を解決せんとする重大な計畫の一部的施設であるから、當局者に於てはこれに對し積極的方針を採るのであるが、然し一方に於て經濟的に不遇の立場にある朝鮮人地主の爲に多大な考慮がなければならぬことを指摘するのである。

#### ハ 水利組合の紛争 (昭和二年三月一日東亞日報)

年來厚生營出する既成水利組合の紛争や、水利組合の計畫に反対すること等は不祥なる事象である。それが單純なる抗争であると云つても、人間生活の一部を擾亂するものであるから、避けらるべき可能性の範圍内に於ては避けねばならぬことであるが、特に水利組合の紛争に於ては尙認容すべからざるものがある。

水利組合紛争の理由は、大概組合費用即ち水税負擔額の多過ぎること、又其の多過ぎる負擔の支拂能

力の喪失、或はその不足で生ずる組合員と組合間の紛争及其他組合側の組合員に對する壓迫等である。又水利組合設立の計畫に反對する理由は、水組成立に因りて結局所有土地の強制的安價投資を餘儀なくされることである。而して近日頻りに報道される安寧水利組合の如きは、同地評價問題に對する地主側の反感が激しいので成立過程の難關となるやうである。

水利組合は農事改良事業の如く、その成立與否は農村の死活問題である。水利と農業は尙ほ朝鮮の如く、水田農事が絶對の權威を持つてゐる所に於ては、その良否が直接生民の生活を左右するのである。故に水利事業は積極的にこれを奨励助長せねばならぬものであり、朝鮮の山河は切實にそれを要求してゐる。かゝる立場に於て總督府當局の採れる水組發達に對する積極的態度を非難する者はない。

しかし、既成水利組合の實情は吾人をして戰慄せしむべきものがある。即ち既成水組の現状を見るに、水組區域に於ける朝鮮人の土地は殆んど全部が水組の所有即ち日本人の所有になつてゐる。その経路は大概多過ぎる水税負擔と組合側の計畫的奸計により、貧弱なる朝鮮人小地主は己むなく安價投資を爲すことになるのである。のみならず、その甚だしいものに至つては、それに對し地方監督官廳との間に、或る程度までの意思が疏通されてゐるものもあるやうである。人民の福利を増進せしむるのがその存立の目的であるから、行政當局者としてはかゝる惡徳行爲は勿論なからうと信するのであるが、しかし人々が皆神ではない限りその良心の標準が一致せざるべきことは論ずる餘地もないのである。故に被

治者の立場にある朝鮮人の現実の悲哀がこゝに生ずるのも勿論であらう。  
 最高の監督機關であり、水組發案者である總督府當局はこの現状を如何に見てゐるのか？。發案の責任者としては既成水利組合の紛争と計畫澁滞の現象が毎日報道さるゝ此の際、内心は如何であつても、形式上丈にても民衆に對する責任感がなければならぬであらう。人間の良心と正義に照して、水組當局や地方官廳にその責任を譲ることなく、自ら責任を負ふと同時に、嚴密なる調査と制裁を加へて、水利事業の完全なる發達を圖るのが當然探るべき途であらう。吾人がかくの如く要求するのはたゞ生命延長の一手段に過ぎないことである。

### 五 移住問題

**押**

#### イ 流浪群激増を爲政者の責任

(中外日報昭和二年五月二十四日)

朝鮮移民の總督府直接經營は、關係當局ではそんな事實は絶対にないと否認するが、しかし移民に對して出來得る限り獎勵する態度を取つて居ること又は否認することが出來ぬ。移民しなくとも逐年増加する日本人は既に四十餘萬に達して、總ての方面で朝鮮人を支配する様になつて居る。彼等が爲めに都市が發達せられたことは勿論、或る種類の産業も開發せられたこともないとは云へぬ。しかし、一方朝鮮人は此の文明進歩を眺めながら、漂浪の途に疾走を免れることは出來ぬ様になつた。之は畢竟經濟大

勢に壓倒せられた結果とは云へ、かく漂浪群が発生した以上、其の對策を講究して出來得る限り生活の安定を與へるやうに努力しなければならぬ。從來問題の種である火田民百十六萬はさておき、近い話で今年日本に渡航せうとして阻止せられた四萬人の労働者と、今春一月以後滿洲に移住した十七萬の朝鮮人は、近來吾人流浪群の激増を説明するものである。

今日各道の窮農と、今日貧から明日漸次窮農となる途程上に立てる者等が田圃に逼滿せる状態であるから、極力保護を加ふるとするも、淘汰を免れることは出來ぬのである。況んや其儘放任したらどうなるか。

忌憚なく言はゞ十八年間朝鮮統治の業績は統計上では仲々立派のものであるが、朝鮮人の實生活では唯々流浪群を澤山生じたのみである。過去に生じた流浪群、現在生じた流浪群、亦將來生ずる流浪群は朝鮮政治を談るに當つて一番先きに重要視すべきものであつて、之も畢竟朝鮮人の自體が覺醒して努力するより外に解決は六ツケ敷のであるが、朝鮮統治の責任がある當局者として特別の考慮が必要である。如何に日本人本位の統治でも朝鮮にあつては朝鮮人が絶對多數を占むる以上、朝鮮人の生活を輕視しては朝鮮統治の實効を奏することは出來ぬから、此の點を見て朝鮮を中心として發展する日本人は從來の方針を一變して其の力量を滿蒙に傾注することは日本の爲にも得策ではないか。

**押**

#### 日本移民獎勵問題

(下) (朝鮮日報昭和二年五月二十四日附)

(上の大意) 日本は人口が殖えるにつれ、食糧が心配になり、遂に手易い朝鮮へ殖民をする、しかし東拓や不二に任かして置いては思ふ通りに行かぬから、總督府殖産局では大々的に補助金を下附して盛むに朝鮮へ移民せしむることになつたそう、そうなるに困却するのは朝鮮人である)

さて朝鮮の火田民は百十六萬もあるが、火田火入を禁止したからその百十六萬人は生計の途を失つたが、その善後策は講じられて居ないから、統治當局は誠意がない。誠意の無いのは結局無情から來るので、彼等の胸中には朝鮮人の休戚なむかを考へることは尠ないのである。三億二千萬の巨額で産米増殖を經營しても、此の離散して行く火田民を救護することはない。それに無關心なと同様に肥沃な土地を失つて居る小地主、自作農のことも同様で、其の所有の土地を兼併して次の日には移民が來ることになるのだ。

鐵原、平康、截寧に小日本を持ち込むで居るのに何人も驚くであらうが、之は彼等の豫定の計劃で次に漁業地、工業地にも彼等がさうゆう風にやつて來る。それと呼應して鐵道網、新開道路、郵便自動車、駐屯軍、警察署、日本人専用學校が益々殖えて來るだらう。

裝甲列車の試運転、軍用飛行機が頻繁になり、關門海底鐵道は益々朝鮮と日本との交通を迅速ならしめるであらう。之は所謂彼等子孫萬年の計となるのである。

乍然その結果は彼等が豫期した處と合致せずして、或る反對の現象を來さないであらうか？

彼等の物質的の總ての施設及支配力の計量的表示は、朝鮮を制勝して餘りあることを確信せしめる可能性がある。彼等は政治的優越と及それに雙行して居る文化的支配力に依つて、仕舞には朝鮮人をして彼等に壓服且又消化されることは仕方のないことだと強いて信じさせやうとして居る。然し今日迄朝鮮内に於て體驗する處と及海外先進殖民帝國のその「文化的？」被隸屬民族に依つて經驗された處に依ると、朝鮮の人民等は彼等に融合或は同化しないのは勿論、利害の差異に因る絶へざる衝突は、加速的に發表せられる民族的經濟の開差と共に結局は永續する處の葛藤となつて、問題解決の日迄續くのである。茲に於て若し今日よりも改善せらるる處があるとすれば、それは只空疎なる感情的軋轢から冷靜なる理智的葛藤に轉ずるのみである。

斯くして兩民族の混居状態が複雑になればなる丈、それ丈それに隨伴する禍厄は久遠に續けられるのである。だから日本の様な海國は大陸に戀々として殖民策を立てずに、困難はあつても南方海洋に移民する方が久遠の將來の爲に自然的であり且幸運を齎すのである。

日本に賢明なる政治家があるならば、彼の大陸政策は永遠の禍根を作つて行くものであり、且不幸なる傳統的重荷であることを覺るに至るであらう。

押

### 三菱水電起工と朝鮮同胞の窮境

(朝鮮日報昭和二年五月三十一日)

日々破滅の途へ驅り立てられて行く朝鮮人の悲惨なる生活は何を以て救済するか。實に情無いことじや。のみならず日本の大資本家三菱の經營である水力電気會社が咸興に這入つて來て以來、靜かであつた咸興は再び昔の主人を失はねばならなくなつて、遠く西間島に行かねばならなくなつたが、農村では小作農民の泣聲、都會では小資本商業家の破滅、工事場では勞働者の可愛想な死の泣聲は實に聞いて居られぬが、今咸興退潮の事を大略報道して見ると、アルミニウム工場に收容せられた土地が二十七萬餘坪で、爲に小作權を奪はれた者は百二十戸七百餘名であつて、殊に漁業勞働者は誰も皆日本人の負債を持つて居つて、一人として其の儘維持して行ける者は無く、日本人等は斯る機會を覘つて退潮の家屋を漸次に奪つて居るが、面白くなつて來て暗々裡に活動して、一日の間に二三回宛買収するそつで、遠からざる將來に退潮は全部日本村になるであらう、其の他雲田一帯は慘憺たること言葉にも謂へない。(咸興)

## 六 蠶繭問題

(朝鮮日報昭和二年〇月〇日)

蠶繭特賣制度に就て

はしがき

昨年六月平安南道では蠶繭商人に對して何らの豫告もなく道内の蠶繭全部を一個の山十會社に獨買さ

せたので、生路を失つた三千餘の蠶繭商人の呼冤が天に漲つてゐたことは、當時屢報したところであるが、本年はこれを朝鮮總督府の方針だといつて、尙ほ徹底的に實行せんとするので、平壤蠶繭商民會に於ては必死的の運動を開始し、以て是非ともその制度を撤廢する様絶叫してゐるが、これはたゞ平南一道に關する問題のみならず、朝鮮全體に關聯する問題であるから、その内容の一端を紹介して讀者の考察に供せんとするのである。(平壤特派員金澤植)

### 一、蠶繭特賣制度

元來朝鮮の存在はたゞ日本の爲にする意義があるのみで、朝鮮人の爲にする朝鮮ではないから、朝鮮の凡ゆる生産は日本人の利益の爲に提供するものであつて、朝鮮人の關與すべきところとならぬことは今更贅言する必要もないところであるが、森林保護、農業獎勵、水利組合、産米増殖等凡てのものが悉く日本人を主とする政策である。その中でも生絲の如きものは日本經濟界の命脈を支配する最も重要な輸出品であるから、その原料たる蠶繭を得る爲に朝鮮で實施する現在の政策を尙ほ一層露骨に徹底させることであるといはざるを得ない。即ち昨年朝鮮總督府に於て開催したる産業技術官會議で蠶繭の販賣に對し決定されたものゝ要領は、

- 一、共同販賣に附すべき蠶繭はこれを朝鮮内に工場を有する製絲家に特賣すること。
- 二、朝鮮内の産繭が工場の需要量を超過するときは適當と認定する者に特賣をなすこと。



即ち朝鮮に於て生産される蠶繭は各道令を以て、共同販賣に附することにしたのであり、朝鮮内に工場を有する製絲家といふのは全く日本人を指稱するのである。或は朝鮮人も製絲工場を經營すればいいではないかといへるであらうが、これは表面を飾つて他人に辯明する材料に過ぎない。又朝鮮内の産繭が製絲工場の需要量を超過するときは、適當だと認定するものに特賣するといふことは、現在實施される事實から見ても、日本人企業家を指稱するのである。かくして朝鮮内の産繭は幾個の日本人會社に獨占されて弄絡さるべきものである。これが即ち現在の蠶繭特賣制度である。

## 二、道當局者の談

これに對して道當局は「蠶繭特賣制度は朝鮮内の製絲工場を保護すると同時に養蠶家を保護する政策である」といつてゐるが、朝鮮内の製絲工場を保護するといふことは上述の如く、政治上に於ても經濟上に於ても何の保障もないのみならず、智力や資力が彼等に及ばざる朝鮮人は、日本人と比肩して製絲工場を經營し得られないから、製絲工場を保護するといふ意味は結局日本人企業家を保護するといふ意味である。これは相違なき事實であらうが、養蠶家を保護するといふのは出來ないことである。

何故かといへば、生産者と需要者が自由に賣買をするときに始めて、互に牽制扶助となり、よつて生産者は正常なる價格で販賣することとなるのであるが、生産者を拘束して一個の營利會社の單獨專賣に任ずるときは、決して保護となるのでないからだ。かくの如き無理な制度が何處にあるであらうか。し

かし道當局者に質問をすれば、彼等は直ちにこれは總督府の方針であるから己むを得ないことであるといつて頑張るのが常例である。

## 三、各道の特賣現況

かくの如く無理極まる制度は朝鮮總督府の方針で、朝鮮全體に實施されるのであるが、道に依りては製絲工場が三四箇所ある處もあり、全然ない處もあり、その外種々の事情も潜伏してゐるので、現在蠶繭特賣の狀況は各道が一致してゐない。今その現狀を一瞥するに、

△京畿道 道内の各製絲家に分配して特賣してゐるが、京城市内のみは自由販賣を實施してゐる。

△江原道 三井、山十、朝鮮等の各製絲所に特賣してゐる。

△咸鏡南道 山十、三井、朝鮮、内田等の各製絲所に特賣をなし、永興郡のみはその地方人に特賣してゐる。

△忠清南道 忠清製絲に特賣してゐる。

△忠清北道 鍾紡、朝鮮、小口、三井等に指定販賣してゐる。

△全羅北道 未定

△全羅南道 道産製絲に特賣するが羅州のみは現品競争入札を實施してゐる。

△慶尙北道 一部は現品競争入札をするが、大部分は道内の製絲家に特賣してゐる。

△慶尙南道 大部分道内の製絲家に特賣してゐる。

△黃海道 未定

△平安北道 未定

△平安南道 山十組一箇所に特賣してゐる。

(但し前記未定地に對しては目下三井、鍾紡、小日組、片倉組、山十、道是等が各特賣權を得んと競争中である)

右の如く朝鮮内で産出される約三十二萬石の蠶繭は、幾個日本人企業家が獨占するので、二十餘萬人の養蠶家は日本人幾個人の專横に弄絡されてゐるが、朝鮮人としては毫も干與することが出来ない。これに因り經濟界は尙ほ沈滞となるのである。一中略一特に平安南道にありては自由販賣の區域もなく、又現品競争入札もなさざるのみならず山十會社一箇所に獨占せしめたので、横暴や専恣を忌憚なく任意にし、且つ價格を任意に量定するが生産者は抗議を提唱すべき途がない。だから生産者の不利はいふまでもないことである。

#### 四、平南の特賣狀況

昨年中全朝鮮で生産された蠶繭數量は三十一萬七千石(府玉繭一萬八千石も含む)であるが、共同販賣で賣られたる數量は十八萬三千石である。この十八萬三千石といふものは、前記日本企業家等の特

買を終了したる以後、多少の殘餘を集合して賣買したものである。本年も製絲會社が二箇所増設されるので、共同販賣に依る賣買の數量は尙ほ縮少されることになるさうだ。而して平安南道内にて昨年中に生産された蠶繭數量は二萬八千石であるが、山十組に特賣したのが九千石であつた。この九千石を山十組に特賣する方法は、昨年の例から見れば道内の蠶繭商人より、從來の如く鑑札下付願を受理したる後、内容に於ては蠶繭の出廻が殆んど終りたる八月末日に至り、個人鑑札を下付することゝなつたのである。大概平南の蠶繭出廻期は六月二十日頃より始めて、七月十日頃が極盛時期となり、八月を經過すれば蠶繭は殆んど生産者の手許にはなくなるのである。かくの如く六月二十日頃より八月末日頃まで他人に賣買することを一切禁止して、山十組一箇所に獨占せしむれば、平安南道の養蠶家は全然山十組の犠牲となることである。しかして蠶繭商人等の猛烈なる呼怨が天に漲つたので、獨賣期限を僅に七月末日までに短縮することにしたのである。而してその九千石なるものも、平壤山十組に於て全部消費されるのでなく、内面に於ては日本内地に積送して中間利益を取るのである。然るに本年は山十組が製絲釜數を増加すると、二萬三千四百石特賣することを平南道當局に要求したさうだ。これは如何に考へても破廉耻、没人情である。惡鬼の行動といはざるを得ない。

#### 五、平壤蠶繭商民の主張

人を殺すには銃劍を以てするのと、その生活の保障たる經濟の基盤を奪ふのと、その方法は異なるけ

れども、活かさないことは同様である。銃劔よりも経済で人を活かさないのが反つて陰險であり、醜態である。直接に職業を奪はれたる平安南道内の三千餘名の蠶繭商人等は、この無理極まる特賣制度を撤廃せんとして、昨年より猛烈に運動して来たが、正義はたゞ強者に於て云謂し得る術語であり、貧弱なる蠶繭商人には服従があるのみである。権力や勢力を握つて彼等より總督府の方針であるから己むを得ないと頑強に拒絶された、平壤蠶繭商民會に於ては、その間會議に會議を重ねた結果、去る十二日に至り涙をのんで従來の主張を變更して蠶繭特賣制度を是認することにし、以て他道と同一なる制度を採るやうに要求することとなつたが、その要領は次の如くである。

一、七月十日を特賣期限最終日とせよ。

二、平壤市内のみは自由販賣區域にせよ。

即ち上述したところの如く、蠶繭の出廻は六月二十日頃より七月十日頃までの間が極盛時期であるが、その間他人は一切手を付けず、山十組一箇所に於て獨買をすれば、平南の産繭半分以上を買占ることは充分出来得べきであるから、その後の殘餘を共同販賣にして下さいといふ要求がその一であり、その次は平壤市内は京畿道の京城、全南の羅州、咸南の永興の如く、自由販賣區域にして下さいといふ悲惨な要求である。勿論自由市にするといへば、三井や山十やその他日本企業家も同一に競争入札をすることになるから、若しも彼等が正當に買入れるとせば朝鮮人蠶繭商人が敗退すべきである。然るに彼等

がこれをも許さないのは無理なる暴利を搾取するのであるといはざるを得ない。この反面で損失を蒙むるものは多數の朝鮮人養蠶家である。

#### 六、養蠶家覺醒の必要

現下朝鮮の養蠶家は殆んど全部が地方農民であつて、横濱や、「ニユウヨク」の生絲の時價がどうであるのか、又は蠶繭賣買のときに生産費を如何に計算するかを知らない人が大部分である。故に道廳や郡廳に於ては、蠶繭價格を會社員と任意に協定したる後、農民に對して強制的に蠶繭持來を命令するのである。生産入札も競争でなく、一個會社の任意であるのみならず、道廳員も人間である以上、不正な事が絶対にないとは誰も保障し得られないのであらうか？ 蠶繭の等級を決定する郡廳員が、會社員と結托して不正行爲を敢行するとの説は、昨年道評議員會席上に於て問題となつたことである。——中略——現在朝鮮の養蠶家はかくの如く無理なる制度の下に蹂躪されてゐるが、その理由を知つてゐる人が少ない。假に知つてゐるにしても強制的に施行される現在の立場からは如何にすることも出来ぬであらうが、養蠶家は覺醒して自衛策を講ずべきである。自分の生産する物品を以て、自分の利益の爲に有効に使用することは、何れの處へ往つても自由である。大に結束してこの悲運を呼叫せよ！

#### 朝鮮日報の短評

△各道知事會議の指示、諮問の事項が四五十種の多數に達したさうだ。

△その中に果して朝鮮人の生活を安定せしめようとする根本的條件があるのか？(五月十八日附)

△過去の移民は成績が不良であるとして、總督府が直接獎勵することゝなつたさうだ。

△その成績がよくなればその結果は如何になるであらうかな朝鮮人……。 (五月二十三日附)

中外日報の短評 五月二十一日附

△昨年中日本内の人口は百萬人も増加したので未曾有の大増加だ。

△東拓や不二興業等の活動すべき時機が来るのかな！。

東亞日報の短評 五月二十三日附

△或る晴れた朝、鍾路警察署の正門から「ベント」匣を持つて出る當番巡査等があつた。

△元氣のない「ヨボ」巡査數人の中に、一寸惻巧さうな若い一人の曰くに「下駄を履くもの等は試験問題

は簡易であり、給料は多いのに、我々の試験問題はむつかしく、給料は少い……。天候は晴れてゐる

けれども彼等の心は暗いやうだ……。』と。

### 押 七 警察問題

#### イ 學生處分問題

(朝鮮日報大正十五年七月九日附)

一

六月十日萬歲事件に係した學生中には起訴が十一名で其餘は不起訴亦は起訴猶豫處分を受ける事になつた。

學務當局の命令に依つて起訴せられた學生に對しては退學處分を行ひ、京城帝國大學には絶對的に入學を許さぬ方針を確立して、朝鮮内では最高學府に學ぶ道を全く閉塞し、不起訴又は起訴猶豫處分を受けた學生に對しては無期停學、有期停學を科し、其の停學を解除する時には亦學務當局の指示に依つて行ふことになつたと。

二

そのやうにして、彼れ等は罪もないものを捉へて非常に苦痛を與へて、不起訴だとか、起訴猶豫だとか云ふ手段を以て其の一部分を釋放して恩恵釜敷見せかけ、其の後から、直ぐ、無有期の停學と、退學と京大入學拒絶を以て再び痛棒を加へて學生等の前途を暗澹たらしめたのであつた。であるから彼等に人情を以て責むる必要はなからうが何れにしても不都合極まる事である。

彼等は此のやうにするに因つて、如何なる効果を收めやうと期待して居るのであらうか？其の學生等が改過遷善することを望むのか？

退學せられた學生等は再び就學が六ツヶ敷に因つて絶望の境遇から、もう一度振作せうとするであらう。亦有無期の停學を受けた學生等としても決して心中平安の理はないのであるから、彼等當局者の所

期の効果を得ることの出来ぬことは明白のことである。

三

しかし吾人は今此處で當局者等に彼等云ふのが利益となると云ふ點から彼等を誘惑して何か特別の行動を誘させやうと云ふのではない。唯處罰を受けた學生等が、一層不平を含むことになるのであるから、所期の効果があるまいと云ふことを指摘して置くのみである。そして吾人としては、彼等の伶俐なる計を看破して、それに對して抗議するものである。亦吾人側から見れば、有爲の青年等が發展の順路を絶ち苦心慘愴するのが惜むべきことである。此の點から見て吾人が聲を大にして彼等の爲努力しなればならぬ。其の學生等は道徳上觀念から見て何等非議する所のないことは、明白のことである。朝鮮人の道徳觀念から見てもそうであるのみでなく、日本人の道徳觀念から見ても亦そうであると云ふの外はない。

四

しかし、吾人は日本の治者階級に對して、さむなことを云つたとて何の役に立たうか？。彼等は其の學生等の行動が不穩だと云ふ一語を以て、其の責任を回避することを得るであらう。しかし、問題はいつも根本點に接觸することになるが、彼等は果して不穩なる二千三百萬の朝鮮人を如何に處置せうとするのか？。萬事が相對者双方に相當の理由があつて大に激動するのであるから、彼等はさうすること

が當然だと考へ、亦吾人はさうするのが當然と考ふるのである。現下世界の趨勢に依つて窺知することを得る歴史的進行は吾人の主張が當然であることを説くことになる筈である。

押

警務局の唐慌

(東亞日報昭和二年一月二十一日)

今回東拓爆彈事件の記事に對し、警務局は極めて唐慌であつた。去る十二月廿八日該事件突發以來、各報導機關に對し一切掲載禁止の命令を發したのは、連累者搜索上なら怪むべきことではなかつたらうが、眞犯人が現場に於て逮捕され、又その犯人が自己の姓名を語るのみにて自殺した以上、事件は極めて單純明白なるにも拘らず、事件發生以來十七日を経過したる後に至り既に日本内地に於ては各新聞は勿論、無電放送を以て一般公衆に事件の真相が詳細に報道され、半月もなつてから僅々解禁するのが第一唐慌である。第二、十三日朝十一時記事掲載の禁止を解くに至り「當局の發表其の儘にせよ、若し一寸でも相違あれば差押へる」との無類な嚴命を降したのである。これは出入記者に言つたのではなく、所管警察をして傳達せしめたのである。警務局に於て記事掲載の範圍を指定したのは朝鮮に於ては茶飯事ではあらうが、記事の内容を「デクテイト」するのは警察萬能の朝鮮に於ても實に初有のことである。如何に無頓着な警察當局にしてもかくの如く沒道理なる處置があらうとは信じてゐなかつた。これは實に唐慌中の唐慌と言はねばならぬ。

然し命令は命令である。我々はこれに順従する外は途なき故に、當局の發表あるまで待つてゐたのであつたが、發表當時に警務局長は明確に「當局發表の程度」と言つた。その程度なる語は最も當然なる語であるから、我々はその語を信じて、當局發表の程度を越へない限りに於て、該事件の號外を發行したが、當局發表書類になきものがあるとの理由を以て差押へられたのである。しかし發表書類以外のものとして削除を命じたのに、中には犯人の遺族一覽表と筆蹟(自署)寫真までも含まれてゐる、その外の禁止記事も犯人の略歴、私信、犯人の家族の記事等である、若しも他の犯罪に動機を與ふるか、犯人に同情し之を推奨する記事であるか、又は犯罪捜索上秘密にする關係があるものであれば或は怪しむべきものではなからうが、それと何等の關係なきものまで削除せしむるのは、唯當局が是非當局發表のまゝにせよとの不當なる命令を黙守せしむる稚氣に過ぎない。尙ほ我々は當局者中にも責任者たる警務局長の「發表する程度」といふ語を信じてしたのである。

又警務局は同日十一時に記事を解禁すると云ひながら、日文である當局の發表を同時に日文新聞と朝鮮文新聞に配付した。日文新聞は發表その儘に文撰して印刷すればよからうが、朝鮮文新聞はこれを朝鮮語に翻譯する時間があるから到底機會均等になり得ないものではなからうか、我々は當局に對し朝鮮譯の發表を要求したが、警務局はこれに對し一顧も與へなかつたのである。我々は第一次號外中に當局に於て削除を要求する記事と、寫真全部を出張した鍾路署警官の立會の下に削除し、第二號外を發行し

た。この日に私服警官は編輯局と工場を警戒し「印刷はしても許可なくては配達を許さぬ」との第二の珍命令を降したのである。法律で許可となつた權利までも、警務當局の眼中には草芥の如くなる。我々は警務當局の健在を問ふのである。

#### ハ 河東警察署の横暴

(昭和二年一月二十六日附東亞日報)

慶南河東公立普通學校に於て月謝金未納生三百名を逐出したことは、大正十五年十二月十九日附本報第二二五九號紙上に報道したのである。これが監督官廳たる同郡廳と學校當局と學務委員との間に於て議論紛々となつたのであるが、河東警察署に於ては去る十一日に至り、本報記者金〇〇氏を呼出して、喪警部係となつて警察犯處罰規則第二十一號に依る聴取調書と云つて、前記新聞記事に對し事實の正確なる事を證用せよ等と訊問をしたが、更に同警察署長より同様に脅威しながら恰も重大犯人を取調るやうな態度に出た、金記者は記事の出所は絶對話せぬと斷然これを拒絶したので、署長は益憤慨して極度の暴言まで吐いたさうだ。(河東通信)

#### ニ 警察に對して

(中外日報昭和二年四月十四日)

一言なかるべからず

民衆が警察を信任するのは警察が民衆の生命を保護すると云ふ點にある。萬一警察として民衆の生命を保護することはさておき、夫と反對に草芥視すとせば夫を信任する所か。當然敵對視しなければならぬのである。

今回エメチン注射の爲ビン／＼はねて居る人が七名死んで倒れて了つたことに就て、感覺ある民衆は急に對策を講究する爲、市民大會を開催せむとしたが、警察は「民衆が最も昂奮した時期であるから、亦是當局の公平なる鑑定發布がある筈であるから、其の時を待て」との口實で阻止を命じ、亦對策講究會で去る七日非命横死者追悼會を開催せむと準備中、警察は委員一名を呼び出し「まだ患者の症状が全快し得ぬから少し時期を待て」とて當分阻止を命じた、亦對策講究會で漢城衛生會の中毒症状が顯著であると云ふ醫學士説明を得て去る十二日を以て直接責任者である當局彈劾講演會を開かむと準備中、警察は突然禁止命令を下した。

〇〇にあつて〇〇〇〇の根本〇〇が最も〇〇なることは更に容喩する所でないが、こんな境遇に一層露骨化するのである。

〇〇が〇〇〇〇の生命を殺害しても、一方では天候に稱托し、一方では〇〇〇〇の口眼を掩蔽する等實に笑ふべきことである。

餘り引張ると綱の切れる心配があるものである。吾人は何もそれを憂ふことはないが、彼等は動もす

ると治安を論じたり、妨害を心配するとのことである。

〇〇が彼等の所謂治安であり、民族の治安を〇〇が反つて妨害するのである、彼等の頭が鏡であれば詐りなく反映するものと信ずる。

唯現朝鮮警察〇〇〇等は全世界的〇〇〇例に〇〇〇として當然〇〇〇する者は是非共朝鮮〇〇〇でなくてはならぬことを覺らなければならぬ。



### 國境巡查の非行

(朝鮮日報昭和二年四月十九日)

吾人は國境巡查等の非行暴行等の消息を色々聞て居る。此は修養不足の沒常識漢をして警官の職に當らしむる原因も多からうが、殊に警備嚴重にのみ重きを置く當局が國境警官に過分の職權を許すと同時に、過失故意を問はず、少々の不法行爲は馬耳東風に開流して了ふことが多いので、結局は彼等をしてそんな警官の職權濫用の不法行爲を助長せしむるのみである。そんな消息は國境のみでなく、全鮮各地にない所はない。毎日新聞紙には同様の報道を以て裝飾せるは世人の共に知る所ではあるが、其の中にも國境は最も甚しいのである。先般造山洞駐在所に勤務する明某と云ふ巡查は、通行の婦人に無端に拳銃を以て威脅し、それでも不足で駐在所まで引致し、亂打して治療三週間を要する重傷を負はしめた。其の婦人に萬一重大の犯罪事實があつたとするもそんなに亂打するのは不法行爲であるのに、況や

犯罪も嫌疑もないと云ふに至つておや。殊に男子と異り軟弱の婦女子に對して忌憚なくそんな無理の暴行を敢行したと云ふことだけでも、彼等の平常の行爲を推斷するに足るのである。探聞するに、彼は先月も龍觀洞金某と云ふ良民に對し無端に拳銃で威嚇した事實があつたことである。彼は國境警備の武器を良民や婦女を威嚇するに使用する武器と考へて居る様子である。嗚呼こんな者等は所謂人民の生命財産を保護すると云ふ警官と云ふのであるから、吾人は呆然たるのみである。亦數年前某渡船場では、渡船取締の某日人巡查が、妙齡の處女に對し、取締に憑藉して其附近の柳林に引入れて上下衣服を皆脱し、裸體検査をすると同時に、處女の腹部を指で突いて、小兒がある亭主があるなど弄絡を存分したので、處女は怯れて氣絶しそうであつたことがあるとのことであるが、此が萬一事實とせば、こんな野獸的發行が何處にあらうか。

所謂警官たる者は、取締に憑藉して無端に人民を弄絡しても職權濫用、人權蹂躪等の罪名で斷然處罰すべきである。況や妙齡の處女に對して何等嫌疑もなく、裸體検査を敢行し、侮辱的弄絡を存分したとせば、假令強姦はしなかつたにせよ、道德的に決して容恕できぬ行動である。嗚呼こんな不良警官輩が跋扈する一面で、無辜の良民が困厄を受くることを考ふれば、實に言ふだに痛心である。吾人は此に警官自體の覺醒を促すと同時に、口に文化政治を標榜する當局者の省察あらむことを切實に望むのである。

## 八 在外鮮人問題

### イ 在外同胞の拘束を目的とした

(朝鮮日報大正十四年九月二日)



韓人取締辦法の内容

所期に副應するかどうか疑問だが

僑民同胞に非常な苦痛を與へる事実は確かだ

朝鮮總督府で國境取締に苦心した結果、下岡總監と三矢警務局長が續いて滿洲に出張して交渉した結果、中國官憲と警務局間に「所謂韓人取締協約」が締結せられた事は當時報道して置いたが、其後中國側では施行細則を制定して關係地方官署に通知送致したそうであるから將に實地に施行せられる筈であるが、此の辦法が施行せられるの口には、その区域内である奉天東邊道管内の居留同胞は居住、移轉、集會等に一切拘束を受けてその不便な事は形言する事が出来ざるべく、殊に此の辦法は腐敗し秩序の無い中國警察に朝鮮人を苦まさせる事となり、金錢や賄賂を收め込む一つの口實となつて、無限の弊害を發生させる事は明共觀火の事實であるから、此の辦法の結果に總督府當局者が望む様な結果を得ず、徒らに居住同胞に雙びない弊害を残すであらうと見られて居る。その詳細の内容は左の通りである。

#### 取締韓人辦法施行細則

一、中國奉天省東邊道管轄區域内に僑居する韓人は中國官府から清郷章程に依つて調査して善良なる人



民と確認する時は「僑居證書」を發給し次で「牌」と「保」に編入して監督と調査に便にす  
僑居證書は別紙の如し(注意牌と保とは統戶(番地)に同じ)

二、中國奉天省東遼道管轄區域内に僑居する韓人戸口は第一次調査を完了後は毎戸臨時調査を行ひて變動のある時は「牌保」を修正改編し一年の總調査は春秋兩季に行ひ多くとも年二回に出でず

三、中國奉天省東遼道管轄區域内に僑居する韓人にして遷移する五日以前に所管警所に出頭して發給したる僑居證書を返納し「遷移證書」を領取して調査に便にす

遷移證書は別紙の如し

四、協定辦法に准據して將來雙方(日本及中國)に於て韓人を取締る事件が発生して逮捕又は引渡の請求又は通知が有る時は迅速簡易を宗旨として地方官憲が警察官吏を指揮して之を行ふ

五、中國奉天省東遼道沿江各稱に於て萬一武器を携帯して韓岸に侵入せんとする不逞韓人を捜査發見したる時は逮捕審査の上中國官憲は直ちに協定辦法に照らして韓岸沿江道知事に引渡すものなるも便利上對岸最近の日本警署に引渡す事を得

中國奉天省各地各縣にて不逞韓人を緝獲する時は審査の上所管最近交渉署に押送して該署に於て更に日本領事に引渡す

六、中國奉天省に僑居する韓人は如何なる名義を用ふるも集會結社は勿論一切中日兩國の地方治安を妨害

し又は其他不正當なる希圖を爲す者は一律嚴禁し既往に組織成立したるものにも又之を解散して流弊を防ぎ取締に資し且つ公々然と機關を設け機械を携帯して作隊遊行する者は特に力を竭して痛剋して淨絶を期圖し捕獲したる時は直ちに第五項の規定に依りて引渡す

七、朝鮮官憲より不逞韓人を團を指名して査捕を請求する時は中國官府は討伐拿獲して審訊を経たる上必ず第五項の規定に依りて引渡すべく萬一調査したる結果斯かる者に非らざる時は直ちに書面を以て通知して誤會を免がるべし

八、協定第七項の請求は雙方が通知を受けて直ちに相當の措置をなし機宜を失ふなかるべく且つ辦理の結果を相互通知す

九、雙方が臨時口頭を以て通知する場合には武器を携帯したる者二人に限り彼此渡江して相互通知するものなるが通知票(別紙に定む)を交付す書面通知方法は中國警察所長及日本警察署長を以て最低階級とす

一〇、協定の精神を貫徹し勵行を嚴密にせむが爲めに雙方の監督官憲及下級警備機關は互に聯絡して意志を疏通し可成相互誠意を以つて通報を交換して協調進行する事

一一、東遼雙方の從來の懸案に對しては本細則發定の日より起算して五ヶ月以内に地方官憲は可成互に誠意を以つて公平に解決すべく將來更に交渉案が発生するとも地方官憲が公平に交渉して此を解決す

る事とす

一二、本細則は交換日から雙方が各々公文を以て公布施行する事とす

奉天全省警察處々長

干 珍 率

朝鮮總督府警務局長

三 矢 宮 松  
國 友 尙 謙 代

中國民國十四年七月一日

日本大正十四年七月八日

奉天全省警務處に於て

以上

口 忍ぶことの出来ぬ滿洲朝鮮人問題

(朝鮮日報大正十五年七月二十四日付)

日中協力の朝鮮人壓迫

一

滿洲朝鮮人問題が朝鮮内國の諸問題を除いて、第一位の重大問題であることは、一般識者の同感とす

る所である。二百萬と云ふ同胞が、國境外に轉任するのであるから、平穩に生活するとしても大小の問題が起きる。況や虐遇に呻吟する聲が吾人の耳を突いて絶へぬのであるから、勿論問題のある筈である。朝鮮人の死活問題は免ることは出来ぬ。國內、國外の區別をする譯ではないが、活路の開拓の爲熱血の焔を燃したものが、前門の虎を避けて後門の狼に遇す、二百萬同胞の運命を一日も忘れることは出来ぬのである。

二

和龍縣の中國官憲等は土地移動手續を武器として、朝鮮人の歸化を強制し、それを機會に手續費として數萬圓の巨金を搾取することである。鐵嶺縣下なる數百戸の同胞は今春以來旱災に困つて農作は絶望となり、生計窮迫して歸國せうとするも旅費がなく、日本の領事館に陳情するも何等良策なく中國人と地主には積り重なる舊債も支拂ふことの出来ぬ事情で更に融通を頼むことも出来ず、四方に離散する形勢であると。前記の各種苦難の爲更に西伯利亞に向ふ者が三千人に達する有様であると。漂浪亦漂浪して安住する所を知らぬ情況は目の前に見るやうであると。

三

滿洲の朝鮮人の困境は初めから全くないのではない。しかし、朝鮮總督府と東三省の當局者間に朝鮮人取締協定成立の後から彼等中國官憲や及其れを口實とする者等の朝鮮人を壓迫することは一層激甚と

なつた。滿洲曠漠の平野に荒蕪が開拓せられ膏沃の土地となり僅少の収入よりなかつた陸田は變して水田となつた。此は皆朝鮮人の汗血の結晶である。

滿洲の繁榮と東三省の富力の爲欣賀すべきことである。然るに彼中國人は其の利益の大を貪らむとし、朝鮮人の放逐を計り、商租權の確定しないのを口實として耕地を奪ひ、諸種の課税を過重にし、教育機關の設置を許可せず、居住を拒絶し或は移轉の自由を拘束し、彼等無賴の輩は侵暴を恣にして之は「獨立團」であると云つて其の罪科を回避する方策とするのであるから、之は中國の官憲が朝鮮人を虐遇することになるばかりでなく、日本統治當路等が中國の官憲と協力して朝鮮人を虐遇することであると云ふものである。

## 四

中國の官憲等は人民を抑壓誅求することは殆ど常習で別に奇異とする所はない。唯朝鮮人へのみ限つたものでなかつた。今彼等が日中協力の聲勢をかつて朝鮮人に暴虐を加ふことを専力するのであるから、此の地方の同胞等が人生として生きがひのない、怨嗟と憤怒を重ねるのみである。

是皆弱者の怨嗟で彼等強暴を誇る者等は一快事とするかも知れぬが、此は決して平易に看過することの出來ぬ歴史的一禍因である。亡國の遺民として四方に漂浪する者が彼等軍國的帝國主義國家の支配群の目には何等考慮を要しない侵凌の對象とするかは知らぬ。しかし、二千萬の人民をして其の内國では困

苦する所ありて數百萬の移住人民をして更に漂浪して安住を得ず、唯々怨嗟憤怒の情を極め、因つて絶望に陥らしむることは亦彼等の一禍因ではあるまいか。そして朝鮮人が此れに對する眞摯なる對策の講究及斷行の勇氣を要することは勿論である。

## 押

## 土地買收問題

(昭和二年二月十七日東亞日報)

これ何たる奇怪事！

社會はその構成分子たる各個人の幸福の爲に存在するのであり、政治行政の當局者は一般民衆の福利増進を圖るものである。しかし現代はきつとそうであると言はれぬ。全然正反對の感がある。社會制度は成員全部の福利を無視するやうな事相があり、政治當局者は自家の榮慾のために權力階級の番犬となつて民衆を度外視するやうなことも多くある。

最近の一例を見るに日本の資本團の一である小野田セメント會社では、威南文川郡郡草面に工場を設置することとなり、その敷地二十萬坪を買收するに當り、地主側と會社側が對峙して賣買が成立されなかつたが、郡守と警察署長が多數の警官を帶同して現場に出張し、土地收用令に依つて收用すると脅威するので、住民等は己むを得ず二十萬圓乃至四十萬圓の價格に相當すべき土地を三萬圓以下で遂に投資して了つたと云つてゐる。これが果して事實ならば明白なる恐喝であり、詐欺である。賣買契約は

双方が相等なる立場に於て自由意思に依り成立されるものである。多数の警官や郡守が、私法人の工場敷地に土地收用令の脅威的看板を以て多数の住民を恐喝し、不法の賣買を成立せしめたと云ふのは如何に考へても奇怪なことである。個人の間に暴力や恐喝に依り不當なる賣買が成立されたならば、被害者の爲に法の援助者となるべき警察官として自から佩劍の威勢を藉り、民衆を脅迫し以て細民に巨大なる損害を及ぼしめたるは法の神聖や権力の公正を信じて安堵し得られぬ事を喝破したのではないか。吾人はその警鐘の亂打を今に至り初めて聞くのではない。強制賣買の當事者たる小野田セメント會社に付ては論ずる必要もないが、郡民の福利増進を圖るのがその任務である郡守や、管内住民の安寧秩序と利益の侵害なき様努力すべき等の警察署長等が右の如き行爲をするのは到底容認し得られない問題である。勿論彼等にも口實はあるだらう、俗談に謂ゆる盜賊にも三分の理があるとの格と同じく、豈に権力の一部を掌握せる彼等に理由がなからうか？、勿論住民の呼價が無理であり、地方發展の爲に己むを得ざる事實であると同時に、治績の一として外部に宣布するものなりといふかも知らぬ。

かくの如き事實が豊獨り文川の郡守や警察署長にのみ限るであらうか？、即ち時代的缺陷を除去する後でなければ茶飯飯なこととなるであらう。

短評

二月十五日東亞日報

△東拓事件が一段落を告げてからは平穩のやうであつたが、又更に拳銃事件が突發したと云ふてゐる。

これが昇平年月を表證する證據であるか？

△日に縮少されつゝある朝鮮人の生活にだん／＼殖いて行くのは税金のみである。

△かくの如くなれば税金の爲に生活が出きないと云ふのが朝鮮人一般の談話の材料となつてゐる。

同

二月十六日中外日報

△所謂朝鮮の參政權運動なるものが年中行事となつて日比谷座に請願を繼續するとの説のみは聞いてゐないが、今回は意外に破天荒の大盛況を呈し、平壤に於て參政運動の請願書に調印したものが九名の多数に達したと云ふ。

△それでも平壤に於ける國民協會の會員たる朝鮮人であらうと思ふてゐたが調印者九名は全部日本人であると云ふ。

## 一〇 東拓問題

(昭和二年四月三日東亞日報論壇)

### 東拓の整理

○民衆の怨府としての考慮

朝鮮人の經濟と朝鮮の經濟が一致せざることとは殊更いふべきものでもないが、朝鮮の經濟が朝鮮の爲に發達の可能性があるか？、若も發達性があるといへばそれは内容が全然虛弱(空虚)なる外觀のみの發達に過ぎざること事實である。謂ゆるその外觀上の發達とは現代産業の形式上の設備があるその反面

に消費經濟の發達をいふのである。現代的産業が朝鮮に創設され維持される方法は、たゞ總督府の獎勵金及補助金支出の豊富を得るのみである。かゝる反面に消費經濟の膨脹を見ることになればその代價は何を以て支給するであらうか？、唯この方法としては朝鮮人の富の減少を以てするのみであらう。この事實は吾人が過去に於て體驗して來たのである。

殖産銀行を通じて資金の融通を得たり、東拓會社を通じて土地所有權の大部分を喪失したのみである。東拓は一方から見れば朝鮮人の生活資料購入の代價を融通するものといはれるかも知れないが、しかし東拓のやうなものがなかつたならば土地所有權の喪失は比較的その時日が延長されるであらう。然るに東拓會社は根本使命として勿論をうするであらうが、所謂移民政策に依り小作權をも剝奪した一戸の移民が十戸以上の農民の生涯を奪ふことになつた。小作を未だ繼續すると雖その農業利潤の掠奪は實に驚くべき程年々小作爭議を惹起するのである。従つて多數の小作農民は國境外に流離することになるのである。故に東洋殖産會社は農民より仇敵視されると同時に民衆の怨府となつたのである。

然らば朝鮮人の富の減少に因り多大の富を獲得し、御用會社として多く貢獻を遂げた東拓は多大の富を所有すると同時に、株主の配當も多くならねばならぬであらう。しかし東拓の現實はどうかであるか？、朝鮮人に與ふる悪影響は偉大であつても會社自身の利益はなかつたらしい、これ「積善之家に必ず餘慶あり」との説を反面に證明する事實であらうか？。

それは年來東拓に於て整理を重ねた事實が語るものであるが、尙今回の整理案の作成が明かに證明するのである。其の整理の要點は各新聞紙上に報道された處であるが、同整理案は五月一日開催さるべき東拓株主總會に附議する所だ。然るに整理は大部分の土地處分に依ることになるといつてゐる。

東拓が整理をしても解散をしても我々には何等の關係がないが、しかし民衆の怨府である東拓の整理云々の聲を聞くときに、妙な衝動を受けることになる、東拓よ！土地處分による整理方針を實行するに於ては民衆の怨府としての考慮あらん事を望む。

## 一一 産業問題

(昭和二年二月二十五日東亞日報)

### 地方産業發達の要諦

經濟的後進國に於て金利が高いのは常例であつて、何等奇怪な現象ではない。而して金利高率の現象は都市よりは鄉村が顯著である。その原因は金融機關の不足だ。朝鮮の現象から見ても鄉村に於ける金利は都市よりも高率である。鄉村に於ては月利二分三分は勿論であり、謂ゆる市利(チャンベン)の制度は市場行商及中小農の金融機關であつて、その利息が高率なのは實に驚く程である。かくの如く個人金融の暴利が一般民間の膏血を吸取する状態であつたから金融組合が出現してこれを多少緩和せしめたのである。朝鮮の細民金融の爲には金融組合の貢獻が多いと言はれるであらうが、しかし現在の制度その

儘では朝鮮の産業發達に資し得べきものであると諍辯することが出来ないのである。

總督府某高官の談に依れば「金融預金利率は地方産業の發達改善に資せんとする政策なり」と云ひ、「地方遊資はこれを地方に於て吸収し、地方生産資金に投資せしめ、又金融組合をして尙ほ一層零細なる地方資金を吸収するに盡力するのである。然るに預金利息が高率でこれを吸収することよりは預金者の便宜と確實を主として預金を吸収するのが穩當であり、これを地方生産の爲に低利で貸出するのが有利であると云つてゐる」と。

勿論低利で預金を吸収し低利を以て生産資金の貸出をなさしめると云ふのは理路の整然たる説であるが、しかし理路の整然たるのみでは産業の發達改善を圖ることは出来ない。制度の改善が先決問題である。預金利率の低下が必ずしも産業發達の好材とならないからだ。故に金融組合制度を改善するのが産業發達の一助となるのである。

然らば金融組合は果して如何なる缺點があるのか。

一、日本人の理事は不可である。

或は學理や經驗で優秀な者があるかも知れないが、しかし朝鮮人中にも優秀な人物は多いから、必ずしもひげはとらない、のみならず金融組合は人的組合であつて、物的組合ではない。故に人情風俗が異なる日本人は實情を理解し得ないものであるから改善を要するのである。

二、組合員の範圍を擴張せよ。

今日の現状では組合員中耕地を所有せざるものは一割三分に過ぎない、これは組合の堅實なる發達の爲に己むを得ざること、云ふかも知れないが、小作農民は必ずしも無資格になる筈はなからう、寧ろ小作農民等細民の爲に庶民金融機關の本義を發揮せしむべきことである。

三、融通金額の制限が餘り酷いのである。

都市金融組合で三千圓、村落金融組合で二百圓、特別なる場合に五百圓なりとの制限は今日の經濟狀態から見ると何等積極的援助とならざるものである。だから制限金額を増加する必要があるのである。即ち今日の金融組合は不完備極まるものである。この現象を以ても産業の發達改善に資し得るといふのは可笑可笑。

### 一一一 労働問題

(昭和二年二月二十七日東亞日報)

#### 就職労働者の運賃割引制度

特戒を要するその内面

近者朝鮮總督府では労働力の需要供給調節の一策として、就職旅行者の運賃割引制度を實行することになつてゐるさうだ。

その内容は、就職旅行を希望する者で最寄の道府郡島而警察官署より就職者旅行證明書、或は就職者旅行船賃割引證を得たる者に對しては、旅客運賃を割引することを得ることになつてゐる。但し旅行目

的地は朝鮮内に限られ、且つ俸給は百圓未満の者で三ヶ月以上固定労働に従事すべきものは、鐵道は官私設を問はず三等五割、朝鮮郵船は二割引だと云つてゐる。

かくの如き制度は現下の朝鮮人労働者の生活状態に照して良い制度であるから成るべく利用すべき必要があるが、しかし吾人はその制度を漫然利用さへすれば好いと云ふよりは、その裏面の意義を探索する必要があるのである。利用範囲が旅行目的を朝鮮内に限つた理由は謂ゆる朝鮮人労働者の日本渡航を防止する一方策から出たものである。日本官憲は朝鮮人労働者の日本渡航を拒絶或は防止しながらも日本人の朝鮮渡航は奨励或は歓迎してゐる。これが對等なる人間として又人類の共存共榮の理想に附合するものであらうか、かくの如くしながらも彼等は七月一日(米國に於て排日案通過日)を國恥記念日なりと云つてゐる。これは實に厚顔無耻の甚だしいものと言はざるを得ない。而し労働階級を移動する爲に就職旅行者の旅客賃金を割引するのは必要なことである。然らば割引の率を高くする必要はなからうか?、朝鮮労働者の現状では南鮮から北鮮の労働力需要地までの移動はさて置いて、その日その日の生活にも困難なのである。だからそれ等を救済するのが目的であれば、官營鐵道だけでも割引率を高くして労働力移動力に便宜を與へたら如何であらうか。しかし、かくの如き制度を利用せんとする我々は必ず警戒網が必要である。制度上多少の便宜はあるが多数の農民が農地を離れて永續的性質のない労働現場に往くのは考慮すべき問題である。この隙を窺ひ朝鮮農地を占領すべき豫備軍は陣を成して待つてゐる次第である。我々は目前の些少なる便益のみを見て盤石の如き農地を離れるのは絶対に避けべきことである。終りに民衆は一時的の繃繆策に満足するものではないことを總督府當局者に對し一言して置く。

### 一三三 自治問題

(時代日報大正十五年三月十五日附)

誤算の禍、若槻首相と自治運動者

數日前自治運動を口實に或る富豪から七百圓の金錢を詐欺して一年六ヶ月の懲役宣言を受けた者があつた。一進會の事業はもう過ぎ去つたことであるが、其の系統を傳承する者がある。そんな一個人に過ぎぬものは怪しむに足らぬ。勿論彼等の道徳は虚偽で事業は詐欺である、随つて誤算と蹉跌は彼等の生活史の全部であるが、彼等の間にはそんな夢想が矢張り失せないものと見へる。

そうして朝鮮に自治制度が施行することになれば其中の大頭が大官となり小さな奴が小官となると宣傳して居る。此れは吾人が數年以來常に見る處である。

彼の宗教の假面を被つて愚民を瞞着する集團があり、亦それと結托して自治を運動する徒黨がある、日本の議會が開く度に請願を提出する、しかし從來吾人は此れを不問に附して來た。それは掛齒するに足らぬからである。今後と雖も問題にはならぬのであるから反つて幸である。

## 二

去る十一日日本貴族院で若槻首相は聲明して「朝鮮及臺灣人が立法審議に參與することを希望するのは當然の事であると思ふが政府は帝國議會外の特殊議會を創設する考は毫頭ない彼等の文化が進歩して政治能力が発達せば日本議會に代表を送るやうにする」と言つた。

然るに日本と朝鮮との關係にあつて政治上の自治は其の實體と形式はどうか。琉球が沖繩縣となり日本議會に代表を送るのは沖繩縣の自治である、琉球は沖繩縣となつてから一層財政と經濟が根本的に破壊したのである、それは貧弱な琉球にても他縣同様の重課を負担せしめたからである、即ち六十萬の琉球人は殆んど全部が失業者又は失業者とならねばならぬやうになつた。琉球人に日本の他縣同様の重課を負担せしむるのである、日本内地の縣制度下で賦課する税額と言ふものは富強の英米と伯仲の高率である。であるから日本議會に舊琉球であつた現沖繩縣から代表を出した利益は唯生産のないものから重税を負担したことのみである。そうして急激に破滅したことのみである。以上の外他の根本的の種々の事實を煩擧する必要もなく唯經濟又は財政的實際關係から言ふても琉球と同じ様になることは明かである。然るに無類輩が騒ぎ廻るのである。若槻首相の「特殊議會を設くる考は毫頭ない」と云ふのは日本の統治群の意思を代表したるものであつて決して個人の意見のみではない。

## 三

然るに朝鮮の人口は二千三百萬であり、琉球は六十萬である。此れを同一視すると否とは彼等の自由で吾人の知る處でないが、河海を遡水と見たり泰山を岳陵とするものがあつて同じ様に越へ得るものと考ふるのは唯禍あるのみである。泰山を抱いて北海を越へた者があるか。世上には可能の事と不可能の事がある、此れは絶對論である。従來の現象では東洋の平和は不可能であると言つてある。それは經濟的にも政治的にも前後行詰つた二千三百萬の大衆がある爲である。

然し吾人の態度は能動的に作用するのでない、受動的に決定せらるゝものである。實に慘酷の光景である。嗚呼正義の門は閉鎖し人道の神は眠る、そんな所に何があらうか、天地は暗黒のみである。

排日問題 (朝鮮日報三月十九日附時評稿)

## 排日大煽動家

排日の聲が到る處に高い米洲の排日は、日米の戦争迄豫想せしめたものである。豪洲の白豪主義は排日の汎傳したもので、日英同盟の地盤に龜裂を生せしめたものである。中國の排日は同文同種の善隣で殆んど氷炭相容れざるやうになつたものである。朝鮮に排日と言ふものがある。それは朝鮮人の民族的解放を高調する結果必然の歸着である。排日が其の趣旨ではないが結果としてそうなつた事は時の免れ難い事である。保安法制令第七號治安維持法等は朝鮮人に此の傾向があるから刑法の外に別に設ける事になつたのである。上述の諸法案が縦横に行使せられる處に排日派不逞徒の名目で刑辟に就くものが其



数知らずである。此れが現下朝鮮の一大災厄である。しかしまだ天下最大の排日煽動家がある、系統的に組織的に大いに徹底の煽動を事とするものがある。それは倭城臺から最福宮中に移つた現朝鮮爲政の首腦からなる總督府幾千の頭顱を以て形成せる治者群である。吾人の説が奇怪と言ふか？「植民政策の影響が莫大」であると云ふ嚴重の論告の下に一金二百圓の判決を下した松本日巡查の女兒銃殺事件を見よ、此れては朝鮮人として排日の途を取らなければならぬであらう。しかも此んな事は其中の極少の一事件に止るのである。

#### 一四 其他

##### イ 地主懇談會

(昭和元年十二月二十三日附朝鮮日報)

二十日より開かれた地主懇談會は更に水原に於て會議を續行することになつたと云つて居る。土地改良と産米増殖計畫を實行せむとする今日に於て、地主懇談會が開催されたのは當然なことである。これには例に依る官邊の講説があり、又地主側の要望なるものがあつたのである。土地改良融通資金の据置期間が短期であるとか、工事改良完成後の組合費徴收を三四年中止してくれとか云ふが如きことも要望の一端であり、融通資金の利息が高率であるから、殖銀か東拓等をして金利の引下を斷行せしむるやうにするのも要望の條件であつた。

朝鮮産米が洪水の如く日本に侵入するので、日本も米價の威脅を受け、又朝鮮米は市價維持が困難となるを以て農業倉庫の設立を要望した。朝鮮米の市價問題は一方に於て朝鮮人の經濟問題、今少し解し易く言へば朝鮮人大多數の死活問題を握つてゐるのである。本年十二月二十四日配布米價の下落と綿價の低廉に因り朝鮮人に迫つて来る困境は何んとも言はれない。そうして一般的に餘り沈滞な気分の中に陥つたのは免れない事實である。これは彼等の階級的利益を代表すると同時に大多數の農民即ち朝鮮人の運命とも一致するのである。

土地會社の代金料金が高率であるからその引下を要望したそうだ。それも當然なことである。特に朝鮮人側の要望を以て水利組合に朝鮮人理事の採用の件を提出したと言つてゐる。又肥料施設に關する要望の如きも勿論云爲する餘地がないのである。唯吾人に感ぜらるるものは、近頃斯る種類の會議がだん／＼多くなりつつある政治的及經濟的の時代的意義である。曩には總督府新廳舎の大會堂と勤政殿正廳に於て日本の山林大會の開催があり、つづいて又公會堂に於ては水産集談會があり、今回は地主懇談會があるのである。これは彼等の縦横料理を爲さむとする經濟的統制策が尙ほ一層緻密を加へつつあることが認められるが、斯る訓令式及要望式の會議が續出すべき前提とも見られるのである。

そうして朝鮮人及日本人の地主等が物質結合政策の把持者と云ふべき湯淺氏の統制の下に於て一堂に集り要望を陳列するのにも一興味ある現狀と云ふべきであらう。彼等の種別を異にする同一階級の人等が如何に共同の利害觀に依り終末まで働いてあらうか。又は物心兩面で結合の體を堅くするであらうかは冷靜に傍觀すべき好題目である。

**押**

## 統營事件に對して

(東亞日報昭和二年五月十七日付)

今回の統營事件で直接行動を取つて檢舉せられた人々を吾人は法律的に辯護したり、又は推揚する事はしない。法律に照してその法律がたとひ惡法であつても司法權が活動するのが事實である以上、吾人には可否を云ふ自由が無いのみならず、それを推揚する言行は禁止されて居るのであるから、之を云謂しやうとはしないが、只本件が発生してからの經路に照して見て當局者の反省を求めて止まないものである。一個人金某に對して一般民衆が斯く迄激憤した理由は、其の個人の行動に對して反感を澤山に持つて居るのも原因ではあるが、事件を斯く迄激成させたのは當局者が朝鮮民衆に臨むに道理を以てせずして強力を以てするので、益々過激行動の挑發となり原因となつたと云ふべきである。

即ち金某が朝鮮人教育の必要を無視したのに非常な反感を持つて居つて、それが影響して民選にも落

選したにも拘らず、當局では此の人を更に官選道評議員にした。之が一般民衆の反感を一層高めたものであるのだ。

其處へ又一般民衆の意思を迎へて行動した人々を檢舉し、然かも其の人々が斷食を實行するに至つたので、その親戚友人の感情が極度に達したので、其の結果未だ嘗て聞いた事のない破壊的直接行動が爆發したものと見ることが出来る。

以上の様な經路であるから當局者が反省すべき點は明かであると思ふ。同時に今回の事件に關しては如何に當局者に責任があるかと云ふ事は今更暇々を要しない。

或る者は統營事件は小さい事件だと言ふけれども、吾人は決して小さいとは思はない。勿論殺傷もなかつたし官公署の破壊に逢つたものもないから、被害程度から見ると非常に小さい様だが、事件の性質は決して小さい事件ではないのである。

一般民衆の意思及態情に合はない人を官邊で無理に擁護するとその結果はどうか。そしてその結果は所謂官廳の威信と法律の權威と目的に如何なる因果關係があるかを説明するに至るか。實に今回の事件はそれをよく實際に説破したのと言はねばならぬ。

兵力を持つて立たうとした帝國獨逸を亡ぼした、權力のみを以て治めやうとする者があるとすると戒めなくつてはならぬ。

## 第二編 社會運動

## 一 社會運動の過去及將來

## イ 朝鮮社會運動の推移

(現代評論昭和二年七月號)

盧 正 煥

## 朝鮮社會運動に對する史的考察

前略——近代資本主義社會は前代の封建社會に對する否定であつた。しかしそれはそれ自體の矛盾に因りて又自らを否定するものだ。これは元來必然の運命である。しかしその必然の運命は宿命的神秘の力に依り執行されるものでなく、人間自體の力に依り執行されるものである。即ち現在社會は自體否定の「武器を自ら造成したのみならず又其の武器を使用すべき人物まで造成した」。しからばその執行者は誰ぞ？。これに對してマルクスは會つて「近代の勞働者——プロレタリアが即ちそれである」といつた。即ち現代のプロレタリアとは「否定の否定」の主人公である。有産世界の自己批判の主體である。それ等は勿論自家階級の利益の爲に闘争するものである。しかしそれ等の解放は凡ゆる階級的關係を放棄しなくては實現されないものである。だから、それ等の運動は結局世界的歴史の根本的解決を意味することになるのである。

自己階級の解放の爲に歴史的の凡ゆる將來を代表して、突進する主人公の側には又力ある多數の伴侶

者として被壓迫民族がある。(勿論先進國內では又廣汎なる農民層である)この兩者は有産家社會の自己發展上不可避の形勢の下にて漸次悲惨となつた。しかし歴史的作用の遂行上では漸次有力となつたので資本主義がその最後——最高階級たる帝國主義に入つてからはこの兩勢力の戰闘性及戰闘力は飛躍的に鋭敏となり強硬となり又世界的となつた。何故かといへば資本主義は帝國主義階級に入つてからは一層獨占的で一層世界的とならざるを得なかつたからである。

近代資本主義が最早世界の規模で帝國主義に到達した。それ自體の矛盾はすでに世界的に救はれぬ程度にまで到達したとの事實的證明としては、前代未曾有の大規模な流血で展開された最近の世界大戰がそれである。これは明かに現世界の複雑にもつれた凡ゆる矛盾の間に均衡を逸失したる一大劃时期的の震盪であつた。その結果世界を結縛してゐる、否な世界を再分割して結縛を新にせんとする資本の鐵は到る處で喰ひ破られてをり、一部にありては完全に斷たれても居る。而して現社會否定の世界的要素等は到る處で活潑なる決定的の役割を開始してゐる。先進獨立國に於ては無産階級が真正なる階級運動を、植民地及半植民地に於ては被壓迫民族が壯快なる民族運動を………。

昏眠中の様であつた三千里江山を突然巨龍の如く怒動せしめた朝鮮の「三一運動」は正に上述したる世界大戰後(一九一九年)に勃興したのである。だからそれは世界資本の現實的運動と、朝鮮自體の特殊條件に依り決定されたのであり、又當時世界的危機に適應せる思潮に促進されて必然的に起つた運動

である。

それは即ち民族的運動である。民族的運動は如何なる形態を問はず、ブルジョア民主主義的運動である。

然るにブルジョア民主主義的運動は世界史の現階級にありては、最早主體的力量を持ち兼ねることゝなつたのである。

即ち「資本主義的社會秩序にありては民族的〇〇及一般に政治的抑壓を抛棄し得ない。それを爲すにしては階級の抛棄が無條件に必要である」。それは一民族に限る純ブルジョアの運動に止まつては無力であり、現世界の批判の主體たる世界プロレタリアの運動と連絡をとる時に於て始めて有力なる運動として進展し得るものである。而してさうなるべきものである。

然るに朝鮮民族運動はその初期に在りてかくの如き指導精神に指導されなかつた。それは如何に偉大なる英雄的運動であつても完全なる目的意識に依るものでなく自然發生的であつた。故にそれは終末までその偉大性を保全せず運動圏外から注入して來た階級的思想に因りて遂に分裂混亂した。さうして朝鮮社會運動はその分裂混亂の裏から芽生を見た。

一九二〇年に朝鮮労働共濟會が創立され、各重要地にその支部を設けて労働大衆の團結に努力し以て労働者及農民の經濟的闘争を鼓吹したのは明かに無産者運動が民族運動から最初組織形態上の分離であ

つた。(その指導精神がどれ程幼稚であり又小ブルジョアであつたのは問はず) 其後より階級的意識は傳染病的に朝鮮青年知識分子の間に急激に傳播された。新しい意識を得た青年等は滿身の情熱を以て民衆の仲間に入した。各地の在來青年團體は急激なる角度を以て方向を轉換した。よつて農民團體、労働團體の看板の数は驚く程激増された。小作争議、労働争議も小規模的ではあつたが到る處に於て勃發した。社會主義對民族主義の對立、闘争も日に々々月に々々甚しくなつた。その對立闘争を通じて階級意識は益々激しくなつた。民族主義的指導精神の下に成立されて暫しの間と雖も全民族の權威ある指導機關となつてゐた朝鮮青年聯合會も分離運動に因り瓦解した。しかして一九二三年に至つては無産階級的綱領の下に兩個の全國的指導機關が成立されてゐる。朝鮮労働總同盟と朝鮮青年總同盟が即ちそれである。この兩總同盟の成立の時には集會禁止の厄に遭つたが、しかしそれは分離運動上、組織的結晶體であるだけ全朝鮮無産者運動の發展過程上多大の役割をした。在來の民族運動により無産者運動の分離がどれ程成功したのか、事實的證明の一として一九二五年春に開催された全朝鮮記者大會の光景を記憶すれば之を知るであらう。朝鮮の幾種の新聞は朝鮮有産者代表等の唯一の有力なる機關であることは事實であるけれども該大會に出席した記者等の絶對多数が社會主義的であつたことはその大會にて充分に證明されたのである。

しかし分離は益々繼續された。労働團體、青年團體等と大衆團體の闘士等と、その外社會主義インテ

リケンチア等はその意識にありて益々昂揚した。さうしてそれ等は思想團體なる組織に結晶することゝなつたのである。

思想團體の代表的のものとしては火曜會、北風會、前進會等がある。これ等は皆各々全國的社會主義者の集合團體である。これ等は最初から熱情を以て大衆的組織をなし、前衛的同志を糾合して社會主義を宣傳すると同時にこれを鼓吹した。又到る處で勞働爭議又は小作爭議を誘發指導した。勞働總同盟、青年總同盟もこれ等から指導を受けたのは事實である。しかしてそれは又民族運動を粉碎又は轉換せしむるに多大な貢獻をした。しかしそれは決して真正なる意味での階級的前衛ではない。その結末は無産階級的でなく、猶ほ封建的人情的であつた。その主要なる特質は封建的性質即ち分散的である。それは露西亞の初期運動にありて自然生長的に各地に結成された諸サークルと同じく、日本の初期運動に於ける建設社、曉民社、水曜會等と同様である。それはたゞ幼稚なる運動にありてのみその役割を持ち得る集團であつて、運動の發展するに従つてそれは最早指揮の能力を失ふことゝなり、反つて反對に成長しつゝある運動に對して阻害の作用を發揮することになり、遂に有名なる朝鮮社會運動上の「派争」の最高機關としての役割を持つことになつたのである。

◇ 朝鮮社會運動の初期史は同時に朝鮮社會運動派争史である。

上海派對泥市派の争闘、泥市派對セウル派争闘、火曜派、セウル派、北風派の三角戦争が即ち運動の最初より一九二六年まで繼續された派争の主流である。この派争を發生した根本的の根據は即ち近代の産業が發達されてゐないこと、従つて無産階級が發達されてゐないこと、封建的諸影響が有力に残つてゐること、政治状態が不利であること等である。それは勿論一種の必然的現象であらう。

派争は最初から運動を阻害したものである。自然成長的に興つた大衆の階級的闘争は一派の他派に對する黨派的闘争と誤導されることになつた。階級理論よりも派争理論が發達されてマルクス主義的戰術の代りに中傷、離間術が重きをなした。終末には折角幾十萬人づつの大衆を以て組織して兩總同盟までもその真正なる役割を失ひ、派争の道具として立つてゐることになつた。派争する同志等は派争に疲れて餘力がなくなり、派争を拒否する同志等は驅逐又は排斥されることになつたのである。

しかし派争はその發生が必要であるが如く、その消滅も必然であらう。運動が發展するに従つて派争の不合理は益々暴露された。それが最早運動の致命的桎梏となつたので前進する運動とそれとの間に不可兩全の關係著しく、一九二五年春に至り民衆運動者大會を前後して大規模化となり又單純化となつた派争は明かにその最後階段であつた。

この民衆運動大會を支持した全國の四百五十餘團體が相對立したことは我が社會運動上非常な醜劇であつた。しかしそれが末幕であつた。一九二六年春に前進會派が四團體派に挑戦して「朝鮮社會團體中

央協議會」を發起し、四團體がそれに應戦したのも派争ではあるが、しかし一九二六年は一九二五年とは全然異なる年であつた。

◆ 一九二六年は各方面から見ても朝鮮社會運動史上一大轉換期であつた。前述の如き派争が急激なる形勢で清算することに始まつたのもこの年であり、全運動を支配してゐる自然成長的意識に、目的意識性的意識が注入されることに始まつたのもこの年であつた。即ち一九二六年に至り運動は派争を克服しながら在來の組合主義的經濟運動により社會主義的政治運動にその方向を急激に轉換することになつたのである。

然るに大衆運動はこのとき正に、各系闘士等の被逮捕、亡命又は死亡、未曾有の警察の壓迫、一般闘士の勇氣挫折等に因り活氣を失つた。

かくの如く元氣弱い運動で、根深く残つてゐる派争を消滅せしめながら方向を全線的に轉換進展することは實に容易なことでない。しかし如何に困難であるにしても、それは急激に成就されて方向轉換の必然的な實踐に依り證明されてゐる。各地方團體では過去派争に對する自己批判の決議文と宣言を發表したので「派閥撲滅」といふスローガンは全朝鮮を風靡することになつた。派閥固執者と派閥反對者が相闘争するところ毎に前者は敗れ後者が勝つた。しかし「派争より統一へ」の發展過程は運動の本質

的轉換過程と合流されるものがあつたが、吾人の記述は當然と本質的方向轉換に重きを置かざるを得ない。

從來の朝鮮社會運動は明かに組合主義的運動であつた。或る地主に對する小作人の争議、或る工場主に對する労働者の争議の如き、部分的闘争が運動者の最大關心事であつた。労働組合、農民組合の指導精神に政治的色彩が混合されてゐたことは事實であるが、それは虚無なる政治的地位から必然的に發生した自然生長的政治意識に過ぎない。だからそれは決して真正なる意味にありての政治意識ではなかつた。一般社會主義者は朝鮮に於て政治を云々する者があるといへばそれに對しては閔元植流の自治派といふ烙印を捺すことを以て満足とした。

それは明かに自然生長の組合主義的意識であつた。かくの如き意識は初期運動過程に適應する意識であるから、一般的に無産階級の運動過程は經濟的運動即ち組合主義的運動の過程を経過した後始めて政治的運動即ち社會主義運動の過程に進展するのであり。無産者の意識もそれに適應して組合主義的意識に轉換するのである。然るに正規の資本の發展を遂行せず、一個の植民地として全世界資本の全體的に切迫して往く末路的形勢と合流することになつた朝鮮社會に於て展開された朝鮮社會運動はその發展の過程にありて諸階段が萎縮短縮、混合せざるを得ないのであつた。だから運動はその主體の發展が幼稚であるにも拘らず必然的にその方向を轉換せねばならぬことになつたのである。

而して方向轉換は從來の部分的闘争の全線的闘争としての闘争過程の轉換である。しかるに闘争過程は組織過程に依存してゐるから方向轉換の全體的の意義は全組織過程の裏に於て決定され理解されるのである。

しかし組織過程は又方向轉換過程に對する一定せる決意と理解がなくては現實にありてその進行を始め継続し又は理解し得られないものである。

故にかゝる過程にありては自然生長的意識非マルクス主義的意識が支配する運動線に一定の程度の目的意識マルクス主義的意識が外部から注入せねばならぬ。しかしてその注入はこの過程に至りて始めて可能なるものである。

この現象は我々が一九二六年より朝鮮社會運動について見得るところである。新に注入される社會主義意識と在來の組合主義意識は先づ「政治運動是認」「政治運動否認」の陣營の形態を以て對立闘争することになつた。

正友會は宣言を發表して（その認識が未だ不充分であることは勿論）政治運動としての方向轉換の態度を宣明した。朝鮮勞農總同盟も政治運動是認の宣言を發表した。その後を繼いで各地方團體等も到處で方向轉換を決議した。これに對し朝鮮社會主義者の集團中最も有力なるものゝ一である前進會が政治

運動反對の態度を宣明し正友會に對し挑戦を試みた。

それを或は在來の單純なる派争の延長のやうに考へる者があるかも知れないが、しかしそれはその本質に於て最早在來の派争ではなく、社會主義對組合主義の對立闘争であつたので、派争はこの對立闘争により崩壊することになつたのである。ソウル青年會對前進會の對立はそれを證明するに足る。この對立に因り全運動線は混亂となつた。しかしその混亂は決して無意味なる混亂ではなく、運動がその發展過程の一階段から次の階段に發展するときに不可避的の混亂である。何故かといへば凡ゆる發展は闘争の過程であり、闘争は混亂を惹起するものであるから。

◆  
前述したところの如く一九二六年に問題となつた朝鮮プロレタリア運動の全線的大衆的政治的としての進展はかの組合主義者等の無智なる嗟嘆や憤怒に拘らずその發展は必然的に急激に前進して一九二七年四月「朝鮮社會團體中央協議會」に際しては具體的の組織問題までを問題とした。「政治運動の是認否認」の對立は竟に「協同戦線の主張反對」の對立にまで突進することになつた。しかしその對立は依然として組合主義對マルクス主義の對立、自然生長的意識對目的意識の對立である。だから協同戦線の主張が眞實に運動を代表することになつたのであり、協同戦線反對即ち兩黨並立の主張は小ブルジョア當爲論的の哀歎に過ぎなかつたのである。

然らば朝鮮の社會運動は一九二七年に至り何故全民族單一的協同戦線を要求することになったのか？。私はこの問題に對して上述したところより比較的詳細に考察せんとするのである。何故かといへばこの問題は我々の運動が問題となつて來た諸問題の中、最初より最大の問題であつたからである。

方面を全線的に轉換した朝鮮社會運動はその運動の當面方向を何れのところに向けることになつたのか？、即ち全線的運動の當面對象は何んであるか？問題の核心はこれを正當に認識決定するところにある。然るにこれを正當に認識決定するのはマルクシスト即ち事物を全線的に過程的に媒介的に視察する無産階級獨特の認識を持つてゐる者だけが可能なることである。

一九二七年階級的に朝鮮社會運動の當面對象を決定するが爲に無産者の視角は先づ世界的に廣くならねばならぬ。何故かといへば我々の運動は孤立的現象として見るべきものでなく、世界的の見地から見るべきことであるからだ。

金融資本は帝國主義の現階段にありて一層組織的に全世界に君臨することゝなつたので、それに決定される各國プロレタリアの運動は従つて一層緻密に國際的運動で結束統一することゝなつた。資本對勞働の對立は完全に世界的規模に展開されることゝなつた。而して社會の一切の矛盾は唯世界的にのみ解決されることゝなつてゐるから、一國に限る社會運動即ち世界變更の全體的行動により分離された部分的對資本運動なるものは最早歴史的意義を失ふことになつたのである。故に現階段にありての各國無

産者的勢力は世界的に結晶し、世界史解決の主體として最高形態で組織された幾個の金融資本の現實運動に對することを以て最大の目標とすることになつた。

かくの如く最後階段の資本はその發展過程の必然に依り世界資本對世界勞働の對立を一層緊密化尖鋭化させると同時に又一面にありてはその最後の支盤として廣大なる地球面の人民を非人間的の地境に陥るやうに驅逐した。ここに於てかそれは又必然的にそれに對する各民族の運動と逢着することになつた。その民族運動は老衰者に對し致命的痛撃である。しかし現代に於ては植民地及半植民地の民族運動と世界無産階級（世界史解決の主體として結晶されたる）の運動とは相分離對立せる運動でなく、連結統一せる運動である。だから前者の勝利なくては後者が勝利し得られなくなつており、後者と分離しては前者は無意味となる。

故に後者は前者の一部分である、民族運動はもうブルジョアの幻想に依り展開される一民族の「理想」實現の運動としての意味を放棄し、世界史解決の運動としての新ブルジョアの運動でなく、我々自體の運動である。而してその當面運動對象と世界プロレタリアのそれとは一致されておる。

かくの如き全體的の考察に依り世界史の解決に對する朝鮮社會運動の役割が規定されてゐるから、その當面直接對象は直接に朝鮮で作用する組織的金融資本である。即ちそれは世界資本の一部分として全體的衰落に合流して往くものである。



然らば世界的視察により決定される、かくの如き當面對象に對し、朝鮮社會運動は如何なる政略を要求するのか。これに對する正確なる答を得る爲めに運動は指導者から更に具體的に朝鮮社會を自體を凝視することを要求する。何故かといへば我々は「當面考察にありて可能なるものを考へてはいけない、たゞ現實的であることを考へねばならぬ」からである。然るに朝鮮社會を自體の客觀的情勢を明かに觀察するのは政略を決定するに必要なのみならず、全體格的視察により決定される運動の當面對象を吟味するにも必要なことである。

だん／＼高級に組織されると同時にだん／＼高壓化して行く一外來の資本の運用の下に於て朝鮮民族資本は伸長の餘地を得ない。その中一部分は外來者に融合乃至依存することもあるが一部分は急激に衰頹してをる。其現象は工業に限るものでなく、土地所有の領域にありてもさうである。外來の金融資本及朝鮮人資本の二重攻撃の下に朝鮮小資本の没落は益々急激である。廣汎なる農民の貧窮化は殆んどなく、勞働階級の地位は益々低劣して行く。かくの如き一般情勢から更に尙ほ具體的に運動の當面最大對象に對して出動し得べき諸民層を分析して見れば。

#### 一、無産階級

産業が發展されてゐないから、その數にありて又その發展過程にありて未だ幼稚である。しかしその歴史的社會的特性に依り急激に昂揚結晶しながら、又は全人民層の指導者としての實力を戦取しな

がら、全鮮的舞臺に進出して當面の對象に對し最も勇悍に闘争することゝなつた。

#### 二、農民

これは全人民中大部分を占めたる廣汎層である。無産者の指導精神の下に組織されて行く次第であり、その生活上諸要因に依り無産者の決然たる同唱者となり得べきものである。

#### 三、小ブルジョア

彼等は急激に没落しつつある。政治的立場は常に不定であるが大體にありて未だ急進的性質を持つてゐる。ブルジョアジイとプロレタリアとの中間に於て動搖するものといへるであらうが、朝鮮ブルジョアジイは無力なるを以てプロレタリアの方に戦敗せらるべきものである。

#### 四、急進的智識階級

これはブルジョアか或は小ブルジョアの範疇に屬せるものであるけれども朝鮮社會に於ては未だ階級的分化が幼稚なる程度にあるを以てそれだけ智識階級の社會的勢力は大きい。而してそれは急激に分化し、その中精銳なる要素は急激に無産階級の陣營に參入して来る。

#### 五、商工ブルジョア

これの一部は完全に戦闘性を失つて墮落してゐるが一部分は未だ外來資本に對し對立すべき客觀的機能を持つてをる。その數が左程多數でないことは勿論である。

この外にも女性とか又は民族的憤慨を未だ持つてゐる封建的要素、例を擧ぐれば地主の一部分、宗教信者(天道教徒、耶穌教徒)儒林等も未だ政治的役割を持つてゐる。

かくの如き客觀的情勢に直面し又かくの如き自體發展階段にありて一般的に決定される當面對象に對し朝鮮社會運動を如何に展開すべきか?、問題は實に茲にあるのである。

この階段にありて自ら孤立せず廣汎に凡ゆる人民層中に入り込んで當面對象に對し蹶起し得べき凡ゆる要素を組織して運動を全線的に進展せしめようとの多數派の協同戦線の主張は正當であつた。

朝鮮社會運動の主體が「その當面任務を遂行するには今農民のみならず労働者のみならず、手工業者のみならず民主主義的急進的智識階級のみならず商工ブルジョアジ―までも包括せる民族的協同戦線を採らねばならぬ」。(ブクハリン)

勿論現階段にありては朝鮮のブルジョア地主ブルジョア智識階級、宗教集團等はもうその在來の急進的戰鬥性を失ふこととなり朝鮮人の民族的役割の指導は労働階級及小ブルジョア(その中の主體は勿論無産階級)に移つて來た。しかる故にこの各要素を一に組織すればその組織中には右翼左翼の對立することは事實であるが、しかし右傾して往くにしても未だ客觀的に民族的役割を持つてをる要素に限つてはそれを餘り速かに「反對者の陣營を逐つてはいけない」。これを利用することを斷念してはいけない。若しそれ等の戦列よりの没落の必然性のみを見て、それ等の未だ持つてをる役割を看過して協同戰

線に入れることを主體自らが拒絶するといへばそれは明かに反對者を喜ばしめることである。故に朝鮮社會運動の主體は、この歴史的瞬間にありて、萬難を排しながら、民族的單一機關の組織を爲す爲に闘争するものである。

朝鮮社會團體中央協議會は朝鮮社會運動上前例のなき歴史的會合であつた。しかしその發起精神は當面歴史的モメントを正確に認識したものではない。無産階級の最高決議機關にしようとのことは即ち無産政黨にしようとのことである。その主張は結局「民族單一戦線」の主張に對立するものである。それのみならず無産階級の最高機關を組織しようとの組織方法にありても救はれない誤謬混亂に陥つてゐたのでこれに参加する内外各地の團體中には最初よりその發起の趣旨に對し反對の意見を持つてゐたことである。しかしそれにも拘らずこれから脱退はしなかつた。即ちそれが實に賢明なる戰術である。それは發起の精神は錯誤であつても運動上一大轉換期に臨み内外地に於ける社會團體の代表が均しく集り凡ゆる重大問題を討論發表することはその瞬間にありて絶對に必要であるからである。更にいへば中央協議會は機械的に拋棄するものでなく、有利に拋棄するものであつた。しかして事實上に於てもかくの如く實行されたものである。第二日の會合が禁止されて凡ゆる議案が上程されなかつたことは遺憾である。けれども第一日さへでも歴史的意義は充分に發揮されてゐる。「常設非常説」の討議に依りても朝鮮社會運動の轉換の意義、民族運動の必要等は力強く論破されたことである。而して中央協議會は派争の清算

に對し、重大なるモメントであつたことも看過し得られない事實であつた。

朝鮮社會運動はその初期にありて朝鮮の「民族運動」に對し無慈悲に闘争したものである。しかるにその運動が一九二七年からはそれ自らが朝鮮民族運動を起すこととなつた。こゝに運動の辯證法的の發展があるのである。以前の民族運動と現に更に起すこの民族運動を抽象的に同一視してはいけない。前者と後者は歴史的の意義にありて又はその本質にありて異なるものである。即ち前者はプロレタリアの運動である。しかし後者も亦朝鮮社會運動が歴史的の一過程に過程する運動に過ぎぬのは勿論である。「協同戦線」反對者の誤謬は實に朝鮮民族運動をかくの如く把握し得られないところから出發したことである。

## 附記

本文は運動上の事實を取扱つたものでなく、たゞ朝鮮社會運動の發展の経路を略述したものに過ぎない。而して本文の作者盧正煥君は社會運動者中の一人である。(譯者)

## □ 世界大勢と朝鮮人の進路 (昭和二年一月中外日報)

朝鮮民族精神を忘れては不可

政治運動か我々を救済することは出来ない。

人が軍備を擴張し武器を拵へると云ふて朝鮮人も斯様な精神に従ふべきことはない。現代の列強が努めて武力を整へる如きは自己を傷けようとする準備に過ぎないのである。古より武力を崇ふ國は決して好い結果を得てない。中國の秦始皇の如きが其の一例であるから朝鮮人の進路は唯一つある。即人が何と云ふてもかまわぬ世界征服の大事業を遂げようと云ひたい。但此處に云ふ世界征服と云ふのは銃と劔を持つて腕力に依ると云ふのではない。道徳に依て完全に世界を征服することが出来る。此の道徳と云ふのが愛に立脚した道徳を意味したもので。即愛に依て世界を支配する様にするのである。然し一方如何に愛に根據し又は如何なる主義を持って居ても自己と云ふものを忘れては決して健全なる道徳とは云へない。朝鮮人は朝鮮たる精神を忘れてはならないと云ふことを特に言ふて置く。又實際に於て我等が滿洲に行くか外國の何處に行ても朝鮮人は何時までも朝鮮人たる精神が消滅しないことを信ずる。近來生活方途の一策として政治運動をなさなければならぬと云ふことを云々する者が居る様であるが。朝鮮人の要求するかの所謂政治運動に依てはその効果を得る確信のない以上新奇な方策と云ひ難い。然しなから障礙と妨害とを受る朝鮮人の物質的進路に對しては自分として云ふべき材料がない。只前述せる如く愛の道徳に立脚して世界を征服せよと云ふのである。自分の斯云ふことを笑ふ人が多からうと思ふが何事にせよ無理はいかないもので。愛の道徳に依て進めば天下の強力に對し怖るべきこともなく又妨ぐる者もないのである。

## 世界は兩大勢力

朝鮮人の進路は唯民衆か——要求するまゝ理解し進む。

此の二つが何んな關係を持つて居るか。又世界大勢は何んなものであつて朝鮮人即朝鮮民族の進路は何であるか。世界大勢とか朝鮮民族の進路とかは皆政治的と云ふ形容詞を略したものと云ふ。現代世界は二大勢の闘争過程にある。一方には新社會を建設しようとする社會主義の勢力と他方傳來的社會組織を保存しようとする資本主義の勢力が互に闘争する。それが現代を構成して居る歴史的真相である。社會主義の勢力は全世界に互る無産大衆と弱少民族を基礎とし。資本主義の勢力は各國資本家と軍閥の握手を背景としたものであるから、前者勢力は其内在的性質上國境を超過し、人類發展史上未曾有なる世界大勢力を構成し、後者の勢力は相反する利益を無理に結合したのであるから、永久的存続性が缺乏せる「骨牌箱」の如きものである。前者は無産者獨裁に後者は軍閥的壓迫に各々其目的を實現しようとし、前者は「第三インターナショナル」を、後者は國際聯盟を其具體的機關としたのである。然し兩大勢力は各大陸各民族に相互錯雜し地球表面何處から何處までか社會主義勢力範圍内であつて、何處から何處までが資本主義の領域とは言ひ難い。然しながら一方社會主義勢力を集中したる勞農ロシアが居り、他方資本主義の城壁たる北米合衆國があるのは事實である。其外は資本主義勢力と社會主義勢力が絶えず争ふ歐洲、亞細亞兩大陸があつて、歐洲は資本主義勢力に傾く。此れが歴史的瞬間の真相である。

る。

亞細亞大陸の重要な半島を占領し、東亞文化に尠からざる貢獻のあつた我朝鮮の今後の進路は何んなものであらうか。此の世界的大勢に順應するか、畸形的變態的發展経路を履むか、或は社會主義勢力に外れて資本主義勢力範圍内に残り居るか、我民衆の要求が何方に傾くか、民衆の要求を知らなければ其進路を豫期し難い。此を知る者は自分が言はなくも豫期するものである。然れば我々唯我民衆の要求を理解し其要求を完全に満足させるよう努力して止まないものである。

外來影響は不可

朝鮮人の進路は唯 朝鮮自身の進化道程に。

世界大勢と朝鮮人の進路に對しては自分は言ひ表すべき意見を持つて居ない。自分が平素主張せる所十分の九は正友會宣言に云ふて居るから、其上言ふべきことはないとして、政治運動を是認すると云ふ意見を示し、又一つはうるさくて意見發表を避けたのであつたが、朝鮮人は如何なる影響なりとも受けて働くのはいけない。國際共產黨の影響を受けても不可であり、露西亞の影響を受けるのはいけない。國際聯盟の影響を受けるのはいけない。英國とか米國とか其他の如何なる人の影響を受けてもいけない。即朝鮮人の進路は朝鮮人自らか朝鮮人自身の事情を顧て決定すべきものである。考へて見よ今日朝鮮人の進路を國際共產黨の影響に従ひて、明日又國際共產黨に於て異つたことを云へば其に従ひ、明後

日又異つたことを云へば又其儘に従ふべきものであらうか。

百年前マルクスが言ふたのは其時の獨逸國情が歐羅巴事情に鑑みて言ふたのであつて、露西亞改革時代にレニンが言ふたのも、亦ロシア其時の情勢に適ふ政策であつた。

元來社會主義がサンシモンとか、ブリエとか、オーエン、とか云ふ空想的社會主義よりマルクスの科學的主義に近寄つて來たのは悉く嚴正な進化の影響を受けたので、朝鮮としたら朝鮮のみが嚴正な影響を履ないで行かれやうか。其だから朝鮮で如何なる理想でもそれを實現しようと思せば、朝鮮の事情と影響とを善く見てから其れに適應する方法が別にある筈である。

政教が一致しザールか天帝の子息を兼ねて希臘教派が專横暴虐なる露西亞で反宗教運動を其時露西亞民衆がなした。朝鮮人が反宗教運動をなすことの可否はさて置き、マルクスが言つたから我々も其れに従ひ、レニンが言つたから我々も其れにと云ふ簡單な理論を肯定することは出來ない。語弊があるかも知らんか朝鮮にヤン教が這入て來て單に百萬圓なりとも米國の金錢を持って來て朝鮮人生活に幾分の潤澤がある丈でも幸であらうが、唯我々の仕事は我々の事情によつて我々がなすべきもので、其れに檀君先祖を中心にして朝鮮全體が進むべきものである。

現狀は矛盾の擴大

朝鮮は世界の朝鮮 一切闘争は政治的闘争。

「ブルヂュアジー」はマルクスが正當に言つた如く「僅か百年ばかりの階級的支配の間に過去あらゆる時代を總合したものよりも一層巨大な生産力を産出した」。然るに「近代ブルヂュア社会は恰も魔術師が呪文を讀んで地下より各種魔物を呼寄せやうにして置いて出現した時は其れを制御する力を失つた如く」即「ブルヂュア諸關係は自己が造出せる窟を包容するに餘りに狭隘になつたのである」。其れで社會發展の爲に有效でなければならぬ生産力が「ブルヂュア財產關係を促進するに有效でなく、却て其の財產關係に對し餘り有力になり其財產關係によつて妨害を被る様になつた」。然して生産力と現財產關係が衝突する様になつて、ブルヂュアの秩序は世界的に其存在が危くなつたのである。其のため世界は其の様な根本的矛盾を自ら持て居ると同時に、其の矛盾を解決する歴史的の使命を帯びて居るものが漸次發達して居る。世界的に團結して行くプロレタリアが即夫れである。言を換て云へば現世界の生産形態と又從て其經濟的基礎の上に立つて居る上述の大勢は、世界的に仕様のない矛盾に陥り此の矛盾は間斷なく再び生産する。或は部分的矛盾を姑息に附することは出來るが其姑息は結局矛盾を其の根本に於て擴大せしむる様になつて仕舞ふ。故に不安崩壊、又は其れの間斷なき再生産、此れが世界的大勢である。從て政治的大勢である。其れに歴史生産形態の矛盾の發達は其解體と新しい形態の形式の唯一な歴史的過程である。(マルクス資本論) 此れが世界大勢の必然的に行く道である。朝鮮は最早決して朝鮮のみの朝鮮でない。其れは何することも出來ない世界の一部分である。其れ故朝鮮の行く道も定められ

て居る譯で、生産力と生産關係の間に横つて居る根本的矛盾より發生する諸點其他の矛盾を解決する爲に動きつゝある全世界に歩調を同うするのである。然して其の歴史的任務は無産階級の肩に戴せられて居る。其外の階級も助けることも出来るが、役割の主人公は無産階級である。然れば朝鮮無産階級は如何にせば善いか、其に對し一言はせるのは自分をして此の筆を持つた範圍以外に屬するから捨置て、朝鮮無産階級運動の現下階級に最も問題となつて居る政治運動可否に對し意見を發表することとする。マルクスは云た「一切階級的争闘は政治的争闘」なりと。其の個々の抗争即組合の抗争が、階級的即政治的に轉化するのを定義して曰く「労働階級の政治運動は當然政權獲得を其の窮極の目的とするのであるが、其れが爲には勿論經濟的争闘より成長したる一定せる程度まで發達したる労働階級の豫備的組織が必要である。他方労働階級が階級として支配階級に對抗し其れを外部よりの壓迫に依て強制せようとする運動は一の政治運動である」と。如斯政治運動は階級運動にありて缺くべからざる運動である。否眞實な意味を以て云へば、階級運動其自體が即政治運動であるのが原則である。其れであるのにサンジカルスと亞米利加IWWは曰く「政治運動は墮落である」何故かと云ふに彼等の思想では政治争闘と云ふのは機會主義的議會議争闘に過ぎないからと。朝鮮社會運動者中にも一部分の人は「朝鮮ありての政治運動は墮落である、右傾である。何故かと云ふに彼等の思想たる朝鮮ありての政治運動は穩順な自治運動に過ぎないから」と云つてゐる。

## 經濟保守觀念を固守

××的政治運動は危險。

大海は滔々として穩かな日なしと云へしは、古人の社會進化相を吟じた句である。今日の世界こそ實に怒潮が漸々荒くなつて颶風が起り始め、「モロコシアリア族」の叛亂は豫期を達しないと云つても雄々しかった其の反抗の氣焔は猶鎮まらぬ。「ジャバ」島の動亂は假令其真相は解き難くも殖民地民衆としての必然又は當然な抗争の標幟を樹てたことは疑ひ無き事實である。世界五分の一の領地を占めて居た英國帝國主義は、各自治領首領等の座つた茶爐の烟の中で其溶解作用を起す様になり。利太の大檢舉は又反面に何か推想するに足る所があつた。赤露極東進出は極東の資本主義國をして頗る寢食不安の觀を呈させた。中東線に對する積極政策と蒙古鐵道敷設計劃と、中國々民革命援助等は近い將來に滿蒙の風雲に尋常ならざるものを窺ふことが出来る。一方太平洋を中心としたる二つの資本主義國家の葛藤せる諸問題も亦樂觀を許すものではない。それで世界〇〇の重大性を包含せる中國の國民解放運動は着々進展の過程にあり、諸資本主義國家等は中國大陸に對する既得權ばかりでなく、貿易上にまで支障を恐れて頗る憂慮する所あるのは又觀るべき所である。日本無産階級の政治的意識は普選を前に置て始めて具體的行動を展開する様になり。現下日本の國情に於て無産階級の政黨結社が初期だけに、其綱領政策は假令讀すべきものがないとは云へ將來其等も社會進化の必然的經路であることは斷言出来るのである。

今年一月二十日を期して「ブラセル」に於て開催される弱小民族大會は全世界被壓迫民族解放運動に尠なからざる力量があるべきを豫期するのである。此種の形勢を一言で要約せば世界の資本主義は現在其組織の内部に包含された矛盾によつて必然的崩壊の過程にあり。世界新興階級は社會進化の法則によつて歴史的約束の下に其勢力が日々高まる状態である。如斯現勢に對しては資本主義最高の代辯學者でも首肯せざるを得ないのである。それで今日朝鮮人新生運動も又全世界被壓迫民衆解放運動の一部となるのであつて、其一部の使命と義務とを分擔せざるを得ないのである。従て朝鮮人進路の方面も世界的新興勢力如何に依て影響されるもので、其の歸趨を同じなければならぬのである。然し世界的外圍の大勢はさうであつても今日朝鮮人の直接當面せる事態と外地は如何であらうか、朝鮮人として此を善く看破しなければならぬ。先づ資本主義の最後産物が×××であるのを知らなければいけない。であるから××主義的經濟政策を最も要件とする様になるのである。朝鮮××閥の統治方針も合併直後より一層經濟的高壓政策に進んで居るのである。其れは前に論じた如く××閥自體の政策發達による必然的方針と思ふ。同一な権利の日本人本位政策と、東拓、不二會社を通じて逐年増加する移民の問題等は更に論ずるまでもないが、此から新しく出来る鐵道網完成、産米増殖計劃と、産米増殖計劃に伴ふ半官的經營である土地改良會社と、咸南水力電氣工事等は其××的經濟政策にありて最も具體的表現となるのである。如斯計劃を施行する反面に時々専官或は半官紙を通じて朝鮮人に早晚自治權賦與等を漏らさせるのは、其

等××閥の巧妙なる政策中の政策である。其他此等政策説に酔ふた一部階級功利分子、即走狗的智識分子、變節的社會運動者等が、無謀の區々たる利害打算的理論を唱へ、此れに附和蠢動しやうとするのは惜むべき所である。今自治其ものの自體を絶対嫌ふのでなく、自治をなす運動を罵るのである。たとひ内心に自治權だけ満足に得ることを期待するのだとしても、現下××主義的政策的の下に於て決して其様な營々逐々の××的運動に因てなれるものでないと云ふことを知らなければならぬ。猶ほ現下の世相を言へば、一言を以て資本主義苦悶相と言へる。然し其反面に更に新興階級の懷疑相があるのを看過してはならぬ。資本主義端終期に必然的に露はれる××的氣勢の××下に意識と訓練が未熟な民衆にありては、一時懷疑的氣分が瀰漫することは免れ難いが、是亦過渡期的避くることの出来ぬ現象と考へられる。然し斯様な界線に於て、誤つて失錯すると新生運動の百年大計を壊し、所期の目標に達する時間に半世紀乃至一世紀の差違を生ずる様になるのである。此れが危険であり、戒しむべきものである。所謂毫厘の差が千里の謬になるのである。現下朝鮮人に此の懷疑的氣分が尠くない。そこで所謂××的政治運動（自治運動）説が漸々擡頭し始めるのであるから、我等の新生運動の大計を誤らぬ爲めに、此の運動（自治運動）を擡頭の初期より積極的に驅逐しなければならぬ。それで懷疑的墮落的氣分をかへて新生運動の××的本流を明かにつかまへて進むべきものである。それで經濟思想が根本的に幼稚な朝鮮人をして一層××的經濟政策の食物となる様になつて、其の前途には××の穴しか残るのはない。簡単に云

へば今日朝鮮人の立場では經濟的保守觀念を守ることとは別に道理のないものとなつたのである。百尺竿頭一步を進んで中産階級の産業的團結が全國的の實現を唱へて止まない所である。一日も早く發興せんことを企待して止まない次第である。其の方法と利害論にありては紙面關係が餘裕を與へないので己むを得ず此に止めて置て他の機會に讓る。今要約して言へば今日朝鮮人の進路を政治的經濟的兩方面から考察して××的運動の把持と産業的團結の促進を唱へて止まない所である。

世界大勢と朝鮮人の進路

將來樂觀を斷言す

朝鮮人の進路に對し形式にありては色々取るべき方法があるが、結論は歸一すべきものである。就中政治運動を云々する所あるも、何れの民族でも現實なる生活をなす以上政治運動を廢すと云ふのは意味の無いことである。其れ故政治運動は勿論必要のものである。唯問題となるのは如何なる方式を以てなすかと云ふ區分がある筈である。此に對し新聞紙で云へば吾人の意思をどの程度まで確實に報道が出来やうか。又余自身にありては如何なる程度まで拘抵なく論述し得るかは頗る疑問である。斯く云ふ關係から若し府政の腐敗を論し、汚穢物の掃除が行届かないかと云ふ類は論ずる事が出来ないこともないが、斯様なものは余の本意でないから、強て論せんとせば大體論に止ることを豫め云ふて置きたい。朝鮮人は大弊端が一つあると思ふ。即ち朝鮮人は運動の何たるを問はず確乎不拔の大決心がなく、皆「有

耶無耶」に過す。斯様な習性がある以上政治運動でも經濟運動でも効果を擧げると云ふことは信認し難いことである。其れ故朝鮮人は何よりも此「有耶無耶」主義を棄て斷乎と實行の決心を立てるのが必要である。其れならば朝鮮人として上述せし如き態度を以てせば其目的を貫徹する自信があらうと云ふ反問に對して躊躇せざるを得ないのである。吾人も亦之には科學的か計算的か如何なる方式にて進行せば必ず何程の結果に到達すべきことは信し難い。若し百計が全然無策なりと斷案を下すことが出来るとせば必しも重言を必要としない。科學的では成算なくも一方人類の誤る状態は必ず科學的規範圍内のみ限定せるものでないから時々科學的にて想像の出来ない即ち非科學的否超科學の場合があると思ふ。從て朝鮮人の進路も悲觀で始終するのは勿論不可である。久遠なる歴史を持つて居る民族として、決して將來が無意味に終るまいと云ふことだけは固く信する處である。此に於て吾人は政治經濟教育の何たるを問はず、又方式の細別を問はず上述の如き精神を以て、從來の有耶無耶主義の弊害を棄て奮闘力行し、前途を開拓すべきものである。(聲、翻譯)

思想運動



思想と壓迫

◇共產黨事件◇(昭和二年四月五日中外日報)

人類は思想的動物である。何んの意識もなく本能的衝動のまゝに活きる一般動物の生活に比し、人類



の生活が最も進化されてゐる特徴は唯思想方面にあるといわれるであらう。人類中に在りても一段進歩された高等人間である程、最も聰明なる批判力を以て自己生活の意義と價値を味はつて、間斷なく現實我より一層善美なる理想我に到達するか爲め、奮闘努力するところに自己生存の眞理を發見せんとするのである。だから個人の向上や、社會の改新や、世界文明の發展が悉く思想といふ偉大なる作用にて出發されるのである。

朝鮮近來の最大獄事で天下の耳目を聳動せる共產黨事件も、要するに現制度を根本的に改革せんとする一大思想運動である、それがだん／＼實際運動に轉化して朝鮮共產黨といふ主義的大團體を形成するに至り、そして組織的に進行するその急激なる革命運動が、竟に現代法律の包容せざるものとなつた。前後數回に互り百五人を檢舉して一網打盡の計畫を遂行する當局者の眼中には、出來得る限り禁壓手段を取るのが當然なることゝ認められるかは知らないが、如何に官憲が禁壓を加ふるにしてもその主義思想の原因となる現制度の缺陷が存在する以上、その缺陷に因り發生する主義思想が消滅されるとは思はれない。反つて壓力が餘りに甚しくなればそれ丈社會裡面に一層低流化して爆發の危険性を帯ぶることになるのであらう。

政治の目的は民意を暢達し民福を増進するにあるのである。實にかくの如くすればその謂わゆる危険思想を能く未形（未前をいふのである）より防止し得るであらうが、若も然らずにそれを已形より防止

せんとすれば、その結果は良好ならざるのが常例である。それは總督政治以來朝鮮人思想取締に關する成績そのものが自ら説明するのである。思想は思想を以て防止することはあるが、權力を以て防止することは出來ないのである。

曾て英國社會主義者が露國共產主義者に對し取つた態度を見よ、その國情民度に依り特立獨行するのは思想を以て思想を防止する一大實證となるのではないか、たゞかくの如く思想を以てのみ防止し得る思想問題を權力を以て防止せんとするのは、或る論者の説の如く數學問題を腕力を以て解答せんとするのと恰も似てゐる。

筆者は思想問題に對してこれ以上云ひたくないが、今日の朝鮮に於てかかる重大事件が発生するに至つた社會的事情に對しては、更に考へて見る必要があると信するのである。今回起訴された共產黨員九十九人中には、近代教育を受けたる相當な人物が多くある。これから見てもそれ等の主義運動が全然外來新思潮に心酔して謳歌したる結果のみに因り起つたものと解釋することは出來ない。それは内部で現實に目醒めて、正義に苦心焦慮する心理的堅確なる土臺の上に根據を置いたものである。この點からは從來の民族運動に比し尙ほ一層深刻化普遍化したと言はれるであらう。彼等は自己主義の爲めに酷刑を甘受するであらう。當局者はその九十九人を處罰するを以て危険思想が禁壓されると思ふであらう。しかし大體より見れば朝鮮人思想界の暗流が險惡化されつつあるのは否認し得られない事實である。だ

から責任がある爲政者は必ずや人心の趨向に鑑み、大に考慮し、以て所謂東亞百年の大策に誤算なきやう鋭意措置せねばならぬ。

**押**

□ A B C 對話 (昭和二年四月號)

C、それでは、

A、無産者はその階級意識を専らその實踐的闘争を通じてのみ獲得すると思ふ。しかし之丈では充分じやない。重要な問題が一つ残つて居る。

無産大衆はこれ自身の力のみでは如何に闘争しても眞の意識に到達する事は出来ない。

何故なれば、無産階級を代表する吾人の教理は決して無産者自身の力を以て産れたものでないから。

「純粹な労働運動がその自體の力を以て獨立した意識作用を消化する事が出来ると思ふのは誤である」と

右に對しガウスキーの正當な語を引用すると、

吾人修正派、批評家中の多数人は經濟的發展及階級闘争は社會主義發生の諸條件を造り出した許りでなく、その發生の必然に關する意識迄も産出するとマルクスは確言する所があつた。

それに依ると社會主義意識は無産階級の階級的抗闘から直接に産出した必然的結果だと言つて居る。

そうだとするとそれは誤りである。學理的に言ふと社會主義はプロの階級抗闘と同一段階にある現代の

經濟的關係にその源泉を發して居ることが明白である。又それは階級抗闘と同様に資本主義に因つて胎した大衆の悲劇に對する闘争から出たものである。

然しながら社會主義の階級抗闘は平行的に出現したものである。

現代の社會主義意識は深刻なる科學の基礎の上に於てのみ成立する事が出来る。

故に無産大衆をして眞實なる意識を意識せしめやうとするならば、吾人は彼等をして廣汎なる政治闘

争を開展せしめると同時に、又眞實なる理論を彼等の中へ注入しなければならぬ。

即ちマルクス論でもつて○○意識的分子が彼等の中に這入らねばならぬ。

即ち吾人は理論家として××として×××××として、又組織家として「到る處に分隊を派遣しなけ

ればならぬのである」。

さて吾人の分隊を大衆の到る處へ派遣して、大衆に××××××××しやうとするには、吾人は廣汎なる政治戦野を展開する外に道が無い。何となれば經濟闘争に於てはそんな分子を容れないからだ。

政治戦野のみが吾人の爲に言論するに足る演壇を與へ、耳を傾けて吾人を歡迎してくれる傍聴者を集め、吾人の爲にあらゆる現行犯を告發する公開法廷を準備してくれるものである。

斯く政治行動の展開は大衆をして眞の意識を職收させる唯一の教育手段である。

B、それは君が余の言を曲解したものである。

政治運動をしようとするならば、その平生の闘争の對象は何であるか。

大方は改良的性質を持つて居るものではないか。

○○○○とは非常な距離のある改良的要求を携へて戦ふ様な事があつては、それが改良主義に墮落して行くものに非ずして何ぞや。

A君の様に徹底した人はどんな運動をしてもよいが、徹底して居らぬ大衆は改良運動に墮落して下ふのだ。

A、君の論は歴史の辯詰法的發展とは反対だ君の言ふ通りにすると其の結論はどうなるか。吾々は今少し追究して見やう。

吾人は税金に對して云々してはいけない。何となればそれは改良である。吾人は教育とか結社言論出版の自由に就て云々してはいけない。夫は改良になるからと。そうして見ると果してB君の言の通乾坤一擲の決定的×××には如何なる政治運動を問はず、それをやつてはいけないのである。

そうすると我等は何をするよいか。

喜ばしい感激の溢れる×××の來る時迄吾人はちつと坐つて居るか、さもなければお互に激勵し合つて歩き廻る外しかたがない。

B君は次の通言ふのだらう、今迄通り經濟闘争さへすればよいと。

しかしB君の通にすれば今日迄やつて來た其の闘争をやめなければならぬ。

何となれば一間の賃金を一圓五十錢に上げてくれ、六割の小作料を五割に下げてくれと云ふのが非常に危険墮落になるからだ。

B君一度考へ直して御覽なさい。

歴史的大使命を持つて居る運動として五十錢の賃金、一割の小作料の加減を要求するのがどの位墮落になりますか。

さてB君よ、吾人は不幸にして斯かる犯過を既にやつて來た。

惜しき我が民衆はその改良的要求に於て既に墮落して了つて居る。しかし夫は杞憂だ。

見よB君の目前で我が大衆は生々として突進を益々元氣よく展開させて居るではないか。

ローザは言つた「社會改良の爲に、そして又民主的制度の爲にする日常の實際戦が無産大衆を階級運動に導き×××の唯一の方法である」と。

故に吾人は凡ての改良を絶對に反對せず、唯一の手段としてそれを利用せねばならぬ。

C、それでは吾人と改良主義者とはどう違ふか。

吾人も改良の爲に戦ひ彼等も改良の爲に戦つて居るではないか。

A、當然の質問だ、吾人はそれを明かにして置く必要がある、吾人が闘争對象として居るものを改良主

義者も共に闘争対象として居る。

しかし闘争方法は違ふ。彼等は改良を以て目的とし、吾人はそれを以て〇〇として居る。故に吾人と彼等との相違は運動の対象にあらずして其の方法にあるのである。

吾が運動の効果は目前の利益にあるのではない。

労働階級を教育し組織する手段となる點にあるのである。

且又それを運動全體に於て只過程的に対象とするにある。

故にその運動に於て吾人の最大問題は其の日常の闘争と世界變更の結果にある。

## ハ 朝鮮と政治問題

(和二年五月十八日朝鮮日報)

吾人は中央協議會が開かれ、會衆が闘士的氣分で協議の結果、該會が常設團體になつたのを先づ欣賀して置く。解放の戦野に於て最左翼を形勢すべき無産政黨を樹立して、非妥協の民族主義團體と共に兩々併立して行くのが必要である。斯う云ふ風にすると解放の戦野に於て益々戦勢を強くする事が出来る。

然し朝鮮現下の客觀的情勢は全民族的に完全な被壓迫状態にあり、無産階級なるものは無産階級としての獨特の闘争を事とするよりも、先づ第一着に全民族的解放を戦取する方が必要な策戦である。

之は或は妥協を意味する墮落した便宜主義の様だが、そうではなくて其の最後の目標に戦ひ進む過程であるのだ。民族的解放は東方劣弱民族の間に於て第一次的に戦取すべき天定的で且又回避する事の出來ない目標であるのである。

中國の様に半殖民地的の形にある地域に於ては、その國民的解放が完成するの日は左右兩翼の合同戦線が必要であつて、その實際の經驗は吾人に深い切なる教訓を與へて居る。

朝鮮の様に完全な民族的被隷屬の状態に居り、全民衆が更に無産化しやうとする途程に有ることを考へると、民族的單一黨を樹立擁護して以て全民族の總力量を集中し、徐々に徹底的解放の闘争を來さしめる序幕を開くのが絶對的に必要だ。故に理窟を云つて之を分裂させる様なことは考のあるものはしないのである。

## ニ 當面の大問題 廻轉期の運動線

(大正十四年七月一日時代日報)

### 各國主腦者の戦策と進路

澎湃たる世界思潮は蹂躪の馬蹄に呻吟し、壓迫の劍頭に慄怯する吾人權域にも、押寄せて來なくては止まない。思想、労働、小作、婦人、衛平、青年、少年運動の烽火は燎原の勢を以て全國を風靡するに至り、其の熾烈な猛炎は天を衝き、其の洶湧する、怒濤は地を撲つるの慨がある。其の大旆が高揚せらるゝ

處に新活氣が躍動し、其の戰鼓が婆々せらるゝ處に新生命が横溢するのである。

然し其の勢が偉大であると、反動の颶風暴雨も正に急を告げて、高壓の火鞭鐵槌も狂飛舞亂するに到るのであつた。随つて吾人の運動線も散漫から組織に、外華から内面へ、氣分から實感に、宣傳から潜在へ——一大廻轉期に當面し終つた。仕うしたら此の難局を打破し、新境を開拓することが出来るか。其の戰策と進路は仕うであるか。左の言論は之に對する各團體主腦者の意見を集めて見たのである。

觀念の母

根底から打破

労働黨 李忠模

壓迫があるだけそれと正比例の反動があるものである。今や治安維持法が實施せられてから、朝鮮の思想運動は緩和せられて居る様に見える。けれども内面的、實質的には更に組織化したことと思つて居る。

さて思想運動者は何時も、現代の政治、法律、宗教、文學、藝術等あらゆる觀念の母である資本主義思想を、根底から打破する事に全力を傾けなければならぬのである。

それで先づ當面の急務としては、思想界の惡魔であり民衆の魔酔劑である宗教思想を徹底して撲滅せなければならぬ。

勢力集中

北風會 金若水

今後各思想團體の綱領中には是非一つ入れなければならぬ要求點は、プロレタリアの力の集中と發展を

當面の目標として、各團體を合同的闘争の土臺にする様にしなければならぬ。そして其の組織の強化と意識の淨化と知的教養を圖ると同時に、地方的中立運動の標頭を防護しなければならぬ。又一面には惡法の撤廢運動及言論集會の自由の爲めに、時々小衝突が起きるに足る自然の形勢を作らねばならぬ。そして特に吾人が力を盡すべきものは何の業も持つて居らぬ、即ち無業の大衆に一定の組織とプログラムとを備へねばならぬことなどである。

實際闘争

朝鮮青年總 李英

朝鮮青年運動は他の國のものとは特殊の事情を持つて居る。他國では教養問題にのみ重きを置いて居るけれども朝鮮の青年運動は教養に重きを置くの外、實際闘争に重きを置かねばならぬ。何となれば朝鮮は資本主義的搾取が高度に達して居るけれども、未だ資本主義的産業が発達し得ないが爲めに、無産階級解放運動の先驅となる工場労働者が極めて少數であるから、労働運動の進展が困難であり、多數を占めて居る朝鮮農民は、因襲と傳統の禍中から超脱して解放戦線に進み立ちにくひから朝鮮青年運動は今後は直接に昨や工場の中へ展開して従つて農村では小作組合、都市では職工組合を組織して運動を促進させなければならず、又青年運動は大衆の中へ根を蔓延させて解放に必要な知識を普及宣傳することに努力すべきである。

ホ 朝鮮と露國との政治的關係

(大正十四年九月八日時代日報)

今後朝鮮と露國との關係は實に東洋大局の政治的見地から重大視せられる問題であると云はざるを得ない。言ひ換へると東洋政局に於て朝鮮問題は政治經濟交通文化各方面に互つて頗る剝切な連鎖關係をもつて居る。故に朝鮮問題の合理的解決は即ち東洋問題解決上の一要鍵となつて居るのである。そして此の途程に於て赤露の任務が最も重大であると云ふ事は一般が共に認めて居る所ではないか。是に於てか吾人の所見は區々であるかも知れぬが、その一端を披瀝して以て識者の留意を促かし將來に善處しやうと思ふ。

一

今や東洋の現勢を一瞥するに印度、安南等は地理上の關係から見て差程に差し掛つた地位でないから此處で舉論する必要がないが、中國は阿片戰爭、北清事變以來侵略的禍心を抱いた歐米列強の貪慾横肆場と化し、その許多の利權は東西から占奪せられ、その無盡藏の富源は縦横に遶斷せられたるが故に四百餘州の國土は恰も祖上の魚肉の如くに割烹せられ、四億の民衆は奴隸の如くに愚弄せられて來た。さうして朝鮮半島は東亞大陸の交通上の要衝地帯にある關係上、新興帝國の大陸政策下に於て朝鮮を中心

として演出せられた日清、日露の兩戰爭を経た上、政治的に滅亡の悲運に逢ふに至つたのである。然しながら流動轉換する歴史の秘機は争でか獨り強暴國家をして東西大陸を永遠に蹂躪させるものであらうや。侵略的帝國主義の總破産である歐洲大戰の終息を最終として、全世界を風靡する弱者解放運動の氣勢は東洋の大勢にも一大波紋を捲起させた。

二

斯くして印度の革命運動が漸次深刻化した事も掩蔽し得ない事實であるが、中國の新興智識階級運動は破辯決河の勢を以つて展開するの概があり、辛亥革命以後その國內革新運動の熾烈であつた事も看過し得ない事實であるが、それよりも反覆せられたる國民的國權恢復運動と階級的團結運動が如何に刮目に値する發展を示したか、此度の排外罷業運動はその最後の典型として世人の注目を集中したては無いか。而して朝鮮は併合以來十年間武斷政治の弊威の下に呻吟した二千萬民衆が、世界の大勢に覺醒されて民族的解放を最高目標とした三一運動を起して以來、漸次階級的解放に其方面が轉換した。現今これが儼然たる社會的大勢力と化して行つて居る事は拒む事の出來ぬ事實ではないか。

三

斯の如き現勢に於て東洋問題解決上赤露の政治的任務を吾人が特に重視する所以は、赤露の國家は一階級の國家ではなく、全人民の國家であり、又其の立國精神は侵略的でなく人道的であるが爲めに、對

外政策に於ても征服的でなく解放的援助的であるからである。そうして朝鮮問題の解決が東洋政局上に於て重大視せらるゝ所以は地理的關係上一理由とならぬではないけれども、それよりも、朝鮮の現象が政治經濟兩方面を通じて最も窮極期に達して居るから、現象打開を必要とする。それで其の打開の要諦は政治的に帝國主義と經濟的に資本主義とを合理的な制度に代へるにあるのである。必ずや露國の世界革新運動とその歩調が一致すべきものである。

要約して言つて見ると朝鮮の關係は一切の傳統的障壁が昔から存在して居らないから、只赤裸々な階級的連帶感情を以てするにある事を確信して高調するものである。

### へ 吾人の運動の方向

(大正十四年九月廿七日東亞日報)

#### 團結と合流

目下我が社會には、二つの潮流がある。一つは民族運動の潮流であり又一つは社會運動の潮流であらふかと思ふ。此の二つの潮流は勿論解放の根本精神に於ては少しも違つたことはない。然し往々にして運動の方法と論理的解釋に至つては毫厘の差で千里の謬が生じ却つて運動の戦線を擾亂し黨派的紛糾を扇生して骨肉の争を起すのは豈我が民族の將來の爲めに痛歎すべき所ではなからうか。

#### 二

要するに我が社會に於て民族運動が主潮となるか、又は社會運動が主潮となるかと云ふ事が唯一の論點となるのである。勿論民族的に自由と幸福を享けて暮らして居る先進社會に於ては民族運動なる問題が生ずる理が無いのみならず、一步進んで却つて頑固な國粹主義に向つては、その改革と打破を絶叫して以て國際協調と人類共榮を企圖しやうとするのが目下の大勢である。然しながら吾人はいまだに民族的に自由と幸福の生活はさておき、却つて不合理な專制政治下で呻吟と苦悶を以て縲命を僅かに保つて居るのは誣ひざる事實ではないか。泥んや目下社會問題の紛糾が根本的に民族的衰頹と重大な關係のある事を考へて見ると、何人も朝鮮人としては民族問題が社會問題よりも感情上の刺激がより一層鋭敏なる事を、吾人は忌憚なく斷言する所である。

#### 三

故に世界の大勢から見て主潮となる社會運動も我が社會に限つては、民族運動の主潮に合流しなければ、その運動自體の實際的勢力を完成させる事が六ヶ敷いのである。何となれば我が社會に於ては實力の跋扈よりも權力の横暴がより一層酷烈な爲である。換言すると權力は資本家の援助を受けなくても自由行使する事が出来るけれども資本は權力の庇護を受けずしては一日も其の存在を維持する事が出来ぬではないか。今日迄の生命財産の蹂躪と人權自由の壓迫は資力の關係よりも權力の横暴にあつた事は何

人も首肯するであらう。古來專制政治下に於ては權力さへあれば生命も蹂躪する事が出来、財産も攫取する事が出来たではないか。斯の點に於て朝鮮に限つては、民衆の生命と自由を暢達する根本方法は資本勢力の排除よりも權力關係の制限が急先務である事は昭然たる事實である。一例を挙げると東拓日人小作の權力的背景が朝鮮人地主のそれに比して勢力的關係が懸け離れて居るのはいつも見たり聞いたりする處ではないか。

## 四

そうだからと言つて吾人は優越感を持ち排他性を帯びて居る民族運動は、自ら注意しなければならぬのである。然しながら世界人類の共存共榮の大義下に於て我が民族の自由と尊榮の爲めには他迄も勇往邁進せむ事を絶叫し、且つ斯くして民族的自由と平等とを獲得すると同時に世界的に協調と共鳴とを求めて、大勢に順應するのが吾人の進路であらふと思ふ、しかし世界大勢に順應合流する方策も先づ内部的に民族的團結を斷行しなければならない事は再び斷言する所である。

## ト 革 新 と 團 結

(大正十四年十月十九日東亞日報)

禮泉青年に告ぐ (禮泉支局一記者)

吾人人類社會は宇宙の進化法則に依つて其局面が度々變化するものであるから、強者は弱者に、富

者は貧者に變じ、鎖國主義が國際主義に、個人主義が社會主義に化して行くことは誰れも否認の出来ぬ事實である。

噫、吾人の自由と幸福を與ふる宇島江山は一朝一夕に他人の手中物となり、政治の自由を失ひ經濟の破滅を受くるのみでなく、人權は全部剝奪せられ、慘酷なる悲運の環境を脱することは出来ず、全く暗黒裡に迷ふ吾人ではないか。

國土と血統が同じく、主張と目的も同じ同胞でありながら何せ反目嫉視、分裂争闘を事とするか。這般禮泉農民の衡平社襲撃問題は甚だ不祥事ではないか。非道德的民衆愛のない行動を考へると戦慄する筆者は其の事件の原因や動機を言ふことを欲せない。亦言ふ必要もないと思ふが、禮泉社會が餘りに紊亂して暗闘が多いから彼我の自覺と反省を促す爲め一言告げるのである。

過去の三一運動が起つた翌年から此禮泉でも結構な趣旨と美しい精神で一つの青年會が創立せられ、地方有力者や年長階級も多數入會し、當初は充分の活動と努力で、地方的事業としては他に比して優秀なる成績であつた。然るに時代の變遷に依り一般思想は其方向や目標を變轉するにも拘らず禮泉青年會では時代の舊殻を脱することが出来ず、前會體、前主義其のまゝを存続するので、新進青年には凡ての點が相合せず、現代青年會としては餘りに落伍したものであるから、幹部幾人の發起で更に新興青年會と云ふ別個の團體を組織することになつた。かくて主義と主張を異にする兩團體は個人の感情或は主義主張か



ら暗中争闘と反目嫉視を繼續し地方的事業に莫大な障礙を招致した。

噫。諸君よ同じ血脈の同胞で、それほど是非を争ふ必要が何處にあるか。

吾人は邁進の勇氣を以て排斥するものは排斥し、同情するものは同情せねばならぬ。此んな不祥な事が同族間に發生したことは少くも醜泉人士の過失であり、朝鮮民族の恥辱ではないか。諸君よ「兄の過失は弟に關係はない」と云ふ非人的の心情は一日も速かに去るべしである。

勿論對立の關係上已を得ざる事情もあらうが相互の同情と反省で互に握手し團結して勇進せば成効は容易である、醜泉の各團體青年諸君よ新生命を開拓せうとするなら、互に反省し團結し愁雲の重疊せる醜泉社會の爲め、殊に樞域同族の爲め革新に努力せんことを望むのである。

少年労働は六時間 木浦労働總議決

去る十三日午後十時木浦青年會館内で労働總同盟はその臨時總會を開き左の宣言及綱領を決議した。

宣言(略)

綱領

一、我等は歴史的使命を遂行して大衆本位の新社會を建設するを以て目的とす。

二、我等は労働階級の現實的經濟上の利益を積極的に擁護す。

決議事項

### 労働問題

一、労働運動根本方針に関する件

(1) 無産階級の歴史的使命を遂行する爲め労働者の戰鬥力を強大にすること。そうするには一般大衆の現實的要求に依つて大衆を労働組合に結束し此れを戰鬥的に教育訓練すること。

二、労働条件改善に関する件

(1) 労働時間を八時間制とし最低賃金制定は執行委員會に一任すること。

三、労働者教育に関する件

- (1) 労働夜學又は講習所及講座講演會を開催すること。
- (2) 適當の「パンフレット」、及「リフレット」等の普及を期すること。
- (3) 講師を養成すること。

四、労働團體組織に関する件

(1) 本地方及附近の非組織労働者を組織するに努力し成立後は本同盟に加盟せしむること。

五、婦人労働に関する件

(1) 夜間労働を全廢して夜學を奨励すること。

六、少年労働に関する件

第二編 社會運動

- (1) 労働時間は六時間制とし労働種類に依つては之を防止又は制限し、幼年労働は積極的に全廢すること。
  - 七、外國労働者に關する件
  - (1) 同一の階級意識を鼓吹して同一の歩調を取らしむること。(下略)
  - 八、異流労働團體に關する件
  - (1) 労働運動の根本精神に背馳する團體は其内容を改善するか又は食損すること。
  - 九、労働者衛生及食事に關する件
  - (1) 醫療に關しては指定醫院を設置し食事に關しては適當なる場所を選択して共同食堂を設置すること。
  - 十、罷業團體に關する件
  - (1) 積極的に後援すること。
  - 十一、消費組合設置に關する件
  - (1) 實現に積極的努力すること。
- 社會問題
- 一、小作運動に關する件

- (1) 有機的連絡を取りて積極的に後援すること。
- 二、青年運動に關する件
  - (1) 大衆解放を目標とする青年團體と聯絡を取ること。
- 三、女性運動に關する件
  - (1) 女性解放運動を後援すること。
- 四、衡平運動に關する件
  - (1) 積極的に後援すると同時に一般労働階級に其意義を理解せしむること。
- 五、民族運動に關する件
  - (1) 民族問題の終局解決は社會問題解決にあるが故に政策以外に原則上としては民族主義を否認すると同時に妥協的民族主義は徹底的に排斥すること。
- 特殊問題
- 一、労働紀念日に關する件
  - (1) 五月一日を一齊に休業して盛大に紀念すること。
  - (2) 細胞團體にては其創立紀念を盛大にすること。
- 二、朝鮮運動線當面に關する件

- (1) 地方的に實地運動に注力すること。  
 三、務本勞農聯盟に加盟の件  
 (1) 加盟することゝすること。

**押す** 先驅者の冤訴

(大正十四年十月二十一日東亞日報)

余は此際此一篇を以て、余の最も敬愛する青年諸君に冤情を訴えるのであるから、心臓に赤い血の飛ぶ若い者は出て、余の訴を聞け。

余は諸君を二十歳内外の青年で専門學校か實業學校を卒へ、將に實生活に入らんとするものと假定し、魔物を恐れたり又は牧師の説教に盲信する様のものでなく、少くとも迷信を擲破した明快の頭腦所  
 有者であり、酒色に日を送る浮浪輩とは天地の差のある、極めて眞面目の性格を有する青年と考へて述べるのである。

「自分は將來どんな者になるか……諸君の念頭には何時も此の様の考が去らぬであらう。而して、それと同時に「自分は何時かは貧窮と無知との渦中に呻吟する者等を、解放の光明に引導する偉大の人となろう」と云ふ抱負を持ておるであらう。もしこの理想が少しもないとせば餘りに墮落腐敗した者である。諸君が上に述べた理想を持て居るなら、其の理想實現の爲め如何なる手段方法を取らんとするか？、或

は各自の研究に因て醫者とか辯護士とか學者とかになるであらう。諸君は果して醫師や辯護士や學者で能く諸君の理想を實現することが出来ると思ふか？。

それは絶対に不可能である。先づ醫師にならんとするか、諸君が開業中、貧窮の勞働者が病妻の診斷を受ける爲め諸君を迎へに來たとする。そこで諸君は其の勞働者に隨て不潔の貧民窟にある其の家に行く。柱は傾き屋根の破れからは月が出る、間凸のある居室の臭氣は鼻を突く、病婦と其傍らに襤褸を着た小兒がぶる／＼振ひながら諸君の顔をじろ／＼見て居る、之れを眺めた諸君の考はどうか？。

財界恐慌の爲め亭主は失業し、營養不良の妻は病床已に二ヶ月、小兒は飢餓に泣く、此一家族の慘狀を見て諸君の胸にどう思ふか？。

諸君が其女子の診斷を了つた後何んと云ふか「良い飲食物を攝取して激烈の勞働をするな、なるべく轉地療養をせよ」と云へるか。云へたら諸君は愚者である。彼れも鶏肉スツプの良いことを知らずして食べないのではない。乾燥した空氣の流通する室が衛生に害になるから、そんな所に居住したいのではない。彼れ等も、それだけの、力さえあれば諸君の忠告を待たずして自ら先んじてするのである。

此の様の種々のことを考へた諸君は何事も口から云へ出し得ず、破れ裂けんとする胸をじつと押へて世上を咀呪しながら、見ておられぬから、出て行くであらう。

しかし諸君に煩悶を與ふることは、どうして、そのみで、あろうか？、一方にこの様な悲惨者のあ

る他方では毎日化粧と訪問と舞踏と夫婦喧嘩を日課とし、晝夜遊び廻つた爲に身體が少し衰弱したと云ふ貴婦人が（所謂）諸君に往診を請ふた時、諸君の社會相に對する煩悶は一層深刻となるであらう。

一方は平生充分に食ふことも出來ず思むことも出來ぬ爲め死し、一方は平生勞働が何事か知らぬ爲めに衰弱するのだ。此れは大なる對照ではないか？萬一諸君が極めて懦弱の性質の所有者で、或る殘忍のことを見ても嘆息し、一杯の酒にも精神を失ひ、そうして世上萬事を「なろう様になれ」と放棄する様のものなら談るの餘地はないが、少くとも理想抱持の諸君としては次の様に言ふであらう。「醫師はどうしても理想を實現することが出來ぬ虚偽の職業である。病を治療するのが根本等ではなく、病を豫防せねばならぬ。人間の生活状態が今少し向上して知識が今少し發達すれば疾病の半數は現在の統計から容易に除削することが出來るのであるから、余は一刻も速かに此詐欺の職業を廢棄し、進んで過度の勞働に死し、勞働の何物か知らぬ爲め衰弱する。こんな不自然な對照のない、新しい社會を建設することに余の一身を献げよう」と。

### 三 直 接 運 動

#### **押** ○○宣言計劃發覺 （大正十五年六月八日時代日報）

九十餘人檢擧○○文五萬枚押收、事件發生地は天道教堂學生も關係、六日夜深更に會議進行中探知せらる

京城を中心に全朝鮮各地を網羅した○○運動以來八年開始めての實に大規模の○○運動○○事件が計劃中に發覺せられ、再昨六日午後四時から市内鍾路署を中心に京畿道警察部以下各署の大活動が起り、當日午後五時頃多數の警察官が自動車を馳つて市内慶雲洞天道教本部を包圍して、○○○○○○○幹部朴○○以下四十名を檢擧すると同時に○○宣言書約七萬枚入りの箱一個と印刷機械活字が數萬個入の大箱一個、其の他種々の文書を押收して本署に引上げ、徹夜嚴重取調の結果、事件は全部明白となり、連類者の檢擧を始め、昨七日曉四時から數十台の警官隊は市内各處に蜘蛛の巣を張り、八年前三十三人の一派と社會運動團體の人物及其他海外から來た者等約八十名を十一時迄に檢擧して鍾路署の二階會議室廣間に監禁し繼續取調中、一方七八台の自動車を馳つて各處に活動中であるが連類者は數百名の多數に達する模様であると。

#### 各團體首腦級人物

○○○○○○等地に○○大出動

今回の事件は天道教青年同盟のみで事を擧げたものでなく、海外海内有力なる團體の人物等は大部分參加した模様であるから、○○運動系と○○○○運動系の二系統が握手して行つたことが分明のやうで

あるが、今既に警察の手に検舉せられた人物を聞くに。

- △朝鮮労働總同盟中央執行委員李某朴某
- △朝鮮労働黨委員金某
- △大衆運動社某
- △朝鮮青年總同盟李某
- △朝鮮農民社尹某
- △新興青年同盟金某李某
- △漢陽青年聯盟權某
- △朝鮮女性同友會趙某
- △ソウル青年會張某
- △正友會全某

等で實に各團體の領袖級人物はそこに網羅し、亦其他にも三十三人中の一人であつた崔麟氏も檢舉せられ、證據品は充分出たが、其外の人物數名も檢舉せられて居る。數十台の○○隊は○○○○等重要都市に蜘蛛の巣を張つたやうに急遽出動して活動中であると。

押收せられた文書内容

地方配布は未詳

.....亦宣言書捺印署名を見るに個人名義のものはなく全部團體の名義で、其中にも前記天道教青年同盟の如き己に世上で知れる團體以外に○○團○○會○○○本部等未だ世上で知らぬ團體の名も多く、總て十餘團體に達する模様であると。亦己に作製した七萬枚の宣言書は平壤大邱等朝鮮各地に皆配布するやうに包んであつたとのことであるが、此のやうに作製したものを一時に押收せられたのであるから各地に配布したか、せぬかが疑問であると。

檢舉せられた面目各様

一部は判明

知名の人物等が陸續檢舉せられつゝあることは別項の如くであるが、亦昨七日以前三十三人中の巨頭であつた權某と吳某及韓某等の三人も、亦労働○○○側から廉某金某文某等數十名も檢舉せられ、特に開關社からは李某金某閔某等社員全部と、天道教側からは李某崔某李某等全部逮捕せられたとあるが、其内李乙氏だけは釋放せられたと。

事件發端は

開關押收で現物を取りに来て

事件の發生は前天道教青年同盟と同じ建物中にある開關社で、李朝五百年大觀號である開關六月號

が差押へられ、あの現物を取りに行つた時発見したもので、安國洞方面では印刷機までも押收したと。

印刷業と印刷業犯人中で活動

諸人の謀議する様子を窺知して即時多数警官隊の出動となり、此のやうに大檢舉に至つたとのことである。主謀團體人物中には某と云ふ印刷業者があつて市内各地を廻つて秘密に數萬字の活字を買ひ集め、市内某所に潜伏して印刷し、亦其中には印章彫刻業をする青年があつて宣言書に要する十餘個團體の印章を全部彫刻して捺印した模様であると。

崔麟氏自宅搜索

同氏は證據がなく放免

市内松岷洞崔麟氏の宅にも七日曉鐘路署員が包圍搜索し、崔麟氏を引致取調の結果未だ證據がないので午前十一時頃放免したと。



時局動搖の一考察

(大正十五年六月十一日朝鮮日報)

一

最近朝鮮の社會は再びたゞならぬ政治的動搖期に入つた。

政治的の動搖とは現行の政治に對する大衆の不平不信任を示威又は抗爭の形で表はすものを云ふ。

現下の朝鮮人の政治的動搖は即ち此の形を採用して居る。

たやすく云ふと、少數の外來人に依る不合理な政治が、多數被壓服人民をして非常な不平不信任等を懐かしめるのが政治的動搖を來す譯になるものであることは尙暇の釋明を要しない。

二

政治的動搖が此の時期に於て具現するのは殆んど必然の事だから之を疑ふ餘地もない。

政治的運動と云ふものは、いつも大衆の集會がその機會となる點から見ても、又個人／＼の不平が大衆的會合を待つて甫めて群衆心理の法則に依り爆發する點から見ても、全朝鮮各地方から數十萬の士女が京城に集中した此度の時期に於て、政治的動搖が一時に擴大したことは判り切つた事で、路上の群衆とても自ら之を充分意識して居る所である。

然しながら萬一息すんで居つた朝鮮人の不平が此の秋に於て再燃したものと見るのは餘りに愾つた見解であつて、この見解は動もすると天下の時事を更に禍厄に陥れる素因を作る事になる。

朝鮮人の不平……即ち現状打破に對しての彼等の白熱せる意慾は、只非常に形勢が不利な場合には隱忍雌伏して居り、凡そやつつける機會が來れば即ち猛然として再發するものである。だから、政治的現狀が根本的に改新されない間は永續性を以つて進んで行くべき事は歴史的必然性を持つて居るもの

と見のるが一番正確な見解であらう、それを疑つたり又下手にその真相を糊塗することとは許されない問題だ。それで只最終の帝王としての純宗帝の賓天が一際明瞭に悲憤した民族的意識を起こさせて、その不平の情を充奮せしめ、期せずして政治的示威を想ひ望ましむるに到つたのだ。

## 三

今度の政治的動搖は統一的大表現には到り得なかつた。それは表現する前にばれたのが一原因であり、又輓近數年の思想の變潮が少しく社會的分裂を見るに到つて居つた事も又一原因と云ふべきだ。

然しながら之を以て單純に評論するのは餘りに疎漏で吞氣すぎる。

現下の朝鮮人は、その明瞭に覺り得た民族的意識から見ても、又は白熱化しやうとして居る抗争の氣勢から見ても、もはや前期の比ではない。それは只多數の民衆が政治的僥倖を望まず、又率爾な犠牲を惜む處から彼等は皆白熱した意識を持つて居りながらも寧ろ冷靜な理智で付度して居つた。其の上統治當路等の豫定の戒嚴があつたから此度の運動が前期とは違つたものになつたのである。

そんな場合であつた事を考へて見ると、一般知識階級の人々や、民衆的首領と云はれるべき者がわざと押へて自重して容易に動かす、そして彼等が積極的態度に出なかつたから運動は統一的大表現の方式とならず、少しく分派的又は突發的の形式で具現したのである。

之はたとひ一片の推理に過ぎぬとも、昭々たる理勢は頗る的確であつて何等疑ふ餘地もない。故に今度の運動はその方式及數量がどうであつたにせよ決して輕るく見る事は出来ぬ。

彼等青年學生等が主となつて動いたのは、彼等がその情に隨つて直行する場合には無分別にやる點が、識者或は先輩等とちがつてゐる爲め丈である。

今日の朝鮮は單に朝鮮人の憂嘆煩悶を必要とはしない。相手の日本人がもつと深刻な愁嘆と眞摯な考慮とを要し、ひいては誠意と膽力のある解決を謀るべきである。

然して前述した現下朝鮮の政治的動搖はその方式數量及具現の階段がどうであらうとも、非常に重大なものである。量よりも質の重大であることに重きを置くのが一要點であり、又表はれない大きな數量が儼然として残つて居ることに留意しなくてはならぬ。

萬一朝鮮の統治當路等が未然防止に依つて功を誇らうとし、輕微な突發事件であると云つて時局の平靜を裝飾しやうとするならば、それは何の事はない火を薪の積んである下へ置いてそれで猶火事は大きくないところつける様な者で、危険この上なき者である。

  
教化門前で萬歲高唱

(大正十五年六月十日東亞日報)

午前九時頃宣言書を散らし

今朝午前九時因山行列が漸く過ぎんとすると、敦化門圍成社附近に於て多数の學生が激文ビラを撒いて萬歳を高唱するや、多数の群衆も之に和して萬歳を唱へ、その騒擾中、騎馬巡査其他多数の警官は之を解散する爲め群衆と衝突して多数の負傷者を出し、己に檢舉せられたものも多数に達し尙ほ繼續の狀態なりと。

**押** 日號外(差押)

、鍾路署員北京に急行

京城に入つて計劃を完成し

東京上海を経て北京にある

主謀者を選捕せんと

二、佛教代表の啓明星

上海から入來したと云ふ佛教代表の某氏

激文を頒布して京畿道警察部に提はる

新事件、新激文、續出

三、激文は全部七十萬枚

十三道の村々に散布した模様

**押**

二 動搖の空氣

(大正十五年六月十一日時代日報)

此頃續出する突然的大事件は全京城を動すやうである。警察側の慌て方と云つたら見物であつた。前々から四千の警官を配置して非常線を張り嚴重警戒して居つた警務局長の顔はどうなつたか。

歴史深き塔公園を

歩兵が嚴重警戒

武器を運搬して置いて

軍隊が嚴重に警戒中

未だ一般の記憶に去らぬ三一運動當時、數萬の市民が集つて一齊に萬歳を叫んだ「バヨダ」公園は、己未年以後裏門を閉塞して廢墟して居つたが、今回の因山の日である十日には曉から陸軍歩兵隊が種々の武器を運搬し、前門には二名の歩兵が銃を取つて嚴重に警戒中であると。

全州では赤旗押収

多佳橋數ヶ所で發見

全北全州では十日朝多佳橋外數ヶ所で不穩の文句を書いた赤旗を立ててあるのを警察で發見し即時押

第二編 社會運動



收したとのことであるが同署では其犯人を目下嚴探中であると。

各署聯合活動

檢舉せられた學生約二百名

其中に中央高等普通學校生徒が多く其外延禧、普成、セブランス専門中央高普校教師も現場から檢舉

檢文をまいて〇〇萬歳を叫んだ事件が突發したので、警戒中であつた府内各警察署は即時連合して各學校の學生約二百名を現場から檢舉したか、それ等の所屬學校を見るに。

中央高普校生	約 百 名
延禧専門學生	約 三十 名
普成専門學生	約 十 名
セブランス専門學生	約 十五 名
女 學 生	三 名
其 他 紳 士	若 干 名
電車運轉手	一 名
其 他 未 詳	數 十 名

等で其中には中央高等學校教師徐相國、趙譜籍兩氏も現場から檢舉せられ嚴重の取調を受けて居ると。事件が突發するや、即時警官隊は中央高等普通學校生徒を始め、團成社前から長沙洞に至る間の各種學校生徒の身體を一々檢査したと。

不安中の動搖

最後の君王を奉送して全京城を悲雲が掩ふて居る中に、去る六月から市内に突發的重大事件が連日續出して居つたが、國葬行列が進んで行く際、或る種の行動が沿道左右から起つた爲めに、中等學校教員學生等が多數に捉まり、警察と陸軍が協力して隅々迄警戒し鐵條網を張りむ許りにして居るのは彷彿として戰時化した感がある。

では、そんな光景は何處から出來て來たものと言はうか、心が落付いて居る時にはそんな突然的な不規則な行動は耻かしく思ふが、徹天の悲が極度に達して居る時には足すりしてもがいて、どんな真似でもする様に、積年鬱結して居る此の民衆の悲が殺到して、溢れる時にはどんな行動でもすると云ふ處から出て來て居るものである。國葬發布以來餘りに嚴重な警戒が衰號して居る群衆の心理に不安を與へた爲めに出来たと云はうか、兎に角現下の全京城を包んで居る空氣は極度の悲哀が極度の不安に一變して極度の動搖に再變しやうとするの兆がある。

眞きの己未連動の勃發した過程を回想すると、それは國葬の爲めに多數の民衆が京城に集つて來た事

とたま／＼民族自決主義が弱小民族の耳膜を打つたのが機會であつた。

此度のは國葬で多數の民衆が集つた丈で、世界の問題は何にもない。それに、それが、どんな動機で斯んな大事件が續發したのか。之から推して考へて見ると、己未運動も時期が時期であつて只單に勢を利しただけではない。此度のも只機會に乗じた丈ではなくつて精神意識の中からある暗黙の教があつて、あんなになつたものではなからうか。もしそうでないとすると系統も計劃も全然同一でない事件が一事に續出する譯がない。

然し事の真相は報道する自由がないから動機の如何を臆斷する大膽な者が何處に居らうや。

なれど只現下見る處では人心の不安は極度に動搖し初めて居る事は隠す事の出來ぬ事實である。此の民衆にはその位の動搖は何時でも無い時はないのであるが、悲哀が極端迄こみ上げて來た此の際、此の位の動搖が一端にあるのは當然のことである。此の民衆心理は容易に安靜しないであらう。

動搖が今更の動搖でなく、安靜が真からの安靜じやない。此の民衆の心理からしては動搖とか、安靜と云ふのは問題じやない。それを對像とした警察の積極的活動が事端を構へ、警戒捜査が嚴酷に過ぎ、苛刻に傾いてその範圍を擴大すると、却つて、不安の動搖はその程度を益々高めるから、その動搖の前途を誰あつて想ひ設ける事が出來やうか。

### 押

#### ホ 統營事件に對して

(昭和二年五月十七日東亞日報)

朝鮮を治める當局者等に對して、吾人は從來より警告するところ少からざるものがあつたが、それは即ち朝鮮民衆が如何に羊の如く柔順であるといつても、權力のみで抑壓すべきでなく、常に道理に鑑み、てこれに臨まねばならぬことを述べたのである。今回の統營事件に對しても更にこの説を擧げて當局者の猛省を促さんとするのである。今回統營に於て直接行動を取つたため檢舉された人等を法律的に辨護するとか、又は推揚するのではない。假に法律に照して(その法律が憲法であるとしても)司法權が活動する事實がある以上、吾人には曰可曰否を論ずる自由がないのみならず、それを推揚する言はこれを禁止せられてゐるから吾人は決して法律上問題となつてゐる人物等の行動に對してはこれを云謂せんとするものではない。たゞこの事件の發生の初めより只今に至るまで、その經路に照して爲政當局者の反省を求めんとするのである。

一個人金某に對して、一般民衆がかくの如く激憤したる理由は、その個人の行動に對して反感を持つことになつたのも、原因であらう。けれども事件をかくの如く激成せしめたのは當局者が朝鮮民衆に道理を以て臨むことなく、強力を以て接した處に過激行動の挑發となり原因があると云はれるであらう。

即ち金某が道評議員會の席上に於て主張したといふ二種の中に、最も一般民衆に反感を與へたのは朝鮮人教育の必要を無視したことである。今日朝鮮人の一般は教育の普及せざることを最も恨歎事とし、爲政者に於て今すこし誠意を以て努力するならば、まだ擴張さるゝ筈だと信じてゐる際、それと反對なる言行を見て憤怒したのであり、その結果が金某の道評議員民選に影響して落選となつた。その金某の行動が善惡はとまれ、かくの如く一般人の反感を受けた者であるにも拘らず道當局に於ては、更にその者を官選道評議員に定めたのである。これを一般民衆は當局者がかくの如く、一般民衆の意思と感情を無視するのであるとて反感は尙一層高調され、それに又一步進んでかゝる一般の感情と意思に合致して行動したる人等が檢舉されて、豫審にまで廻ることになつたとの説に依り激昂したのである。しかも、かくの如く激昂してゐる上に被檢舉者が斷食を實行したので、その親戚や友人の感情が極度に達したのである。その結果は曾て聞かない破壊的直接行動が爆發されたものであると見ることが出来る。

統禁事件の経路がかくの如くである以上、この上説明しなくても、當局者に於て反省すべき點は明瞭であると信ずるところである。これと同時に今回の事件に對して、どれ程當局者に責任があるかは尙ほ畧々する必要もないと思ふ。或者は此の事件を非常に小さく見んとするやうであるが、吾人は決してこの事件を小さく見てゐない。勿論人が多く殺傷されたのではなく、官公署が多く破壊されたものでもない。その被害程度から見れば頗る些少なやうであるけれども、その事件の性質から見れば、決して小さい事件

でないと思ふのである。

一般民衆の意思と感情に合しない、一個人を、官邊に於て無理に擁護せば、その結果は如何になるだらう。その結果は所謂官廳の威信と法律の權威や、目的に如何なる因果關係をもたらすたらうか。今回の統禁事件はこれをよく實際に説破するものである。兵力を以て存立せんとした帝國獨逸は滅亡した。權力のみを以て治めんとするものがあるとすれば、これ豈警戒すべきところでなからうか。

#### 四 闘争運動

押

##### 1 天安青年よ團結せよ (大正十五年七月五日時代日報)

吾人は誰でも皆等しく、生きて行かなければならぬ。皆等しく生きて行く途は唯一つ、同一の血で結晶した民族の全體が愛の結合で、永遠なる命を創造するにある。

諸君！諸君は個體では生きることが出来ぬ。亦諸君の迷信的信仰では能く生くことが出来ぬ。しかし、諸君の四圍にある民族的靈の結晶で能く生きる途を開拓することが出来るであらう。

吾人は弱小民族であり、二重、三重の搾取を受けるものである。であるから、吾人には銃もなく、劍もなく、大砲や軍備は一層のことない。吾人は自由に棒一本持つことが出来ぬ。そして殘忍無道なる外

敵に侵略されて居る。それでも吾人は何等反抗する氣力がなく反抗する何物もない。吾人は民族的に生命が衰へて行く。

吾人は政治的に衰へ、經濟的に衰へて行く。吾人の將來前途に唯一つものが待つて居る。それは即ち滅亡である。余は諸君と共に此の徵兆を見て居る。

余は何時かES新聞でこんなことを讀むた。「ナイヤガラ」の上流から羊一匹流れて来るのを、鷲が見付けて直ぐ降りて来て肉を食ひ始めた。其の間に「ナイヤガラ」まで行つたのである。もう食ふことも出来ぬので飛ばうとしたが、鷲の羽や足が羊にくつついて離れぬので、鷲は瀑布に流れ込むで死んで了つた。此れが全世界を通じて無産大衆の現像に照して見るべきである。

余は之を讀むで、吾々朝鮮人は恰もこむなものであると思つた。朝鮮青年としての天安青年諸君よ、衰へた血をそのまゝ衰へさすつもりか？

諸君よ諸君、衰へて了ふ前に滅亡する前に、瀑布に落つる前に、自我の立場を顧みて、そして共に生きよう。諸君の生きるものは即ち朝鮮民族の生きるものである。吾人の生の途は一つある。外敵の侵犯を防禦するにある。衰へぬ様修養しなければならぬ。落つる前に飛ばなければならぬ。そうすれば生きられる。そうするには血あり、意あり、憤ある朝鮮青年の團結の一途のみだ。

全朝鮮の滅亡復興は諸君の手中にある。諸君の墮落は朝鮮の墮落である。

天安青年よ團結せよ。

**押**

鐵

新友會に變更  
（大正十五年七月十七日時代日報）

大邱鐵聲團では去る十一日午後八時西城町同會館内で革新の總會を開き、尹鍾律君司會の下に經過報告の後、團名改稱及會則修定、委員改選を行ひ、運動に誠意なき會員多數を除名したが、同團は今般會名を新友會と改稱し、隨つて思想團に變じた。

改正の綱領

- 一、我等は階級戦線に在る實際的利益の爲闘争を期す
- 二、我等は朝鮮無産大衆の合理的社會生活の獲得を期す

決議事項

- 一、日本相愛會事件に對しては敍文を送ること
- 二、朝鮮社會團體中央協議會と思想同盟に加入すること

**押**

民

發起準備會  
（大正十五年七月十六日朝鮮日報）

朝鮮民興會發起準備會では十五日午後二時準備委員會を開いて左の通の綱領を通過すると同時に、事

務を一層敏速に處理せむが爲に準備委員三名を増選したと。

綱 領

- 一、我等は朝鮮民族の最大利益の爲に闘争するを根本的使命とす
- 一、我等は朝鮮民族の總力量を結合して組織的活動を期す
- 一、我等は朝鮮民族の當面の利益の爲に現下の實情に適當な政策の樹立及實行を圖る



朝鮮民興會 (大正十五年七月十一日朝鮮日報)

朝鮮民興會發起準備委員會が成立した。朝鮮民興會と云ふのは朝鮮民族の共同利益の爲奮闘努力せうとするもので、朝鮮民族の單一戦線機關を形成せうと云ふのである。そして、それには實業、宗教、女子、青年、衛平、學生、思想等各系を網羅して、民族的大同團結をせうと云ふのである。

二

民族的大同團結を樹立する目的は朝鮮民族の解放でなくてはならぬ。共同利益と云ふのは其の何ものを指稱するのであるか？。政治上の利益もあらうし經濟上の利益もあらう。

政治上の共同利益としては他人の壓迫を脱すると云ふのが第一の目的で、經濟上の利益としては生活

の安定を得るのが第一の目的である。であるから、其の運動は必然的に反帝國主義的運動として表現するであらう。朝鮮では從來此のやうな運動がないことはなかつたのである。青年運動、思想運動、労働運動、衛平運動、婦人運動等はそれは勿論反帝國主義的運動であつた。しかし、朝鮮從來の運動は總じて階級的色彩が濃厚であつて、民族内部にあつても勢力の分割感があつた。

三

然るに最近に至つて階級運動者側でも、民族的統一運動に對する要求が熾熱になつて來たことは注目すべき現象である。思想運動乃至労働運動は已に相當の地歩を得て居る。

丁度西歐諸國で封建制度、專制主義を打破する爲、無産階級が資本階級と握手したことと同じく、反帝國主義的運動に對し同一の利益を有する階級を動員することの必要を覺り、帝國主義に對する反抗を一層有力ならしむる爲凡ての力を集中せうとするのである。朝鮮民族内部にあつても、階級の利益が衝突することは否認の出來ぬことであるから、朝鮮民族の大同團結が何時迄も持續せられるものとは考へられぬが、何れにもせよ第一の難問を打開する爲には二傾向が聯合する必要があることを認定せざるを得ないのである。

であるから、現下の朝鮮で民族全體を代表する組織體の發生は已に必要に迫つて居る。其の組織を任務とする朝鮮民興會發起準備委員會の成立は亦必然の事象である。但し一つ心配のことは現下の事情に

鑑みて、そんな組織體の成立が可能であらうか。假令それが成立したとするも、どれ程の活動が出来るかと云ふことが、第二の疑問とならざるを得ぬ。

しかし吾人はこんな運動を丁度中國に於ける國民黨運動の如く進行させたいのである。中國には軍閥が勢力を扶殖して各地方に割據して居る。そのやうな立場にある中國々民黨の活動にも勿論大困難のあることは、吾人も亦目眇する處である。

押

## 威南記者大會所感

(大正十五年七月二十二日東京日報)

記者も大衆の一人として系統を立て、働いて行くと云ふ事は、極めて廣漠な見解の様であるが、此の意識さへ確立すると、組織的體系を得ることが出来ると同時に目醒しい活躍と効果とを見る事が出来るのである。

社會進化の法則に依つてゞも、先覺者の努力に依つてゞも、何にせよ此の度の大會に於て討議決定した處は大衆運動線上に一臂の力と一掬の收穫を貢獻する所があらむことを、大衆と共に余は喜ぶ所である。

此の度の大會に於て余が最も驚異と雀躍の念を以て傾聴したものが澤山ある。内にも言論壓迫、現行

新聞紙法に對する真相解剖の根本的討議は、一種示威の象徴として極めて重要視されたのである。

然しながら、それよりも、全朝鮮民族の九割を占めて居る小作、労働問題に對する討議と決議は余をして、否な聞くものをして、胸躍り、血湧くを禁じ得ざらしめた。

労働對勞賃、利益分配等の不合理に因つて生ずる、剩餘價值或は不勞利得は資本地主に集中する反面に於て労働者、農民は搾取を受ける者ではないか。此の資本主義全盛時代に於て此の事實は、餘地なく、高度に發達して居るから、労働者、農民の慘狀は筆舌の暇々を待たずして、知るべきである。

然しながら、金權萬能の資本集中の資本主義社會の中に於て、それ自體を解體せしめる或る原素が、既に、醗酵してその社會を崩壊するに足る大衆の力が、その社會自體内に萌芽し初めて居るから、此の時に農民問題、労働問題を根本的に討議して人間を資本主義の跳梁から救済する爲に、その戦術を確立して進路を執らしめる事が、今日の大衆運動の根本精神である。

此の度の大會は少くとも、此の根本精神に接觸したと余は信ずるのである。

余が此の拙筆を執る理由も之を滿天下大衆に傳達して、共に同感、同情を得やうとするにあるのである。

大衆中、東拓問題、労働争議(過般の威興印刷職工罷業)討議に對して警察は突然中止を命じた。怒濤の勢を以て大會は、その理由を詰問抗議した。しかし、別段これと言ふ答辯も無く、唯中止を連發し

た。是吾人の敗北か。否な余は決してそうは思はぬ。既に惹起した問題を問題として上程したのみであるから、既成事實の發議を中止したとて、その社會に於て、それ丈の問題と事實を胚胎分娩して居る事は、その社會の一部的敗北を意味するのであるではないか。大會は大會の態度を決定せむが爲に上程すべきで、その事實は儼然として活事實として残つて居るではないか。

余は最後に一つ附記しやうと思ふ。兩日に互る大會に臨むで、その提案と討議、決議に關する氣焔萬丈の大會の氣勢を見て一種の驚異奇蹟の如く活目傾聴する聽衆を見た。

是れ丈でも、我民衆は如何に言論を壓縮され、事業を壓迫されて居るか判る。

余は遠からざる將來に於て斯かる問題を彼等と共に平常の茶話として話すことになることを大衆諸君に誓つて躊躇しないのである。

## 二 聲 明 書

(大正十四年十月二十七日東亞日報)

吾等は謹んで正義を愛する民衆の前に今度朝鮮日報社幹部數個の妖魔輩申錫雨、金東成、安在鴻等の罪惡を摘示し同時に吾人の態度を表明するものである。

噫！朝鮮日報が昨年九月に革新せられて以來、吾等は同社員の一入として筆陣を張つてから既に一年である。

吾等は晝夜涙と汗を流して鞠躬盡瘁、専ら民衆の眞實な友たむとした過去を回顧して、今日幾個の妖魔輩の罪惡の爲めに朝鮮日報が〇〇に公然と白旗を掲げて民衆の敵となつたのを見るに至つては、無限の感慨が起つて胸が塞さがつて言ふ所を知らないのである。

今度の罪惡の首魁者である申錫雨は、一定の主義や定見が無い變態的の功名心に心酔した一狂漢に過ぎず、彼が單に現社會でブルジョアの子として生れた爲めに、敢て朝鮮日報の幹部の椅子を占領して居つたもので、適々朝鮮日報が去る九月八日總督府から停刊せらるゝや、新聞は民衆の公器であると云ふ考は少しもなく、只私利私慾に狂奔する彼は幾許かの私財の損害に疾色焦燥し朝夕總督府に出入して叩頭百拜解停を哀乞し、當局者の「態度を改めよ」の言葉を聞くや、目的の爲めには如何なる犠牲も辭せない彼は社會主義者として指目されて居る數人を誡首すると云ふことを供物に奉り、百方阿諛し、追付解停してやるとの内約を聞いて狂喜雀躍した。

元來此の種の筆禍事件は從來の實例から見ると、筆者の退社を以て大概解決されたものであるから、そうしなくとも遠からずして解停される事は見え透いて居たのに、私財の損害に氣を燥せられた彼は自ら進んで社員淘汰を安受合をし、民衆の公器を擧げて一朝にして當局の前に屈伏させた。斯くして去る十五日に彼に取つては恩典とも言ふべき一片の指令を受取つて還つて來た。社會主義者誡首はこれから行はれるであらうが、狂的功名心に陶醉した彼妖魔は革新以來血誠を盡して來た有數の社員が、彼の

ブルジョア的横暴を發揮するの、目の上の疔の様に心配になつた。

そこで彼本来の毒牙を顯はして彼の走狗金東成、安在鴻等と結托し、口尙乳臭の小兒崔善益を弄結し、一舉にして有数の社員を驅逐しブルジョア的横暴を肆行しやうと、平時ならば當然理事會の決議を経べき此の重大案件を理事數人が不參の儘密謀し、社長李商在先生の決裁も無く解停の消息を聞いて緊張して集まつた社員

- 金松殷 柳光烈 徐範錫 白南震 金丹冶 孫永極
- 朴憲永 林元根 崔國鉉 李鍾鼎 姜禹烈 洪鍾悅
- 崔容均 皮教島 辛日鎔 金相元 鞠探鎮

等を一時に敵首し、顧問制度を廢止して、李相協、張斗鉉、慎九範等を一時に退社させたのである。資本主義である現社會で冗員を陶汰しやうとしても豫告を發して、辭任自退させるのが通例であるのに、血に飢えた毒蛇の如く毒惡な彼等は、平素の功勞や從來の情義や個性の尊嚴は少しも顧みずに、同苦同泣して來た可憐の社友を衆人環視の中へ呼出して、恰も裁判長が被告に刑期を言渡す様に敵首を宣言し、欣々然として快哉を叫んだのであつた。彼輩は敢て民衆の公器を私占冒瀆し、吾等個性の尊嚴を蹂躪し、吾等の人格を一個の勞働を賣る商品視して了つた。

そうしてから後、此の妖魔輩も大衆の公眼が恐しかつたのか、上記質問の顛末の通り（我等二十名を何故陶汰したかとの質問を爲したる旨記載しあるも略す）九尾の狐の如き奸計流言を案出し、自分等の罪惡を無辜敵首せられた社員に轉嫁し、大衆の公眼を瞞着して二度社會を愚弄しやうとした、血を以て血を洗ふ罪惡を重ねる彼の輩よ！

吾等は茲に奮起して彼の妖魔輩の罪惡を白日青天の下に曝げ出して、天下大衆の公正な批判を望むのである。

吾等は貧しく且つ弱い者である。〇〇と握手し金力と法力とを併せ有つて居る彼輩にどうして叶はうか。されど吾等は正義が最後の勝利を得ることを確信して居るから、正義を愛する民衆の義劍が彼の輩の寸息を斷ち、太陽の熱光の下に妖魔の惡戯が消える迄闘争しやうとするのである。

一九二五年十月二十六日

- 金松殷 徐範錫 柳光烈 金炯元 姜禹烈
- 洪鍾悅 白南震 皮教島 崔國鉉 崔容均 (廣告)

**押木 地主に警告發送** (大正十四年十月十四日東亞日報)

全南順天郡農民聯合會では從來地主階級に對して必死の力で徹底の闘争をしておつたが、本年から一



刷新陣容を整へ猛烈なる戦線を布き、就中本年農作物には風虫三大災があつたので、悪地主等の因襲的悪習慣の「坐看坪」を心配して、左の如き警告文六百通を南鮮各郡の地主に送つて警告したと。

警告文

本聯合會は順天全部八萬六千の小作農民の全意思を合して組織した機關であるから、其八萬六千の小作農民を代表して地主諸君に警告す。諸君今日の勞働運動と農民運動は全世界各國を通じて山は飛び海は傾くの勢で起つたと言ふものは現代の資本主義に對抗せんとするものではないか？此の大勢に隨ひ數年來朝鮮でも勞働農民運動が全國各地を通じて雨後の筍の様に起つたのも勿論資本階級と地主階級に對抗せんとする運動である。小作人も過去の如く小數の有産階級の爲め働くと言ふよりも今日では先づ自活の爲め生産に努力するにあらざればだめであると言ふ自覺が生じたのである。であるから凡ての運動は地方的又は全國的に一步を進めて世界的である。諸君も天下大勢を見て大覺醒をせねばならぬ。本會で屢々決議したが往年諸君の組織した機關である順天地主會にても小作料は四割以内、地稅公課金は、地主の負擔等九ヶ條を決議しながら、小作料を四割以上、地稅と公課も亦每斗落に二、三斗宛増納せしむる悪習を撤廢しない者が多い。是れでは地主會は一般を欺く決議をしたと云ふの外はない。小作人は之に對して正當の要求をなし、地主は官權を藉るとか金力に憑藉して、一層小作人に壓迫を加へ小作權を無理に移動して小作人の生命を餘地なく剝奪する。良心があり道徳のあ

る者で出来る事ではない。殊に本年は水災風災虫災に因つて各面を通じて、農作は三割以上の減損となることは否認の出来ぬ事實である。農村では三災よりも人災が恐ろしいと云ふ流行語がある。誠に驚くべきものである。收穫期に際して諸君は私慾を離れ大衆の生活の爲め澤山の減賂を以て、人災のない様に注意する爲め茲に警告文を發する。衆怒合すれば決して諸君の福利でない事を大覺すべきである。

乙丑十月八日

順天農民聯合會 印

五 少年運動

イ 少年運動に關する私の意見

(新人間、第二卷第六號、昭和二年六月二十八日、京城、韓元彬)

何よりも基礎的事業は少年運動である。過去の人物は皆死むても少年は後繼の事業者であつて、吾等の主義と目的を達すべき者である。殊に過去の因襲に感染せず人間性其の儘である。此の土臺を拵へる爲に少年運動を促進せよ、集團的の機關を組織せよ、少年を有機的に指導訓練すべき機關即ち少年會を組織せよ、現今朝鮮内の少年團體數は約三百五十箇所、其の會員は約三萬と稱す。朝鮮人よ、將來を考へて少年を能く養成せよ、皆斯る少年會を組織し正當なる主義の下に於て訓練せよ、農村少年會、都市には勞働少年會、其の他内外を通して吾が主義の下に於て各自の指導する少年會を組織せよ。

統一的の機關を置き、運動には組織的統一の機關がなければならぬ。先づ統一的の機關を實現し各地に在る少年團體は此の統一機關に加入せしむることが必要である。而して年に數回に亘つて少年指導者大會を地方別又は中央地に於て開催し、指導上に遺憾なきやう常に統一を圖れ。來る八月地日紀念を機として全國少年指導者大會を開催することとなつた。其の効果は尠からざらむと信するのである。

### □ 少年少女へ

左記數種の雑誌記事は大正十五年七月より昭和元年十二月末日までの間に警務局で削除されたものである。

#### 一、新少年第二卷、第四號

##### (イ) 猫と鼠の生活

猫と鼠が始めて仲善く暮す心算で相談の上、冬の食糧として蜂蜜を或所に隠して置いた。所が猫は鼠を欺むいて其の蜂蜜を皆喰つて了つた。之を知つた鼠は怒つて猫に質問した。すると猫は鼠を喰殺した。噫、可愛相な鼠は一口の猫の飯と成つた。我々が生活して往く此の世には斯様な事實が幾何でもある。

##### (ロ) 多情多愛なる成親動に

噫、兄よ我々は新鮮なる民族ではないか。白衣の國民ではないか。我々の血氣は日に日に益し我々の細胞は和合されてあるのです。噫兄よ我々は愛を以て相助け肉體が粉碎しても惡戰苦闘致しませう。兄よ日に日に破れて行く古い建物、月々に衰敗して往く半島現狀、噫不運にも踏み倒されて居る此の土地を何人が取戻して呉れるか。噫信する所も望む所も無き我々實に寒心の涙を流さざるを得ようか。此の敗北して間に陥りつゝ往く土地を回復するものは我等ではないか。噫、我等は彼の腐敗されて居る三千里江山を我が幼い腕、天賦の武器を以て開拓して、我等の望む生命の金子塔を地上に建設しましやう。之我等の當面の責任ではないか云々。

#### 二、少年運動、創刊號

##### (イ) 芽を頼みつゝ同志に告ぐ。

歐洲大戰は數年前に於て終熄したが、財力、智力、學力等の競走は列強國間今尙其の形勢を止めないのである。我等は此の難境に陥りたる朝鮮の地位を頼みて堅き少年運動線上に立ちて戰友となり武器を持たなければならぬ。未來は我が無窮花野原に新舞臺を作る主人公、二世の朝鮮民數百萬少年少女に充當せる創造役軍たらしむべく立つて以來最早四箇年を経過した。其の過去を顧みれば慘憺たる失敗、物質的逼迫的の〇壓迫に依り悲哀にも不満を以て経過したのである。過去は如斯慘敗しても爾今よりは新しい勇氣を以て全力を盡さなければならぬ。而して社會進化法則と高尚なる

正義を以て最後の一人が残る迄勇ましく戦ひ、新建設の勝利を迎へなければならぬ云々。

(ロ) 集團的行動に共鳴せよ。

何人も安全に且つ理想的生活を望まざる者はあるまい。經濟的に破産せられて店は閑散となり、階級的に滅されて人心が荒廢した朝鮮人としては一府今日の總ての苦痛生活、不自由生活より逃かれんとせざる者は無いであらう。

### 三、星の國第二號

噫呼 純宗孝皇帝

あー故李王殿下三五の明月は昌德宮を眺めて涙を流します。今日李王殿下が昇遐せられましたと言ふ事を聞いて何人と雖も泣かざるを得るてしやうか。

噫呼悲しく殿下に於せられましては昇遐せらるゝ數分前に「おい足が一層腫れた様だから反對に寝かして下れ、あゝ氣持が好い」と御仰せられた。殿下は朝六時十分昇遐せられたと言ふ事を聞いて私は胸が痛つたのです。皆様の中に交じつて昌德宮前に伏して泣きました。

時に動物園に居る獸等は主人公を失つて悲しむ様で、又櫻花も涙を流して悲む様でした。

### 四、新進少年第二卷五號

(イ) 亞米利加人形三回

人形は主人が外出して留守中なるを好機會として、自分も外に出て見物でもして歸る心算で出掛けた。そうして各種の物を見て居る中に一番悪い者を見附た。其れは日本人が兄先に付けて歩く所謂下駄の音で實に氣に入らなかつた。(中略)それから私は日本人のみが集つまつて住んで居る本町を見物せんとして明治町の入口に着いた。所が實に驚くべき物を見た。其れは日本人が車に酒を載せて道路で賣つて居る事である。然も其の車の後には子供を背負つた婦人が付いて居つて酌をする事である云々。

其れから鍾路に行つて見ると道路に於て日本「ウドン」を賣つて居る朝鮮老婦人が居つた。所が巡查がやつて來て直に足先を以て其の「ウドン」賣の道具の全部を破つて了つた。其れから「馬鹿な奴」と云つた。其れを見た私は少しも助けたかつた。あゝ之も法律の一つであらうか云々。而し人形は箱の中にあつた。

### 五、아리야 (幼年) 第四卷七號

(イ) 此の冊を読む同志「十萬の讀者」に

六月の始め此の時は故李王殿下の凶山が幾日もない時であつた。唯京城市内では物騒しく隅々毎に人々が多く出て、唯でも見物兼ねて市街に出て歩くけれども、開闢社では開闢ポスターに爆發彈を書いたとて押收されて總督府に呼ばれて歩き乍ら餘念が無つたし、其の中に私は少し印刷中の爲め

毎日夜中迄印刷所に行つて職工と共に忙しく暮して居た。

六月七日(月曜日)此の日に因山習儀の見物があるとして物騒だつたが、私は目が醒めたら冷飯を喰つて印刷所に駆付け、終日働かなければ少年の印刷が出来上らないのだ。見物に出掛ける思もせず寢込んで居る中に俄かに枕邊で騒しいので、起きて見たら私の寢て居る房の前で「方定煥氏が何處で寢て居る」かと云ふて尋ねて居た。「宜し捕へに来たな」と直覺して起き上つて見れば間違なく警察の刑事、日本人朝鮮人四人が椽側に立て警察署から連れに来たから早く行かうと言ふ。ひよつとしたら捕へられて行くか知らんと前以て考へて居たが、別に恐れる事は無かつたが「少年の爲に大變だ」との心配は一方では無かつた。彼等は捕へて行く人であり、私は捕へられて行く體であるから。行かうと星化の如く督促するので私の心は少年の印刷の爲大變な事である。行けば如何に早く出ても約一週間は留置されるだらう、少年が其の時迄に發行されなければ大變と思つて、早く行かうと督促するにも不拘らず、紙を索して「私は捕へられて行くから少年印刷を誰か代つて見て呉れ」と書いて校正したものと共に開關社に送つてから鍾路署に連れられて行つた。今回因山に際し警察では我等開關社連中が何にか秘密の計劃を企て居るに非ずやと疑ひそれを注目し居る折柄、一昨日の晩に開關社の製本室(少年雜誌の製本も其處でやる)から〇〇秘密文書幾枚かを差押へたので、此れが端緒となつて此の如く澤山の人が檢束される事に成つたのである。

「人だけ引張る許りでは無く開關社の各房を残らず搜索して皆様が書いて送つた自由書展覽會用の物迄箱を毀して一々張り出したのである。

警察署に行けば最早先に捕へられて来た青年が約四十名も居つた。互に話せない其の房の中で、朝飯を食はされて居ると、氣に掛るのが少年であつた。他の物も他の物であるが「少年の世界」は特別に印刷し憎い物で、私が直接に其の繪を書いて送つて初て印刷が出来るのに、私が留置されて居るから何なると思つて彼此れ思案の結果、其處で普通の紙に人知らずに書いて置いた。然し其の圖本を開關社に送る途は無いので苦心して居る中に、其の時開關社から又車先生関先生誰彼を問はず全部捕へて来るので、私は之では少年の發行は出来ないと全く絶望したのであつた。其んな騒動は屢々有る筈はないが此度の事の爲入つた人等が(或人は撲られたが)六日目或は七日目のみに放釋される事は放釋されたが、社勢を整頓し溜つた事を處理するには、數日掛て本當に忙しく暮した。其處で私一人は其の上に私事迄生じて目鼻開ける間も無く仕事に追はれる中に今回の七月號が斯んなに遅れたのである。

#### 六、世に第二卷第一號

吾等は悲哀と冤恨が多いものである。

饑に感じ學に餓える。者である差別と束縛を受け暗黒に陥ちたのである。然れども吾等は朝鮮の新

しい芽となる少年である。又は第二世の役軍たる少年である吾等は新年を迎へるに我第の心と精神は新しくなる。新年には新しい心と精神とを以て總ての事に奮發し、努力して悲哀より欣喜に、饑寒より満腹に、差別より光明へ向ひ、互に手を握つて前進して戦はねばならぬ。

七、어린이第五卷、第一號

(イ) 露西亞のビオネル

首には見てもまばゆき火の様な赤いねくたいを結び、紅地に火を織出し其の中に「常に準備」と云ふ錦糸で縫つた旗を取圍いて何かして居る少年デ、それは露西亞のみで見らるゝ「ビオネル」である。

「ビオネル」それは吾國で言へば少年探險隊である。露西亞ビオネルの生れた歴史は勿論古い事であるが、完全に成つたのは新露西亞に成つてからである。彼等の目的とする事業は特別に異つて居る。此れは次の一言で良く分る。今の人等は力限りして古い社會を無くして新社會を造るに反對する者等を無くする事の外にする事ない。そして直に完全なる新社會を造り其の主人となる者は今の少年であるから、少年を教育し立派に育養する露西亞の少年運動は、國家と社會の保護を受けて成長するので日々驚くべき成績を有つて居る。其の踏む途は露西亞のビオネルが「レーニン」の名を以て其の主義に依る「煙火の下」で歩むのである。學校には、ビオネルの前衛と云ふものをおき總ての少

年少女をビオネルの途に進むべく力を盡し、時としては演劇もなし、愛村を廻つて宣傳もするのである。

(ロ) 下男は一猶太人に過つて其の術で金を取つた京城の手前で巡査が強盗だとして捕縛した。それは前記の猶太人が自分が承知して出し乍ら強盗だと訴へたからである。下男は死刑に決し刑場に引出された。其の時に男は前記の術で官吏を縛り降参させ官吏の哀願で之れを許し自分は無罪で出て來た。

八、幼年 四號

童謡「可憐な小さい鳥」

1. 南山の青森は大鳥が巢を拵へて居り、花園金芝の田には小鳥が巢を拵へた。大鳥は暴悪な鳥で小鳥は可憐な鳥。
2. 暴悪な大鳥等に憎まれる小鳥。花園金の芝宜き家を大鳥に奪はれて。

(以上)

六 民族 運動

イ 韓人青年會創立

(昭和二年五月二十八日朝鮮日報)

◆北京在住青年闘士等が

中國北京に在住する朝鮮青年四十餘名は大衆の團結で民族的解放運動を完成せんとして、これが機關

の組織に準備中であつたが、去る十五日北京平民大學内に於て北京韓人青年會發起總會を開き、臨時議長林般城氏司會の下に、次の如き綱領と標語を決定した上役員を選擧したと。(北京發信)

綱 領

- 一、我々は青年大衆は團結を鞏固にし以て民族的解放運動の完成を期す。
- 一、我々は科學的教養と組織的訓練を以て〇〇的理論を樹立しその實現を圖る。

標 語

- 一、民族的單一黨の實現に努力しやう。
- 一、一切の派閥主義を掃蕩しやう。
- 一、中國革命運動を積極的に援助しやう。

決 議 案

- 一、民族的單一黨に對する各地の統一的組織が早速實現されるやうに努力すること。
- 一、全中國各地に於ける吾人青年團の總聯合を圖る第一歩として、先づ中部各地に於ける青年團の聯盟を實現せしむること。
- 一、機關紙を出版して運動の理論と方針を樹立し宣傳すること。
- 一、留學生會と協力して新渡學生の補習機關を設立すること。

- 一、文庫を設け一般の閱讀に供へ、講演會、討論會を開いて教養に重きを置くこと。
- 一、速かに會館を設置すること。

執 行 委 員

政 治 部	金 天 友、	林 般 城
庭 務 部	李 東 九、	李 相 度、
教 養 部	金 一、	崔 榮
宣 傳 部	金 成 鍊、	林 般 城(兼)
調 査 部	柳 雲 洙、	康 基 鳳
女 子 部	金 成 鍊(兼)	



義務金徵收錢票發行

(昭和二年四月二十七日朝鮮日報)

年收四十萬圓

年二期に分ち義務金を徵收錢票を使用して物品賣買

正義府管下四萬五千戶

三二運動以來中國各地に起つた朝鮮〇〇運動團體は、實に其の数は知ることの出來ぬ程多くなつて、

其の中には内容不充分的團體もあり、初め其の各團體では大概朝鮮内地で募集した軍資金等で臨時費用にのみ使つて來たが、此頃になつて其の團體の内容が漸次組織的となり、亦朝鮮内地から入つて來る金のみにては維持することが出來ぬので、其の幹部等は永久なる計畫を立てむと種々苦心したのであるが、先日國境方面から總督府警務局に到着した電報があり、其の内容は絶對秘密に附するので詳細なること不明なるも聞く所によると、目下正義府では南滿洲正義府管内に移住せる朝鮮同胞より義務金を徵收しつゝあるが、其の義務金は一年を二期に分ち上半期六圓、下半期三圓を徵收し、此を以て行政委員及軍人の給料を支拂ふ筈であるが、正義府では一般給料費用には全部現金を用ひず、現金は其の儘本部に貯蓄し全部錢票を使用し一般移住同胞も此の錢票を信用して、其の範圍内では此の錢票が一種貨幣と同じく物品買ひに迄も融通せらるゝ模様であるとのことである。

現今總督府警務局の調査した所によると、正義府管内に移住せる朝鮮同胞として、義務金を誠實に納入する者は約四萬五千戸位で其の總収入は一年約四十萬圓となるとのことである。

#### 大規模で穀商經營

##### 利得で武器購入

其の外新民府其他各團體の義勇軍六個中隊では、此頃將校會議の結果各中隊で毎年二千圓宛を出し、之で大規模に米穀商を經營して、其の利益を軍器購入費に用ふることとし、疾から一部は進行中で、

初めは資金幾計にもならぬが、毎年資金を増加することになるのであるから、其の範圍が漸次擴大せられ隨つて朝鮮内地に迄米穀を貿易する爲、朝鮮内地に支店迄置く計畫であるとのこと、此の商店の總支配人は、大正九年に平北厚昌郡守を暗殺した正義府中央政府秘書張承彦であると。

#### 警務當局は對策講究中

##### 内容を知つて驚き各道各地に手配

今日迄滿洲各地に散在せる朝鮮の團體は、唯一時的に幾らでも出來た金で、其の日の日を過すのみで何等組織的内容のないものとして考へて居たが、今回此の様な確實な計畫が成立したことを知つた警務當局では、餘りに意外であるのに驚き後日の萬一を憂ひ此の計畫の内容を印刷して、全朝鮮各道警察部に送り、警察部では亦管轄警察署に送つて、極秘密裡に前記各團體から朝鮮内地に及ばず影響を窺ひ、且亦種々の對策を講究中であると。(右は無根の風説を誇大に報道し暗に國外不逞團の作動を賞揚し人心を感亂する處あるに依り差押たるものなり)

## 押入

### 民族的統一機關

(昭和二年五月十日東亞日報)

#### 朝鮮民衆會創立

東京ニ在ル新團體連合デ綱領ト規約モ通過

- 一、吾人は民族的に鞏固なる團結を期す
- 二、吾人は民族的に完全なる解放を期す
- 三、吾人は民族的に國際的平等を期す

### 七 文 藝 運 動

#### 1 通俗文學の建設

(大正十四年十月五日東亞日報)

朴 英 熙

通俗文學と云ふのは民衆が一般に讀む文學である。此の「通俗」なる言葉を新たに創設すべき時が來た。通俗的文學——それは無産階級文學が持たねばならぬ當然來るべき處の文學である。

無産階級文學は蠱惑的に商賣の爲めにして民衆を頹廢させる文學ではない。

無産階級文學は眞理の爲めにする○○○的戰闘的文學である。

○○○は民衆の國家或は社會に對する反逆が通俗的に團結せらるゝ時に實現する行動である……………である、……………被壓迫に對する反逆が白熱して爆發する行動である。

かるが故に無産階級の文學が當さに持つて居る價值は、反逆に對する眞理を民衆に通俗的に傳達するにある。其の時に甫めて民衆はブルジョアの商賣政策の蠱惑から來たされる、不幸から離れて眞に彼等の「讀みたいと思ふ文藝」を求められるのである。

**押**

#### 愛國文學に就て

(昭和二年五月十九日東亞日報)

金 東 煥

前略—我々は朝鮮の現實を正當に、認識批判すべき義務を感ずるのである。即ち過去世紀の外國で起つた愛國運動と、朝鮮のそれは内容が異なるからである。これを述べんとせば、非常に苦しいのみならず、又これ位のことでは最初から常識となつてゐるのである。これを一言で簡単にいへば、朝鮮は重農國である。八十八パーセントの農民は、その生活を土地に置いて來た。故に土地を失ふ日がそれ等の生活を失ふ日、即ち死滅する日となるのである。然るに近來日本のおそろしい金融資本の暴威の下に、土地は朝鮮人をだん／＼離れて、他人の手許に往つてゐる。地主は齊しく小作人となり、民衆は齊しく勞働者となる。それも餓死を免れんが爲に、凡ゆる侮辱と暴虐な條件の下に、賃銀勞働奴隷となりつゝある。さうして今日に至つては、土地がないとの叫が全朝鮮的に一の共通なる叫となり、これが擴大されて、朝鮮を或る結論に引張つて往く、絶大なる原動力となつてゐるのみならず、牧畜、水産、工場等



にまで、工業資金が流れ込んで、到る處「驅逐される百姓(人民)」で充滿してをる。これ等の憂愁が高潮に達しつつある。實に朝鮮の凡ゆる運動は「土地がない」といふ事實から出發するのである、東拓及不平等の土地兼併と、金融資本の工場漁場占領に因り勃興する、必然的不可避の運動である。しかして五穀の稔を誇つてゐた農業國朝鮮に於ては地代不拂で多数なる小作人が、その土地から放逐されてゐる。しかなら土地法案や關稅法案は、一も全農民に有利となつてゐないのである。これは何の爲であるか？我々には經濟的條件を左右する〇〇がないからである。〇〇がないから經濟的搾取に呻吟するのみである。茲に於て我々朝鮮人は、二重性を帯びてゐる。その國權を恢復せんとして民族的〇〇運動〇〇士それ等が即ち〇〇〇〇をすべき大衆である。

實に今日の「朝鮮人」を構成したる分子は、大部分小作農民即ち賃銀奴隸である。〇〇〇で〇〇を得んとするのと、〇〇〇で〇〇を得んとするのが殆んど同語義である。然るに多大の經驗と聰明なる認識で近日の朝鮮は、民族主義の形態を具備した〇〇〇〇が勃興せねば、我々の運動が可能でないことをよく知つてゐる。

しかして今日我々の前には「祖國の〇〇」といふ、命題が何よりも大なる可能性をもつて進んでゐるのである。こゝに凡ゆる力量を集中せねばならぬ時期に至つたのである。我々はこの無産大衆の手で成るべき〇〇〇〇運動を愛國主義と命名しやう。この愛國主義的思想を背景とする文藝行動を愛國文學運動

と稱しやう。(以下略)

押

### 八 朝鮮女性運動の役割と其の進路

(昭和二年六月衆議院刊)

總ての運動の役割は、其の社會環境の如何に依つて定まるのである。日本の勞働運動と、英國のそれとは互に異り、米國の社會運動と中國のそれとが亦相異なるものである。同じ理由朝鮮女性運動の役割米女子等の運動と相異なるは、彼等の處する社會事情と、吾等を包容して居る朝鮮の社が、歐會環境が相異なるを以てである。

我等より社會的地位が向上して居る外國の女子運動は、女權運動の必要が既になくなつたか知らない。然し未だ一般民衆の思想が啓蒙期から脱しない我國に於ては、男性を本位とする在來の政治、道徳法律、因習に對しても、猛烈に闘争しなければならぬ。

而して無産階級の立場より資本階級を中心とする、現在社會制度一切に對する反逆運動もしなければならぬ、尙更弱小民族であるから。

朝鮮女性として、全民族的に受くる物質的大搾取と、政治的壓迫に對して亦反逆がなければならぬ朝鮮女性運動は、性的に、階級的に、亦是政治的に反逆性を有する重大なる三重の役割を持つて居る。

然るに斯の如き廣汎な重大な役割を擔ふ、女性運動の過去は如何であり、亦現在は何なる過程に居

るか？余は曾て朝鮮社會運動史に於て、女性運動を聞いて見た事はない。萬一無理にあつたと云はゞ己未年國葬當時に純然たる政治的色彩を帯びて出て來た、三一運動に参加した一事のあるのみである。然しそれは全民族的舉事であるから、女性運動として論すべきではない。三年前に新興階級の解放運動と共に、女性解放と無産階級の解放とを目標として成立した、朝鮮女性同友會を先頭にして兩三年來に組織された幾十個の團體が現存する。

現在全鮮に組織されて居る女性團體は、六十餘個で加入會員が、約二千を算すると云ふ。二三年間に會員二千と云ふ数は男性運動に比して、其の進歩が遅々であると思ふだらうが、現在朝鮮女子として中等教育を受けた女子が、僅か幾千に達する程度から見たら、決して少い數ではない。然し問題は其の二千餘名の會員の意識如何にある。

何故に尠からざる會員を有する現在女性團體が微弱であるか。之には種々な原因がある。

第一は運動歴史が短い事、一般社會の理解のない事、當局の壓迫の甚しい事等を挙げられるだらう。然しそれは女性運動のみが受ける障礙ではない。運動線に於て全體的に受ける事ではないか。特に女性運動に支障を來すのは、經濟的に無力なるものと、無教育なるものと此の二つが、最も大原因になるのだらう。經濟の無力は單純なる問題でないだけに容易に解決出来るものでない。女子の教育問題も時期の問題であらう。女性運動の役割が既定の通であり、目的意識が漠然たる現在の運動の原因を究知した

ので、女性運動の進路は自ら明白になつた感がある。當面の問題は第一には、既成團體を整頓すべきであり、第二には解放思想に對して無關心なる、新女性等に確乎たる意識を注入すべきである。換言すれば、全鮮に散在して居る女性團體をして一致の歩調を以て、突進する丈の戦線を整理すると同時に、量に於てより以上の陣容を準備しなければならない。

之からは組織問題は從來に比して、多くの研究を以て新しき方針で進まねばならない。其の譯は社會運動全體が、前からは組織より教養に置重するやうになつたが、女性運動のみが後に遅れた爲と、相對者の大多數が頑固なる宗教界の女性等が多い爲とである。

要するに女性運動は三重の役割を有するだけに、複雑にして重大なものである。而して現在が散漫なだけそれ尠銳敏な手段と、不斷の努力とが必要である。終りに女性運動の役割は、社會革命を以てして始めて最後の使命を完了する事の出来る事だけを附言して置く。

### 九 第三國際黨の影響

東洋中心の影響如何 (大正十四年六月六日朝鮮日報)

最近の外報に依れば、第三國際黨にて其世界革命政策の中心を、歐洲より東洋に移すことゝなれりと

云ふ。未だ詳細なる報道に接せず、之に對する具體的論評は後日を待つの外なきも、其歐洲より東洋に移すこととなりしことは、少くも世界政局殊に東洋政局に於て莫大なる影響の波及するものなり。

## 二

一九一九年第三國際黨が、莫斯科に設立せらるゝ當時を言はゞ、事實上歐洲を中心として世界革命を論ずること妥當なりしも、それは勃利勞農革命が假令不結果に終りたるも、此に因て多數農民を中心とせる農民共産黨は、莫大なる潜勢力に於て活動するあり。獨逸革命は無産階級革命として決定的勝利を得る能はず「エベルト」「サイラマン」一派の天下と化したるも、其背後に「スバハタカス」團を中心とせる有力なる共産主義者の活動ありしのみならず、歐洲全體が殆んど經濟的の混亂状態に陥り、佛伊埃自其他の諸國は悉く戦争の傷疾甚重の現象にありて、實に歐洲資本主義及軍國主義は、殆んど没落の最後に瀕在し、兼ねて露國を中心とせる第三國際黨の經濟的及政治的に活動する各種方面の可能性が、専ら歐洲にありしことも其重要なる理由なり。而して東洋は文化交流其他各種客觀的條件が、不利なること事實なりしを以て、歐洲を重要視するに至りしことは、國際黨自體より見て當然なる政略なりしなり。

## 三

此の如き理由と事情の下に、第三國際黨の東洋政策は爾來數年間何等の進捗無かりしこと事實なり。勿論東洋の無産階級運動が當時それだけ幼稚なりしことも、重要なる條件の一なりしならむも、それよ

りも日本帝國の西比利亞出兵と露國自體の內的煩悶(問?)に因て、各種不利なる客觀的條件を排除して積極的活動を開始すること能はざりしが爲なり。而して爾今七年間歐洲本位の政策を、不得已把持するに至りしものなり。然るに其間歐洲は各種混亂、即ち危機を経過する途中に於て無數の反勢力擡頭するに至り、伊太利勃利亞佛蘭西亦は英獨其他バルガン諸國は、經濟的窮乏に驅使せられ反動思想跋扈の舞臺と化するに至れり。隨て共産黨の壓迫放逐虐殺は、組織的露骨的に行ふに至れり。目下英佛諸國が外國共産主義者の入國拒絶と放逐を協定せしものは、其一端の實例にあらざるか。

## 四

然るに此際第三國際黨が、東洋政策に重きを置くに至りし理由を聞くに、東洋の凡ての被壓迫民族等の解放運動を積極的に援助して、世界無産階級革命の理想を到達せむとするにありと云ふ。現下歐洲と東洋の政局上顯著なる差異あること事實なり。

見よ日本を除く東洋全局は、國家の共同搾取場と化すに至りしにあらざるか。此の如き現象にありて露中日露の國交は完全に恢復せられ、露國自體の秩序と實力が恢復せしことは、第三國際黨をして東洋政策に重きを置かしむるに有力なる、刺激となりしことは勿論なり。況んや東洋全局は被壓迫民族等の開放運動が實に熾烈にして、革命的雰囲気濃厚に低回し居るに於ておや。

此の如き種々の理由に依りて、第三國際黨の政策が東洋に集中せらるゝことは當然にして、亦必然なる所なるが、今回中國の大動亂も亦無産階級の經濟的侵略に反抗の運動が導火線となり、そこへ民族的敵愾心が加勢して重大なる事態を惹起せしことは、吾人の屢々言及せし所の如く、注目するに足る現象なりとす。

要するに東洋政局は、第三國際黨の世界革命政策の新銳氣と、被壓迫民族等の解放運動の勢力と互に迎合して、如何なる急進的展開を見るに至るや豫測し難しとす。然らば吾人は重大なる局面に如何に善處せざるべからざるか、深く顧慮準備を要することを指摘し置く所なり。

### 第三編 朝鮮の世相

#### 一 科學的精神と朝鮮人の將來

(昭和元年十二月八日中外日報社説)

吾人の意識する外界の森羅萬象は一定の因果法則に依り吾人の眼前に展開される。客觀的眞理とは或一現象の因果律に對する普遍性と恒久性を云ふのである。觀察或は實驗に依り、この客觀的眞理を探索するあらゆる學問を科學と云ひ、この客觀的眞理を對象とする、嚴正に堅固又は緻密なる思考方法を科學的精神と云つてゐる。

學者は實驗室に於て、軍人は戰場に於て、商人は店頭に於て、企業家は卓上にて、その何れを問はず、それが如何なる環境にあるかを問はず、この修羅場に於て勝利の光榮を得んとせば先づ自分の思考する對象の正體に對し、徹底せる理解が必要條件である。こゝに徹底せる理解と云ふのは(一)事實が如何なる法則に依り發生されるか、(二)普遍現象であらうか例外であらうか、(三)表面に對する裏面がなんであらうか、(四)事實を観察するとき、己れの心理状態と中間障害物、これを一言で蔽へば、與へたるところの事實を組織的疑心で嚴正に緻密に論理的に分析するのを云ふのである。然れども吾人の思考對象は甚だ多くなつて一二に止まらない。然る故に如何に緻密に分析した多數の事實を蒐集したとて

そのあらゆる事實を厳正なる論理的連鎖で一貫せざれば、それは結局一個の塵芥箱に過ぎないであらう。名畫が名畫である理由は、勿論美麗なる繪具選擇にあるが、主としては繪具を微妙なる調和で彩色するにある。然らざる繪畫は恰も下女が白粉丹紅をぬちやくちやにつけるが如くである。然る故に個々の事實を緻密に分析して後、この個々の事實を厳正なる論理的連鎖に一貫する、これが即ち科學的精神である。

科學的精神の有無は智慧と興敗の分水嶺である。智者と興者は先づ事實を分析したる後に必然的法則を應用し、自己の慾望を満足せしめる。これに反して愚者と敗者は自己の意識とは獨立されるところの事實の法則を自己の慾望の儘にせんとする。智者と興者は正確なる個々の事實を厳正なる論理的連鎖にして大局を統一的に觀察し、その理想を實現せしめる。愚者と敗者はこれに反して正確ならざる個々の事實を粗蕪なる論理的連鎖で、全體を錯雜に觀察するを以て、偶然なる場合を除きたる外には、凡ての期待が悉く水泡と化してしまふのである。

朝鮮人の最後の期待を正確堅固ならしめんとせば、朝鮮人のあらゆる將來を實質的に隆昌ならしめんとせば、朝鮮人は科學的精神を培養せよ。かの西洋人が今日の如く世界の覇權を執るやうになつたその原因は、科學的精神培養にあることは論ずる必要もない。又朝鮮人の今日の不幸の原因が、日本の如く急速に科學を輸入し咀嚼せざるにあるのも長説する必要はない。先づ日にく萎縮されつゝある朝鮮人

の現状を觀察せよ、その原因が何れにあらうか？

一獲千金を夢想する朝鮮人投機家は、期米と株式の意義も知らず、減茶苦茶な酌酌で如何することもならず、結局は日本人にだまされて了ひ。實業家は經濟財界や會社經營に對する緻密なる智識もなく、減茶に投資して蕩敗家産となり。官吏や教員は自分等の事務處理と教材整理教授方法に關する詳細なる研究なき故に、同僚の日本人に「ボンヤリ」との語を聞くのみであり。又所謂社會の紳士とか智識階級とかを自處する者は、會議の議論事項と性質に對する正確なる智識なき故に「不得要領」との語を聞くのみではあらざらうか。これのみならず、今日の如き科學の世界に於て慧星一個さへ蒼空に現しても、これも直に凶兆として恐怖したり、凶夢さへあつても自己の運命の將來が如何になるかを恐懼したり、病氣に罹ると直に問下したり、虛驚莫甚たる宗教は百出して人心を不安に陥らしめて居る。

斯の如く物質的に衰退され、精神的に進歩が遅々として、苦痛と恐怖の下に於て呻吟するその原因は、結局思考の「對象」に對する正確嚴格なる理解や、事實と事實を論理的に連絡して思考するを知らざるところに存するのだ。又近日我等の進路を指示せんとする根本問題を論議する凡ての論文まで非科學的精神の産物であることを多く發見した。朝鮮人の根本問題の解決も科學的に取るに於ては、歴史上蹂躪された諸民族の蘇生する一般的法則や、壓迫する民族の壓迫力の本質や、抵抗する民族の抵抗力の本質を正確に出来る限りは數學的に研究すべきものである。現在の苦痛より脱出して將來に對する確實なる目

標を建設せんとせば、朝鮮人は科學的精神を培養せねばならぬ。生氣も客觀的眞理を把持するときに振作される。だから熱烈なる眞正の勇氣はこの眞理を源泉とするのである。科學的精神は一民族の獨占ではない。アリストテレルイの言の如く習慣は第二の天性である。只努力するのみである。

## 二 生 活 苦

押イ

本當に生きることが出来ないか

(大正十五年七月十八日東亞日報社説)

一、吾人は何をせむが爲此の世に生を有して居るかは知らないが、既に生ある以上は此の生を何等の意義なく拋棄したくないのみではない、其の意義ある生を求めねばならないし、又其の生を拋棄するにしても意義ある途を探さねばならないのである。之は如何なる社會、如何なる時代、如何なる人を問はず、人の生に對する正當なる態度である。併しながら、最近の朝鮮人は「我々は死する外途はないのだ、どうして生きることが出来るものか」と言ふ語を殆ど流行語の如く口にするを見るのである。是果して一時的流行の意味なき説話であるか、將又本當に生きることの出来ないと言ふ絶望より發する最後の嘆聲であるか。

二、それが假令最後の嘆聲であるにしても、唯嘆聲のみでは、吾人には何等の感觸もないのである。然

しその「皆死ぬるより外はない」と言ふ語はたゞ言葉のみに止まらずして、それが事實の實際現象として現はるゝに於ては如何にすべきか。此の地で生き得ざることを悟り、此の地で死の途に向ふもの、數が殖える他面に於て此の地を離れるは、何等かの方法は立つまいかとて南に海を渡つて日本に往き北に江を越へて、南北滿洲及露領に向ふ者の數も日に増しつゝあるのである。彼の生の國へ再び歸り得ざる死の路に向ふ者は言ふ迄もなく、農業國の保守性を帯び居る農民達の教士を離れるその勇斷も並大抵の事態ではないのである。果して朝鮮に於ける朝鮮人は、事實に於てその儘に生きる事は出来ないのだ。併しながら、朝鮮に於て生き得ざる彼等が、彼の根據なく保障なき外地に於て、どうして美しい生を享むことが出来よう。此の地に残りて死の路を取る者と餘り違はない、憐むべき者達である。

三、第一に吾人の經濟生活は窮迫に堪へないのである。全人口の九割以上を占めたる農民は皆生産者である。彼等の生産技術が假へ不完全であつてもその極限の能率に隨つて力耕力作することのみは、事實であるにも拘らず、其の饑餓の脅威を避け得られずして、あらゆる生活の根據を奪はれたのである。これは確に資本政策の打撃である。外來の資本所得群が跋扈すれば、するほど、朝鮮人の經濟的情勢は益々窮地に陥るに至るのである。朝鮮の總ての經濟的利権が一つ二つと大資本家の口に入る今日に於ては朝鮮人の生き得ざるとの嘆聲は已むを得ない事である。第二に人權の蹂躪壓迫、拘束に堪へ得

ないのである。官権の勃發は時として、良民を侵害し民族的差別感に人の権利を抑制し、集會と結社に毫も自由なく、警察権の専制の下には人民の権利を保障すべき途がないのである。是亦朝鮮人の生きる事の出来ないと言ふ一の條件である。

四、然し生はなくなれば再び得られざるだけ尊貴なるものである。あらゆる社會の現状を咀嚼し、あらゆる現實を對手として、吾人は生を擁護し發展せしめざるべからずである。つまり死は人を生かす方法ではないのだ。のみならず、生きることが出来ないと言ふ嘆聲も亦人を光明の世界に導く事は出来ないのだ。其の懦弱なる觀念の殿堂より一步も出られずして、唯自己の唯一なる生を咀嚼し又咀嚼せむとする事は、此の生存権の争奪場に出現した吾人の取るべき態度ではないのだ。故に吾人は生きられぬと言ふ事を口にするを以て能事とはしないのだ。儼然たる現實の戦線に於て實際の生を一步と發展せしめむが爲、現實に向ひ大いに奮闘すべきである。其の生きる、生きないは自責を以て決定すべきではないと思ふのである。

### □ 野 有 餓 卒

(昭和元年十二月三十一日東京日報社説)

一昨日本紙に報道したるが如く、京畿道管内に於てのみ四十名の殍屍があつた。その中の三十名は京城府管内に於て凍死し、又一名は京城の中心たる太平通二丁目に於て凍死したと言つてゐる。そうして

その殍屍が全部朝鮮人たることも勿論である。

凍死は少しも奇現象ではなからう。天候酷寒のときは衣食住さへなければ、誰にしても凍死は免かれぬであらう。凍死すれば殍屍と云ふ稱號を受くるのである。

今年の冬は未だ遙遠である。小寒大寒が前にあるから四十名の幾倍の殍屍が、輝煌なる電燈の下の垣々たる大路上に倒れて朝鮮の文化政治を嘲けるであらう。

孟子は「遺賢」と「餓卒」なきを政治の理想と云ひ「有民飢色野有餓卒」を惡政の記號とした。然しそれは古人の閑暇なる空論であつて、今日の朝鮮に適用されるべきではない。遺賢は論ずる必要もなからうが餓卒が野に滿されて其の餘りが首府なる京城の中央まで及んでゐる。

朝鮮の物産が朝鮮人を食はせるに、又は着させるに足らぬであらうか。然りとせば、餓死凍死が野に都にあるのも、或は怪しむべきものではなからうが、朝鮮の産米は今年内に五百四十萬石程日本に移出されたと云つてゐる。又二萬餘の警察官その他の冗官冗吏は二十割以上の年末賞與金を受け、朝鮮の到る處には宏壯なる駐在所を造營する富力があるのではないか。その官吏や警察官は誰の爲にあるのであらうか。巨額を要する國境警備は誰を敵とし誰を保護せんとするのであるか。殍屍を路上に絶たざる限りは總督府は何んなことも言はれないであらう。

當局はこれに對し答辯して、然る故に産業第一主義を力説するではないか、又滿洲の粟田とブラジル

の珈琲園に朝鮮人を移住せしむる内意を有するではないか、と云ふだらうが、朝鮮の經濟と朝鮮人の經濟が一致せざるに於ては朝鮮の片々土が悉く肥沃なる水田となり、八百萬石でなく八千萬石の産米増殖があつても野有餓卒は免れないことであらう。第一に土地兼併を制限し、第二に日本移民を制限し、第三に朝鮮人の職業範圍を廣くして安定せしむるのが當局者として少くとも經濟政策上社會政策上當然なることであらう。

當局は自分等の敵が唯内外にある或る種の朝鮮人であるときへ思つてゐる。その實は到底言論機關に對する壓迫と警察の鐵筒をしても制止し得られないこの殭屍が勁敵であることを知得してゐない、若しも彼等がこれを知得する聰明があつたとすれば、必ず朝鮮本位の諸政策を試用する筈である。即ち水利組合や、産米増殖や官廳の用途や、金融政策や、官公吏の採用も朝鮮人本位の政策を試用する筈ではなからうか。

かゝる根本策にまでは至らないとしても、先づ餓卒に對する應急策から見ても、救世軍の英人等の施設した土窟の外に總督府當局が或る施設をするとの話は未だ聞いてゐない。恰も當局者等は朝鮮人の流離や凍餓に對しては全然關心せざる様である。彼等はその以上或る重要な思索と經營に没頭する爲にかゝる問題には關心する暇がないやうである。

我々には當局者の答辯を待つて爲すべきことを觀望せんとする。

## ハ 生活は遂に死巷！

(昭和元年十二月二十二日朝鮮日報)

### 流離同胞の此慘狀

日迫つて來る生活難で滿洲の曠野を指し北に々々遠く逐出される白衣民の群が年を追うて増加しつつある。本年に於ても秋以後京畿道楊平を始め江原道の各地より移住する者が多數であつたことは屢報したのであるが、彼等は故國に於ても命を繋ぐことが出来ないで、山川も風俗も異なる彼の異域に於て活路を探るが爲に、西北間島に向ふ途中、酷烈な大陸の寒風に無慘にも凍死する悲絶慘絶なることが屢々あるそうだ。去る九月にも江原道に原籍を置く金某は妻及幼兒三名を伴ひ間島に向ひたる處、會寧の對岸大嶺を越へて龍井村に往く途中幼兒三名は悉く凍死し、又その夫婦二名も全身が凍り倒れてゐるのを、局子街の同胞等が発見し急據救助中であると云つてゐる。(以下略)

## ニ 天寒白屋貧

(昭和元年十二月九日朝鮮日報評)

天候は寒くなつた。風が吹く、雪が降る、水が落ちると直に凍つて了ふ。朝鮮の天地には今や實に冬が來た。貧窮なる人には何時でも幸福の時はないが、冬の如く困難なるときはなからう。かゝる寒氣が侵入するときに我々貧民の狀態を思へば、志ある者として誰か其の胸に辛らさを感せざるであらう



か。

朝鮮内に於て生活の途を得られないので、かの如く寒い冬節に北方に向つて、頼るところもなく朔風寒雪の甚しい間島に移住する数千數萬の同胞を思ふときに、誰か戦慄せざるであらうか？かゝる人等はこの地に於て生活上惨敗し、萬一の僥倖を望んで親戚や故舊や墳墓を棄て行く者等である。あゝ如何にしてそれ等を慰勞するであらうか？日本人等は南米「ブラジル國」に移住するとき、政府より每人に對し二百圓の金錢を補助し且つ種々の便宜を與へる。しかれども我が朝鮮人の移住に對しては、かゝる便宜が何れよりあるだらうか？移住者の大部分は農村にて土地なき爲に生活し得られない者等である。それ等の本郷（郷里）は三兩の富庫と云つてゐる。最も富裕なる三兩に於て貧民が最も多くなるのは一見甚だおかしなことである。然し小作問題が南部朝鮮に於て最も多く起るのを見れば、その間の消息が解るであらう。富の平均を得ないのが流離乞丐の原因となるのである。

日本の移民が最も多く侵入する所が南朝鮮である。物理學の不可入性の原則に依る異分子が侵入すればそれだけ溢るゝだらう。即ちそれだけ越え行くのは明白であらう。かの如くなつて南方にのみ貧民が多く従つて彼等が生計を失つて、四方に彷徨ふのは避け得ざる現象である。幾らか工業の興らんとするところがあるが、それを以て過剰なる人口を營養するには足らぬ。未だ農業が主要産物たる以上異分子が侵入して土地を耕作するのは、それだけ在來の食糧を奪はねければならぬだらうか？天候がかの如く寒

いときに朝鮮の窮狀を考へて豈に怨嗟の叫びがなからうか？

#### ホ 就學難と就職難 （昭和二年二月十一日東亞日報）

入學期に際し就學難の叫があるのは世界的現狀である。又その反面には卒業期に至り就職運動が猛烈であるが、その運動の七八割は實効を得ざる現狀である。この就職難は現在金融の覇權を掌握しその一舉手一投足が總べて世界經濟の波動の焦點となる米國に於ても絶對に保障し得られない問題である。況んや經濟的に破滅線上にあり、政治的に實權のない我社會に於て就職難があるのは當然なる歸結といへるであらう。

しかし一方の入學難他方の就職難は奇怪な現象である。社會が學問を要求するを以て就學難かあるのであり、又それが必要とせざる故に就職難が生ずるのである。これ如何なる矛盾の現象であるか？かくの如き矛盾の發生する原因は、果して那邊にあるのか？吾人は先づ今日の教育制度に胚胎されたのであると見てゐる。今日の教育制度下に於ける學校は單純なる卒業證書の交付所に過ぎない。眞理を探究する教育實際を捕捉する教育でないからだ。單純に一定年限に多少の講義と「ノート」記録の形式的注入を能事として卒業證書を交付する爲に、實社會に於ては實用のなき閑談空論者となつて了ふからである。

學校教育のかくの如き弊害は、必ず學校當局者や教育制度の施設の任に當る者の責任のみでない。これは社會に於ても一部の責任を分擔すべきものである。即ち學校を卒業した證明書のなきものを劣等視する弊害により生ずる問題である。卒業證書の有無を個人の人格的價值判斷の第一條件とする社會に於て入學難を招致すると同時に就職難の嘆聲を發せしむるのである。

しかし根本問題に遡及し考察して見れば、この凡ての矛盾は經濟組織にある。財政難で學校設備の不充實なのが就學難の原因であり、分配の不平等なる原因により奴隸的地位に於て勞働力を提供しなければ生の維持が困難になるからである。しかる故に完全なる經濟組織が出現するまでは常にこの矛盾は繼續されるであらう。



## 肝を出して喰へる人等

(新人画第二卷第六號昭和二年六月京城李學仁)

ト先生、朝鮮より來た新聞紙を見ると、日本人は益々押して來て吾か同胞が根據として居た自分の土地で生活し得なくなつて、露國又は中國、日本に驅逐されると。又先般の新聞紙に依れば日本に行く朝鮮勞働者は入れられないと。朝鮮内に居る朝鮮人又は他國に漂流する朝鮮人何れを問はず、生活の安定を得ずして死に瀕するのは今日の事實である。食を得ずして自己の生命を斷絶するものが幾何程あるか知れない。殊に近來に至つては旱魃と洪水の爲に食を得ない同胞が幾位あるか。朝鮮人には何故斯る悲哀が來るか思へば實に涙を禁じられない。斯の如く朝鮮は日々に亡びて往くのに朝鮮人は勇氣を出して生の途を開かない。之は團結の出來ない所以である。今日吾等は經濟破滅を受けて困難な境遇に陥つたのを知り乍ら其の經濟を復活せしめむとする考は少しもないのである。

ト先生、吾が朝鮮人は團結心さへあれば死ぬる様になつた命を生かすことも出來、又は失つた嬉しさを更に取戻すことも出來る。虎に咬はへられて失神さへしなければ良しとの格言の如く、苦痛と悲哀に包まれて居ても精出して氣付ければ宜いが、朝鮮民衆は只今其の虐待と苦痛に失神して彷徨して居るだけである。

吾等の前途には久しからずして今よりもつと悲哀のことが多く出來て來るだらう。

ト先生、私は吾が祖先から遼羅と云ふ國が滅亡した話を聞いたことがある。昔遼羅は隣國に征服され其の政府は遼羅人に對し多くの税金を徵收した。而して遼羅人は此の税金を納める金がないので田と畑を其の政府に賣つて仕舞つた。終には賣るものがないので家屋其の他家具等を賣つて、最早喰ふものがない時、其の政府は「汝の天を賣つて呉れ」と云つた。而して彼等は少しでも生きるが爲に天を賣つた。而して天を仰いで見るものが居れば兵隊に命じて彼等の首を切つたと云ふ。斯の如く遼羅民族は天地を見ることも出來なくなつて、自分の腹を切つて肝を出して喰へてから死むだと云ふ。此の話は祖先から聞いたが、今日更に其のことが思はれるのである。吾が朝鮮人も此の儘今の様では遼羅の人の如く悲惨

にも自己の肝を出して喰べてから死する時が遠くないと思ふ。暹羅から起つた其の物語が幾年ならずして、吾が朝鮮に實現されると思つたら落涙を禁じ難い。

ト先生、自分の肝を自分の手で取り出して喰べたとの昔の話を死に瀕して居る二十萬同胞に廣く話して下さらむ事を頼みます。

### ト 粟輸入を見て (昭和二年六月八日東亞日報)

朝鮮は元來農業國であるから、今日に至つても他の商工業の發展に比し農業が依然重要な地位を占めてゐることは多言を要せざるところである。朝鮮半島の生産物中第一位を占めてゐる米の輸移出は年々増加し、大正十五年にありては五百七十八萬四千八百八十餘石を示してゐるさうだ。しからばそれだけ朝鮮人の經濟は當然裕足となる筈であらうが、その反面に二百萬石の滿洲粟を輸入消費するのを見ては、朝鮮人の經濟が向上されたとは絶対にいへぬであらう。最近黃海線の終點なる載寧郡新院驛の滿洲粟の輸入高を見て左の如くである。

一月	一八〇噸	二月	二七〇噸
三月	三三〇噸	四月	五七〇噸
計	一、三五〇噸		十五萬一千二百五十噸

上記に依れば交通もさ程便利でなく人口もさ程稠密でない一地方に於て(前記滿洲粟の消化される地域は載寧郡の南部及海州郡の一部である)四箇月間に輸入數量が千三百五十噸で、その價格約十五萬一千二百五十圓に達してゐる。これは即ち我々朝鮮人の經濟的破滅が日に迫つて來てゐるのを表示してゐるのである。

あゝ我々朝鮮人の手で生産する米を外國に輸出し、その代りに粗末な滿洲粟を常食としなければならぬ運命の下にあるとは、それ何たる矛盾であるか？それのみならず携老負兒住み慣れた自國の山川を離れ、南北滿洲に向つて流離する憐れな同胞がその數幾程になるのか？我々朝鮮人としてこの現象を見る誰か血涙を禁し得るであらうか……(中略)。我々をして尙ほ恐怖心を抱かせるところは今年の奇怪な氣候である。綠陰の濃厚なる五月に白雪が降つて凍死者を出したこともあり、又一方では全國的に麥の凶作を傳へるのみならず、關西地方には稈の插種も出来なかつたところが多いやうである。又今年の農作も絶対に樂觀し得られない。若し今年も復凶年になるなら滿洲粟輸入の増加は更に一層大なる數字を示すであらう。

### チ 食糧輸出入と生活難 (昭和二年東亞日報社説)

昨年の新米出廻期即ち十一月より今年三月末に至るまで、五箇月間の朝鮮米輸移出及所謂代用食糧品

である外米及粟の輸入の状況はすでに報道したところであるが、今本論に關係ある主要なる數字を摘記すれば。

- 一、朝鮮米輸出量
  - 五箇月間累計 本年 三百七十九萬八千八百五石 前年 三百三十一萬四千七百八十九石
  - 前年に比し四十八萬四千十六石増
- 二、外米輸入量
  - 五箇月間累計 本年 十九萬二千九百九十八石 前年 二十三萬六千三百二十七石
  - 前年に比し六萬三千三百三十九石減
- 三、粟輸入量
  - 本年 百七萬三千十三石 前年 八十七萬七百四十一石
- 四、外米及粟輸入の總量
  - 五箇月間累計 本年 百二十四萬三千三百一十一石 前年 百一十七萬七千七百七十七石
  - 前年に比し十三萬六千二百三十四石増

五、朝鮮米移(輸)出増と外米及粟の移(輸)入増との比較

朝鮮米移出増 四十八萬四千十六石 外米及粟輸入増 十三萬六千二百三十四石  
 以上兩者の差 三十四萬七千七百八十二石

吾人はこの貿易表に現はれたこれ等の數字が我々に知らせる意味を穿鑿する必要を感するのである。

上記の數字中に吾人の注意を惹起するのは。

- (一) 朝鮮米輸出及粟の輸入は前年に比し増加された代りに外米の輸入は前年に比し減少されたこと、
- (二) 朝鮮米輸出の増加量(前年に比し)が所謂代用食糧品である粟の輸入の増加量(前年に比し)より多くなつたこと、である。

前年に比しかくの如き差異がある原因は何んであるかといひば、或者は曰く、土地改良及未墾地開拓によりて朝鮮米の實收高が昨年に比し増加されたのは朝鮮米輸出増加の原因であり、外米の關稅免除に對する總督府の態度が曖昧なりし爲、外米輸入商側が輸入を躊躇したのが外米輸入減少の原因なりといふてゐる。勿論これも全然虚言ではないがしか、しその原因はこれのみではないから、これを一々穿鑿するのが本題の目的である。

朝鮮米輸出増加の原因を探れば、土地改良や未墾地の開拓も一の原因ではあるが、それよりも尙土

地兼併がその大なる原因の一である。朝鮮内に於ける日本人の大會社及日本人豪農の所有地が多くなれば多くなるほど輸出米の増加されることは勿論であるが、同一なる朝鮮人間に於ても土地兼併の結果で一個人所有の土地が多くなれば多くなるほど輸出米の増加されることは贅言を俟たざることである。

更にいへば、朝鮮米の輸出増加は日本人の大會社及豪農の所有地が増加されることを表示するのである。次に朝鮮人の生活難の深刻化が一には朝鮮米輸出増加の原因となり、同時に一方外米輸入の減少、粟輸入増加の原因となるのである。何故かといひば朝鮮人が其の生産米を輸出するのは決して朝鮮人が適宜に消費すべきものを消費した残りではない。唯その生計が困難なる故に食ふべきものを食はずに賣るものである。これを換言すれば朝鮮米と外米及粟との間には値差(價格の差)があるから、この値差を得て食以外の生計即ち衣服、住居、負債、税金の途に補充する爲に自家生産の朝鮮米を賣り拂つて外米或は粟を買入れるのである。然るに朝鮮米と粟との間の値差は朝鮮米と外米との間の値差よりも多い故に、生活難の程度が大きくなれば大きくなるほど、朝鮮米を賣り拂つて値差の多い粟を買入れる人が値差の少い外米を買入るゝ人よりも多いのである。故に朝鮮米の輸出高が増加される一方に外米の輸入は減少されながら粟の輸入のみが増加される事實は、朝鮮人の生活難の程度がだんだん深刻化することとを二重三重に實證するのである。

惟ふに、朝鮮米の輸出増加の原因は決して土地改良及未墾地開拓に依る實收高の増加なりとの一事のみでなく、その中には土地兼併と朝鮮人生活の悲惨化といふ二大原因が含まれてゐる。又外米輸入の減少と粟輸入増加の原因は決して外米關稅免除に對する當局の態度曖昧といふ一時的の原因のみでなく、その中には朝鮮人の生活難の深刻化といふ恒久的の原因が潜伏してゐる。次に朝鮮米輸出の比前増加量が外米及粟の輸入の比前増加量より殊に多いのは、何よりも朝鮮人生活の悲惨化を實證するものである。この事實を根據として結論すれば、我々はすでに外米輸入と粟輸入の共増時代を經過して外米輸入減少、粟輸入増加の時代に到達してゐる。この際若も朝鮮人の經濟生活に對し一種の劃時期の大轉換がなければ、終末には粟の輸入も減少されて粟よりも尙一層低價なる馬鈴薯のやうなものが朝鮮人の代用食糧品として輸入される外は他に途がなからう。

押

### 學びの同志に

(聖民學報創刊號一九二六年閏島子街)

同志よ。

勉強する同志よ。吾人は朝鮮人ではないか、プロ階級に屬する朝鮮人ではないか。しかし食はふが食ふまいが吾人は學校には行かなければならぬ。學校と云ふものは吾人を教へて生の途を與ふ所である。そうだ、總ての人間等は母親の乳を離れるか離れぬかで學校に通ひ、順序を踏むで大學迄も卒業する。吾

人も其の様にして見やう。他人と同じ様に。吾人は多大の物質をのみ消費するので、校門を出ると失業の道を踏む日である。そして家庭は破産宣告を受けるのである。其の影響は會社にまで及ばし、生の途を求めて反つて多數の生命を失ふではないか。假令吾人は凡有苦楚をなめ、決心を重ねて優良の成績で卒業したとするも、社會に出て着手する事業は何か。亦就職の方面は何處か。淋しい天地に迷ふて不幸に泣くのみである。二十萬兄弟の現状を見るに、學むだ所を少し應用する所は、奴顏婢膝のやうな醜態を演じつゝ、官僚階級に阿附するか「ブルジョアジ」の雇傭となり痛嘆の生活をなすのみである。之も容易の問題でない。官僚階級やブルジョアジ等が奴婢とするには、それを擇ぶ方法が猛烈で全く柔順で無抵抗で役に適應するだけの知識技能がなければならぬ。彼等の奴隷たる資格も六ツケ敷い。昔のものはそれに落第すると祖先を呪呪し運命を恨むが、如何に祖先の靈が助けても運命の神が救ふても學士博士の榮譽の笠を頭に冠つても現下の朝鮮人としては方法がない。如何に低級官吏の薄俸求職も廉賃の苦力も吾人には席がないのである。

近年全鮮を通じて求職難に陥る兄弟の慘酷なる現状を見て一、二の例を挙げると、〇〇郡廳の書記三人の補缺に應試者五十餘人。〇〇警察署の巡查五人増員に應募者九十餘人。其の他紡織會社、工場等の役員採用にまでも恒常こんな報道が紙上に發表せられて居る。之で見ても朝鮮人の求職難、生活難が如何程なるかが能く知れる。そして亦吾人の學むだ學識技能が環境上總て無用の長物であることを明確にする

のである。吾朝鮮人のみでなく全世界の有産無産の二階級が皆同一の現状である。であるから人間の呪咀は益々甚だしくなり、現制度の内幕を打ち壊して新經濟になさむと云ふ宣言、攻撃、絶叫の聲は世界を沸騰させて居る。

見よ、革命の赤旗は全世界を包圍し、戰時的濃厚な氣分で階級闘争の新陣容は、漸次整頓し、且つ最後の必勝を期して進むのである。小作争議、同盟罷工、反宗教、反帝國主義等限なき世界の現状はどれも「マルクシズム」の共鳴でないものはない。

見よ、地主が作人を奴隷とし、資本家が労働者を奴隷とし、宗教家、帝國主義者等が協力して弱小民族を奴隷となす。強盜の世界は己に内部的總破裂となり、其の骸骨のみ残つて居るのである。

凡有搾取侵略殺戮の慘酷なる血塊が舊殻を骨脱して眞の生命に新衣装をつけ、笑の世界の來る時期は到來した。局面は轉換した。人間は多忙となつた。破壊と建設、革命と改造、これ一つ吾人の手によつてならぬものはない。片手に破壊の鎚を提げ、片手に建設の記録を持つて、革命の甲冑を脱ぎ改造の完成を報せなくてはならぬ。

吾人は其の立場と環境と任務がこうであるから、吾人の學藝の現收穫が此に順應するに足るか否、吾人の所學は既に資本主義帝國主義の忠僕たるに適當せると同時に、現代の舞臺に革命を背景とせる活知識でない。換言すれば奴隷學問の過去制度と腐敗の材料から芽を出した葎のやうな虚榮のみである。

同志よ、

學友よ諸君が此のやうな立場にあることを理解するか、そして諸君の學意所得は舊制度の遺物であることを知れるか。

諸君よ、諸君の勉強した目的は那邊にあるか、將來郡書記、道巡察採用に應せやうとてか、會社工場の役員たむとするのか。唯學士、博士の空名を得て世人の崇拜を受けむとするか。貧窮なる諸君の家庭は傾きかけた草家内で、氣息奄々の父母と榮養不足で寒暑に苦しむ妻子が飢に泣く聲は其の裏面を表現するのではないか。諸君は此の様な環境で限死の勇氣を出して一生の志を立て、貧窮の惡魔と闘ひ最後の勝利で學意の收穫を見ることになるのである。此の様な犠牲の代價で得た所謂卒業證書と云ふものはどんなものか、實に最高のもので夜食も何も皆ここにあると想像した諸君は結局或る官僚輩やブルジョアに之を質入して、其の代りに身を賣つてパンを求むるのである。それで一生懸命になつて好評を賣るが然らざれば排斥を受くるの二途しかないのである。

諸君よ―諸君反旗を掲げよ、革命を起せよ、其の爲學べよ。

### 三 流 離 民

#### イ 間島移住同胞

a 間島移住同胞で大混雑なる沙里院 (昭和元年十二月十三日朝鮮日報)

驚く勿れ一日に百餘名

北にくと極放さるゝ白衣群

去る十日午後二時、黃海道信川より沙里院に向つて走る朝鮮鐵道輕便列車の中には懐しい故國、情深い故郷の山川に涙を以て告别し、遠く、朔風寒雪の甚しい北間島の荒野に向つて男負女戴漂浪の路を踏む憐れな白衣の同胞が百餘名も乗つてゐた。それ等は總べて黃海道長淵の人々であつた。中には五十以上の老人もあり、不公平なるこの世を呪咀するやうに泣きつゝある赤坊もあつた。情なき生活の壓迫の爲に如何にしても故郷に於ては活きられない爲に、北間島に先に移住した知友や或は親戚等より「北間島は勤勞さへすれば胡米(これは滿洲粟を云ふのである)の飯でも食つて活きられる」とのことを聞いて行くべき所もなく旅立つたと云つてゐる。それ等の旅装は甚だ簡單である。毎日百餘名づゝ移住するのは實に驚くべき現象である。これが爲に沙里院驛が大混雑となつてゐると。(沙里院發信)

b 間島移住益激増 (昭和二年三月十五日朝鮮日報)

往十里及清涼里驛にて四日間百六十名出發

春と共に農作期が迫つて來るのにも拘らず、涙や恨を以て住み慣れた故國の山川や沃土を離れ、活きる途を探つて、赤手空拳、男負女戴水士が異なる間島の寒帯に向つて行く移住同胞が絶へないことは連

日報道したが、去る十日夜十一時十六分往十里驛發北行列車で、楊州郡葛山面大興里金漢祚外十戸の家族五十名が出發したのを初めとし、十二日夜には同列車で出發した原州郡所草面壽若里權五敦及び權寧吉の家族二十名の一團があり、尙十三日朝にも同驛から七十八名の一團が出發した。又清涼里驛では十一日から十四日までに出發した者が八十五名もあつたので、往十里及清涼里の兩驛から間島に向つて出發した同胞が四日間に百六十三名である。彼等の移住する事情を聞くに、彼等は悉く各自の故郷に於て自作農を營むものであつたが、經濟の破滅から小作人となつてその日々を僅に連命してゐたが、それも最近に至つては持續し得る方策がないので已むを得ず、最後の決心を以て間島にでも往けば活きる途がありやせんかと思ひ、殘餘の家具等を賣却し漂浪の旅に出發したといふてゐる。尙彼等の中には旅費がないので列車にも乗り得ず徒歩する人も少くないやうである。

間島に―間島に― (三月十六日東亞日報)

跡を追ふて間島に向ふ農村同胞

去る十二日慶北安東郡邑内自働車停留所の前には金泉行自働車を待つてゐる憐れな同胞六名があつた。それ等は同郡東後面羅所洞に住居せる者であるが、春の糧絶期に至り連命し得る途がないので間島に向つて出發するものであると云う。尙該部落にはこれから繼續して間島に移住せんとする貧農多くなると云うである。(安東)

滿目悽慘なる此の光景 (三月十七日朝鮮日報)

間島移住同胞今春より激増、慶州でのみ四百名出發した

春の天候がだん／＼暖くなるのに従つて農村では耕作の準備に多忙であるが、慶東線には滿洲に移住する同胞が日に激増するので列車は毎日滿員の大盛況を呈してゐる。本年になつて移住した同胞が慶州のみで最早約四百名に達してゐる。尙これからも日に増加するであらう。(慶州)

間島に往く同胞 (同上)

生活難で流離される我々同胞が暖い春になり情深い故郷を離れ、間島に往くものが日に増加しつつあることは連日報道したが、金剛電鐵線の金化驛で乗車する数は毎日五六十名に達すると。(金化)

### □ 窮民の行く所

(昭和元年十二月十三日東亞日報社説)

#### 移民の滑稽

我々は曾つて楊平窮民の往十里、清涼里兩驛にて出發する憐れなる情況を報道した。又十一月内に元山經由で北間島に向つた移民が九百四十七戸、二千八百餘人であつたことを知つてゐる。この数字は只京元線を通過せる移民の数のみを表示したのである。

又釜山を通じ日本に向はんとして當局の阻止に會つた者萬餘に達したと云つてゐる。又新義州や會寧



から鴨綠江、豆滿江を渡つて行く移民が幾何であつたか、これは未だ知れてないが、この方面から滿洲に移住した者の数が、釜山經由で日本に向はんとする移民より多数なることは推測し易いことである。故に今年内に少くとも三萬以上は朝鮮内に於て生途を失ひ日本内地や滿洲に移住せねばならぬ破目に陥つたものと見るのが當然であらう。しかし滿洲移民は二、三月まで繼續するのが毎年の例であつて、この冬の内にどれ程移住するであらうかは不明である。

我々は又一つの事實を知る。それは在監者が一萬五千に達することである。その中二千の政治犯を除き、一萬三千人中その大多数は詐欺、横領、窃盜、強盜等の生活難が原因たる犯罪である。その外にも或は税金滞納で或は私債辨償不能で、強制執行に當る者も莫大なる數に達するであらう。これも凡て生活難より生ずる悲劇である。

しかし朝夕の炊事すら出来得ざるにしても、窃盜も強盜も詐欺横領もせざる者が、それをする者より尙多数なることは勿論である。それ等は百萬と云はるゝ專業労働者にもなり得ず、僅かに糊を口にする極貧小作農にもなり得ざる者等である。小作をせんとするも小作し得べき土地なく、労働をせんとするも労働し得べき仕事を得られない者等である。これ等は如何にして命を繋ぐのであらうか。或は親戚に附屬して、或は一升／＼の食糧を借りて食つてゐる。それも出来得られない者は餓死するか凍死する外は途がない。近日傳ふる各地の頻々たる凍死はこのあたりの消息を窺はしめるものであらう。

昔には懶惰と浪費が貧窮の原因であつた。そのときには貧しい者は社會的犯罪者と云はれるべきものであつた。それは耕作する土地を有しても耕作せず、勞役し得べき仕事を有しても勞役せざるのであるからだ。貧窮者自身の罪と云ふのが當然なことであつた。しかし今日の朝鮮人の貧窮は或は中に懶惰や浪費の結果に因る者もあらうが、それは既往の謂ゆる上流階級の餘裔等である。その數も極く少ないであらう。窮民の多数は勤勉より以上の勤勉をする小作人や労働者等である。これ如何なるアイロニーであらうか。

當局は或は産業第一主義を高唱し、或は産米増殖を計畫し、或は交通機關を完備すると云はれてゐるが、朝鮮内の朝鮮人中より毎年數萬の労働者が産業を失ひ、産米増殖する農庄を失つて、海外に流出せねばならない原因が何れにあらうか。監獄の犯罪者となり、乞食者となり、凍死者とならねばならない原因が何れにあらうか。

今年中に於て日本人の朝鮮に移住した總數が三萬と云ふてゐる。又東拓の明年度移民募集が「好成绩」と言つてゐる。又今までは日本の大資本家のみ朝鮮の土地經營に注目するのであつたが、今後は中産階級が多く注目するやうになつたと言つてゐる。尙ほ又今回不二農場に於ても二年間の計畫にて二百戸を移民すると云つてゐる。これを見れば日本人の朝鮮移住は益々激増するであらう。

我々は日本人朝鮮移住の可否を述べやうとするのではない。只朝鮮人の生業を脅威しながら又更に日

本より移民を輸入するのが正常であらうか。又は朝鮮人を粟飯を食ふ滿洲に移し、日本人を米飯食ふ朝鮮に移すのが正常なることであらうか。これを當局者に質さんとするのみである。斯の如く朝鮮人を朝鮮より放逐し、その跡に日本人を移植するのが必ずしも當局の意思であらざることを認めんとするも、かくの如き不幸なる結果を坐視する當局を責めねばならぬ。我々は當局が朝鮮人の流離に對し如何なる對策をとるかを見やうとするのである。

### ハ 放逐さるゝ民衆の悲慘相 (昭和二年三月二十四日中外日報)

奉天行列車は移民で大満員 毎日二百餘名宛新義州通過

二重三重の壓迫や各方面から迫る生活苦のために、朝鮮から放逐される同胞等は故國の山川を棄て、生の途を探しに荒茫たる南北滿洲の曠野に向つて往く。男負女戴して國境を渡る同胞は、毎日々々八九十名に達してゐるが、最近に至り格別激増して、晝も夜も釜山發奉天行列車は立錐の餘地もない程の満員で、近來稀に見る現象である。本月初から安東縣驛を通過した數は驚く程で、毎日二百餘名に達するさうだ。内地の現象はこれを以て見ても推想し得べきことであると、在滿の同胞は非常に憂慮してゐるさうだ。(安東縣)

### 放逐さる生活苦

去る二十日京城驛を通過して、北に遠く山水異なる西北間島に向つて行く白衣族の三戸家族十五名があつた。それ等は江原道春川郡南山面芳谷洞の農民であるが、その語るのを聞けば、如何程働いても活きる途がない。又小供等を勉強させることも出来ない。學校費を徴収するにも拘らず學校では尙生徒から月謝金とか奨勵費とかを徴収してゐる。若もこれを納めなければ一ヶ月に何回も生徒に授業せぬことがある。のみならず竟には月謝金を納めぬとて家財を差押へることゝなるのである。彼等はそんな僅かな金銭を納めないのは父兄等の誠心がないからであるといつてゐるが、これは實に我々の實情を知得せずして語るのである。我々は一日一食をすることも出来なく、瀕死に陥つて居るので耻と知りながら已むを得ず納めぬのである。この様な有様で小供に勉強させることも出来ず、それで總てのことをあきらめて唯餓死を免るゝ途がありやせんかと思つて間島に向つて往くのである。我々の目的地とするところは鳳凰城であるが、果して該地に落ち着くやうになるかどうかは知られない。とて李載九氏は悲涙をこぼしながら溜息してゐた。

ちなみにこの一行は二十日の夕飯を市内太平通三通旅館で食へ、その夜十時五十五分京城驛發列車で涙や恨みを懷いて北に向つた。一行中には六十九歳の老人もあつた。

### ニ 糧域を離れる窮民 (昭和二年四月十六日東亞日報)

◆三個月間に三百餘◆

江原道春川では、凄しい顔色で恨みを懐き涙を流して住み慣れた故郷を離れ、限りなき漂浪の旅に出発した同胞が舊曆正月より三月までの間に百五十餘戸、六百六十一人であるが、その詳細なる統計を見れば、一月に十五戸五十人、二月に三十二戸百七十三人、三月に百三戸四百三十八人である。かくの如く西北間島に移住する同胞は毎月増加される傾向であると。(春川)

◆孟山では二十八人◆

去る十二日威南高原驛待合室の一隅に北行列車を待つてゐる、農民男女二十八名の憐れな同胞があつた。それ等は平南孟山郡玉泉面松寺里の小作農民であるが、本年は従前より小作して来た小作權を剝奪されたので、活くる途を探すが爲に高嶺を超へ、大江を渡り、異域の間島に流離することになつたといつてゐた。(高原)

◆海州農民九名安州通過北行◆

黄海道海州郡朝雲面の山間に於て、火田の耕作で僅に生命を維持して来た、朴京七及金殷泰の兩家族九名は三年前より施行された火田禁止令に依り、突然に生途を奪はれてから如何にしても連命し得る途がないので、已むを得ず情深い故郷を棄て、一定の行先もなく流離の旅に出發し、徒歩にて安州驛に至

り、東亞日報安州支局長の紹介を以て間島興京縣に向つた。(安州)

◆間島に往つた同胞金川で百五十戸◆

黄海道金川郡では本年二、三の雨月間に尊敬する祖國と先祖の墳墓を棄て、間島に向つた同胞が百五十餘戸に達してゐるが、それ等は全部生活難に因り男負女戴出發したものであると。(金川)

短評 (四月十八日東亞日報)

△元山を經過した流離同胞が去る三月の一箇月間に、二萬人以上に達したと……主人を失つた羊の如く……。

ホ 離 れ る な ! (昭和二年五月三日朝鮮日報)

同胞よ！母の温い乳のやうな三千里江山を離れて、荒蕪な間島の曠野に放逐される白衣族の悲哀！華麗な江山を棄て國境を越ねばならぬその原因を默想しよう！自分のものを奪はれて乞食をする我々程悲惨なものが、この世上の何處に又とあるであらうか？誰の失策で我々はこんなはめに陥つてゐるのか。幼い私の胸中には一大渦卷の痛憤が充滿してゐる。

我々は如何にすれば好いのであらうか。最近本紙上にも毎日絶えず元山を通過して北に、往く同胞が八九百名に達するとの記事があつた。あゝ我々はこの痛憤を如何にして忍ぶてあらうか？同胞よ！

あー嬉しい春と暖い春は華麗な三千里極域に訪れて来たが、この江山のマスターである白衣人等はこのシーズンを歡喜することも出来ず大不幸に遭つてゐる。行樂の春であるけれども我々は男負女戴、悲しい涙を流しながら間島の曠野に驅逐される慘境に陥つてゐる。だから世人には嬉しい春たらうが、我々には悲しい春である。

あー悲しいー悲哀の極度に達した吾人の胸中には反抗心か沸騰するのみである。同胞よー彼等の恐しい移來の結果を覺悟した兄弟の心は恐怖であるか戦慄であるか？否であらう。正義の解る同胞にどうして恐怖や戦慄があるであらうか？「自由を與れー然らざれば死を與へよ」といふ、佛國革命時代の標語を我々は崇拜しよう！さうして餓死するにしても離れず争闘して見ようー我々の家であるこの江山を離れずに最終まで闘争しよう！（兼二浦M生）

### （渡航證の販賣）

（昭和二年五月十七日東亞日報）

濟州島は朝鮮に於ける第一の大島である、面積が百三十万平方里で人口は二十三萬である。しかし海陸物産が豊富でないから人民が貧窮であるのみならず、日常生活を維持する途がないので日本各地に往つて労働をしてゐる。

これを顧みず濟州島當局者は、去る四月二十六日に「濟州島日本渡航者組合」なるものを組織して島廳

に本部を置き、各面事務所を支部、日本大阪に出張所を設置した。しかして該組合の規則を見れば、組合員の一致協力で各自の生活向上と共同利益を圖り相互の親睦を以て目的としてゐる。然れどもその實は最初から自分等（當局者）の私腹を充たさんとして、官吏といふ假面を被り專横を擅にし人人を壓するといはざるを得ないものである。

どうしてかといへば、四月一日より渡航する労働者に「渡航證」一枚を一圓づつで販賣するのを見ても知るべきである。見よー渡航する労働者が毎月平均一千餘名であるから、これに對する金額も一千餘圓である。あー一年ならば一萬二千餘圓に達するのではないかー毎年かかる金額を隠然奪取するのは不當といはざるを得ない。何故かといへば何れの人を問はず労働をしたくつて渡航するのではない。食べるものも着るものもないので已むを得ず、父母妻子を伴つて涙や恨みをのんで住み慣れた故郷を離れて往く憐れな労働者ではないかー當局者よー深く考慮して反省せよー愛情を以て人民を赤子の如く愛しながら指導するのが當局者の責任であり義務ではないか？一日も速かに「濟州島日本渡航者組合」を廢止し、渡航證の販賣を撤廢せよ。

### ト 渡 日 者

◇渡日胞同四百名（昭和二年二月二十三日東亞日報）

本年一月の中木浦港より日本に渡航した労働者は約四百名に達した、その行先地は大阪及東京兵庫等であるさうだ。(木浦發信)

◇年々増加する釜山移住日人 (二月二十四日東亞日報)

釜山に於ける日本人居住率は全朝鮮に於て第一位を占めてゐる。當局の發表する所に依れば、大正五年度の在留日本人は二萬八千九百九十九名であつたが、同十年度には三萬三千九百七十九名に、同十四年度には三萬九千七百五十六名に、同十五年度には四萬八千三百三十三名に達してゐる。釜山にはかくの如く日本人の移住が年々増加されつゝある。(釜山發信)

子 行 く 者 よ !

(昭和二年六月七日付東亞日報)

京元線北行列車に乗ると男負女戴、扶老携幼、愁心に満ちた顔つき、何の氣力もない風をした人等を多數見ることが出来る。彼等はいま出て行く人等である、あゝ追はれて行く人等である。朝鮮無産同胞等である。食べる物がなく着る物がなく、住む所がなくて「故國よ健在なれ」との一言で以て天が落ちる程溜息を吐きつゝ涙を流しつゝ祖先遺來の山川を離れて、遠く彼の方にと定所なしに行く者等である。

行く人よーあゝあなたが行く末は何處ぞ？問島であるのか、滿洲であるのか？五尺短身を置き所がなくして生命が怨讎されて行く、そなた等でも、それ等の來るのを迎へて下される人は誰であり、親切にし

て來れる人は誰であるのか？連日行く人は一名二名ではない百名に近い大衆、如何に問島、滿洲の地廣く人少くして住み良いと言ふけれども、皆小作耕地でも借りて糊口だけであらうとも、連続して行くかは疑問であり、同時に彼等の前程には憂慮に堪へないものがある。歐洲人とか大和族等が南米か北米或は亞弗利加に移住する者があるが、是は殖民開拓事業をしやうとする處の移住であり、黄金窟である自由樂園を尋ねる所の移住である。それで政府の後援があるのである。しかし白衣の彼等は殖民開拓地を尋ねて行く移住でもなければ、黄金窟の自由樂園を探して行く移住でもないのである。唯如何にすれば生くことが出来るであらうか、死ぬるよりは良からうと考へての末、幾坪かの家屋、さなくば單間草屋を賣り拂つて僅かの旅費を作り、花の如き幼年、命在朝夕の老人を連れて行く。其の姿恰も水上に浮ぶ浮萍草の姿であり、風吹く日大空に高く浮ぶ小島の如くである。彼等は何處を問はず生きて行く所であれば南國の椰子樹の木蔭であらうとも、北國氷山其の中であらうとも、かまはず行く人等である。それで何日又此の地を踏むことが出来るか出来ないかの人等である。

沃野、滄海、嶺山、森林凡へは皆錦繡江山に無盡蔵である。それは白衣人をして皆能く生くる様に具備してある。天然の設備である我等の物を我等が利用することを知らなかつたのであり、又今日其れを利用することの出来ない處地に居るのであつて、斯く「飯袋」を携へて遠く行く様になつた。其の身勢如何にすれば良いのか？何を以て慰勞の言葉が言はれやうか？唯皆泣くのみ、行く者も涙、送る者も涙の

みである。

さらば祖國を後に置いて行く靈魂等へ若天もどうして無心で居られやうか？大和民族は逐年玄海灘を渡つて來鮮し、白衣人は逐年豆滿江を渡つて行くのが今日の朝鮮の現狀である。しかし行く者等よ！あ追はれて行く者等よ！落望するなかれ人生なれば生命があり、生命があれば前途があるのだ。最後にどうか一路の平安を祈り、有子生女に花の如き家庭を祈るのみである。(鄭益鎮)

#### 四 受 難 群

##### イ 弱き者よ汝の名は白衣族

(朝鮮日報大正十五年七月二十三日)

愁雲に閉された回龍峯一帯は啾々たる

鬼哭は未だに新なり

嗚呼弱き者よ汝の名は白衣族なり

逆境の同胞を尋ねて

邊境巡回踏査記一四 (下汝坪にて 金 松 園 發)

慶典から下つて下汝坪に着いた。下汝坪の豆滿江岸を散歩して見ると對岸に一帶の沃野が見へ數百戸の人家がある。何と云ふ所かと問ふたら回龍峯と云ふた。

回龍峯―回龍峯―慘憺たる歴史を持つて居る所である。前年〇〇〇〇が間島の天地を蹂躪した時に此の村は砲彈血雨に包圍せられ此の村で一番有名であつた、青年七、八名を玉石俱焚に何の罪もないのに殺害し、又此の村の附近でも何の罪もない農民等を多數に殺害するの大慘劇があつたのである。

當時間島一帯にこむな慘劇が何處とて無かつた事はないが、此の附近では回龍峯が一番甚しくつて、その村は勿論間島一帯と回龍峯を望見して當時の慘憺たる光景を追憶すれば身の毛も竦立つと云ふ事である。

鋭い刃尖に殺害せられた彼等の怨魂は言ふに及ばず、彼等の遺族等は天を呼んで痛哭して晝夜泣いて居つたが、今は此の村を去つて何處へ行つて何うして居るか判らない。が、彼等の胸に深く打込まれた怨恨の釘は何時が來たとて抜かれやうか。あゝ余は未だに愁雲に閉されて居る回龍峯を眺め、空中から愁々たる彼等の怨恨に對して、萬斛の弔涙を禁する事が出来ない。その時無心の鳥は江上を徘徊して悲懷を増さしめるのみであつた。

今も此の回龍峯では老少の別無く〇〇人の影さへ見ても、身振りして戰慄するそうであるから、當時如何に魄は飛び魂は散つたかが想像される。

「あゝ弱き者よ―汝の名は白衣の族である」余は此の様な絶叫の外に他の考が出ないのである。

**押**

支那輯安縣の慘事

(朝鮮日報昭和二年五月十四日)

支那輯安縣で流した二百人餘りの白衣民族の碧血。残忍にして馬鹿、暴虐雙無き支那官憲等が何の罪も無い朝鮮人を掴へて神も知らぬ間に殺す。嗚呼神人共に怒る此の慘事。

奉天省輯安縣には我が朝鮮人は澤山居住して居ると同時に、韓國〇〇黨も其處に根據を置いて居るが、彼等は少しも中國官憲に對して不快な行動を爲したる事無く、秋毫たりとも中國人の財産を強奪したり中國の國權を侵害した事はないのは勿論であるが、當地の中國官吏及軍人等は暗々裡に世人に知れない様にして罪もない朝鮮青年を澤山に殺害し、昨年から今日迄に殺された者が二百餘名に達して居る。之が爲に居住朝鮮農民は暫時も安心が出来ないのである。

殊に中國官兵は前記の如く、朝鮮青年を殺してから其の骸骨を砕いたり、腹を立割つたり、睾丸を引出したりして路傍に抛り捨てる等、敢て人間としては出来ない世界に稀なる慘虐なる行動をやつて居るので、韓國〇〇黨では中國官吏官兵に對し聲討文を發送すると同時に之に對する對策を講究中である。

斬首、碎骨、割腹

殺してからも其の儘には置かず二度も三度もやつつけ、又屍體を葬らずに鳥鵲の餌食とする等、至らざる所なき残忍なる暴虐

別項の通中國官兵の朝鮮人殺害事件あり、その爲に韓國〇〇黨で發表した聲討文の内容は全部發表の自由は無いが其の大綱を記録すると次の通りである。

中國官吏及軍兵は輯安縣にある日本領事館と内通し、當地の朝鮮青年を濫りに捕縛殺害し、更に其の屍體の骸骨を碎き頭を切り取り腹を立ち割り腸を引出して大路に放置する等あらゆる慘酷なる行動を敢行して居るが、彼等が朝鮮人を殺して其の首を中國官憲に持つて往くと、之に對して夏靴二足の賞與あり。殊に山の谷に居住して居る朝鮮農民は髮を散髪した人はないが首を打取つて頭髮を刈つて持つて行くと四十圓の賞與金を受け、もし殺さずに其の儘連れ立てると二十圓の賞與を受けるのである。

昨年以來の犠牲者氏名

而して昨年春から今日迄に無道なる中國官憲に犠牲となつた朝鮮青年氏名及人数は大略左の如くである。

文成熙、崔熙官、朴志淑、金元詰、成道教、張泰弘、李昌允、金炳學、洪秀定、金相局、金錫弘、宋炳柱、方炳賢、李汝俊

以上は首を切つて官憲に持つて行かれた者。

高永信、金起河、黃永迪、(中略)

外八十名

以上は官憲へ連れて行つて殺された者。

車昌彬、承昌國、(中略)

外七十餘名

以上は中國人に殺された人。

密偵輩の姓名

別項中國官兵が朝鮮人を殺す時に當地の日本領事館の密偵として、中國軍兵と結托して朝鮮人を殺した朝鮮人密偵は數十名にも達するが、其の中で優秀な奴を擧げて見ると左の通である。

金海雲、康天九、宋益淳、崔龍浩、朴春根、尹昌龍、朱得勝、李永世、金丙吉、金〇〇、吳徳成、金長成、趙海龍、黃〇〇、外數十人。

### 五都市の相

押

イ 残忍なる社會相

(東亞日報大正十四年七月二十七日附)

京城本町署では平時毎日盜難が數十件あるが、十八日から二十日まで二十七件に過ぎない。一日四件で六割減である。今其の原因を調査したところ水災で罹災民を收容する處が出来たので其處で食物を買らつて食ふことが出来るからである。

元來盜賊なるものは財産制度が無いと出ない罪惡である。故に泥棒なる罪人を産出し、それを收容す

る監獄が必要なるのは私有財産制度があるが爲めであると云つて、或者は私有財産制度其のものを敵視して、盜賊の罪を泥棒に歸せずして全部を制度に歸せやうとする人も無いでもない。

然し私有財産制度が人類に採用せられた爲めに、人類が受けた損害と私有財産制度の爲めに盜賊が出る損害との對比と長短問題に至つては大に考へなければならぬ問題である。

さて人類の歴史は發達の過程にあるのである。其の過程に隨つて、其の階段々々に特色があるものであるであつて生産技能と機械が發達するにつれて、或る時には共產制が宜い時もあり、或る社會には私有財産制度が適合することもある。故に共產制と私有制とは其の制度自體に絶對の價値があるのではない。其の時代其の社會に在る經濟的生產狀態が、或る制度を採用するに適合するか否かと問題であるのみである。故に假令盜賊が専ら食ふ物が得られずして盜賊を働くの丈けを見て、茲に私有財産制度を否認し、共產制度を主張するのは餘りに速断であると謂はざるを得ない。然し現下の朝鮮に於て罹災民を救ふ應急手段として、所謂握飯に食糧をかけて與ふる食物を以て満足して、泥棒を爲さない様になつた者が六割であると云ふことに對しては大に世人の注目を要する事實であると謂はざるを得ない。

此の事實だけからして推して見ても、現下の社會組織又は財産制度に破綻を生ずるに至ることは明言することが出来るのみならず、制度に對して新しい覺悟を喚起すべき處のものであると謂はざるを得ない。吾人は現下の財産制度に對して代用物を云謂する前に斯んな缺欠を有つて居る社會生活、政治生



活を其の儘に擁護しやうとするものに向つて呪咀と唾罵とを禁することが出来ぬ。

殊に此の現象が本町署にのみあることではないのであるから、朝鮮人の盜賊中握飯一つを求め得ずして已むを得ずして罪を犯し、兇行を敢行する輩が六割あることを目睹すると、怎うして其の儘現狀を認し安心の出来る世の中と思ふことが出来ようか。

専ら斯んな罪惡を長く持續しないで、新しい人間の歴史が速かに展開せむことを祈ると同時に社會一般の注意と爲政者の覺醒とを促かして置く。

### □ 華麗なる京城と天真人の血涙

(東亞日報大正十四年十月十五日)

今日の京城は經濟上にも文化上にも又は政治的にも朝鮮の中心であり、朝鮮第一の都市である。

當局者は朝鮮を外國に宣傳する際に京城を舉げて事實を證明して居る。教育上から見ても大學から普通學校迄の建物が現代式であり、教師が立派で學生が多く、大規模の總督府を始め幾百幾千萬圓の官公署、會社銀行等、雄大で華麗な建物が都市の美觀を添へるに充分であるのみならず、「東洋無比」の運轉場が新設せられ、京城驛が竣工し市區が整頓し、道路は少くとも現代式の道路が延長されて居る。殊に昨今の京城は繁華なる京城であると同時に奢侈の都の感がある。

### 二

然しながら華麗なる京城には一月から九月迄の嬰兒遺棄數が二十三件ある。それも北部即ち朝鮮人村の事件であつて、當局の調査に依るとその原因が大概生活難であると言はれて居る。

吾人は日露戦争後武功を立てたる凱旋將軍が東京へ來た時、歡迎の群衆中足元にある一片のパンを拾つて喰はうとして踏躓じられた事の記憶が聯想せられる。それは所謂忠君愛國は彼等に任して置くとして、自分には戰勝の意義が何かと言つた歎息を忘れる事が出来ない。

雄壯な官公署はしい娛樂場や、交通機關が血塊として遺棄された處の人生にどんな意義を持つてあらう。否な考へ直はすと斯くも華麗にして雄壯なる表面の京城に於て、昨今東奔西走する富豪及權力者及趨勢客の生活條件及生活の如何なる原因關係があるか。生物の本能であり、人生の最權威である親子の愛情を斷念して血塊の嬰兒を養ふ生活の料が無くて、垣や橋の下へ遺棄する父母の心中に雄大にして華麗なる京城が如何なる形態で反映するであらうか。

### 三

高樓巨閣で錦衣玉食を以て享樂を誇つて居る富豪よ、權力者よ、毎年同じ生活場裏で泣いて居る、天真の嬰兒の泣聲を聞いて居るかどうか。權勢に阿附する行世客等よ、同胞の悲痛が見えるかどうか。眞裸の嬰兒の泣聲と、京城の雄壯と華麗とが善か悪か人世なりや魔窟なりや。自動車、馬車に乗つて廻る朝鮮人

否、凡ての京城人よ、人間性のある動物等よ、權勢者よ、趨勢者よ、秋風が京城を吹く時に紅葉のみあるの感にばかり酔はずして、嚴冬が迫つて來て殺氣が冲天するの京城を見ることを知らなければならぬ。

同一の生活圏内に於て斯くも兩極端の喜悲があつては、どうして適當な人間生活が維持される事が出來やうか、吾人は自ら自覺する處がなければならぬ。又爲政當局の周到な用意を要するのである。

#### ハ ムロ住いの三千同胞 (穴居者)

『京城市内にはむろ住いが六百三十餘戸あるが、其の穴中で露命を繼ぐ同胞が既に三千の多數に達し益々増加の現象である。これは獨り京城のみでなく、全鮮を通じては實に無數である。人間生活上で衣食住以上の要件は無い。之等は此の三大要件を失ひし多數同胞の運命である。此れは制度の罪惡？自身の罪過？人間は誰れでも生きて食ひ、衣て住ふ天賦の權利を享有するのである、此の權利を奪はれたるは彼等の罪過であるか？奪ひし制度の罪惡か？』

『噫、此れも彼等に對し迂遠の理論である。已に饑寒と疾病は彼等の生命を奪ひ去らんとするのである。彼等には唯だ衣食住が即刻に必要なのみである。噫、之を將來何んとするか？』

### 六 農村の現状

#### イ 慘憺たる金堤農村 (昭和二年二月二十三日東亞日報)

金堤郡では去る二十日午前十時から同郡廳會議室に於て、面長會議を開き、新任郡守李基枋氏司會の下に各面長の管内状況報告があつたさうだ。その報告の内容を聞くと、窮農の生活状況は實に慘憺であるとのことである。左に各面長の報告を略記する。

○竹山面長 當面の總耕地面積は二千四百餘町歩に達するのであるが、日本人の所有が八割で、朝鮮人の所有は二割に過ぎない。農家戸数は一千五百五十餘戸であるが、自作農は四戸に過ぎない。その餘は全部小作農であるから、これ等の生活状況は實に慘憺である。尙ほ昨年の小作料は高率であつたので、最早絶糧の状態にある農家が甚だ多いのであると。

○白山面長 當面の耕地面積は林野面積より少い關係上、貧困者等は林野の所産である松枝及薪草等を販賣して、僅に生活を保持する状態であると。

○龍池面長 當面は水旱災が例年あるので、窮民が多いのみならず、金坪里は七八十戸に達する部落であるが、日本人数名がその家屋を殆んど全部所有し、家賃は勞力を以てすることにして、一ヶ月に、一日一人の工夫或は二人の工夫を出さしめて營農するのである。又棉花耕作は何等の利益がないとして、大いに反對する次第であると。

- 白鷗面長 住民の約八割五分は小作農であつて、小作料が五割乃至六割に達する爲に、それ等の大部分は小作料を納付すると同時に、食糧がなくなる状態であると。
- 扶梁面長 當面は東津平野にあるので、耕地面積は非常に廣大である。しかし日本人の所有が七割以上であつて、朝鮮人の所有は二割に過ぎない。であるから、小作農が大部分を占めてゐることは勿論である。
- 萬頃面長 懸案中である當地公立普通學校の移築問題がまだに解決されないので、非常に遺憾とする次第である。又一日一食もすることの出来ない窮農が四五割に達するのである。
- 孔徳面長 當面は郡内十七面のうちでも、極貧面であるのみならず、面内朝鮮人の所有地は二割五分に過ぎないので、一小作面なりと云はねばならぬところである。然るに教育機關としては、私塾なるものがあるけれども、維持する方法がないので、非常に遺憾とする次第である。
- 青蝦面長 當面に於ける公普校の學年延長の出来ないのが遺憾である。然し尙學熱は非常に高調されてゐるが、生活難で退學生が續出するので、これが問題である。
- 聖徳面長 當面の耕地面積の七割以上が、日本人の所有になつてゐるので、小作農が多数である。のみならず永田農場の所有地三十餘町歩は、その農場に於て直接經營するので、従前の小作人五十餘戸は、小作もすることが出来なくなつてゐると。

- 進風面長 耕地面積二千餘町歩中七割以上が、多木農場の所有であり。尙ほ小作料が餘りに高いので小作人は生活を保持し得られない状態であると。
- 金溝面長 全戸数の二割が農民であるから、貧民は少いやうであるが、だん／＼増加されつゝあるのは、貧民のみであると。
- 下離面長 農家戸数の九割以上が小作人であつて、その八割以上は最早食糧品が絶乏されてゐるので、實に面民の生活は慘憺であると。
- 雙頃面長 當面に於ける面民の生活状態も、他面の如く悽慘であると。
- 水流面長 當面は山間部落であつて、耕地の面積が少いのみならず、火田の耕作を禁止されてから、面民生活の困窮は口で言はれない悽慘であると。
- 草處面長 教育機關がないのも遺憾であるが、道路(院坪金堤線)を開通するに、月村面の樺富農場主任が、道路敷地寄附に絶対應ぜないので、非常に苦痛を感じてゐるのである。
- 金堤面長 表面から見れば非常に發展されてゐるやうであるが、實は商工業を問はず、外人等の經營するのが、殆んど全部であると。
- 月村面長 道路が險難であるから、交通が非常に不便であると。(以下略)

朝鮮人農村破滅 (昭和二年三月二十六日東亞日報)

慶尙北道農務課の調査に依れば、昨年末現在の道内農業者数は、専業が二十七萬三千六百六十二戸、兼業が六萬一千九百七十二戸で、この地主、小作、自作等別は、

地主 (甲)	一千三百六十八戸
同 (乙)	八千七百二十四戸
自作	六萬六千五百八十三戸
自作兼小作	十二萬九千七十四戸
純小作	十二萬二千九百十六戸
火田民	六百六十九戸
戸数	一、七七三、八〇一
朝鮮人	三三三、一三七
日本人	一、一〇九
中国人	八六
人口	五、一二四
	三四二

であるが、更に以上農業者の内外人別を見れば左の如くである。

其の他

合計

三三三、三三四

一、七七九、二七〇

これを前年度のそれに比較すれば、就中自作兼小作が減少した外は全部相當に増加されてゐるが、その増減に對する、内外人別の數字を表示してゐないので、詳細は知れないが、自作兼小作の減少と純小作の増加は、破滅されて行く朝鮮人農村の一證であり。地主及自作の増加は、日本人農村の現状である。(大邱)

ハ 農村民の離散に對して

(昭和二年三月二十九日時代日報)

此の問題に對して論評したことは、一、二回でないが、最近各地から、日本に渡航せうとて釜山に集る、農村労働者が數千人であるとの報道を聞いてから、幾日にもならぬに、又聞く處では、吉州、明川城津から雄基を越えて、露中領に向ふ者が、一箇月間三千人に達すると云ひ、亦慶尙、全羅、平安道から吉林、哈爾濱に向つて行くものも二月以來、既に數千人であると云ふ。一方、日本では勿論、浦鹽政廳でも、白化防止策として、移住の我人を拒絶する必要上取締規則を制定したとの噂があり、亦奉天では無理な感情から我人に退去を強制すとの傳説もある。

悲哉吾人の環境よ、内から驅逐せられ、外では拒絶を受けて、廣い天地に足を入れる所がないのであ

るから、此の現象が變らなかつたら、全滅の日も遠くあるまい。當局者に問ふが、君等が所謂産米増殖だの、農村振興だのと體のよい政策を宣傳して、朝鮮人の福利が如何にも増進するかのやうに、巧飾しながら、實際では農村民をして、此のやうに離散せしめ、そのみでなく、前後左右の進路まで遮断したのである。君等の良心に一毫の誅責を感じないのであるか。

亦朝鮮人の富豪に問ふが、君等の富は農村を離れて存在することは出来ぬ。換言すれば、小作人の膏血の結晶を以て、君等の奢侈の生活を裝飾したものである。それにも拘らず、小作人の末路が此のやうに悲惨に陥つても、尙少しも悔悟する所はないではないか。しかし吾人は當局者の良心に、哀訴するのでもなく、資本家の惠澤を懇願するのでもない。只天理人情に叛いた其の政治と心術は、所謂自分の手で、自分の墓穴を掘るものであると思つて、將來の變化を正視するのみである。

## 七 日本人農民

### ◎朝鮮の日本人農業 (昭和二年中外日報)

#### ◇耕地所有と移住状況 (一)

一はし が き

近日各地よりの報道に依れば、先祖傳來の土地を失ひ、北間島や滿洲に向つて、男負女戴放浪の旅に

出る白衣の農民が毎日數百を算することになつてゐる。我々は此の悲惨な状況を見聞するときにそれ等(更にいへば各自のことである)の運命を嘆息せざるを得ない。然し我々はたゞ嘆息のみを以て能事終れりとはいけない、然らば如何にすれば我々をして。この嘆息を止まするやうにするであらうか?、この嘆息は何の爲に生じたのであるか、その根本問題を考へねばならぬことである。しかし此の嘆息の原因は考ふべき餘地なく餘りに明白である。この嘆息をなくするやうにする途はたゞ考ふのみの方法では、到底解決し得られないことである。更にいへば我々の此の氣塞がる状況を救済するには如何なる方法を以ても、根本的解決ある迄は、どうすることも出来ないことである。しかしこの農事欄に於ては、かくの如き根本問題を論ずる必要はない。たゞかくの如き現状を招きたる原因にもなり、且つ對策を講究するに参考となるべき、一の事實のみを記録して、讀者の参考に供せんとするものである。

参考となるべき資料を言はんとすれば、これ又枚舉し難い程多數であるが、しかし茲に於ては、唯「朝鮮の日本人農業」といふ題目の下に、日本人が朝鮮經營を始たる以來、農業方面の活動のみを略記して見ようとするのである。第一所謂當局の農業政策なるものが、専ら日本人標準であることはいふまでもない、だから當局の政策的施設に對しては、後日更論する機会があらうから、民間の事實のみを簡単に紹介したい。

朝鮮が天惠的の農業國であることは、今更云ふ必要もないことであるが、日本人は韓國時代より、朝

鮮の農業に着眼するところあつて、東洋拓殖會社（政治的意味は茲で略す）を設立して、明治四十三年以來極力移民を奨励した。尙ほ一方では、自由移民も年を逐ふて増加されてゐる。彼等は大概氣候が暖く交通の便ある南道地方に、最も多く移住することになつた。今その日本人農業經營の狀況に對する最近の調査は、精密なるものがないので、よく知れないが、大正十一年末の調査に依れば、彼等の所有土地面積は番十三萬七千町歩、田七萬七千町歩、其他四萬町歩、合計二十五萬五千町歩であつて、朝鮮の耕地總面積四百五十七萬町歩に比すれば、約十八分の一に該當する驚くべき數字を示してゐる。しかし我々はこの數字に驚いてはいけない。それはこの數字が朝鮮内に於ける日本人の所有耕地の全部でないからだ。更にいへば前記二十五萬町歩は日本人個人の所有のみを示したのであつて、朝鮮土地占領の張本人であり魁首といはれる東拓や、殖銀の關係土地は、計上されていないからである。

然らば東拓や、殖銀關係の土地はどれ程になつてゐるか。これは所謂當局の報告書にも、特殊なるものであるとて省略し、その數字を秘密に付してゐる。我々はこの一の事實から見ても、彼等の所有がどれ程多いかを、推想し得ることである。茲に於ては先づ個人（民間）の所有のみを述べて見やうとするのである。

二 農場の分布

然らば二十五萬五千町歩の耕地を占めてゐる日本民間農業は地方的に如何に分布されてゐるのか

？、初めより彼等の移住者が氣候や交通の關係で、南方に先づ着手することになつてゐるが如く、彼等の所有土地も、南方に多くなつたのは當然なことである。参考に供するため日本人農事經營者の分布狀況を、列記すれば次の如くである。

（但これは大正十一年末の調査であり、三十町歩以上の經營者を表示したものである）

地名	面積	所有者	地名	面積	所有者
高陽	五〇〇	中村義治	東山	五〇〇	東山農場
同	同	勸農會社	同	同	同
利川	二四〇	高島仁左衛門	同	同	同
同	同	同	同	同	同
龍仁	五七九	大西文三郎	同	同	同
同	同	同	同	同	同
振成	三九	西村篤雄	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	野坂茂三郎	同	同	同
同	同	徳川頼倫	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	振成興業會社	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	日良	同	同	同
同	同	三井合名會社	同	同	同
同	同	弘益殖産會社	同	同	同
同	同	服部和郎	同	同	同
同	同	久保田政一	同	同	同
同	同	飯田廣助	同	同	同

大田	朝鮮興業會社	禮山	小寺謙吉
同	日海興業會社	瑞山	小寺壯吉
同	不二興業會社	同	伊藤武衛
同	國武農場	唐津	朝鮮興業會社
同	小林港	同	尾崎博基
同	荒幹治卷	牙山	古賀廉造
同	小林長兵衛	同	原勝一
同	口高利一	井邑、金、堤	折富安右衛門
同	稻原合名會社	高敞、沃溝	川崎厚太郎
同	赤星錢馬	沃溝、益山	大倉喜八郎
井邑、扶安	鈴木仁三郎	同	宮崎佳太郎
井邑、扶安	阿部市太郎	同	森谷元一
井邑、扶安、沃溝	石川農事會社	金堤、沃溝、益山	森野菊太郎
井邑、扶安、沃溝	多木久米次郎	全州、沃溝、益山	二葉社
金堤、沃溝、益山	加賀美正明	同	東山農事會社
金堤、沃溝、益山	中榮産業會社	同	伊藤長兵衛
金堤、沃溝、益山	橋本史	同	齊藤忠恕
井邑、金堤	壽平安太郎	全州、沃溝、益山	龍華孤兒院
金堤、沃溝、益山	熊本利平	沃溝、益山	鳥谷八十八
全州、井邑、扶安、沃溝、益山		沃溝、益山	福田農事會社

沃溝、益山	大倉米吉	同	鐵田産業會社
金堤、沃溝、益山	大橋農場	光州	徳川農場
全州、金堤、益山	細川謙立	同	全南殖産會社
全州、井邑、金堤、扶安、益山	右近商會社	同	森平組
扶安、益山	不二興業會社	同	細川農場
全北各郡	諸戸清六	同	高瀬合名會社
金堤、沃溝、益山	金村一次郎	同	植原幸太郎
全州、金堤、益山	片岡和三	同	滋賀鮮農會社
扶安、金堤	眞田尙治	同	前田慶治
扶安、益山	實業會社	同	長浦善興
木浦	國武農場	同	金谷商會
同	花原農場	同	三輪浦項農場
海州	藤中農場	同	士佐興農會安鹿農場
同	藤住農場	同	南海會社
同	杉本農場	同	松下定次郎
同	北御門農場	同	川崎武之助
同	西見農場	同	楠見忠三郎
同	東山農事會社	同	佐々木保
同	高力農場	同	松下禰子
成平	川崎農場	同	廣瀬長廣
成光		同	



同	三、一〇〇・〇	阿部農場	東	五、〇〇〇	高瀬合名會社
慶北各郡	一、八五五	朝鮮興業會社	金海	二、六六六	天野春光
金泉	一、五五〇	山陰道産業會社	同	一、八七一	村上農事會社
昌原	三、二〇七	村井合名會社	同	四、七〇〇	片倉殖産會社
延白	四、五九九	小宮組	同	四、六〇〇	藤坂秀一
安橋、黃州	一、七五五	久野臨吉	同	一、〇〇〇	明治農會
瑞興、黃州、鳳山	五九・三	安川松本農場	同	四、〇〇〇	富田儀作
黃州、延白	八、五三三	朝鮮興業會社	大浦	四、〇〇〇	共同殖産會社
同	三、〇〇〇	鮮滿開拓會社	同	一、五〇〇	朝鮮農事會社
同	七、五〇三	川上會社	同	一、五〇〇	片倉組
同	三三・〇	未永省三	同	四、〇〇〇	山中源太郎
同	四、五〇〇	東頭金二郎	同	一、〇〇〇	於藤久米太郎
同	三、〇〇〇	岩崎俊彌	同	三、〇〇〇	赤岩要作
鳳山外、五郡	一、〇〇六	日海興業會社	寧邊、博川	六、〇〇〇	片倉殖産會社
同	三九・八	森農場	安州	三、〇〇〇	不二興業會社
安州	一、〇〇三	瑞興農場	鐵原、平康	三、〇〇〇	増田農場
龍川	五、七六六	不二興業會社	鐵原	六、〇〇〇	富田農場
淮陽	三、〇三〇	愛知産業會社	鐵原	四、〇〇〇	富田農場
高城	九八・〇	佐藤浩天	鐵原	三、〇〇〇	中島廣太郎
春川	五〇・〇	同	慶興	一、〇〇〇	磯部商

三 農場經營法

上述に依りて讀者は朝鮮内に於ける、日本人農場の分布状況を、大概知得したのであらう。本文に引用せる統計は過去五年前のものであるから、その後どれ程増加されてゐるかは想像し得べきことである。然らば彼等日本人は如何なる方法に依り、農場を經營してゐるのか？、彼等の所謂經營農種別を見れば極めて小部分の果樹、桑、造林を除く外は、殆んど全部が普通農事であつて、營農方法はいふまでもなく小作制である。その中にも一千町歩以上の耕地を所有し居る不二興業株式會社、東山農事株式會社、國武農場、朝鮮農業株式會社、日海興業株式會社、石川農事株式會社、多木農場、大橋農場、細川農場、阿部農場、片倉殖産株式會社等は地味肥沃なる三南地方に蟠居し、宛然として舊日本封建時代の諸侯の如く地方農民を濫りに搾取するに餘念もない現象である。さうして小作人たる朝鮮人と、地主たる日本人との衝突は年々だん／＼甚だしくなるのである、これに因りて白衣農人は、竟に住み慣れた故郷を離れ漂浪の旅に出ることになり、その後を追ふてこれ等白衣人の故土を占めるものは、玄海を渡つて來る日本人移住民である。

四 移住民の状況

然らば所謂彼等移住民の状況はどうか？大正十三年末現在の調査に依れば、朝鮮各地に於ける日本人農業者の總數は九千三百二十七戸であるが、その中には極少數従來より在住したるものを除く外



は、殆んど全部が農業移住者である。この謂ゆる農業移住者中には、二つの種類がある。これ即ち一は東洋拓殖会社と不二興業会社の手で募集された所謂保護移民であり、一は所謂自由移民である。

自由移民は約五十戸に達するが、大概は南道地方に分布されてゐる、その中には自ら多少の資本を持つて来て、土地を買受け自作兼小作をするものもあり、或は日本人地主の募集に應じて來たる純小農も亦ある。しかし彼等には、その背後に間接又は直接の保護と後援があるので、移住してから間もなく、生活の安定を得ることとなり、尙久からずして地主となるのである。

#### 五 東拓の移民

東洋拓殖会社は朝鮮に日本人を移住させるのを一の使命として設立された会社である。明治四十三年に第一回の移民を募集したる以後、年々数百戸の移民を繼續したのであるから、大正十五年三月現在で約四千戸に達したといつてゐる。然るに東拓の募集する所謂保護移民の中には二つの種類がある。

第一は第一種移民で、毎戸耕地二町歩以内の分配を受け、その土地代金に年六分の利息をつけて、五ヶ年間据置二十五箇年以内、年賦償還をなしたる後、その土地を所有するものである。第二は第二種移民で分配土地を十町歩以内とし、土地分配を受ける當時に、地價の四分の一以上を一時支拂ひ、その残金は年七分の利息を付けて、二十五箇年以内に年賦償還した後、土地を所有することになるのであるが、この種の移民は自作兼小作農でなければなし得られないことである。

尙ほ會社では、土地の價格を比較的低廉にして、移民に提供するのみならず、第一種の移民に對しては、移住費を貸與する等の凡ゆる便宜を與へてゐる。

#### 六 移民の保護

東洋拓殖会社に於ては、移住當時にさへ便宜を與へるのみならず、移住後にも農事講和會を開催し、又農事に關する印刷物を配付する等各種の方法に依り、移民の指導を圖り、農事經營上遺憾なきを期すると同時に、適當なる副業を奨励し種子、肥料、耕牛、農具等を低利或は無利息にて、貸付するのである。東拓は移民の生活の爲に各種の方法を以て、極力保護することは、尙更いふまでもないが、彼等の子弟を教育するが爲に、就學兒童十名以上に達するときは、その設備費と維持費を寄附して、學校の設立を助成し、又移住地に醫療機關が不備である場合には、特に醫師を招聘するか、或は囑託醫を設けて、相當なる手當を支給しながら、移民の無料診察に従事せしむる等、教育上衛生上にまで不便や不安を除去するに努力するのである。

かくの如くして移民の成績は、一種、二種を問はず、非常に良好であることは勿論である。だから彼等は悉く朝鮮農村に於て中産階級となつたのである。

#### 七 所謂不二村

この外不二興業株式会社に於ては、全北沃溝郡米面にある。該社所有の干拓地千八百町歩の中、既成

地千町歩を割して、日本から三百戸の移民をなさしめ、所謂不二模範農村を造成すること、し、大正十三年春に三十戸、同十四年に五十戸、同十五年に二十六戸、合計百六戸を移民させたのであるが、尙繼續して今明兩年に限り、残餘の百九十四戸を招致する計畫であるさうだ。これに對しては日本内務省に於ては毎戸に三百圓内外の移住奨励補助金の付與があり、又朝鮮總督府に於てはこの事業に要する低利資金の融通に對し斡旋してゐる。

かくの如く官民協力で極力奨励と保護をする結果、今に至つては萬餘戸の移住民が、朝鮮各道の各地に散在して、朝鮮人農民の生活を脅威し、又は迫害してゐる。そうして到る處で新來者と原住民との間衝突は日に甚だしくなつて行く有様である。この點に對しては所謂當局者も如何なる考慮があつたのかは知らないが、大正十年以來東拓の第一種の移民を廢止し、第二種の移民のみを募集することになり、毎戸に五町歩内外の土地を讓渡して、自作兼小作の小地主とならしむるに努力中であるといつてゐる。

#### 八 移民の副業

土地や資金、甚だしきに至つては、教育衛生にまで深甚なる注意の下に、保護と援助を受ける、日本人移民が移住後幾年もならぬ内に、生活が安定され、根據が固まることになるのは當然なことである。しかし彼等は生活上多少の餘裕が生ずるに従つて比較的怠慢となり、安逸なる中に於ても利得の多い副業を擇ぶことになつたのである、彼等の目に最も巧妙であり、安全である副業は「高利貸金」なるもの

である。經濟的に極度の弱者である、小作人階級はいふまでもないが、地主といはるべき(小地主)朝鮮人まで終末には「倭債」(日人債權)といふ、新しい名詞を使用し、日本人の高利貸金を借用することになると同時に、朝鮮人の小地主階級は先づ、移民階級より全く征服されてしまふのである。

吾人はこれ以上尙論する勇氣はない。結論に至つてもう少し概括的にいつて見たい考もないのではないが、俗に讀者が筆者の立場にあるといへば何たる語を以て、徹底的に結論することが出来るであらうか？。

彼等移民は吸水紙の如く、我々農民の血液を吸収してゐるのではないか。吸水紙の主體たる日本の資本主義は朝鮮に在りて、尙且つ活動の餘地が續々であると見てゐる。あゝ我々は何を以てこの恐ろしい運勢を排斥し得るであらうか！急迫なる現實は、我々をして緩る／＼論議すべき餘地をもなきやうにするのではないか？、あゝ白衣農人よ！何處に往くのか！我々白衣人は行くべきところを擇ぶ間もなく、行けるまゝに流離するのが今日の現象である。しかしかくの如く流浪の旅に出てさいすれば、何等かの利便があるであらうか？ (完)

#### 八 經濟 相

押

#### 經濟破滅の原因

(大正十四年八月十八日東亞日報)

(一) 内的原因  
(二) 外的原因

(イ) 外來資本の壓迫

最近朝鮮の幼稚なる經濟界を糶まりの付かぬ程混亂状態に陥れしめたのは、偉大なる勢力を以て侵入して來た外來の資本である。

現代の資本主義自由競争制度下では、貧弱な資本は皆巨大なる資本に併吞せられて敗亡するものであつて、それがその組織上の公理である。しかしながら經濟力の貧弱な朝鮮人は、その看板はよい自由競争の域にも入らずに、知らず知らずの中に、朝鮮經濟を外人の手中に入れて了つた。

比較的经验が豊富で鍛錬の多い、そして活用に秀でた外人等の巨大なる資本は比較的暗昧で、活動が不足で、随つて経験が淺薄な朝鮮人の經濟界を大調歩して、横斷する事となるや、その前によつゝかかるものは残らず蹂躪せられた。

彼等は團體を以て個人を以て、資本でふ偉大なる武器を以つて、朝鮮人の土地建物を買収し、山林を經營し、未墾干潟地を開拓し、貿易業を獨占し、交通機關を掌握し、各種投機業を發起し、朝鮮人の經濟界活動の範圍を縮少すると同時に、朝鮮人の生活上に必要な富源の大部分をその掌中に入れて了つた。

都市では金融機關の大會社財團が、一般經濟界を縱横し、地方では投機業者、高利貸金業者が經濟の勢力を獨占して、朝鮮人の經濟的弱點は何時も、彼等に利用せられた(以上の)最初には權利を讓渡し、次には所有を引渡し、最後には家産を蕩盡するのが、朝鮮人經濟破綻の順序である。

朝鮮經濟は斯くの如く、外來資本の横暴なる手段の爲めに、畢竟今日の状態の様な空殻に化して了つた。彼等の商品を使用せむが爲めに、彼等の資本を融通して使用せむが爲めに、彼等を相手に競争せむが爲めに、朝鮮經濟は破滅したのである。

その境遇を簡單に分析して見ると、丁度自分の資本を高利で貸與し、その利子は權利と富源と所有物で受取つて、そしてその家産を蕩盡させると少しも異ならない。

外來資本の侵襲は朝鮮經濟を、破滅させる大要素である。

(ロ) 總督府當局の經濟的淘汰政策

朝鮮人經濟の破滅原因を考へる時に、一時一刻でも忘れる事の出來ないのは、彼の總督府當局の終始一貫した朝鮮人經濟の淘汰政策である。

此處で總督府政治の全般を論議する必要は無いけれども、總督府當局の朝鮮人に對する一般政策が、極度の専制である事も事實である、徹底した自民族本位である事も事實である。

前者は日々に事實として顯はるゝ言論と、集合の民意無視の高壓的手段が何よりも明かに證明して居

る。

後者は彼等自身が盛に宣傳する所謂内地延長主義で以つて推斷する事が出来る。今日朝鮮經濟の破滅が必ず總督府當局の取つて居る政策に關聯したものであるとの意味から、經濟的破滅は政治的破滅に附隨する、因果關係を持つて居る必然の破滅であると云ふのが、最も妥當な觀察であると思ふ。故に吾人は此の總督府の取つて居る朝鮮人經濟の淘汰政策は、朝鮮人經濟を破滅させた原因中で最も大なる原因であると云ふのである。

#### 事業難の原因と對策

(大正十四年九月九日時代日報)

一、朝鮮人のあらゆる事業難問題は、一時的現象ではない。若し之に關して特別對策が無いとすると、目下の疲弊の慘狀は、永久的現象となるのである。その原因は贅言煩論を要しないか、事業難の背面には資金難があり、資金難の背面には經濟上の實權實益が朝鮮人に無いが爲である。そうして朝鮮人の經營と言ふものは、實なき虚榮に過ぎず、朝鮮人の事業なるものは風前の燈の悲運を免れ得ないものである。

事業の要素となる資金が疲弊の状態にあり、資産の本源たるべき經濟上の實權が無くなつて居る以上、事業難であると云ふよりも、最初に事業を起すのが却つて一種の妄想と云ふ事が出来るのである。

二、どうして「朝鮮を持つた」朝鮮人であつて、朝鮮經濟界に實權が無いか。と云ふ根本的原因問題に至つては、朝鮮人は朝鮮政治上その實權が無い關係であると云ふべきである。

經濟上の實權と云ふものは、萬般の事業の支配力であるから、結局政治上の實權そのものも經濟上の實權を背景として後の事であるが、政治上の保護が無い時は經濟上の實權が発生し得ないのである。即ち政治と經濟とは學理上からは相違つて居るだろうが、事實に於ては一體とならざるを得ないものである。それで朝鮮人は既に日韓合併に依つて、政治上被征服者となつた。被征服者はその運命の如何は征服者の考方如何に依る以上、經濟上の實權があるとか無いとかの問題を、頭から話題に上げす必要が無いのである。

三、總督政治は只朝鮮人を政治上丈に不自由ならしめやうとするものでない。政治上の殘務が處理せられた時は直に經濟上の新陣容を展開し様として居る事は既定の「プログラム」である。

その經濟上の作戰計畫は、専ら司令の責任のある總督府自體が、親ら執らうとして居る。そのみならず一方には日本民間の資本、他方に於ては、移民政策を應援隊として、明暗兩面から總攻撃を開始するに至つた。所謂東拓殖銀等々は半官半民の灰色機關として、朝鮮經濟戰の勇將となつた。そうして朝鮮の富源の凡ての經濟的生產は彼等の富力を増させた事は勿論、その資本の膨脹力と範圍は朝鮮

人の小工業小商業に迄も波及しないものはない。現下の朝鮮人は破産宣告があつた者もない者もその内面を細察すると破産も同様で、日本人の分賣店又は分工場に過ぎない現狀である。

四、事業の經營と金融とが密接の關係があることは、今更論する必要も無い。見よ朝鮮にも朝鮮人經營の金融機關が無いでもない。然し此等の金融機關がよく朝鮮人事業に助長力があらうとは子供も思つて居らぬ。即ち朝鮮人の銀行と言ふものは、之は即ち外國人銀行の模倣であり見習であると云つても過言で無い。

朝鮮人の經濟上の地位は斯くの如くに悲惨である。殊に朝鮮生産の大宗であり、朝鮮の運命を左右する農作地が小地主から大地主、大地主から最大地主、即ち東拓殖銀等に年々兼併せられる一例次に依つても、朝鮮の將來がさうである事は容易に推測する事が出来る。

五、然らば其對策はどうか

勿論經濟的自主に努力しなければ出来ないものである。その方針と實行に於ては民族的協同を離れる事は出来ぬ、何よりも先づ自覺勵行をしなければならぬのは、貯蓄を努め消費を少くして、剩餘資金を拵へるのが當面の良策である。

## ハ 細民と金融

(昭和二年二月十七日東亞日報)

朝鮮全土には總督府財務局の統計表に計上さるべき金貸業者が四千餘名おる。その一個年間の貸付金額は六千萬圓に達し、最高の利率が四割二分だとのことは既に論じたが、これ等高利貸金業者以外に年利六割の利率で、細民金融の任に當るもの即ち典當業者(質屋業者)がおるのは見のがせない。典當營業は都市に於て盛行するものである。従つて莫大な利益を收得する、反面に於て細民に對しては絶對の權威を有しておる金融機關である。尙ほ都市に於てその勢力が絶對である理由は、都市の住民は常に朝聚暮散する現象であるから、些少な金額の貸借までも典當舖(質屋)でなければ不可能である。だから一間にも典當舖、二間、三間にも典當舖を利用することとなるのである。然らば都市に於ける細民の金融機關として避け得られないものが典當舖であらう。

細民の金融機關としての典當舖は果して、細民の金融機關に對する意識のあるものがこれを經營するのか？經營者の細民金融に對する意識は、危険が大きいついて利率は最高率にし、典當物の評價は最低價にするのが事實であらう。即ち彼等は自分の利益の爲には意識が明瞭であるが、然し細民の金融である程低利を以て、便宜を與へんとする意識は全然ないものである。人情も義理もなくなつた金の欲しい彼等に對しかゝることをいふ言つても勿論無用であらう。安價の上にも安價に評價されて典當(入質)するのは結局五分一、或は十分一で投資をするのと何等の差異がないのである。それは利率の高いのが流質を強制するからである。然るに爲政者として、かくの如き現象を傍視し得べき

ことであらうか。現在經濟組織の擁護者たる爲政者が、誠意を以て救済に當るべきことは勿論ながら、況んや朝鮮爲政者は介意もしないであらう。然れども爲政者なるもの存在する理由は、特殊階級の特殊利益をのみ保護するにあらず、即ち一般民衆の福利を増進する爲にあるものである。不徹底ではあるが、最近日本に於ては、所謂公益質庫法を制定し、以て明年度より低利資金を利用して各重要都市を通じて十庫を創設し、二割以下の金利を以て細民金融の任に當ることとなつてゐる。勿論その案の内容が徹底なるものではないが、ない處に比較すべきものではない。而して總督府當局者は細民金融に對し如何なる計畫があるのか、その回答を聞きたいものである。

## 二 運命の破滅

(昭和二年三月十一日東亞日報)

慶南には日人所有土地が激増

貸金で大利を得たる東拓

小資本家たる朝鮮人は、大資本家たる日本人よりの經濟的壓迫で堪へられなくなつてゐる。故に我々の先祖から承らく遺來した沃土が、年々減少されると同時に、日本人の所有は増加しつゝあることは統計が證明するのである。殊に慶南一帶は其の現象が甚だしいのである。慶尙南道の耕作地面積十六萬五千八百八十三町歩と、如十一萬八千九百三十三町歩中東洋殖産會社釜山支店の所有になつてゐるのが著

三千百九十六町歩と如一千六百十六町歩であり、又土地を擔保として貸付した金額が四百萬圓に達し同會社の昨年度の純利益が三十七萬四千四百二十八圓なりと、その外日本人の所有面積が數百萬町歩に達したので、目下の情勢で進行すれば朝鮮人の運命は遠からぬ間に破滅されて了うであらう。(釜山)

## ホ 朝鮮人の農業地所有状態

(昭和二年五月號現代評論)

李 順 鐸

「現代評論」三月號に於て、朝鮮の山林所有状態を明かにした。茲には農業地所有状態を明かにせんと欲する。韓日併合以來殊に最近に至つては、朝鮮人の唯一の生産手段たる農業地も亦非常の勢を以て、朝鮮人の手を離れて日本人の手に移りつゝある。朝鮮十三道の中で江原、咸鏡南北の北部五道は比較的に地味瘠薄、人煙稀少であつて、農法も未だ粗放的耕作の域より脱せざるが爲に、農業地の買収者にとつては不利なる關係からして、勢ひ日本人はその買収力を南部に集中した觀がある。だから農業地の所有割合は北部に僅少であり南部に夥多である。同じく南部の中でも種々な條件上から見ても、最も農業に適する地方には益々集中せしめた結果、地方によつては半分以上を所有することも珍らしくない。なほ市街地附近に至つては七、八割以上の所有に及ぶこともある。而しながらこゝには單に全朝鮮に於ける日本人の平均所有割合を調べんと欲する。

今大正十三年末現在の朝鮮の農業地の總面積を見るに次に掲ぐるが如くである。(茲には貸及雜種地をも含む)

畜	一、五三七、八六二町歩
田	二、七九六、八九四町歩
畑	一三〇、三三八町歩
雑	五五、八三九町歩
計	四、五二〇、九三三町歩

右の中で日本人及びその團體の所有面積は左の通りである。

東拓所有地	七七、〇八二町歩
同會社の移民への讓與地	八、五〇〇町歩
右を除く日本人の三十町歩以上所有面積	二七〇、〇〇〇町歩
三十町歩以下を所有する日本人の所有總面積	一一二、一五七町歩
右を除く外不二興業會社の沃溝所在非課稅地	一、八〇〇町歩
計	一三三、八五四町歩
國有地	六〇三、三九三町歩

右は大正十三年末までの朝鮮に於ける、日本人及びその團體の農業地所有狀態であるが、これは總督府の調査により最小限度に計算したものである。だからこれは實に最小限度の計算であつて、事實は遙かにそれ以上に達するかと思はれる。しかし今假りに右の計算が正しいものとして、朝鮮の農業地所有狀態を國籍別に見れば左の通りである。

日本人の所有	六〇三、三九三町歩	一三、三%
外國人の所有	二、一五四町歩	〇、一%
朝鮮人の所有	三、九一五、三八六町歩	八六、六%
總面積	四、五二〇、九三三町歩	一〇〇、〇%

右は大正十三年末までの所有狀態であるが、その後の趨勢は未だ明かでない。しかしとにかく朝鮮人の所有は最大限度に見積つたものであり、名目上の所有のみを數字上に現はして掲げたものであるから實質上の所有は東拓を始めとして、一般不動産金融機關(日本人のものを指す)の朝鮮人に對する不動産擔保貸付金約一億五千萬圓、及び到る處に跋扈する、日本人の個人貸金業者の不動産擔保貸付金の爲に、その償還不能により生ずる所有權の移轉さるべきものを想像すれば、遙かにそれ以下に下るであらう。これらの事柄を念頭に於て大正十三年末までの、日本人の農業地所有割合を二〇%と見積つたのである。だから全體より見て二〇%はさ程大なるものではない。しかしながら朝鮮人はその唯一の生産手段

とする農業地をすでに二〇%も失つたと思へば至つて大なる数字である。一國民は特に近代に於ては農業地のみを生産手段として能く生きるものではない。工業、鑛山業、漁業、林業、交通運輸業等によつて生を營むものである、即ち近代に於ては農業は國民の富の一少部分を構成するに過ぎない。朝鮮の富は近來著しく増加したと云ふ、けれども朝鮮人による富の増加はさ程でもないやうだ。否な鑛山業、林業、交通運輸業等による富は殆んどなく、工業、漁業に於て僅かあるのみだ。だから農業は朝鮮人の唯一の生産手段となるのである。

かくの如く朝鮮人の生活に、最も重大なる關係を有する農業地がすでにその二〇%朝鮮人の手より離れてゐる。ところが所謂産米増殖計畫は積極的に日本人の農業地に對する投資を誘ふやうであるから、經濟力の乏しき朝鮮人は、自分等の所有に係る農業地を惜むも大部分を賣飛ばすことは必然である。よつて近き將來にはその所有状態は激變するであらう。

最後に逃るべきことは敢て朝鮮の林野なり耕地なり、その他の富が急速度に朝鮮人の手を離れて、日本人の手に移るからとて、これを心配するものではない。このやうな現象は現代の資本主義的殖民地に於ては必然的に起る通有の現象であるから、云はばむしろこれを〇〇〇べきであり、日本人或は朝鮮人中には往々にして、非實のことを以て事實であるかのやうに装ふものがあるが爲に、事實にさうでなくこうであるといふことを述べるまでのことである。(五月號現代評論より)

## 九種 々 相

押

密 債 業

(大正十五年五月十二日時代日報)

名門巨族の子で末路は密債業

上海では以前某青年の密債事實發覺以後繼續して、此頃亦黃某の密債事實が發覺し、吾人社會では噂様々である。

其内容を聞くに黃青年は元來京城生れ、其父は某富家の女婿で江華島の令任までして、其勢力一時は京郷を賑かした、所謂門閥家の子孫であるが元來放蕩で歲月を過ごし、畢竟金のため同遊者某と共に謀し父の印章を偽造し、土地を質入れ其金で遊び廻つて居つたが、事實の發見を恐れて二人手をとつて、遠く上海に走つたのが、今から四年前の事である。上海に來てからは段々懐は寒くなり、衣類所持品等全部入質し榮華は昔の夢となり、萬里異域であらゆる苦勞をすることとなり、此の恐ろしき苦生中でも黃某は自分も〇〇運動に心血を注ぎ献げんものと奔走するので、吾が同胞等は感心せざるものはなかつた。昨年中友人に對し京城の宅から來たと怪しげな手紙を人に見せて、毎月生活費四十圓宛送金すとの通知であるとの事、故友人等は彼の幸運を祝福したが、其後彼は立派な宿室に移り中國人の賭博場に入入り、再び放蕩生活に入た。或時は幾十圓儲かつたとして其の金使ひが怪しいと云ふ噂が立つた。其時始め



て友人等も怪しみ、宅は己に破産に陥り、送る金もなく亦手紙一通來た様子もなく、郵便局で調べると爲替の如きものは來た事はないと言ふので、其行動を疑ひ、假政府警務局でも秘密に活動を開始し調査した。その結果、彼は果して日本某機關の特派員で上海に來て居る日本人尾田と連絡關係を結び、〇〇運動の青年間に假面を被つて混入し、昨年から密偵業をなせる事判明した。亦去月八月某が歸國證明を得る爲め、上海日本領事館に行きし時、黄某が領事館に居る事を發見したので、黄某に詐かれて彼等同志として、如何なる會名の席へも參與せしめた同志會では、即時誅討文を發表し聲討すると同時に、ある最後の手段を取るべしと宣告した。自己の凡ての事實が暴露した黄某は、此上は上海に居る事が出來ぬので、數日前密に出發京城に歸つたとの事である。

蛛の巢欄

己未の歳以後上海で義烈團の手に慘たらしい死様をした、朝鮮人密偵が、判明した丈で、二百十名あると。

彼れ等の最期も可憐であるが、彼等の魔手に横死したり、甚しい苦みを受けた良民の數は亦どれ程多いであらうか。死んだ者に鞭つのは忍びぬが地獄に往つたら過を改めて善に遷れ。

因山と博覽會で地方人が澤山上つて來ると、警察當局は警戒の方策で民間に密偵を澤山配置すると博覽會場に總督府があるのだから「密偵出品」をして一列に陳列でもしたらよからう、何處までとぞく

であらうか。

口世渡り術 (その一)

◆雜誌人間の愛で世渡り

(昭和二年一月二十一日)

記事概要

本書は慶北道廳に於て、昨年受理し内檢閱の上不許可の罰申ありたるものにして、其の内容貧弱にして青年男女が徒然の劣文を相築したるに過ぎず、且罰申の理由に依れば印刷發行の資力なく、廣告等の強調を行はむとする虞あるものなれば不許可の處分となる。

内容概略

一、生産工業の設計は目下の急務 創立委員

嗚呼不具の病者の如く無能、幼兒の如く衰弱せる不自由な朝鮮の社會は、何人の愛の力にて回生するものなるか。

何人にも聴く必要なく人の愛に依りて生くるなり、今日の朝鮮は文明とか安在とか騒いで居るが、此の朝鮮を赤裸々に文明の發達とか安在とか評して可ならむや。

文明なる社會は自己の社會が消費する物貨を生産す、故に朝鮮人の社會も自己の消費する物資を生産することが急務である。云云

### 世渡り術 (その二)

◇單行本 莊陵史補で醜金

(昭和二年二月一日)

#### 記事概要

李朝端宗大王は文宗大王の長男として、幼年の時に王位に即きたる爲、一般的政治は全部父世祖大王の掌握に歸した。

世祖は故なしに端宗大王を魯山君に降封し、江原道寧越に驅逐し、其の後殺害する慘劇迄も演じた。其の時に端宗の舊臣及宮女官奴等は復興の思想勃興し、死六臣、生六臣外に忠節の臣民千餘人が害せられた。肅宗大王時代に至り、端宗の冤情を除釋し王位に復位せしめ、一般節臣烈士を崇封し忠臣祠を建築して祭祀を行はしめた。云云

此の史補を編纂し發行せむとする内心は、忠臣烈士及一般的殉節したる者の子孫の名譽心を藉りて、金錢を編取する計畫なるのみならず、忠臣烈士の子孫を假裝して無理なる大金を際集せむとするものにして、一般社會に弊害紛争を起す虞あるものなり。

### ハ 春日漫談

(昭和二年五月三日朝鮮日報)

朝鮮人の見物に熱狂といつたら「犬の糞をひこづつても見物」と云ふ俗語が能く證明する。此の様な見物を好む反面ではどんな慘狀が發現して居るか。昌慶苑夜櫻見物で毎日電車賃だけ七千五百圓、一週間を通算すると、五萬三千圓に達する。此の金を徒らに會社や一資本主の私腹を肥さずに公益機關とか、朝鮮の物興事業に使用したら、如何に其の利益が多いであらうか。奢侈香水化粧等の一ヶ月間の費用でもなすべき事があるのである。

余は此夜櫻見物をして考へ付いた事がある、朝鮮人が全部此の見物に熱中する其の誠力を持つて、共力して何か事業を経営すれば、毎年に成就せぬことあるまいと。

鍾路四丁目十字街から昌慶苑門前まで、一大長蛇陣の人波は先を争ひ、雑踏する電車は人の城となり、運轉からして出来ぬ甚だしい熱誠である。

此熱誠の十分の一だけ朝鮮の爲め事をせよ、何事でも出来る。日に月に零滯凋殘して行く朝鮮は、此

の様な熱誠ある同胞兄弟を呼んで居る、待つて居る。如何に呼んでも其の同胞と兄弟は危急存亡の秋でも精神は他方に走つて居る。將來朝鮮が呼んで居る熱血兒は何處から來るであらうか。

今吾人は二つの大變動をしなければならぬ、第一は精神的革命で、第二は經濟的革命其のものである。精神に一大革命を起し以て産業的革命に根據を確立し、更に其の産業革命を以て經濟的革命を完成する、其の日に始めて吾人の存在があるのである。吾人の産業は世界に需用を喚起せしめて、始めて吾人は血脈を得ることになるのである。吾人は毎日外國に對して、生命維持に最も貴重なる此の血脈ばかり吸はれ亦温順に怨痛にも提供してもう生命の糸が絶へむとする、此の時こんな場合に朝鮮人に求むるものは、唯消費其のものを節約して、産業其のものを物與せしむることである。

産業革命經濟的獨立、此れか何より吾人に於ける、廻生劑であり生命水である。朝鮮に二大計劃と三大政策があると騒ぐが、二大計劃と云ふのは、産米増殖計劃と鐵道網完成計劃であり、三大政策と云ふのは水利政策、治水政策、開發政策、これである。此の二大計劃と三大政策が果して、吾人に何程の裨益と何程の生道を與ふるのであらうか。此の凡ての計畫と政策の進育するに隨ひ朝鮮人の生活は益々縮まり、生命は短縮する吾人は「生日に美食せむと七日間斷食する事は出來ぬ」吾人は一食が必要に迫つた可憐なる立場に在る。何故あつて産米増殖を待ち、鐵道網完成を望むか、此の凡ての空噓が吾人に何をか與へむ。之が完成した日に吾人は亦何の取得があらうか。

朝鮮は尋ねて居る朝鮮は呼んで居る。一時も速に朝夕を争ふ生命を救つて呉れと。毎日逼迫する恐ろしい破滅を除かむと。嗚呼しかし産業の革命歌を歌ふ途はなく、經濟的獨立歌の聲はまだ遠い。唯聞へるのは恐ろしい豺狼の群に鮮血を吸はれる音と破産の魔神である錦衣の音のみ聞へるのみである。

## 二 義 憤 青 年

(昭和二年六月二十六日中外日報)

勇敢なる學生だ、實に君は勇敢なる學生である。君の様な義憤の青年を見る時に、吾人の心は丈夫になる。

京城の真中で同胞の乞食に銅錢を振り撒いてその拾つて居る有様を活動寫真に撮つて居る米國の奴を擲つた二人の青年があつた、實に痛快である。ほんとにそうだ、義憤の前には米國の奴であらうが、英國の奴であらうが、日本の奴であらうが、手當り次第に鐵拳を下すべきである。

此頃の外國の奴等は言辭行動の上に於て、我が同胞に對する侮辱が時々に見える。そんな奴輩は見付次第に叩付けて非道い奴等は國境外に逐拂ふべきである。義憤の青年よ、鐵拳を惜しむ勿れ！

## 本 幹部と云ふ人

(昭和二年六月印刷工第一輯京城)

余は無慈悲の人間だ。誰でも悪いこと、不義のことをする人間があつたら、余は容赦なく此の無慈悲

な鐵棒を下す事を躊躇しない人間である。吾等の仲間の中には眼を張つて居りながら、頬を叩かれ明かに知り乍ら残念にも、怨痛な目に遇ふものがある。乍然彼等は啞の様に一言の訴もせず、一人で胸を焼いて居る。余は此の可憐なる仲間にて代つて、凡ての不正不義を膺懲し撲滅しやうとする。此の余の心を諒として諸君は余に諸君の居る工場の内容に就き其の凡ての罪惡を言ふて貰いたいものである。

茲に先づ余の調査した事を一つ公開する、我等は此の不正者に對して、嚴重なる批判を下し、斯様な不正者が再度我等の眼前に現はれない様にしなければならぬ。

余の最も尊敬する××君よ、君は人間としての良心を持つて居るのか？君は過去に於ては、社會主義者の假面を冠つて、又我が組合員の幹部となつて活動して居つたではないか、その過去に於て斯の如き經歷を持つて居る君として、今日の賣春婦よりも卑劣な變節者になつたのは、一體何う云ふ譯か？變節だけなら未だ宜しいが、君は變節と同時に組合の成長を餘地なく妨害した。之は何と云ふ行動、如何なる心情より出たのか？其れ才でない、君は就職を運動する爲に四十圓と云ふ我等に取つては大金を使つて料理政策を使つたことは何うして卑劣な行動でないと辨明することは出来るか、君は四十圓といふ大金を使つて、就職運動をなした事に對しては、吾人は何と思ふか、但し君の就職の爲に犠牲になつたものは幾人あるか、君は能く知つて居るではないか？余は君を指して良心のないものであると云ひたいと同時に、君の行動に對して憤怒せざるを得ない、君よ良心に反省して見よ、余は君を尊敬する意

味から少しも遠慮なく、君の反省を促すのである、君よ一人が自分の生活が安定したことを喜ぶ勿れ、良心のある人間としては其の様なことが出来てはならないか、君よ遠からざる將來に於て、勝利の盃を高く掲げる偉大なる吾等であることを記憶せよ、君が何時までも不義な行動に出ると、余は君に會はなくてはならぬことを茲に云ふて置く。

**押**

社會葬の意義

(月南李先生實記 昭和二年六月、京城)

國家に有功な人を葬むるのに國葬の制度がある。之は國家の費用を以て、國家の機關に依つて、舉行する葬式である。又國民葬と云ふものもある。之は國葬の形式を取るに至らずに巨人の最後を飾る儀式である。國葬と國民葬は吾々が聞いた事は久しいが、社會葬に對しては未だ聞いた事が多くはない。國葬が社會葬と明白に區別せられるものであることは、誰でも認定する所ではあるが、社會葬と言ふものは朝鮮に於て特に意味があるものである。

朝鮮では國民葬と云ふ用語は不適當であるから、國民葬とか社會葬とかの名稱を採用する他はないが、兩者中から其の一を採らば、社會葬と云ふ用語が最適當なものと思ふ。國民葬と云ふも民族葬と言ふても社會葬と言ふても其の言葉に包含されて居る、意味は同一であると思はれるものである。勿論社會と云ふ觀念が、國民とか民族とか云ふ觀念より、もつと廣汎なる意義を有する事は理解する事の出來

るものである。社會は大きく言はば國際社會になるものであり、少く云はば一國民一民族を單位とする社會と思ふ事も出来るものである。

然し普通の場合の社會と云ふものは、其の範圍は國民亦は民族の範圍と殆ど同じものと見られるものである。今回月南李商在先生が死去したので、社會葬を舉行する様になつて、朝鮮民族が全體に其れに参加する程度には差異がある筈で、積極的に参加する事とし、亦消極的に單純に心では好意を持つ者もあらうし、又は其の團體として参加しなくても、其の所屬員の個人の資格として、参加する者もある筈である。然し朝鮮人が民族的に之に對して、明示的或は默示的に賛同する意思を持つて居る事は事實として見られるものである。先生の徳が斯の如く衆人をして自然に瞻仰せしむる所あるが故である。

然し今回の先生の葬儀が社會葬として、圓滿に舉行されたのは先生高德の然らしむる外に、一つの理由を見付ける事が出来る。先生は果然其の人格に於て高潔なる事は高潔なるも、中國の孫文に比して、露西亞の「レーニン」に比して、活動的方面が足らなかつたのは認めなければならぬ。然し朝鮮の社會が此の不幸なる巨人を斯の如く尊敬するものに依つて、新らしき或る力を得るが爲の慾求に引かれて居るのも事實として見る他ないのである。吾々は先生を社會的に送るに當り、社會的に特別なる意義を把握しなければならぬ。

### ト 貴族の末路

(昭和二年二月十三日中外日報)

朝鮮貴族の世襲財産令の發布される時機に至り、關係當局に於てはそれ等の財産状態を調査したる結果、六十一人の貴族中に相當財産を維持するものは二十四人に過ぎず、その餘の三十餘人は生活の保障も出来得ざる憐な状態なりといはれてゐる。それ等受僱者は最近の韓國時代に悉く榮譽の官職をもつて相當なる生活状態を維持したものであり、又受僱の當時にも各々多少の公債を受けたものであるから十數年來にそれ程貧窮となるべき何等の理由もないのに拘らず、彼等の現状はかくの如く慘憺たる状態にあるのである。

茲に一々彼等の敗家内幕を探究する必要はないが、一言を以て蔽へばその敗家せる原因は、たゞ時勢に不適であるとの一事に止まるのみである。地閥や權勢により特殊なる地位を占めておつた、彼等が一應在來の地位と特權を喪失すると同時に彼等に殘つてゐるのは、ただ専ら奢侈や懶散と暗昧のみである。理財を如何にすれば好いのか、後進の教育を如何にすれば好いのか、又生活の方式を如何にすれば現實に適合するかを知らない、その結果が敗家となるべきは多言を要せざるところである。

これか一部貴族階級に限る現状といへば問題となることはないが、しかしこの殘滅の現象は全朝鮮人の社會を支配するものである。だから吾人をして貴族階級の没落を無心に看過せしむることを許さない

理由があるのである。

チ、「平穩無事」裏面に制令違反多數

(昭和元年十二月七日中外日報)

治安維持法も七十名

昨年の統計が證明する朝鮮人生活の苦悶相

如何なる趨勢であるかは明言し得られないが、過去七、八年の間、朝鮮には一日も騷擾せざる日はなかつた。總督府當局者のあつかましい宣傳を爲しつつある所謂「平穩無事」の標語は果して如何なる内容を有する「平穩無事」であるか。毎日「絶えず新聞紙上に報道せられつつある、騒然たる世相は或は〇〇〇團の侵入、或は〇〇〇〇〇〇の計劃等の思想運動犯を始め、破廉恥の殺人強盜、窃盜、詐欺等の犯罪に至るまで實に數へられない程になつてゐる。これは全部現在朝鮮人の生活が内面や外面に於て破滅に陥りつつあることを證明する事實である。さうしてかかる當面に接する當局者の焦燥と憂慮も少いではなからうが、數億の金を投じて統治しつつある當局者としては、外面的にだけは泰然たる態度を取り得るであらう。然れどもその泰然たる態度を持つて居る當局者の背後に隠れてゐる、所謂平穩無事に非ざる朝鮮の現状を言へば、去る十四年度に於て、全國に互り檢舉された刑事犯の人数は、十五萬六千二百名で、政治に關する犯罪即ち制令違反の者二百七名と、治安維持法違反の者七十名で、その他特別

法を犯したる者九萬七千五百餘名に達する。斯の如く多數の犯罪者を出すに至つた朝鮮を、豈平穩無事と云はれるだらうか。然もこの次にある詳細なる表に現はれたるが如く、直接生活と關係ある犯罪の最も多いのを見ても、朝鮮人の生活が如何なる困境に陥つて居るかを能く推知し得られる。尙ほ本年因山(國葬)當時より連續して發生する政治的犯罪の激増を見ても、又朝鮮人が現在の如き困境より脱退せんとする苦悶相を推想し得べきである。而して警務局の調査に依る詳細なる犯罪檢束件數を示せば左の如くである。

刑 事 犯	一〇五、六八九件
特 別 法 犯	一五六、二〇〇人
制 令 違 反 犯	七二、五六九件
治安維持法犯	九七、五五六人
	一一四件
	二〇七人
	六件
	七〇人

## 第四編 哀怨の曲

### 一 覺 聲

#### イ 濁浪中の朝鮮

(大正十四年七月十八日朝鮮日報)

沃野千里、錦繡江山てふ麗はしい形容で呼ばれて居る朝鮮よ！禮義の民、君子、大人てふ立派なる稱號を用ひられて居る朝鮮民族よ！君等の祖先と子孫とが埋められて居り、生長して居る麗はしい山河は既に君等の有ではない。豺狼咆哮し、烏鵲喧嘩するの荒野と化した。君等が自ら任して居る君子大人、禮義の民の稱號は落伍賤殘衰亡の愚氓を以て代稱せらるゝに至つた。噫！天災が又引續いて侵襲して來たから、君等の殘命は今や風前の燈のやうである。

昨年未曾有の旱災の爲め流離餓死の冥途に彷徨するに至つた慘景は、猶ほ吾人の眼前に立消えない中に、更に全國的に未曾有の大洪水が汎濫して、人畜の死傷、農作の被害、家屋什具の流失、破損等一々形容することの出來難い濁浪の暴威に咀呪を受けるに至つた。

あゝ濁浪中の朝鮮及朝鮮人よ！重ねてやつて來た災難は人禍に苦しめられた君等の命を催促して居る。富んだ者丈けが生き得やうか？貧しい者丈けが死ぬるであらうか？あゝ貧富共に没するであらうか。

唯だ相救ひ相助けるの美德を以て、九死の中に一生の路を失ふ事勿れ。

**押**

#### 痛哭の中から

(大正十五年五月十六日付時代日報)

痛哭の中から、

大路に溢れる白衣の人波の中から哭聲が起る。

銃剣がびかつき、軍兵の馬蹄の音で騷亂の場所に

憤激した群衆は逐はれ、踏みにぢられて

地に打倒れ遂には悲鳴をあげる。地を叩き亦天を仰ぎ

叫ぶ聲、痛哭の聲九霄に徹する。

黒布を付けた小女よ

同じやうに素服を着た少年よ

何者が、汝等の小さい胸を

そのやうに、ひどく悲ましたのであるか。

誰が爲め、それほど熱い涙を

美しい汝等の兩眼から、流すのであらうか。

枝毎に新緑の鶯が立ち昇り

雲雀の溪水を渡る樂しき春の日に

どうして汝等は喜びの歌を歌ひ得ぬか。

天真なる汝等の幸福を残らず、奪はつたのは何人か。

祖父よ、祖母よ

唯慕の中の安息より外に希望のない老人よ

死に類した容貌の衰へ、世苦で曲つた背

胸を絞る哀痛の様は真に見るに忍びぬ。

おやめなさい、もう涙をふきなさい

貴方等の衰残した白骨でも、安らかに埋めやうとした

此國土は異邦人の熊手が、残る隅なく掻ぎ取つてから

もう久しいのである。今血の出るほど泣いたとて

一度去つた昔が

再び歸つて來るであらうか。

年々春毎に新主人は

仁政殿櫻の木蔭で宴を布き

梨花の徽章は塵に埋れても

記憶は忘却の〇〇を尋ぬる

後日誰あつて永く悲むものがあらうか……………

噫、驅逐せられる群衆よ

無情の人生に死ななければならぬのが、吾人の宿命である。

一人歸らぬことを、それほど悲むなけれ

しかし、噫、しかし

徹天の恨を含む青婦の悲みであるが

隣の祭壇が崩れたとて、冤訴する所はないのである。

充分泣かうとするも涙の爲め

抑塞した胸を叩きつゝ

此日一日泣かう

額を上にし眼から血を出し。(四月二十九日敦化門前で)



## ハ 春來不似春

(大正十五年四月二十三日朝鮮日報)

一  
春來つて花も咲き草も出た。そして人間は樂春の術を研究するものが多い。そこで隣國の或る大新聞は「春を樂む術」と云ふ社説を書いて、一般民衆にどんなにして春を享樂するかと云ふことを教えようと苦心して居る。しかし吾人は唯春が來ても春らしくないと云ふ無味の嗟歎するより外はない。此れが運數だと云へばそれまである。

二  
漢の王昭君は胡地の花草のないのを見て「春來不似春」の歎聲を發した。しかし吾人は華麗江山韓半島に座して、花草のあるのにもかかはらず、春來不似春を叫ぶのである。王昭君の春のないのは客觀的世界の使然であり、吾人の春のないのは主觀的世界の使然であらう。

吾人はあらゆる壓迫中に呻吟して居るから、花を見ても面白くなく、小鳥の鳴聲を聞いても喜しくない。

政治的壓迫があり經濟的壓迫があつて、どうすることも出来ぬ。此處を棄て、南に北に男は負ひ、女は戴き流離する白衣人は敢て進取的氣象が豊富であるからではない。國內で凡ての事業に従事する者

はどうかであるか、少し計り頭を上げると忽ち壓迫が來る、よくやれば「ナマイキ」悪ければ「馬鹿」此の調子に合せて躍る者があらうか。

### 三

教育方面に對する壓迫はどうか、言論機關に對する壓迫はどうか、其他各方面に對する壓迫は亦どうかであるか。

教育方面に對する壓迫は已に論評したが、言論機關に對する壓迫に關しては昨秋以來開闢、朝鮮日報及東亞日報の諸機關が皆發行停止の處分を受けた。吾人の三新聞即ち東亞、時代、朝鮮の代表者等が今に刑事裁判中であることを見ても充分分る。此形勢の漸次増進するを見る今日、吾人は晏然と座つて春を樂んで居れうらよか。春に萬物が咲き出ると同じく吾人も咲き出ることが出来ぬであらうか。何等積極の方策を考えもせず、唯歎聲のみ發するは勇氣のないことである。吾人は吾人の感情が切迫したことを覺らなければならぬ。

### 四

安價の慰安は反て人を死亡に引導することになるものである。吾人は露骨に泣いて見やうー吾人は露骨に悲んで見やうーそして其中に座つて更らに一度前進する考をして見やう。

春日ー此春ー吾人は汝を享樂すまいと思ふのではないが、今はどうすることも出来ぬのである。今年

の春！其まゝ行つてくれ吾人は遣り多いが、汝を其まゝ送る。吾人は今静肅に沈痛の歩みで進んで居る。吾人が休息せずに進めば、千辛萬苦をしても竟には吾人の形勢が良くなるものと信ずる。其時の春來を吾人は喜んで迎へ、花朝月夕に樂まう。

## 二 現實と反省

(昭和元年十二月十九日東亞日報)

朝鮮人の現状を見るに七、八年前のそれよりは幾らか自覺もあり、進歩もあるのを發見し得られるが、意識的團結力には未だ足りない事を多く感ぜざるを得ない。これは元來我々が大我の觀念の薄弱であつた爲であるのみならず、大我それ自體を奉崇するに因りて受くる幸福、榮華、利益等の恩寵を蒙つてゐない民衆が多数なるのも一の原因である。

若干の前衛分子が初志を貫徹せんが爲、百難中に於て奮闘する時一般民衆はその誠意に對し全體的に同情と尊敬を寄せる者が少ないのみならず、自ら進んでその事業を自分のものと解得する人の數が少かつたのである。それが我々民族の民族的生活方法に對する理解と自覺が足らなかつたからである。それは爲政者の號令の下に於て、唯服従するのが國民の義務であるやうに解した歴史を有するのであるからだ。

これが間接或は直接に影響して、内的には民族的精神及生活を統一し得べき、大理想たる民族信仰即

ち民族哲學が泯滅されて、我々の踏み往かうとする方向や傾向も複雑となつた理由である。そうして個人は個人にて、團體は團體にて、各々自家の主張を頑張つて、心的生活に於て整理されてゐない。從つて概括し得べき規範が確實になつてゐないのである。外的には自分が自分を治理し得られない現状であるから、我々を治理する總てのものに對し、一言半句をも吐き得ず、只處分如何のみを待つだけである。故に自然に不安と恐懼を感じ、甚しきに至つては、一種の病的狀態とも云ふべき恐怖心に陥つてゐる。加之生活の主要因たる經濟的方面が、日に々々萎縮するを以て、他の方面に對し願ひる暇を得ず、男負女戴して流離丐乞する現實に悲痛するのみである。

外部より受くる不安と恐懼は、自働的でない關係上、永遠性を持つてゐない。その期間が假に長時間を占めると雖、或る機會を得るか又は元氣の回春を見ると云へば、それは脱却し得られるべきことであつて、結局一時的と云はれるであらう。けれども内部の結合が貧弱であつて整頓がないことは、個人であつても團體であつても、乃至は社會までも、それより以上の病因はなからう。斯る病因を治療するのが、最も急務中の急務と云ふべきである。この病を棄てずその儘にして居る以上は、暗黒や敗亡は離れないことであらう。如何に慈善家の補助が豊富であつても、自家の勤勞がなければ、一生を赤貧で経過するのが常例である。然してそこには天祐もないのである。

かゝる意味に於て自立し得べき自信力のないもの程、憐れなものなからう。又自過を悔改しないも

の程愚なものなからう。我々が現在の如き窮境に陥つてゐる原因は、その數多しと雖、全責任は我々自身にある。然る故に我々自身が前途を開拓する義務がある。個的立場に於て主義主張が異なる點あるにしても、大局の利害得失より觀察して、お互に容認且つ忍耐し、我々民族の將來の幸福の爲にするのが何よりも急務である。多數の民衆が自ら進んで開拓し、發達向上は圖らないとしても、我々に來る曙光を能く吸收し得べき自養は有せねばならぬであらう。吾人が常に自覺ある民族團合を形成しなければならぬと絶叫しつゝある所以はこれである。

#### ホ 價値行動と果斷性

(昭和元年東亞日報)

價値の標準は時代に依り階級に依つて異なるものである。教育が普及される程、個人の自覺が促成され、個人の主張が高調されるのである。故にその個性に基因され、その階級的社會意識に順應されるのみならず、その利害的標準が價値の判断を異にするのである、共通される人性の基調は同一であつても、その人性の基調に起伏される、價値の種類と高低は自ら相異なるを免れないのである。だから支配階級の價値判断と被支配階級の價値判断が、互に相反する實例多きは、これを證明する事實といはれるであらう。かくの如く區別される價値判断の上に於て、自己の短い生命と自己を包含してゐる社會の長久なる生命の發展を圖つて往くのが、覺醒した人間の生活であるといわれるであらう。

しかし更に考慮すべきことは、如何に自己が明敏なる智力を以て、正確なる判断をしてゐるにしてもその判断を實現する果斷がなければ、これは少くとも現實に在りてはないのと同様である。今日の我々の社會には、この現實に服従するものと抗争する異色の社會群とがある。一は現實にそのまゝ服従するを以て、一時の利益を圖得るもの等であり。一は現實が其のまゝ持續されるならば、自己の肉體的生活の面目を到底維持し得られないといふ者等の社會群である。さうして現状維持を固執するものの力が現状打破を力圖するものゝ力より優越であり、強烈であるから、現状はそのまゝに持續されるのであるが、しかしかかる現實に於ても、この現状を打破する力が社會的法則に依り、その内部にて日を逐ふて成長するのも蔽はれぬ事實である以上、この原則と相合する意識をもつてゐる者等は、それを尙助長して速成せしむる努力即ち價値判断に依る果斷性の發現があらねばならぬであらう。

然るに我々の現實は如何であるかといへば、價値判断には相當なる知能が發揮されてゐるが、實際行動にありては、果斷性が極めて欠けてゐる考のみは相當である。語のみは豊富であるけれども、實際の事業が、自己の責任範囲内に落ちたときは、これを全ふせんとする熱情や誠意は却てなくなるのである。今日の朝鮮民衆には政治的の覺醒が必要であるとの聲は、四面八方から高調されてゐるが、實際に於ては政治的覺醒と、政治的訓練を與へるが爲に奮然と蹶起し、熱情と誠意を盡してその責任を全うするが爲に努力するものが幾人であらうか？或者は曰く、現實は凡ゆる方面から活動すべき餘地を我々に

許諾してゐない。我々は閉鎖された環境に包圍されてゐる。故に結局はそんなにならざるを得ないといつてゐる。しかし我々が木や石やでないから活動力が絶対に拘束されてゐるのではない。かゝる難境に於ても、我々が向上して往くべき途はある。勿論むすかしいことではあるが、しかし努力と果斷性さへあれば、或る程度までは往き得ることであり、長足にはならぬといつても、一歩一歩前進すべき途はある。むづかしいとて行かないのは、往かれぬものでなく、唯果斷性がないからであると信ずる。故に今日は日で行動の價値をよく語るよりも、行動で價値判斷を實現する果斷性を以て、必死的に力を盡すべき時期であるといわざるを得ない。

**押**

へ強く闘へ

(昭和二年六月十三日學海創刊號京城)

一、創刊に際して

生活難の嘆聲は日に高くなる。之れは誰の罪か、社會の罪であるか。自己の罪であるか、勿論社會制度の缺陷もあるが、其の原因を溯考すれば、總てが學ばなかつた罪である。從て知らない罪である。

故に日々に増加する男負女戴して、北滿洲の荒野又は北間島の瘠地向つて、漂泊の途に出發する可憐な同胞を目撃するのではないか。

斯の如く世界的貧民となつたのだ。之れを自撃する吾等は一掬の涙を禁はず否も吾等も人間である以上、人の様に生活しなければならぬ。然らば人の様に生きんとすれば、學ばねばならぬ。表面に學ばずして着實に學べよ、學ぶ所には貴賤と尊卑が無い。學に於ても精神を以て學べ、徹底に學べ、自分の物になるまで學べ學ぶには有する困難と障礙を排斥し、涙を浴しながらも學べ如何なる處地に如何なる困難があつても學ぶのが急用であり活路である。

吾等の今日の處地に處するのは、皆學ばなかつた罪である。從て學んでも活用出来なかつた所以である。

政治上の問題は言論の自由が無い吾等としては言ふ必要もないが、經濟上から言つても貧弱である適者生存の聲が高くなる程不適者の存在を許さない。

慚意の因襲に何時までも彷徨せず精出して以て、生活の戦線に奮つて進めよ。缺陷が多く矛盾の多い此の世相と惡戰苦闘せよ。吾等の生路が極度の難關より自助自殺されるまで根氣強く闘へ。

ト宣言 (詩)

(東湖文壇創刊號 昭和二年二月農文文藝誌)

(一) 私は私の國を尋ねて行かう。

第四編 哀愁の曲

如何に憐なものと雖も  
國一つは皆有る

私の國を尋ねて私は往かう。  
此の身が斃れるまで

否な

膚が切れ骨が碎ける事があつても  
戻さなければならぬ

私の國を戻さんが爲め。

破壊し且つ叫ぶ。

(二)

朝鮮の詩人よ。

君等は知るや否や

餓えたる腹を握つて泣く農民等を

工場で呻吟する職工等を

君等の腹を充して呉れる粒々の米

之は農民の血と汗である。

がたくする機械の音

之は憐れな職工の泣聲

腸を断つ機械の音。

勞働者の振廻す鐵の音

之皆生命の行進曲である。

(三)

汝等は何うする積りか。

斷崖を削る勞働者の群よ

汝等は汝等の手に持った鋭利なる鐵で

汝等の墓を自ら掘る

汝等の生命は賤しいもの

汝等の血と肉は無價値なもの

賤い生命の所有者

無價値な生命の所有者

あし彼の權力者の連中を見よ

遠からずして破壊さるべき黄金塔。

以上

チ 出て行く勿れ (昭和二年五月三日朝鮮日報)

母の暖かい乳の如き三千里江山を嫌だとして、荒漠な廣い間島に逐はれて行く、白衣族の悲し兄弟よ此の華麗なる江山を背にして、國境を越へなければならぬやうになつた、其の原因を黙考せよ！其の悲の原因を尋ね出そうと云ふのである。余が諱らなくとも賢明なる吾朝鮮日報讀者で知らぬ譯がない。裂を與へて其の甚の食べない所を乞食すると云ふことがあるか、吾人の様におかしくも悲しいものが、此の世上天地に何處に亦あらうか、誰の失敗で吾人はこんな境遇に陥つたのか、幼い余の胸には知ることの出来ぬ一大渦卷の痛みを感じるのである。

であるから吾人はどんなにしたらよいと云ふことか、日から毎日く元山を経て北に行く、同胞が八九百名に達すると……

嗚呼吾人は泣いてよいか、笑ふてよいか胸が裂ける様な、此の痛をどうして忍ぶか同胞兄弟よ、嗚呼楽しい春と暖い春は、此の華麗なる三千里に尋ねて来たが、此の江山の主人である白衣人等は、どうして此の期節を樂むことの出来ぬ、大不幸を持つことになつたのか、行樂の春であるになせ吾人は風呂敷包みを背負つて、男負女戴で悲しい涙を流しつつ、間島に逐はれて行くかと云ふのじや。

嗚呼悲めよ悲哀の極に達した余の胸には反抗心のみ湧沸する兄弟よ！彼等恐ろしい外來の結果を覺る

兄弟のには恐怖か、戦慄か？否正義を知る兄弟何ぞ恐怖があらう、義憤心のある同胞何んぞ戦慄があらうか「自由を與へ然らざれば死を與へ」と云ふ、佛國革命時代の標語を、吾人は崇拜せむしとして餓死するとも出て行かす開つて見よう、吾人のものである此の江山を出て行かす最後の末まで闘争せう。

二 哀 語

押 一 獨立門汝は去るか (大正十四年七月十四日朝鮮日報)

長白山に秋の風、鴨綠江に春の水、三角山に峰の雲、噫！暮るゝ日、落つる月、凋る花、流るゝ水、何一つとして人生の無情を促さざるものはない。春風秋雨幾十年、獨り寂しく立ちて往き來する吾人をして寂寞を感せしむる獨立門汝は去るか？

西船煙塵天下晦、東邦日月萬年明とは佛艦隊が高宗帝の三年、江華島に來りし當時、之を撃破した大院君の豪吟の詩である。然るに此の開國進取の好機會を失つた朝鮮は、遂に形勢日に非なる悲運を促成したのである。そうして前後反覆の騷亂事變は、一步一步に朝鮮を失敗の深淵に引入れたのである。斯くして高宗帝三十一年甲午の年、東學亂の後に繼いで起つた、日清戦役及其れに因る馬關條約第二條に依る朝鮮の獨立は、唯だ次期の併合を爲す爲めの、險毒なる強隣の陰謀を意味するものであつた。蕭寂

たる朝鮮の政治的事情を背景として、風雨中に孤立して居つた獨立門が、日本人の治政下に崩さるることになるのは當然の運命である。嗚呼獨立門汝は去るか。

景福宮中緯草長

「ウンタルデンリッゲン」の繁昌の市街から、「チエールカルテン」迄の路傍に併立せる「ブランドンブルク」門や凱旋塔は、獨逸人の榮譽で伯林市の偉觀である。ナポレオンの凱旋門は凱旋街の店輔の華麗と共に佛蘭人の誇とする標的である。「チュタブルカ」廣場に聳立せる「ネルソン」の記念碑は、英帝國の隆々たる運命を大呼するものである。そして華盛頓の中央廣場に世界萬國の石材で建設した、獨立百年の記念碑は米合衆國人の雄大なる氣魄を象徴するのであるが、風雨に洒された獨立門は崩して棄てらるることになった。景福宮中に緯草が生へる十九世紀の末葉二十世紀の劈頭、朝鮮失敗の標的たる獨立門の崩されることは又必然なる理勢である。

他力乎自力乎

勝利と凱旋は侵略と征服を意味するのである。吾人はそれをもう云ふのではないが、解放戦の曠野で他力に依頼するのがよいであろうか？一七八二年米國の獨立は佛國を中心として、歐洲列國の援助はあつたが、大部分は自力の成果である。一八六〇年伊太利の統一及獨立は亦そうである。然るに一八三〇年希臘の獨立は、全然露英佛列國の援助に因る他力の成果であつた。十九世紀末ナポレオン戦亂中に獨

立した、羅甸亞米利加諸國は熟柿式であつた。そうして歐洲大戰新興した東歐洲の列國は、他力と自力が相半ばして居るのである。それだから其の國民の消長盛衰に反映することが嚴肅である。釜山港の朝鮮人は傾斜の急な山地に驅逐せられる。大邱、大田から永登浦、龍山、そうして倭城台一帶から南來する彼等の勢力が、全朝鮮を威壓する現象である。幕華館の昔跡寂寞たる義州街道では、崩さるゝ獨立門此の他力の産物なる獨立門が、日本人に依つて崩されんとすることは、寧ろ當然のことである。嗚呼それはそうとして、新時代の眞正なる解放は將來どんなになるか？

□ 光化門を見送りつゝ、  
(大正十四年十月二十七日朝鮮日報)

光化門が崩される。何時も問題となる光化門は畢竟崩される。

總督府の廳舎が落成するので、何處か適當の場所に移轉して亦安置せられようとする、其れは畢竟免れることの出來ぬ現下必然の運命である。

吾人は此れを泣かふともせず、亦慨嘆せうともせぬ。吾人は其の目前に絶大なる慘痛が絶えず襲ひくるのを見るに付、冷酷亦沈痛なる決心を要するのである。鋼鐵の如き意志を持って—今見送る光化門の爲めに泣くのは餘りに闘士の狼狽である。

### ハ 我が史を人が修むるの哀

(大正十四年十月二十一日東亞日報)

#### 最後の精神的破産

正しくなくつてはならぬ物が、非常に不正にやつてのけられて居るものの中に、歴史なる逸物が一つある。

正さに真直ぐな記述と解明とを以て、我が社會的生活の寶鑑とならなければならぬ、その本來の使命は多くは後方に隠れて了つて、却つて強者權力者の利用物となり、その横暴の辯護資料となるは、實に歴史その者に取つて、嗚然たる冤抑と言ふべきである。立派なる脂粉は最も多く醜惡なる顔の化粧品となるが如く、斯く歴史が多く非行敗徳者の遮面保障として使はれるのは、これ又歴史自身の偉大なる實際的能力を證據立てるものであつて、最も克く降はずのが、最もよい酒の證據にはなるが、よい酒が毒藥の様に悪用せられるのは、酒自身に迷惑至極のものでなきを得ない。歴史が人心籠絡及言葉で以て非を飾る上に、何よりも偉大な能率を持つて居ることを看取つた者は、強者、權力者、勝利者等であつた。言はず或る政治的換局に於て、弱者が大抵非者となつて了う如き之であつて、之は國家的革命の場合には、殊に其の度を高めた。更に民族的興廢の場合には、最もその没廉義の悪用を示すのが今日迄の

常例である。近い事で見ても、高麗王氏の末運に關する李朝の記録の如きは、如何に勝者の強腕に對する敗者の微冤を象徴して居るか、明末の事實に對する滿清の記傳が如何に征服者の増上の横暴を表示して居るか。

朝鮮と日本との民族的葛藤は、實に一朝一夕の故ではない。又一起一蹶、時に得時に失つて、或る一方が何時も兀立して居るか、又は平服して居つたのが、その實情であつたらうが、最近迄の段落に於ては不幸にも朝鮮は敗者、倒者の辛酸味を飽嘗せざるを得ない。あらゆる權力の柄を彼に奪はるゝの時に、記録と辯證の權能も亦其の手の内に入つて了つたから、之を好機として彼等の廉耻なき、偽託假飾は自由奔放の翼を、時、空の兩間に伸ばし、許多の巧妙なる遁辭は自己を欺き、吾人を欺き進んでは世界の耳目を眩亂せしめたには魂消て了う。それで彼等の斯る努力がある一方その相手方である、朝鮮人の等閑と怠慢は正にその反比例で、兩者關係の事實は益々其の顛倒反錯を固定的にしてしまつた。兩民族一逆一順の最萬潮を示した最近の交際の如きは、その眞實を望むのが却つて恐なる事なるかも知れぬが、彼の年代が上れば上る程、朝鮮が優強な地位を持つて居つた上世の事績迄も、此の騒ぎに甚だしい抑勒を以つて變へられ、何人も何とも言ふ人も無く、それが事實であるかの如くになつた事は、何たる残念なことであるか。

判り易い一例を擧げると、彼等の所謂神功后の三韓征伐なるものは、既に彼等自身の進歩した歴史家



の手によつてその偽造、反記が辯折論破されて居るけれども、之が彼等の民族性培育の資料に悪影響があつては忍ぶ事が出来ぬと、彼等の手によつてのみ宣傳せられた。それが未だに無識な外國人の没批判な承認を得て、宛ら朝鮮が昔にも日本に屈辱を受けた事があるかの如くに通説せられるのは、あゝ何んと魂消た冤痛ではないか。又、之が最近朝鮮の國家的の歸無に對する冤を抱いて伸ばす事の出来ぬ、一大宿業かの様に宣傳せられるは、何んと悲恨ではないか。之がその儘我子弟の課書に這入つて、ありもしない文書を無理にあるかの様に信せよと言ふ、努力を出さなければならぬとは、是非もなき笑劇と言はねばならぬ。さて日本人の手に成つた今日迄の兩民族關係の記述なるものは、凡そ此の程度の虚妄から脱するを得ないのと、それが或る程度迄其の儘世人に信用せられて居るのと、それともかくもとして、當の本人たる朝鮮人は一切無關心不用意に過ごして居るのを見る時に、歴史が正しきにも不正にも大なる能率の株主である事を知つて居る吾人の眼には他人の知らない、熱い涙が乾く事が無い。

二 朝生夕死を永遠に……………

(大正十四年十月二十一日東亞日報)

錦繡江山の表徴

古來朝鮮で崇んだ槿花が

無窮花に變じ國花となるまで

◆朝鮮國花無窮花の來歴

往者は木槿花 吾人が無窮花と云ふのは槿花のことである。槿花を無窮花と云ふ所以は明かの證據はないが、槿花を古代では木槿花と云ひし事は二千五百年前中國の戰國時代の「山海經」に

君子之國多木槿之華

と云ひ亦

君子國在其北(中略)其人好讓

不爭有薰華草朝生夕死

と云ひ、其註に「薰」は葦なりとあるから、槿花を薰花とも言ひ或は木槿花とも言ひ、木槿花を無槿花と發音した來た様である。此は今日日本で「ムクグ」と稱するのを見ても、其當時の發音が轉化して「ムクンハ」と俗稱して來たのかも知れぬとは學者等の話である。

現代では無窮花 然し槿花即ち「ムクンハー」を今日の如く「無窮花」と書くことになつたのは極めて最近の事である。今から約二十五年前朝鮮にも、開化の風が吹いて來て西洋人の出入頻繁となり、其當時の先陣であつた尹致吳氏等の發意で、我が大韓にも國歌がなくではならぬと言ひ、洋樂隊を設け國歌を創作した時、

上帝は吾等の皇上を助け  
海屋簷を山の如く積み  
権は寰瀛に揚々として  
億千萬歳に永遠無窮である

無窮花 三千里華麗江山

と言ふ歌に附屬して出来た(?)「東海の水と白頭山が干て盡くるまで」と言ふ愛國歌の後付けとして

と言ふのを作つたのが始まりで、權花即ち「ムグンハー」を無窮花と書くことになつたそうである。

國家を作りて國花 そうして此れと前後して、烏山安昌浩先生等が猛烈に民族運動を起す時に、朝鮮を無窮花に例へて雄辯を吐く度毎に「吾無窮花東山は……」と言つて、握筆の破れる様に卓子の上を打て座板の破れる程に足踏をしたのである。こんな事から權花が無窮花に變じて、當時の國民の耳に熟して口にする事になつたのである。何れにせよ當時前後して、權花を無窮花と書始めて之を以て朝鮮の國花としたのであるが「無窮花」と書いた動機は奇麗であつて、亦意味深くする爲めである。

一時は李花に であるから、權花即ち無窮花が其當時國花となつた爲、國民が始めて尊ぶのではなく、前述の如く二千二百年前の昔から朝鮮には權花が多くて中國人の目にも

君子之國 多木 權之華

とし、亦それから時代は一寸遅れて「海東譯史」に高麗時代に、中國に書を送る時に「權花郷」と自慢したのであるから、古來朝鮮に多かつた事は事實の證明する所である。しかし其後は權花に對する記録が一つも遺て居ないから、李太祖の代となつてから李花を尊んで、權花を排斥した様である。そうして其間權花は人の目から遠ざけられたのであらう。

無窮花の特色 植物學は學ばずとも見た人は皆知つておるが、權花は花がそれ程奇麗ではないが、朝露を含んで咲いたのが潤めば他の蕾が代つて直ぐ咲き、之が晩に死すれば亦代つて咲き、死んでは咲き死んでは亦咲き、てはてしなく後を襲ふて只管茂盛することが、「一時榮へて一風に散る武士道を自慢する櫻よりも」、赤い色のみを自慢とする英國の「バラ」よりも、大きいのみ芍薬よりも如何に根氣があつて氣概があるか、到底他のものゝ比でない。それで我が祖上は此「朝生夕死」するも後がある權花を無窮花として、國花としたのであらう。然し今無窮花が其の名の如き使命を盡すことが出来ず、西北道では見ることが出来ずして、京畿方面では心あるものは庭園に植へ、全羅道では農家の柵にして居るのみである。

ホ 仁旺山は依然たるに

勇姿に慘痕は處々にあり (東西日報)

世の遷り變は免れ難い運命である。何百年の間宮前を守つて來た釋家が、頸筋を擧へられて追拂はれてからはや久しい事であり、數十年來愛國の忠臣の壯嚴なる魄をお祠りして居つた獎忠壇が、色の遠つた足跡に踏み躪ちられてからも亦久しい事である。心なき労働者の鶴嘴に西大門や、景幕宮(京中跡)が取壊はたれ、其の後又獨立門迄皆こわして仕舞ふとの噂は、白衣を着けた人々の胸を如何に痛々敷泣かせたであらう。

徐博士等の志士が建陽元年に建立

獨立門はまだ壊たれては居らぬ。その頽廢し疲れた形骸を依然として、仁旺山下に見出す獨立門は初め徐載弼氏外多くの志士の考案で、建陽元年十一月起工し翌年三月に竣功し、李朝五百年來中國の使臣を迎へやうとあわれな有様で立つて居つた豪華館を取片付けて、豪氣堂々と立つたのである。

一朝にして主人を失ひ今は鐵條網の中に

然し間もなく、獨立門の周囲には杭が打たれ、鐵條網が張られた。日清戦争で生れた馬關條約の二番目の條文で、案山子ではあつたけれども、獨立と云ふ世渡をして其紀念に作つた獨立門が幾許もなく、西大門刑務所と巷向ひに監禁を受けるに至つた。その理山は讀者自らかお判りであらう。頽廢した獨立門なりとは言へ、近寄つて撫てて見る事も出來ぬ様に鐵線で塞いで了つた様を見る記者の目には、ヒラテルヒヤの獨立閣、ワシントンの獨立紀念碑を過ぎる度毎に、撫てて見る度毎に跳ね踊る、米國民の有様が

ありくと顯はれる。

己未の年に酷刑を受けて右脚に重傷

獨立門の右脚には、見るも危険な隙が生じて居る。三十年になるか、ならぬかの此の門に隙があるのは不思議だと近所の人に聞いて見た處、三二運動の時或青年が獨立門に、太極旗を立てたのを警官が発見して、それを抜棄すると同時に、元から獨立門前額に着けられてあつた太極旗の色彩を無くし様と消防隊を呼んで來て、ボンゾを差向けた。長年風雨に浸されて居り乍らも、嚴然として書かれて居つた獨立門の文字はボンゾの強水に苔打たれて額に着けた誇逸失ふに至り、仕方無く病身に骨迄歪んだのたをうてある。

取毀ちは虚傳

獨立門は當分は取毀たないと當局者は話した。(丁)

へ 神州の亡びたるを歎きつ、

(大正十五年六月二日朝鮮日報)

安 在 鴻

長途の旅を終へて京城へ歸つた。

京城へ還つて來るや否や朝飯も怠いで食べて、悲痛の氣が一杯になつて居る町を通つて社に出動し敦

化門前に往つた。

白衣の男女群衆は悽愴の氣分を帯びて群がつて来る。歩哨兵の様に並び立つた巡查、追撃の動令を待つて居るが如き、騎馬巡查等はいら立つた氣分で、警戒は非常に嚴密である。

萬衆が慟哭して居る一隅に佇立した。

こみ上げて来る彼等の哭は、骨にからんだ、國民的悔恨の最終の感傷である。回顧的の感傷は彼等のやるせない恨から湧き出るものである。彼等の惨敗の歴史が、そそり出す無限の憤怒の情が、不自然な抑壓の下に於て、沈鬱な呪咀の聲となつて、湧き出るものである。

彼等は朝鮮半萬年の久しい生活の陳い經驗を思ひ出して、その最も大にして高い象徴として、此の最後の帝王を悲しむものである。そして彼等は往かむか還らむか、死なむか生きむかとして居る知るべからざる國の歴史の新しき前途に對して、自分を激勵するの聲である。

各自渺たる一身を以つて、波瀾重疊の生存の大海に確信のない航海を斷行しやうとする冒險を憂うる訣別の悲歌であるかの様にも思はれる。

嗚呼春風千里樂しかつた、錦繡の江山を顧み、神州が陸沈した色々な情景を考へつつ、此聲々の血に泣く萬衆の悔恨は、自然の天機から發して自ら止める事が出来ぬ譯を充分に知つて又且つ、體驗しての感であるのだ。

山岳の莊麗であつた峰巒は秀麗であつた。江海は汪洋として風光は明媚であつた。是れ皆白衣の人の安らげく住みて、生長して來た累千年の樂土であつた。

然しながら秀麗なる山川と、明媚なる風光は忽急なる、まろうごとなり、その一杯に溶びて居つた春光を樂しむよりは、却つて無限の悲痛をそそる様になつた。

都市に於て農村に於て海中に於て、峽中に於て、到る處で此の世の荒き風霜を嘗めながら尙暗澹たる前途を悲歎する數多の同胞に逢ふ時毎に、表現する事の出来ない、無言の悲劇が絶えた事はなかつたのである。

若しその山河天地を汗と血とを以つて開拓し、守護して來た先民の昔の跡を踏査して、今日迄いやされぬない慘禍の繼續を考へると、燃え上つて來る憂の煩は止め所もないのである。

繁昌した市街は、幽邃の洞壑で可愛がられて居る幼い友に對すると祝福の私語が終りもあへず、忽ちにして、暗然たる情緒が彼等の將來の運命を疑はしめるのである。

嗚呼之れ余の多心なるが爲めのみであらうか。吾々が呪咀する時の口輪を彼等の時代に迄殘しはしないであらうかと心配するからである。

經て來た古跡が皆朝鮮發祥、基業に關係が深かつた事を考へつゝ、一路躊躇然として、再び漢陽に還つて來て、忽ちその最後の帝王を奉悼する事になつたのも、又縁の奇なるものである。

盈々たる涙水よ。それ余の心懷を流してくれるか吾が生は限りあり、思は限りなし。限りあるものを以つて、限りなきものを逐はむとするは、古人も亦嗟嘆した。人世は險難であるから余は隠遁しやうか。

西方の浄土は遠くして接し得られない。海波静かならば余は泛べむか。渺然たる舟楫は畢竟何處へ往かむか。嗚呼、既に是非もなし、余は寧ろ喪亂中の同胞に還らむ。そして寧ろ滿天下の血のある人に永へに訴へむとするのである。

難しとて如何にせむ、易しとて遊ばむや

波間に浮べし舟なれば、心も碎かすして自ら往かむ。

行手は暗き海、實に一心ならでは叶ふべき。

### ト 悲哀と感激

(大正十五年五月二日時代日報)

半萬年の久しい歴史を戴き、三十代の仙李最終の寶位に臨御せられた、隆熙皇帝が崩御せられ、二千三百萬朝鮮民衆が、上下の別なく、老幼の別なく等しく闕門に吠尺し僻園窟郷に至るまで、愁慘に沈み日月も爲めに光輝を失ひ、叫號の聲は山河も爲めに寂寞を破る。此れは二千三百萬民衆の、共通の悲哀が一時に爆發したものであるから、假令九鼎を揚ぐる力があつても、此の悲みを折ることは出来ぬ。此ん

な非常の時に當つて、如何に朝鮮總督府警務當局でも、特別に謹慎の態度を以て、職事に臨むことが當然である。然るに國喪發表の前日から、故なく行人を譏察し、哭班に干渉する等無理なる處置を始めとし、遂に宮門前路に武裝警官を堵列するに至り、丁度大敵に臨むが如く、殺氣全市に充溢した状態である。此れが果して何を意味するものか、劍鋒が如何に銳利でも兩行の涙は切れることは出来ぬ。銃丸が如何に猛烈でも、九曲の悲みを破ることは出来ぬ。此の際武裝を以て悲泣の民衆に對する、世界廣しと雖此んな無理は朝鮮の外はあるまい。そのみでなく、殯宮の玉體が未だ冷めず各宮殿下を始め、二千三百萬民衆の悲む最中、狂妄の徒輩が、宮中に闖入したことは、動機は何にせよ、明かに王室の尊嚴を冒瀆し、朝鮮民衆を蔑辱する行爲である。水も漏さぬ警戒嚴重なる、千數百の騎歩正私服巡査で、此れを防がなかつたのみでなく、事後何等懲罰もせぬ、此んな態度は唯に溺職と云ふ計りでなく、此んな徒輩の無慮を助長するものであると云ふ責がある。そして一方號泣する朝鮮民衆の憤慨を激發する重大問題と見る外はない。

### チ 昇遐の發表と雄基普校の涙

(大正十五年五月六日朝鮮日報)

學生等は喪に服して涙  
校長は休學するなど涙

去る三十日雄基公立普通學校では、學生と職員間に一大風波が生じ、一時は氣勢が非常に險惡であつ

だが、茲に其の事實の真相を探聞すると、三十一日朝、朝會の前に、五、六年生が集つて皆憔悴した色  
を帯びて、相談するには、

「王殿下がなくなられたのに就て、朝鮮日報支局では、二十七日發表したが、三日も経つた今日迄學  
校當局では學生等に何等の發表も無いから、此の譯を質問してから、謹慎の意味で、今日の朝會の唱歌  
を歌はず、出来る事ならば何處迄も授業も受けない様にしやう」と堅く團結して始業時間となり、朝會  
となつた。先生の號令で、朝會の唱歌を歌はせたが、五、六年學生等は全部歌はず、何にも頑是の無  
い、下級學生等丈歌つて、漸く朝會の式を終り、教室に入り五、六年生に馬場と云ふ先生が来て、授業  
するから、本を出せと言つたが、皆一齊に本を出さず悲惨の面持で頗る義憤に満ちてゐた、級長は立  
つて、先生に對し、「王殿下がなくなられた消息を朝鮮日報で發表してから、三日も経つた今日迄學校當  
局では、どんな理由で、學生に發表してくれないのかと質問の初矢を放つた。授業に來た馬場と云ふ訓  
導は、どうしてよいか判らず、飛び出して行つて職員室から校長を連れて來たので、學生は又校長にも  
前と同じ質問をした處、校長は「それは王殿下がなくなられた時間が判らぬので、まだ發表する事が出  
來なかつたのであるから、學校でも悪かつた點は許してくれ」と謝罪したが、純真なる感情を持つた幼  
い彼等は極度に興奮した心を取静め得ず、一齊に涙を流し聲を激ませて、互に先を争つて、起立し、或  
は「時日を明確に知らなければ只なくなられたと云ふ消息丈でも何故、我等に傳へてくれなかつたか」

と云ひ。或ひは「此の先皇孫が誕生せられた時は其の日に發表して、休學迄をさせて、此の度昌德宮殿  
下がなくなられたのに、何の思案で秘密に附して今迄發表しなかつたか」と言ひ、又「殿下がなくなら  
れたに就ては、吾人は、哀悼の悲しい思ひが胸にこみ上げて來て、晏然と授業を受けて居られぬから、  
今月は斷然として、休學するのがよいと云ふもの等質問が百出したが、彼等は又「こんなに、無誠意の  
學校當局の指示許り待つて居る事は出来ぬから、吾々が自發的に哀悼の意を表しやう」と月謝金を持つ  
て來て居つた者の金を集め、數人の學生が、呉服店に行つて、麻一疋を買つて來、五、六年生等の左に  
腕章を周く事にして、一齊に分配してやつて忽ちの間に、數百の學生が一齊に左腕に腕章を着け、今迄  
天真爛漫であつた活氣も、見る事を得ず、皆悲しうな顔に憤りを帯び、麗しい眼には言ふ事の出來な  
い涙でうるおひ、見る人をして、悲愴の感に打たれしめた。

校長の涙で、

休校又は中止

王殿下昇遐せられたに對し、學校當局の發表が無くて、五、六年學生徒等が團結し、一方には、自  
發的に腕章を附けて、學校當局に發表しなかつた理由を質問した事實は、別項報道した通りであるが、  
五、六年學生徒一同は、謹慎の意を表する意味で、休學しなければならぬと、強硬に主張した處、安澤  
校長は生徒等に向つて涙を流しながら、哀然として勸めるには「汝等が萬一休學を斷行すると私は責任

上免職になるから、そうなる私には自分の手で刀を咽喉に刺して自殺する」と迄言ふので、生徒等は校長が涙迄も流して、斯くの如く死ぬるときへ云つたので、幼く麗はしい心を持つて居る彼等は師弟の情を思つて忍んで休學丈は断行せず、以前通り大體授業を受けたさうであり、又學校當局では、學生等が着けて居る喪章迄も取り除けよと言つたが、之には學生等が、絶対に應じなかつたので、校長は仕方なく慌てて慶興郡守張錫氏を訪問し、喪章に對する意見を聞いた處、氏は「まだ上司から喪章を着けよとの指示がないから、一齊に着ける事は出来まいがそれだからと言つて、彼等が自發的に着けてゐる喪章を敢えて禁止する必要は無いから、各自随意にするのがよからう」との答を聞いて甫めて學校に歸つて來て喪章は、随意にせよと言明したと云ふ事である。

リ 末

世

(大正十五年八月十六日時代日報)

成るやうに成る此奴の世の中

火柱が立上つて地が崩れて

球界が解體し

宇宙が氣化するとき

總てのものが無の前に合掌するとき

傳統的永い連鎖は断ち切れて

此奴の世上は現實を去るであらう

そうなると金に腹の膨れた奴は泣き

死なうとしても時が無く一文もない奴は

火沼で躍り出し血の酒を啜るであらう

最だ成ろうやふになれ、死ぬる奴はさつさくとたばれ、華麗で眼の眩む程燦爛であつたもの

そして夢の中で笑つて楽しんでおつた世の中は とうとう

何處に其の姿があるか

又記憶があるか此れこそ末世の火の巷に燃えてしまつたのだらう

唯残つたものはポツリ／＼と油の滴る竹と焼残つた眞黒の臟腑のみだ

この時こそ人の奴の力を込めて

造り上げた道徳、貴賤、貧富、制度階級は、溶けて壊れて乾いて間のあることである。あの様に矢筈

敷云つて居た

靈は皆何處へ行つたのか

聲もするところもない

噫、どうなつたか  
あの奴等の末世であつたか  
金、金と云つた金の世の中は  
原始に傾かうとする  
天下に叫んだ文明の時代は  
消失せうとする  
嗚呼、恐さと疲勞さよ  
現實を燃焼する  
火焔は天と地に充滿す  
これこそ開闢の險難の時節である  
末世を宣言する傳統と限命日であつた  
嗚呼、人の奴等は何處に行くか  
平和の天國理想の淨土は何處か  
破塚——死——無——  
生の途は何處にあるか。

### 三 顧 他

#### イ 中國の國權回復と社會運動

(大正十四年六月十一日朝鮮日報)

目下中國全幅を撼動せる排外運動は、滔々として廢止する處を知らず、發展し擴大し行く事は、連日外報の陸續報道する所にして、亦同運動が單順に一時的被動的に止るものに非ず、各種方面より觀察して、眞に悲壯なる重大事態なりとは、吾人の屢々横堅説破する所なるも、更に一步を進めて、同運動の由來及眞因を闡明すること切實に必要な所なり。

#### 二

此度の排外運動は、其動機と源流より見て二種に區別するを得べし。則ち中國の國權回復運動と、自覺せる無産階級の社會運動が、其底流を爲し居ること事實なり。國權回復運動と社會運動は今共同戦線を作して、排外運動に轉化したる結果、實際上には確然たる區分をなすこと困難なり。國民黨を中心とせる赤化分子の活動が、勞農露國と互に氣脈を通じて勞農階級の盟罷を操縦しあることは、掩蔽し得ざる事實なり。故孫文氏畢生の主張にして、亦國民黨右傾分子の信條なる、國權回復、不平等條約の撤廢、國際的平等主義の主張等を主眼となす運動は、其思想的背景及實際運動の方面が、多少相異せりと雖も



此兩大運動が實際に表現せらるゝ時は、兩大潮流が旋回して、界線を區別すること困難となるが故に中國の社會運動は政治的、民族的色彩の異なる、他國のそれに比して一層深厚となる。今回上海の罷業に學生の感情を爆發するに最も有力なる原因は、治外法權即ち租界行政機關が、煽動嫌疑者を任意處分せるにあることを見るも知るべきなり。

## 三

元來中國の治外法權は、中國民殊に青年等の最も不快苦痛を感ずる所なり。彼等が治外法權に對して猛烈なる反對の意思を表示することは、當然なることなり。西洋は勿論東洋にて只中國民のみが治外法權の屈辱下にあり。土耳其は再び昨年七月廿四日モサルル條約第廿八條に依り完全に撤廢せられ、暹羅も、一九〇九年英暹條約に依りて、同様撤廢せられたるも、只中國のみが此の屈辱を受け居れり。而して一九一九年巴里講和會議及一九二一年華盛頓會議に、中國代表が該問題に對して、惡戰苦闘を繼續したるも委員會にて、事實調査を爲すことに決議せしに止まり、何等の進歩なく列強の憤侮を甘受し居るに過ぎず。而して日本は大隈内閣當時締結せし例の二十一個條を以て、國家として所謂獨立權を蹂躪し居れり。此の如き外國の侮辱を受けつゝある中國民が、排外運動を惹起する事は、當然以上の當然と云はざるべからず。

## 四

其れのみならず、租界回收も彼等の近年最も熱中せる問題の一なり。一八四〇年江寧條約によりて、發端せし共同租界制度は、治外法權と相俟つて國家内の別段國家の觀ありて國家主義者及愛國青年の感情を隨時に挑發するものなり。例令ば租界内に居留する中國人に外國人が納税の義務を強要するにも不拘、租界内の政治的支配權には何等の權利を認定せず、一種形式の諮問機關あるのみなり。權利なき義務を強要すること如何にして、智識青年の忍従する所ならんや。其他にも租界と云ふ安全地帯を利用して、武器の密輸、阿片吸煙者の放任等人道に、體面上、各種の不平醸出せられ居たり。之が爲め積年の鬱憤を一雪せんとする中國民の悲壯なる努力が、此の機會に排外運動として、爆發するは自然の勢なり。

## 五

此の如き關係上中國今回の排外運動は、嚴正なる見地より言はゞ社會運動と云ふよりも、民族的解放運動と云ふ方妥當なるべし。勿論其導火線が勞資關係にて、殊に外國人の資本家に對抗するにあれども、罷業が全國的に擴大する直接間接の有力なる動機は、民族的敵愾心より爆發せられたる排外的感情にあり。只赤色分子が此の機微を善く利用することに於て成功せむとせしものあるのみ。

要するに中國の社會運動は、國權回收運動と分離すること能はずして、兩者が並進して最後勝利の陣地に到達するに至るものなり。

□ 中國罷業と東亞の大局 (大正十四年六月七日時代日報)

上海の動亂は、背後にロシアがあるとか、曩に死んだ孫中山の遺志を貫徹するものが潜んで居るとか言つたが、その罷業が擴がつて日本人の紡績會社に及び青島も猛烈となつた。神經の刺戟を受け易いものは何んでも感動すると云つた言の通り、日清戦後北青事變、次で二十一個條の中日協約又更に南京問題、鄭家屯問題、其他色々の中日交渉の凡てから山來する中國人の對日惡感は、無産者對有産者の爭議を起す際に、弱者對強者の憤怒に依る排日的氣分となつて現はれて來たらしいと言はれる。而して吾人は徒らにその労働運動を早速に鑑定をしやうと抗議を中國政府に提出し、一面に高壓的手段を取らうとした、日本政府の措置を穩當でないと考えると同時に、國際的感情を根本的に融和せしめむ事を望んで、日本の反省を促進したのであつた。しかし當初に罷業を煽動した大學生の公判が開れた日に、奪還設動があつて遂に警官の發砲があつて、死傷者を出して事態が重大化した。之から中國の新聞は、外國側を一齊に攻撃し學生、労働者、商業團、官吏等が皆結束して、上海全市の總罷業を斷行し支那各地にそれが擴がつた。茲に至つて中國の罷業は單に労働運動のみでなく、又日本に對するもの丈でなく、積年の間強權と金力の壓迫を受けて來た列強に對する惡感が一般的に爆發して、露骨化した排外運動、即反帝國の運動に變化して制止する事が出來ぬ様になつた。故に、吾人は中國の労働運動、及社會

運動は他國民の労働運動、及社會運動とは性質の異なつた點があると思ふ。即ち青年の學生團が、純然たる労働運動のみを起こしたとしても、その本分でないきらひがあるのに、外交問題の政治的運動を加味したのは、自國政府の存在を極端に否認したものではなからうか。又その運動が他國民の労働運動の様に、單純な勞資對立ではなくて、唯一の動機が外國人の資本主義を排斥しやうとするにある。中國の近代工業が全然外國の資本に依つて、左右し居る今日に彼の運動を作り出したものである事を考ふる時に、中國人の労働運動は、外來の勢力を勞資の爭議と共に排斥しなければならぬ事であり、運動は二重の意義を持つて居るから、結局中國と關係のある東西列國の共通問題と云ふべきである。

ハ 中國の騷動を見て (大正十四年六月十六日東亞日報)

舊文明國としては、偉大な歴史を以て居つても新文明國としては、落語して居る國の一つが中國である。

中國は自己固有の文化が幾千年根強く、頑着して居つた丈それ丈、今日質が同じからず體の異つて居る新文化を移植融化するに困難を感ぜざるを得ない。新文明を移入してから半世紀の間、之を普及し、消化しやうとした、國民的努力も多大であり、又其間他の力の侵害も振はなかつたから、自分の勢力を振ふに好機會であつた。しかし元來中國と云ふ國は、势力的統一と政治的統轄を作るには餘りに國が廣

過ぎ、のみならず自己固有文化を普及消化しやうとする國民的努力が、充分にその効果を致す事が出来ず、新文化の不普及及不消化は、未だに其儘に持續せられて居るのが、今日の現狀である。しかし中國人の文化運動は昨年の運動が、今年に至つて一層猛烈になり、昨日の努力が、今日に至つて又益々強大になつて居るのを見て、中國人の文化運動は日々に猛烈となり、堅實となつて居るの感がある。そうして、その運動と努力は種々の形式と體様で顯はれて居るが、その最も大きな例は政治的變革から生れた「民國の建設」であり、小さい例としては最近往々にして勃發する各種の社會運動と勞働運動とが之である。

青島で突發して一瀉千里に全國各都市に蔓延した、所謂排外運動そのものは、觀察標準に依つて勞働運動とも見れるし、國權運動或は國民經濟運動とも見る事が出来る程、その裏面の原因は單純でないのである。しかしその運動の原因の何れもは、皆權利維持を根本精神として新文化思想と接觸關聯して居らぬものはないのを見て、之を概括して文化設法の發作であるとする事が出来るのである。英國人と日本人の資本的勢力が、移植せられて居らなかつたとしても、必ず起るべき運動であるからして、之は單純な排外運動で無い事が判り共産ロシアの宣傳隊が、侵入して居らなかつても起るべき運動であるからして、之を單なる赤化運動とのみ推斷しては不可である。今回の事件が発生した裏面の事情に對して觀察した處を述べて見ると、一は南京を活動根據地とする國民黨一派が、勞働階級と主義者とを利用して

て、一致の行動を以て外國人經營の機關からは罷業を斷行し、侵害を加へる、すると之は屹度外交問題を引起すものであるから、之を若し中國人に取つて有利に解決せられないとすれば北京政府は責任を避け得ない關係上政權を拋棄するの窮境に陥るのであるから、此の機會を利用して、自分の勢力を擴げやうとする政治的野心手段から、發せられたものであると推測する者もあり。或は毎日熾烈になつて居る勞働運動者が、全國の勞働運動者を團結するの目的で、各地工場勞働者をして、工人會に参加を勧め、又はその参加と組織を工場主に強要して、畢竟雙方の不協調で衝突した勞働運動者の憤起であると云ふ者もあり、且つは又南方に赤陣を敷いて居る、共產黨の赤化運動の發露であると云ふ者もある。

以上の觀察は今日南北派が、互に相反目して居る政治的鬭争關係から見ても勞働運動と、赤化運動が日々に熾烈になつて行く有様から見ても、一理を各々表示した推測ではあるけれども、以上の三事實中の一つを以て原因の全體となすは不可ない。各種事實が相交つて、今回の運動の原因となつたものであるが、之は總括して、新文化思想を基調とした國民的自立運動と見るのが至當であらう。

## 二 日中提携説と東亞の政局

(朝鮮日報大正十四年七月三日)

中國罷業の擴大は將來如何なる局面にて、收拾せらるゝか、徒らに揣摩臆斷を許さないが、芳澤公使の意見なるものが、所謂根本的日中親善策なるものが述べられて居つて、政治的に日中兩國の提携は東

亞政局打開上の一大急務であると言つて居る。未だ此の報導は盲信し得ないが、從來日本の傳統的對中政策に溯及して見ると、無稽荒唐の説でもないかも知れぬ。

さて日本の政治的に中國と提携するの必要を主張したることは、決して新奇なものでない。日清戰爭後日中の葛藤が、頗る多端であつたことは言ふまでもないが、日本が大陸發展策を國是と定めて、其の物々たる野心を充たさむが爲めに、先づ朝鮮に當面の強敵たりし、露國を滿洲から驅逐し、其處に經濟的特殊の勢力を扶植するに銳汲たりつゝも、何時も其の狡猾なる口實は「東洋平和の確保」「日中の親善」であつたことは世人共知のものである。

斯く日本は「平和」「親善」の口實の下に中國の巨驕を蠶食するにも拘らず、中國は英佛獨等西歐諸國の侵略が歩一步肉迫して來るので、奚んの暇にか、日本の侵入を防止するの餘裕あらうや、却つて同文同屬なる親近味を以て、又且つ中國流の以夷制夷の策を以て日本を利用して、白哲人の侵略を陰暗の内に牽制しやうと腐心したのも、掩ふことの出來ない事實である。

斯く、日中兩國は侵略被侵略の相反した地位に立つて居るにも拘らず、時に随つていつも中國が自ら進んで親日的政策を探らねばならぬやうになつたのである。彼の袁世凱、段祺瑞、孫文等諸愛國的政治家が皆一時に親日的政策を取つたことは、這間の苦悶相を象徴する者として、世人の注目を惹いたものである。

然し中國が争でか、日本の破竹決河の勢で急速に押寄せて來る事態に無關心であらうや。西歐諸國の侵略以上の侵略を日本から受けるに至つて居ることを意識すると同時に、驕然として覺悟するや、日本を西歐諸國以上の敵國として對するに至つたことは、其の必然の結論である。日本寺内内閣當時に親日的政治家、段祺瑞氏の失脚は實に數十年の間、日本と中國との兩國の暗黒面に低迷して居つた似て非なる國際的親善の弊痕が破れた序幕劇であつた。さうして所謂日中の政治的提携なる陰險なる口實は、幻滅の悲哀化するに至つた。

然し蜜の味を知つた「狐」は更に蜂の巢に向つた。政治的に提携しやうとした日本は、其の口實が幻滅するや更に經濟的提携てふ口實を標榜して、新しい武裝を以て中國の侵略、それこそ一層實際的であり、一層惡辣なる手段である經濟的搾取を大規模に行ふに至つた。勿論中國は第一革命以來名實相合ふの中央集權國としての権能を發揮し得ずして、次から次ぎへと起る内憂外患に國財は缺乏し極度の營養不足の状態に陥入つた爲めに、經濟的援助を必要とするの時期に於て、斯くの如き日本の經濟的提携は香餌とならざるを得なかつた。

斯くして更に日本は、再次の侵略に着々成功の實を擧ぐるに至つた。然し限りある經濟が、限なき搾取慾を永遠に満足さし得ない。かくて所謂經濟的提携の口實も、更に幻滅の末期を自ら招くに至つた。是れが即ち今回の日本の資本家を對象として、爆發した排日運動として顯はれたものであると謂ふべき

である。斯の如く經濟的提携策に窮するや、日本は更に政治的提携説を主張した。這は彼等の狡猾性を反證するに充分であるが、此の最後の口實は果して怎んな程度で破綻した局面を彌縫するに至るであらうか。

### ホ 日中は親善することが出来る乎

(大正十四年七月十四日朝鮮日報)

日華れて益遠き日本の立場

中國民の排外的傾向は由来が久しい。其の運動の方式や規模も、漸次變動して居るのである。孔子の春秋が尊華攘夷の主見から著述せられたことは明かで、女真蒙古等の中國統治以來、宋儒式の悲憤慷慨の賤外心を助長するのは、當然のことである。吾人が屢々例證する北清事變の如きは、二十世紀劈頭に當り、愛國排外熱を表現する意味のものである。

曩きに米國の中國移民排斥に因る米貨排斥の運動は、國別的排斥運動の發生時期に屬するものであつた。一九一一年帝政當時露國の伊犁侵入事件に因て、一時排露の運動を起したのと、其の直後に英國の軍隊が緬甸から片馬に侵入せし當時、青年學生等が排英貨の決議や、運動を計畫したことは、其の成長期であつたのである。

### 二

今其の盛大で猛烈なるものは排日運動が其の代表的である。之れを六回に分けて其の順序と經過を略述すれば、

第一回、一九〇八年所謂辰九事件で、日本側の威嚇的抗議が中國民の憤怒を激成して、三月から十一月まで日貨排斥を斷行したのである。

第二回、一九〇九年所謂安奉線問題で、吳錄廷の出兵示威と同時に、日本の最後通牒が原因となつて八月から十月まで、滿洲方面が日貨排斥運動の中心地となつたのである。

第三回、一九一五年所謂二十一ヶ條問題で、漢口を發源地とし、全中國に擴大した排日貨の運動である。

第四回、一九一五年ベルサイユ講和會議當時に山東問題に關して、北京の學生團を中心として、爆發した四五の運動及五七運動が、全中國に波動し、十二月まで持續したのである。

第五回、一九二〇年同上の二十一ヶ條廢止と、旅大回收問題で四月から八月まで、武漢を中心として猛烈なる排日貨運動が斷行せられたのである。

而して今回の示威動亂は、其の六回として一般が其の事情を周知する所である。

### 三

中國の排日感情は遠く、日清戰役の敗戦に其の遺恨を深くし、北清事變の日本軍の追撃に依つて、一

府骨髓に達したのである。日露戦役後南滿洲の占領と及朝鮮併合に依つて、其の疑懼と憎悪心を煽揚し更に二十一ヶ條の問題に關して、不倶戴天の白熱絶頂に達したものである。而して今日彼等が敵愾心の高調に従つて、新たに日本除外の論を聞くのは「各個擊破の賢明なる策戦であつて、精力を當面せる最大強敵の英帝國に集中せんとする」深謀遠慮より出でたるものであるが、彼の排日の氣勢は何等低下せる傾向も見えない。今日日中親善を論ずるのは、甚だ時務を知らざる俗士の云ふことである。況や米國が幾十年來進退自在の外交策で、中國人の執心を買ふに専力する策戦もあり、且つ日英兩國の兩人の皇子が英帝國の首府で、團欒として交歓して居るので、中國問題を對象として、日英提携の風説が頻繁なる此の時に於ておやである。

四

ベルサイユ會議及華府會議を一期として、西伯利及中國大陸に對しては、政事的退嬰を覺悟し、唯だ朝鮮及遼東半島に占據し、極東に對する既得の地位を保全し、徐ろに滿蒙に對する特殊地位の利用を劃策し、前述の兩大平原に對しては、専ら經濟的有利の地歩を占領せむとするのが、彼等の滿全の策略として居るやうである。日中親善と云ふ標語や對支文化事業の劃策から見ると、華府會議以來日本政治家等の中國に對する聲言より見るも大に明白である。而して日中親善の高唱せらるる反面に、中國親日政治家の中國民に對する地位が、常に不安と恐懼中に陥るのである。對支文化事業と云ふ、所謂文化侵略

の罪名で中國急進的青年等に指彈せらるる事は、即ち日中兩國民の間に容易に氷解の出來ない猜疑と怨恨を意味するものである。所謂日中親善と云ふのは、沐猴冠の口頭の美語である「對支文化事業」と云ふのは老獪なる米合衆國の積習を管むるに過ぎぬのである。米國の攻勢外交が、常に日中關係の機先を制せる今日廉價「日中親善」は成功の望のないことは明白の理勢である。

五

要するに二葉帶水の日本が、朝鮮及遼東に占據して、水陸併進侵略の形勢を取り乍ら、例言を卑ふし幣を厚ふして中國人の執心を求めむとするも、之を以て彼等が氷解し安心の状態を出現することは困難である。況や華府會議以來顯著なる日本の退嬰的政策は、既に中國人をして「與みし易し」との感を抱かしむるに於てをやである。此際日本人は米露を押へて、中國に對する優越の地位を確固にすることは出來ず、英國と聯合して天下三分の形勢を助成することも困難であるし、退いて眞正なる日中親善で亞細亞聯盟の夢想を實現することも不可能である。日本の爲政家たるものは日暮れて途遠しの感深しである。然れども中國は無力であるから、進み行く歴史の行程として必然日本と共に流れ行く社會的急流中に没入せらるることになるであらう。

濠洲の黃禍論

(朝鮮日報大正十四年七月十四日)

溟洲の首府シドニーのシドニーレグラフ紙では黃禍論を掲げて東洋人、特に日本人の排斥を力説した。白濁主義で有名な同地で此の言論を聞くのは當然である。然しながら曠漠たる太平洋原を抱擁して居つて斯かる處置は甚だ悪い。排斥されるものが日本人であるがらよろしいと言ふ理由は無い。

日本は海國である。海國男子を誇る日本人。九洲、沖繩、臺灣から東印度諸島へ下つて往つて、其の天然形勢に順應せずして苦しみ苦んで、朝鮮半島に懸着して吾輩と輪廻を百年で争はむとするは頗る氣局の狭小なるを笑ふ可く、彼等の南進は卿等の宿縁ではなからうか。

### ト 異族の治下で呻吟する大印度

(東亞日報大正十四年七月十二日)

印度は今更言ふまでもなく數世紀の間英國の治下に在つて、政治的自由は剝奪せられ、社會的平等は無視せられ、經濟的機能は迫害せられて、専ら塗炭の中に呻吟する一方である。吾人は丁度等しい立場であつて彼等弱者の絶叫を一々知つて置く事は、吾人には多大の教訓となることと信じて、此の論文を紹介しやうと思ふ。然し讀者に豫め注意を請ひたいことは、第一原文は日本人伊藤龜雄の手になつたものであることと、第二は印度の政治運動は自治運動が優勢を占めて、吾人とは方向が全然違ふことである。(一記者)

難行苦行をする印度で、ガンダーの様に非協同運動なる新形式の難行苦行に依つて、印度國民の解放

を企てやうとする、偉大な實行者が出現するに至つたことは決して、偶然ではない。

ガンダーの教義は極く單純である。その教義は印度人間に獨立精神を注入するにある。數世紀の間も外國の治下にあつた爲めに、不知不識の間に自己の存在を忘れて居る、印度人に向つて先づ自己發見の方法を教へるのにある。

### チ 猶太人の運動記事を見て

(東亞日報大正十四年八月二十三日)

筆者は去る十八日本報で、既に存在を失つてから二千年でふ長い時日を経た猶太民族が、四千てふ多數の代表をツキナに集めて、民族復興運動聯合大會を開催するてふ記事を見た。

二千年てふ久しい間其の存在を失つて居つた民族が、どうして今日の如き曙光を認めるに至つたのであらうか？、吾人は難解の「謎」と見ざるを得ない。

あゝ彼等は神が擇んだ民族であるから、そうであるのであらうか？。そうでない、余は斯る迷信は信じようともしない。

それでは、現世で萬能の黄金の方であらうか、或は智識の方であらうか。そうでない、之も多少の原囚とならぬでもないが、彼等にそれよりも大きな力があるのであつて、それが即「猶太民族であるてふ精神」である。この精神が彼等を今日迄地の上に残さし、今日あんな事業を顯させるに至つたのである。

今茲に比較して我々を顧みると實に驚かざるを得ない。甚しきに至つては之では此の現状より再び生き出ることが出来るであらうかとの疑訝さへも禁ずることが出来ない。

吾人も前には其の固有の「倍達の精神」を叫んだ。そしてそれに因て三一の運動もあつたことは事實である。

然し乍らそれも今となつては跡方すらも消えて了つて居るやうである。老少を問はず叫ぶのは、只黄金とパンのみである。勿論吾々の目下の情況は何よりも一塊のパンが無いと此の様な「生」ですらも維持する事の出来ないのは事實である。澤山の白衣を着けた朝鮮の民族よ、それがどうして吾人が再び生き出る唯一の活路でないだろうか。

あゝ吾人も生き様とすれば、猶太民族を手本として「倍達の精神」に還元しやう。

「虎に咬まれて拉去されながらも、精神を失はなかつたら生きて居る」と云ふ俗語がある。之は平凡な俗語に過ぎないけれ共「再び生き出る」真理は此の中にある事を覺れ。

あゝ朝鮮民族よ！生きむとするならば「倍達の精神」に！！

### リ 日本は覺醒するののか？

(東京日報昭和二年二月四日)

朝鮮の形勢はだん／＼變動して往く、現状を維持せんとするもの等が如何に人爲的の防衛策を施し

その萬全を期せんとしても、生長性を有するこの社會は依然として動いてゐるからだ。而して日本自體の社會的分解作用や、その政治的律動も停滯することなくその必然たる途を踏んでゐる。又世界の耳目を集注してゐる革命運動中のかの中國はその社會的分解や、政治的革新が最も著しくなつてゐる。

凡そ沈滞や停頓中に於て無爲な生活をする社會と、奮發や緊張を以て革命的闘争を持続する社會との進歩、或は變遷さるゝ程度は比較し得られない差異があるのである。だから今日の革命的潮流が動いてゐる極東諸國民の社會は、その變動して往く將來を平凡なる時代のそれを以て尺度することは出来ぬであらう。

かゝる時期に於て朝鮮人は如何にすれば好いのか。これは、吾人に當面せる問題である。これと同時に日本の態度が如何になつて往くのか。これ亦重要視すべきことである。朝鮮に對する日本の態度は我々が常に論議するのであるが、今日の日本はその國際的地位に於て頗る非常なる時期に遭遇してゐるといへるであらう。一個の國家の國際的地位が頗る非常であるといふのは、たゞ目前に迫つて來る砲火のみを表示するものでなく、その周圍に於ける國民等との平和圓滿ならざる關係に因り、その運命を左右せしむるときが多いのをも表示するのである。今日の日本は内的には依然分解せんとする保守的形骸を持つてゐる社會を有し、外的には曾て合體さるゝを考慮もしなかつた二千數百萬の人民をその帝國的領域内に置き、又劃期的の發展をなさんとする四億の中國民と隣接し、これと最も深き關係を有する露英



米の列國と、その間に顔顔せんとするのは、何れの意味から見ても頗る非常なる時期に處してゐるといはねばならぬ。この時に於て、日本が覺醒するか否かは興味あることであるのみならず、これは極東形勢の發展上に頗る重要な關係があるのである。

日本は近頃中日の親善を計畫してゐる。一九一五年大隈内閣當時より今日まで問題となつてゐる二十一條條提出前後の日本の行爲は、その國際史上の失策であり、大隈氏の政治家的聲價も頗る致命傷的打撃を受けたものである。

今日の若槻、田中床次等各黨首領なる者は、維新以來の日本に於ける、第三流の政治家とはいへるだらう。これ等に因り、指導さるゝ日本の現實政治が非常なる失策のないのは、たゞ平凡なる、常道を脱し得られないからである。

惟ふに小心翼々として、國際的脱線行動を慎むのは日本現下の國策である。これさへも一種の覺醒とはいへるであらうが、しかしそれ等が革命中の中國民や、反亂を期する朝鮮の民族を目前に置いて、如何なる積極的の行動を採り得るかは一大疑問である。日英同盟説に對しては昨日の本欄ですでに論じたのであるが、今日の日本としては、全東洋の國際的解放を熱望する約七億の諸民族を新に敵とすることを覺悟しなくては出來得ないことであるのみならず、早晚展開すべき新時代に對し保守的斷末魔の辛酸味を味ふことになるだらうから、これは日本としては、慎重な考慮を要すべきことである。日本は英米

等諸國の間に於て帝國主義の伴隨者として無用なる犬馬の勞をなすべきか？。或は解放を熱望する東方の諸國民——その隣人等とともに、展開せんとする新時代に善處するを計畫するのがいゝか？。それ等の地位が、頗る困難なる立場にあるのは事實である。しかしそれ等が小心翼々たる消極的の立場により時局轉換の重大なる任務を盡すやうな積極的の行爲に出でることは不能である。それ等にはかくの如き力量を有する國民的指導者が無い。

#### 四排 他

##### イ 異議申立却下で辯護士協會奮起

(昭和元年十二月六日中外日報)

道知事の異議申立却下は萬々不當なる處置なりと證據事實を列筆攻迫

京城府協議員不正選舉に因り奮起した李弘鍾氏の異議申立は、證據不充分なる理由を以て、京畿道知事より却下された。その處分に對し確に不正當なりとして朝鮮人辯護士協會は、先日市内某所に多數の人士を集合し、其の誤を改めんが爲に、善後對策を長時間講究するところあつたが、その問題は漸次範圍擴張されるやうである。尙ほ昨日は道知事より發表された却下理由に對し、更に返迫し得べく有力なる事實を辯護士側に於て握つてゐるやうである。即ちその内容は左の如く。

一、金與順は全然無筆者にも拘らず、投票の事實明瞭なることは確に代人投票を爲したるものなり。

- 二、投票者徐方吉は五月中死亡したる者なり。
- 三、海田某は日本旅行中で不在なり。
- 四、秋山某は病臥中で他人をして代理投票を爲したることは動かすべからざる事實なり。萬一總ての投票が假令富井氏に投票したものと全部確認し得ざるとしても、不正投票の事實は明瞭である。然る故に選挙全體の効力に及ぶべきものである。

司法権も發動

偽造投票事實調査の爲に

検査局にて活動開始

此の問題に對し京城地方法院検事局に於ては、一方で斯の如く朝鮮人辯護士協會側の騷起あるのみならず、事件自體から見ても偽造投票した犯罪事實歴然なるものにして、到底黙過し得ざるを以て、活動を開始する次第なりと。

#### 河東在留日人の妄動

(昭和二年二月十七日東亞日報)

慶南河東郡に在留する日本人齋藤外四名は、河東郡に在留日本人代表名義で、一月二十日付釜山某日文字紙を通じて發表した意思と、一月二十三日河東佛教堂に於て開催せんとした、在留日本人總會召集の動

機は其の大意が、朝鮮人公醫の排斥問題を中心として論議されてゐるが、それは朝鮮人日本人の間に感情を挑発すべき憂慮ありとして、警察側の斡旋に因り結局會合出来なかつた事實である。しかし彼等は更に一月二十四日午後學校組合總會と云ふ形式を取つて、在留日本人十餘名の總召集をしたのである。而してその會合の内容は絶對秘密に附されてゐるので、委細なる内容は知らないが、探聞する處に依れば、一部反叛派の強硬なる反對の主張に因り、何等具體的の決議もなく、結局そのまゝ解散したと云つてゐるが、その後にも續いて猛烈なる反目的運動が進んで往くやうである。

然るにこの排斥する原因を聞けば、昨年度までは日本人公醫と朝鮮人醫師合せて三人があつたが、日本人醫師二名が全部他地方に轉居すると同時に、昨年十二月中慶南道知事の辭令で、姜錫根氏が公醫に任命されたのである。やがて在留日本人側に於ては、朝鮮人公醫を置くのは不可として、上記の如く排斥運動を起したのであると云ふ。過去に於ける河東の醫界を顧みるに二名日本人醫師が居たが、日本人患者も朝鮮人患者も醫師の國籍如何を問はず、お互に診斷を受けた事實がある。

醫師と云へば少くとも人間の生命を左右する重任をもつてゐる者である。朝鮮人であらうが、英國人であらうが、病氣さい治療すれば好いのではないか。醫師の國籍如何で病氣の治療に何等の關係はなからう。彼等の公醫排斥の理由が那邊にあるのか、實に不思議であると同時に、彼等在留日本人總會召集當時配布した檄文に依れば、その内容が公醫個人を排斥することよりも、河東郡の朝鮮人全部を無視す

るのであり、のみならず我朝鮮人全體に對する無視的暴動なりといふべきことである。然るに朝鮮人の感情は深切に衝動されて、それに對する對策を講究中である。だから兩方で暗々裡に流るゝ空氣は頗る險惡化されつゝあるさうだ。

見よ！現下朝鮮人の生活が次第に破滅さるゝその原因が那邊にあるかを……これは我々よりも彼等がよく解るであらう。破滅さるゝ反面には彼等の富が殖るのでないか？彼等が朝鮮内に移民となつて来たときに所持の資本金は幾らであり、現在致富した資産は幾百幾千倍になつてゐるか。又は現在までの彼等の食糧は誰から得たのであり、要路に於ける彼等の商店に出入して賣買する者が誰であるか、その賣買の性質上から見ても、すべてが彼等の利益となる賣買ではないか、これは明確なる事實であつて、彼等としては到底否認し得られないことである。それよりも尙ほ重要な河東郡の統計から見よう……總耕地面積一萬二千五百二十七町歩の内に、彼等の所有面積が約一割を占めてゐるのみならず、その外朝鮮人所有の三分の二以上は彼等の手中に抵當とされてゐる。その件数が果して幾百幾千件になるか、數字上では細密に知らないが、河東の耕地面積は殆んど全部が日本人のものになつてゐると云つても過言ではなからう。我々の現状はかくの如く慘憺である。又戸口別から見よう……總戸口一萬七千六百九十八戸中、朝鮮人は一萬七千四百六十七戸で、日本人が二百七十七戸である。しかし百分の一にもならぬ少数者なる彼等の財産と多数者なる朝鮮人の所有を戸口別に比較して、朝鮮人の經濟生活が豈に悽慘な

りと云はれないであらうか。彼等も人類愛があれば道徳的に考察して、深切に自省せねばならぬであらう。恨みを懐いても朝鮮人が懐くべきであり、排他的思想があるとしても、朝鮮人にあらねばならぬことではないか？朝鮮の爲に生活し、朝鮮の爲に成長する日本人が、朝鮮人を排斥するといふのは、如何に正義人道觀のなき日本人でも、敢て取るべき態度であらうか？（河東一記者）

**押**

氷 庫

（小説）（現代評論昭和二年五月號）

尹 基 鼎

寒いので一晩の間に漢江は氷が厚く張り詰めた。

昔は此の水を江岸の者が任意に採取して、貯藏もし、使用もした。今日ではあの——水會社が出来て村人が勝手に採氷する事が出来なくなつた。此の村に憐な老人が居る。息子二人皆石首魚船で死んで仕舞つた。村で憐な老人と言へば誰でも知つて居つて、其の老人の言にはよく服する。明浩も氣の利いた青年だが、此の憐な老人を尊敬して居る。

x x x

今日は馬鹿に天氣が寒い。今迄二錢で運搬して居つた氷を、一錢五厘に下げると言ふ話を聞いた村人等は異口同意に不平を唱へた。

此の寒空に二錢でも安い運賃であるのに、一錢五厘に値下げるとは強慾な氷庫の主人じやと口々に傳はつた。明浩と老人とは村人を集めて、皆さん二錢の運搬賃でも不平だから、一枚の氷を氷庫に入れるには五錢宛を取らうじやないかと言つた。皆賛成した。

然し氷庫の主人は一錢五厘にすると云ふ。

皆さん如何なる苦痛が吾人の頭の上に降つて來ても、一人でも一錢五厘で氷を運搬してはいけません。吾人は團結の力で五錢に値上する迄は、たとひ妻子が飢死しても之に應じてはなりません。明浩と老人は村人に誓はしめた、一同は之に賛成團結した。

氷庫の主人は困つて澤山の楢を雇つて來た。

楢が何十臺も積いて氷の上を滑走して、氷庫に氷を運び初めた。

一臺の楢は突然氷の中へ落ちて、二人の夫は流されて死んだ。

其の陥穴を誰が掘つたか滑走の途上に陥穴があつたが、その側に明浩は鋸を持って立つて居つて、自分か此の一村の氷運搬人一同の生死問題の爲に掘つたと斷言した。其處へ老人も來た。

楢の夫は明浩を氷漬にしやうと憤怒した。老人はいや俺が手傳つて掘つた穴へ、お前等が二人も陥つて死んだのだ。殺すのなら俺を殺せと言ふ。

楢人夫は引上げて仕舞つた。其の後氷庫の主人は馬車を何十臺も雇つて來た。村人は之を發見して馬車を取圍んで叩き殺すと云ふ。

村の氷運搬人は一錢五厘に値下されてから、一切氷を運ばないことを誓つて、以來飢と寒さで妻子眷族は半死である。

死ぬるのは一つだ馬車挽きを叩き殺して死ぬるも、飢寒で凍死するのも一つだ。我等の職を横取る馬車挽は一人も残らず叩き殺すと云つた。

馬車挽は之を了解してさつさと引上げた。

× × ×

村では悲惨な日が続いた。水庫の前に一同は集つた。明浩と老人とは主人に談判して五錢に吊上げさせた。

× × ×

村人一同は萬歳を唱へて喜び勇んで水の運搬に着手した。

× × ×

明浩や老人は考へた。五錢に上げたつて水庫主人は損をしない。夏がくれば七十錢、八十錢に賣るのだからまだく運賃を上げても算盤に合ふ。おうそうだ、あそこの三棟の倉庫も村人のものにし、川の氷も自由に採氷して、夏が來たら勝手に使つて餘りは安く賣る様にせねばならぬ。

× × ×

村人に此の事を談した。村人は賛成して水庫主人を追拂ふ事となり、庫の三棟は測量を終つて村人の所有となるべく村人は喜び勇んで自分等の庫へ氷を運ぶ。

押

二 重 (小説)

崔 曙 海

僕は一週間程前に事情があつて、日本人村の若草町に移轉て來た。

周囲は日本人の大夏高樓で、自分も夕飯を食つて二階へ上つて四方を眺めると、何だか王様になつた様な氣がする。

× × ×

隣に日本人の老婆が居つて、僕の家へ水道の水を貰ひに來る。或る日其の老婆と吾輩の妻子とが錢湯へ出掛けた。

× × ×

番臺の老婆は「朝鮮人はイリガオブンジャ」と妻の前に立ち寒さがつて入浴を拒んだ。

× × ×

此の様な日に合はされた妻女は、泣いて歸つて、もしもし旦那様、妾は今日限り此の若草町に住むはいやだから、他へ早く引越しをしようと思ひ泣きに泣き伏した。

× × ×

おのれ見て居れと、むらむらと込上げる憤怒に僕は虎をも生捕にする元氣で、手拭と石鹼とを持って俺が行つて入浴つて見せると泣き伏して居る妻に言ひ残して家を飛び出した。

× × ×

途中で餘りに憤慨して居つたので、巡査に交通を整理されたのも氣付かぬ位に驅出して行くと、ふと

向から浴衣掛けて風呂歸りの友人に出逢つた。

おい君は何處へ行くかと言はれて、風呂へ行くのだ、今し方こんな目に逢はされて妻が泣いて歸つて居るから、俺が仇討をする意味で入浴して見せる、もし、二の句の三の句のと文句を言つたら承知しない考なのだ。

あゝ君、駄目だ、ヨボは風呂へ入れないよ、日本羽織に下駄を穿いて行けば入れるが、白衣の人は入れないよ。

僕は仕方なく歸つて来た。

嗚呼我等は二重の悲哀を持つて居る。朝鮮人だから、ヨボだからと言つて彼等は吾人に入浴を拒む。それから我等は家がないから、周囲が日本人の處へ引越して来たのである。此の悲哀は忍ぶ事が出来ぬ。それから以來隣の老婆が憎くなつた、坊主が憎くければ袈裟まで憎んで、老婆が今晚はと云つて、水を貰ひに来たら、今晚はと答へて居つた吾人は、無答の儘水を給與することを拒むでやつた。

それのみならむや、家は明渡を命せられた。

然し此の胸の中に積りに積つて血管や細胞に深く、且重く潜み込み込んで行く二重の悲哀！おゝ吾人はその大きくなる將來を靜かに眺めて居る。

世人よ！知るや否や。  
俺は此の悲哀に堪へずして、此のつまらぬ文を書いたのである。

**押** 二 朴爺の話 (小説) (新民昭和二年五月號)

慶北金泉市場は賑かな處で、市日には農民等が田舎から澤山出て来る。

朴爺も金泉市日にやつて来て、一杯飲んでほろ酔氣嫌で「エー萬歳〇〇萬歳……」と夕方家路についた。

突然後から朴爺に突掛つて来るものがある。

朴爺は倒れた。振り振り見ると其處に威風堂々たる洋服紳士が突立つて居る。其の紳士は倒れた朴爺を

睨みながら馬鹿 ヨボ タシンのサラミがメンカリがオブンがバグリフンヅロマリヘンヌンデ

(馬鹿こゝら目の玉が無いが、俺が呼鈴を鳴して信號したのに)と言つた。

朴爺は

イルボン ヨングガミサン サリヨチユシヨ ウリチヨンサラミ タンダニ モラツソ ウリスリモゴ  
マリヘツソ ヨングガミサン タンダニ コーマブソ

(日本の紳士様私は田舎者で一杯飲むで居ります、何卒御許し下さい助けて下さい)  
と朴爺は宛から自分に缺點でもあるが如くに無條件で謝罪した。

此の時朴爺には又意外の事が出来た。

何處から来たか一洋服青年が立ち顯はれて来て、朴爺をいたわり乍ら何處を怪我されましたか、おゝ此處か血が流れて居る。

と検査を済まして洋服青年は何にも言はずにヨングガミさんの自転車を引取つて投棄して置いて、其の頬を殴り付けた。そして咽喉も張り裂けむ許りの聲で、此の野郎何處でこんな悪い事を習つて来たか、貴様の様な毛物に上品な事を言つてやるのは馬の耳に念佛じや、俺の鐵拳でも喰つてくたばつて仕舞へ。と言つたので朴爺は呆氣に取れた、しかし此の青年のする事を心好げに眺めた。

洋服紳士は

はい、ごうか御許し下さい、あの方の治療費は手前が拂ひます、ごうか一度お許し下さい。

と朴爺が日本のヨングガミさんと思つて居つたのが、流暢な朝鮮語で謝罪するのを見て、一同は初めて僞ヨングガミである事に氣が付いた。

そこで僞ヨングガミは朴爺の治療代を拂ひ、洋服青年に胸倉を取られながら大勢の見物の晒物になつた。

洋服青年は一同に對して、村の方諸君何よりも先づ卑屈なる心を棄てなければなりません、我々も堂堂たる人格を持つて居る人であることを知らなければなりません。

無條件でこんな僞ヨングガミさんに——本當のヨングガミさんでも——屈伏する事許りして居る、皆さまは遂には破滅の罪に陥つて仕舞ふ外ないのであります。

之を聞いた一同は大に覺り且感服して

其奴を踏み殺せ、叩き殺せと叫むた。云々

昭和二年十月一日印刷  
昭和二年十月五日發行

朝鮮總督府

印刷者 播本恒太郎

京城府太平通二丁目一番地

印刷所 大 海 堂

京城府太平通二丁目一番地  
株式會社

